
2023年度 授業概要【現代英語学科】

科目コード：12004

科目ナンバリング：EN11A04E

主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：Listening I a (Listening I a)

担当者：Martin Allen Campbell

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07. 発表
11. 討論
13. 役割演技と疑似体験
17. 発問と回答

授業の概要： 英語のリスニングスキルを身につけるために、本授業では音の連結や脱落などの音変化を意識しながら自らも発音してみることを通して英語音声の聴き取り訓練をします。各課は、トピックに関連する語彙や表現、文法事項の学習、また実践場面での運用練習を含みます。一部はTOEIC L&Rの形式を取り入れた演習も取り入れ、資格試験への対応も意識します。

キーワード： Listening, Dictation, Repeating, Shadowing, Role-playing, Pronunciation, Sound Change, Stress, Rhythm, Intonation, American Accent, British Accent, Canadian Accent, Australian Accent, TOEIC Listening & Reading Test

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 英語圏での日常生活を想定したコンテンツの音声英語を聞き取り、そのトピックとおおよその内容を理解することができる。

英語の音変化になれ、native English speakersの日常の発話を聞き取り、理解できるようになる。

以上のことを確認するためのquizや課題の80%に解答できる。

評価方法： ディクテーションや内容理解度チェックの課題。 **評価割合：60%**
課題 (Listening Log) 30%
Quiz 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題を解決するために、ペアワークやグループワークにおいて自身の考えを相手に伝えられる。

ペアワークやグループワークで得られた成果を他の人たちに伝えられる。

評価方法： グループ内でまとめた学習成果の発表または提出物で評価する。 **評価割合：10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

For each unit, a short speaking task will be assigned in pairs, small groups, or individually for class members to practice their English listening skills among their peers.

評価割合：30%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 Orientation, Syllabus, Course Introduction Activity
第2回 Unit 1 (Travel) Listening Log
第3回 Unit 1 (Travel) Quiz
第4回 Unit 1 (Travel) Presentation
第5回 Unit 2 (College Life 1) Listening Log
第6回 Unit 2 (College Life 1) Quiz
第7回 Unit 2 (College Life 1) Presentation
第8回 Unit 3 (Shopping) Listening Log
第9回 Unit 3 (Shopping) Quiz
第10回 Unit 3 (Shopping) Presentation
第11回 Unit 5 (Hotel) Listening Log
第12回 Unit 5 (Hotel) Quiz
第13回 Unit 5 (Hotel) Presentation
第14回 Unit 6 (Train) Listening Log
第15回 Unit 6 (Train) Quiz

使用テキスト： Asuka Yoneyama, Lindsay Wells(2017) "Listening Steps" 金星堂

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： テキストを購入したら、音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。

授業の前に教科書のわからない語句等は辞書で下調べしておくこと。

授業の後には授業では触れなかった内容にまで理解を深めることを目標に音声を聞き直すこと。

授業時に出された指示に従って、課題を実施すること。(ディクテーション、穴埋めリスニング、音読など)

授業には必ずテキストと辞書を持参する。

Listening Logs will be assigned which require students to view and listen to assigned videos online.

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

I am also available to meet in the Global Exchange Area during office hours.

I can be contacted by email at the following email address (campbell_m@icc.ac.jp).

留意事項： ・毎週の課題が評価の中心になります。期限を守って実施してください。
・この科目は履修上限を40名とします。また、上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学生を優先します。
・この授業は、英語と日本語の両方で行なわれます。
・If a student is absent for a quiz due to health reasons, please email the teacher to set-up an appointment to reschedule the quiz.

科目コード：12004

科目ナンバリング：EN11A04E

主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：Listening I b(Listening I b)

担当者：岩重 理香

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07. 発表
11. 討論
13. 役割演技と疑似体験
17. 発問と回答

授業の概要： 英語のリスニングスキルを身につけるために、本授業では音の連結や脱落などの音変化を意識しながら音も発音してみることを通して英語の音の聴き取り訓練をします。各課は、トピックに関連する語彙や表現、文法事項の学習、また実践場での運用練習を含みます。アメリカ、イギリスなどの英語のネイティブスピーカーの英語のみならずWorld Englishを知る機会として、多様な英語のリスニングも行います。

キーワード： listening, dictation, repeating, shadowing, overlapping, role-playing, pronunciation, sound change, stress, rhythm, intonation, American accent, British accent, World English

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 身近な問題に関する会話やアナウンスメント、トークなどの英語音声を聞き取り、そのトピックとおおよその内容を理解することができる。

英語の音変化になれ、native English speakersの発話を聞き取り、理解できるようになる。

以上のことを確認するためのquizや課題の80%に解答できる。

評価方法： 毎授業ごとにeラーニングシステム上で与えられる、ディクテーションの課題やユニットごとの確認テストで評価する。 **評価割合：60%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 音声を聞いて問題に解決するために、ペアワークやグループワークにおいて自身の考えを相手に伝えられる。

ペアワークやグループワークで得られた成果を他の人たちに伝えられる。

評価方法： グループ内でまとめた学習成果の発表または提出物で評価する。 **評価割合：10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

テキストに付属するオンライン学習システムをテキストの進度に合わせて各自で学習を実施する。タスクへの取り組み態度(振り返り、各課での課題設定など)と達成度合いで評価する。

評価割合：30%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1 オリエンテーション
2Unit 1: College Life／オンライン学習システムの登録・利用ガイダンス
3Unit 1: College Life
4Unit 1: College Life
5Unit 2: Understanding Copyright
6Unit 2: Understanding Copyright
7Unit 3: Cyber Bullying
8Unit 3: Cyber Bullying
9Unit 4: Tourism
10Unit 4: Tourism
11Unit 5: Foreign Encounters
12Unit 5: Foreign Encounters
13Unit 6: Entertainment
14Unit 6: Entertainment
15後半のまとめ

※教科書の学習進度、各ユニットの学習項目は受講時の理解度に合わせて調整する予定です。

使用テキスト： 中西のりこ 他(2023) "Global Perspectives Listening & Speaking Book 1" 成美堂

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： テキストを購入したら、?声を必ずダウンロードして、?宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
授業の前に教科書のわからない語句等は辞書で下調べをしておくこと。
授業の後には授業では触れなかった内容にまで理解を深めることを?標に?声を聞き直すこと。授業時に出された指?に従って、課題を実施すること。(ディクテーション、?埋めリスニング、?読など)
課題の提出にはテキスト付属のオンライン学習システム (English Central) やオンライン学習?援システム(Moodle)を使?します。
授業には必ずテキストと辞書を持参する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項： ・毎週の課題は評価の対象になります。期限を守って実施してください。
・各ユニットの確認テストは追試は行いません。実施の時期、方法は授業中に説明します。
・課題の実施ではオンライン学習支援システムを使用します。
・この科?は履修上限を40名とします。また、上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学?を優先します。
・この授業は、英語と?本語の両?で?なわれます。

科目コード：12004

科目ナンバリング：EN11A04E

主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：Listening I c(Listening I c)

担当者：相原 和恵

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表

13.役割演技と模擬体験

17.発問と回答

授業の概要： 英語圏の日常生活を題材とした英語を聞き、様々な演習を通してコミュニケーションの基盤となる英語の聴解力を伸ばしていきます。基本的な授業タスクは次のとおりです。

(1)ボキャブラリー学習 (Word Quiz等を通して各課のトピックに関連した語彙を学習しボキャブラリーを増やします)

(2)リスニング演習 (さまざまな演習を通して英語を聞き取り理解する力の向上を目指します)

(3)自己表現学習 (自己表現活動を通して各課の学習内容が定着したかを確認します)

キーワード： 英語音声学、ボトムアップ情報処理、トップダウン情報処理、集中的リスニング、選択的リスニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 音声言語による情報を理解する際に必要な知識と技能を身に付け、日常生活を題材とした英語を聞いて、その内容の概ね80%を理解し解答することができる。

評価方法： Review Quiz

評価割合： 80%

Word Quiz

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 音声言語による情報を理解し、伝達する際に必要な知識や技能を使って英語で自己表現ができる。またクラスメートの発表を聞いてその内容の概ね80%を理解することができる。

評価方法： スキット作成

評価割合： 20%

発表

聞き取り

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修によって得た知識や技能が自己表現等の内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やテスト等において公平性を欠く表現や行為等があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1: Asking and answering personal information questions (1)

第3回 Unit 1: Asking and answering personal information questions (2)

第4回 Unit 2: Describing people (1)

第5回 Unit 2: Describing people (2)

第6回 Unit 3: Asking and talking about special events (1)

- 第7回 Unit 3: Asking and talking about special events (2)
- 第8回 Units 1-3 のまとめ、Review Quiz
- 第9回 Review Quizの返却と解説、Unit 4: Asking and talking about school subjects (1)
- 第10回 Unit 4: Asking and talking about school subjects (2)
- 第11回 Unit 5: Asking and talking about a trip (1)
- 第12回 Unit 5: Asking and talking about a trip (2)
- 第13回 Unit 6: Asking about and describing homes (1)
- 第14回 Units 4-6 のまとめ、Review Quiz
- 第15回 Review Quizの返却と解説、Unit 6: Asking about and describing homes (2)

使用テキスト: David Nunan et al. (2017) 「Hear Me Out Book 2」 センゲージラーニング 2200円＋税
ISBN 978-4-86312-321-2
必要に応じてプリント等を印刷・配付またはIC-UNIPAに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 英語の聴解力を伸ばすためには、ボキャブラリーを増やす、英語を聞き取るコツを学ぶ、英語を聞く機会を増やすことが有効です。授業タスクに積極的に取り組むとともに、事前準備学習として辞書やテキストの音声をダウンロードして活用して各課のトピックに関連した語彙の発音や意味を確認しましょう。授業後には授業タスクに再チャレンジして学習内容の確認をしましょう。英語に触れる機会を増やすために授業以外でもテキストの音声を繰り返し聞いたり、テキスト以外の英語にも積極的に触れるようにしましょう。英語の聴解力を伸ばすために毎日30分程度英語を聞くことをおすすめします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ・オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日・時限等については初回授業でお知らせします。
・必要に応じてIC-UNIPAやIC-Mailを使用して連絡をしますので、週に1～2度は確認してください。担当者のメールアドレスは初回授業でお知らせします。

留意事項: ・本授業は英語と日本語で行います。
・本授業は履修者の上限を40名程度とします。上限を超える履修希望者がいる場合は現代英語学科の学生を優先して調整することがあります。
・各自テキストと辞書(電子辞書可)を用意してください。
・PC等端末(デバイス)を必携とします(大学から示された要件を満たしているもの)。使用開始時期は初回授業で連絡しますので、使用できるようにWi-Fi等の設定をしてください。
・Review Quizについては返却時に誤答の傾向とその対策を示し、自己表現については表現と聞き取りのポイントを示して次の学習に繋がります。

科目コード: 12005 **科目ナンバリング:** EN12A04E **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): Listening II a(Listening II a)

担当者: Martin Allen Campbell

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜2限 **履修可能学科・専攻:** E

関連資格: **AL要素:** 07. 発表
11. 討論
13. 役割演技と疑似体験
17. 発問と回答

授業の概要: 英語のリスニングスキルを身につけるために、本授業では音の連結や脱落などの音変化を意識しながら自らも発音してみることを通して英語音声の聴き取り訓練をします。各課は、トピックに関連する語彙や表現、文法事項の学習、また実践場面での運用練習を含みます。一部はTOEIC L&Rの形式を取り入れた演習も取り入れ、資格試験への対応も意識します。

キーワード: Listening, Dictation, Repeating, Shadowing, Role-playing, Pronunciation, Sound Change, Stress, Rhythm, Intonation, American Accent, British Accent, Canadian Accent, Australian Accent, TOEIC Listening & Reading Test

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語圏での日常生活を想定したコンテンツの音声英語を聞き取り、そのトピックとおおよその内容を理解することができる。

英語の音変化になれ、native English speakersの日常の発話を聞き取り、理解できるようになる。

以上のことを確認するためのquizや課題の80%に解答できる。

評価方法: ディクテーションや内容理解度チェックの課題。 **評価割合: 60%**
課題 (Listening Log) 30%
Quiz 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題を解決するために、ペアワークやグループワークにおいて自身の考えを相手に伝えられる。

ペアワークやグループワークで得られた成果を他の人たちに伝えられる。

評価方法: グループ内でまとめた学習成果の発表または提出物で評価する。 **評価割合: 10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

For each unit, a short speaking task will be assigned in pairs, small groups, or individually for class members to practice their English listening skills among their peers.

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 Orientation, Syllabus, Course Introduction Activity
第2回 Unit 7 (Restaurant) Listening Log
第3回 Unit 7 (Restaurant) Quiz
第4回 Unit 7 (Restaurant) Presentation
第5回 Unit 9 (Leisure) Listening Log
第6回 Unit 9 (Leisure) Quiz
第7回 Unit 9 (Leisure) Presentation
第8回 Unit 10 (Traffic) Listening Log
第9回 Unit 10 (Traffic) Quiz
第10回 Unit 10 (Traffic) Presentation
第11回 Unit 11 (Business 1) Listening Log

- 第12回 Unit 11 (Business 1) Quiz
- 第13回 Unit 11 (Business 1) Presentation
- 第14回 Unit 12 (Clinic) Listening Log
- 第15回 Unit 12 (Clinic) Quiz

使用テキスト: Asuka Yoneyama, Lindsay Wells(2017) "Listening Steps" 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキストを購入したら、音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
 授業の前に教科書のわからない語句等は辞書で下調べをしておくこと。
 授業の後には授業では触れなかった内容にまで理解を深めることを目標に音声を聞き直すこと。
 授業時に出された指示に従って、課題を実施すること。(ディクテーション、穴埋めリスニング、音読など)
 授業には必ずテキストと辞書を持参する。
 Listening Logs will be assigned which require students to view and listen to assigned videos online.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。
 I am also available to meet in the Global Exchange Area during office hours.
 I can be contacted by email at the following email address (campbell_m@icc.ac.jp).

留意事項: ・毎週の課題が評価の中心になります。期限を守って実施してください。
 ・この科目は履修上限を40名とします。また、上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学生を優先します。
 ・この授業は、英語と日本語の両方で行なわれます。
 ・If a student is absent for a quiz due to health reasons, please email the teacher to set-up an appointment to reschedule the quiz.

科目コード: 12005 **科目ナンバリング:** EN12A04E **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): Listening II b(Listening II b)

担当者: 岩重 理香

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜1限 **履修可能学科・専攻:** E

関連資格: **AL要素:** 07. 発表
 11. 討論
 13. 役割演技と疑似体験
 17. 発問と回答

授業の概要: 英語のリスニングスキルを?につけるために、本授業では?の連結や脱落などの?変化を意識しながら?らも発?して?みることを通して英語?声の聴き取り訓練と聞いた内容を正しく詳細に理解するために「サイト・トランスレーション」(英語の語順通りに?本語で理解していく練習)を通しての内容理解の訓練をします。

各課は、トピックに関連する語彙や表現、?法事項の学習、また実践場?での運?練習を含みます。

アメリカ、イギリスなどの英語のネイティブスピーカーの英語のみならずWorld Englishを知る機会として、多様な英語のリスニングも行います。

キーワード: listening, dictation, repeating, shadowing, overlapping, role-playing, pronunciation, sound change, stress, rhythm, intonation, American accent, British accent, World English, sight translation?

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 身近な問題に関する会話やアナウンスメント、トークなどの英語音声聞き取り、そのトピックとおよその内容を理解することができる。

英語の音変化になれ、native English speakersの発話を聞き取り、理解できるようになる。

以上のことを確認するためのquizや課題の80%に解答できる。

評価方法: 毎授業ごとにeラーニングシステム上で与えられる、ディクテーションの課題やユニットごとの確認テストで評価する。 **評価割合: 60%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 音声を聞いて問題に解決するために、ペアワークやグループワークにおいて自身の考えを相手に伝えられる。

ペアワークやグループワークで得られた成果を他の人たちに伝えられる。

評価方法: グループ内でまとめた学習成果の発表または提出物で評価する。 **評価割合: 10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

テキストに付属するオンライン学習システムをテキストの進度に合わせて各自で学習を実施する。タスクへの取り組み態度(振り返り、各?での課題設定など)と達成度合いで評価する。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 1 サイトトランスレーション
- 2 Unit 7: International Affairs
- 3 Unit 7: International Affairs
- 4 Unit 8: Technology
- 5 Unit 8: Technology
- 6 Unit 9: My future
- 7 Unit 9: My future
- 8 前半のまとめ

- 9 Unit 10: Personal Finance
- 10 Unit 10: Personal Finance
- 11 Unit 11: Health
- 12 Unit 11: Health
- 13 Unit 12: Diversity
- 14 Unit 12: Diversity
- 15 まとめ?

※教科書の学習進度、各ユニットの学習項目は受講者の理解度に合わせて調整する予定です。

使用テキスト: 中西のりこ 他(2023) "Global Perspectives Listening & Speaking Book 1" 成美堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキストを購入したら、音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
 授業の前に教科書のわからない語句等は辞書で下調べをしておくこと。
 授業の後には授業では触れなかった内容にまで理解を深めることを目標に音声を聞き直すこと。授業時に出された指針に従って、課題を実施すること。(ディクテーション、埋めリスニング、読など)
 課題の提出にはテキスト付属のオンライン学習システム (English Central) やオンライン学習支援システム(Moodle)を使います。
 授業には必ずテキストと辞書を持参する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

- 留意事項:**
- ・毎週の課題は評価の対象になります。期限を守って実施してください。
 - ・各ユニットの確認テストは追試は行いません。実施の時期、方法は授業中に説明します。
 - ・課題の実施ではオンライン学習支援システムを使用します。
 - ・この科は履修上限を40名とします。また、上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学修を優先します。
 - ・この授業は、英語と日本語の両方でなわれます。

科目コード: 12005 **科目ナンバリング:** EN12A04E **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): Listening II c(Listening II c)

担当者: 相原 和恵

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 木曜1限 **履修可能学科・専攻:** E

関連資格: **AL要素:** 07.発表
 13.役割演技と模擬体験
 17.発問と回答

授業の概要: 英語圏の日常生活を題材とした英語を聞き、様々な演習を通してコミュニケーションの基盤となる英語の聴解力を伸ばしていきます。基本的な授業タスクは次のとおりです。

- (1)ボキャブラリー学習 (Word Quiz等を通して各課のトピックに関連した語彙を学習しボキャブラリーを増やします)
- (2)リスニング演習 (さまざまな演習を通して英語を聞き取り理解する力の向上を目指します)
- (3)自己表現学習 (自己表現活動を通して各課の学習内容が定着したかを確認します)

キーワード: 英語音声学、ボトムアップ情報処理、トップダウン情報処理、集中的リスニング、選択的リスニ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 音声言語による情報を理解する際に必要な知識と技能を身に付け、日常生活を題材とした英語を聞いて、その内容の概ね80%を理解し解答することができる。

評価方法: Review Quiz
Word Quiz

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 音声言語による情報を理解し、伝達する際に必要な知識や技能を使って英語で自己表現ができる。またクラスメートの発表を聞いてその内容の概ね80%を理解することができる。

評価方法: スキット作成
発表
聞き取り

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修によって得た知識や技能が自己表現等の内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やテスト等において公平性を欠く表現や行為等があった場合は減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 オリエンテーション、Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods (1)
 - 第2回 Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods (2)
 - 第3回 Unit 8: Asking about and describing jobs (1)
 - 第4回 Unit 8: Asking about and describing jobs (2)
 - 第5回 Unit 9: Asking for information and making excuses (1)
 - 第6回 Unit 9: Asking for information and making excuses (2)
 - 第7回 Units 7-9 のまとめ、Review Quiz
 - 第8回 Review Quizの返却と解説、Unit 10: Asking for and giving tour information (1)
 - 第9回 Unit 10: Asking for and giving tour information (2)
 - 第10回 Unit 11: Placing and taking orders for take-out food (1)
 - 第11回 Unit 11: Placing and taking orders for take-out food (2)
 - 第12回 Unit 12: Asking and talking about stress and relaxation (1)
 - 第13回 Unit 12: Asking and talking about stress and relaxation (2)
 - 第14回 Units 10-12のまとめ、Review Quiz
 - 第15回 Review Quizの返却と解説、Unit 13: Asking and talking about new stories

使用テキスト: David Nunan et al. (2017) 「Hear Me Out Book 2」 センゲージラーニング 2200円＋税
ISBN 978-4-86312-321-2
必要に応じてプリント等を印刷・配付またはIC-UNIPAに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 英語の聴解力を伸ばすためには、ボキャブラリーを増やす、英語を聞き取るコツを学ぶ、英語を聞く機会を増やすことが有効です。授業タスクに積極的に取り組むとともに、事前準備学習として辞書やテキストの音声ダウンロードして活用して各課のトピックに関連した語彙

の発音や意味を確認しましょう。授業後には授業タスクに再チャレンジして学習内容の確認をしましょう。英語に触れる機会を増やすために授業以外でもテキストの音声を繰り返し聞いたり、テキスト以外の英語にも積極的に触れるようにしましょう。英語の聴解力を伸ばすために毎日30分程度英語を聞くことをおすすめします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ・オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日・時限等については初回授業でお知らせします。
・必要に応じてIC-UNIPAやIC-Mailを使用して連絡をしますので、週に1～2度は確認してください。担当者のメールアドレスは初回授業でお知らせします。

留意事項： ・本授業は英語と日本語で行います。
・本授業は履修者の上限を40名程度とします。上限を超える履修希望者がいる場合は現代英語学科の学生を優先して調整することがあります。
・各自必ずテキストと辞書(電子辞書可)を用意してください。
・PC等端末(デバイス)を必携とします(大学から示された要件を満たしているもの)。使用開始時期は初回授業で連絡しますので、使用できるようにWi-Fi等の設定をしてください。
・Review Quizについては返却時に誤答の傾向とその対策を示し、自己表現については表現と聞き取りのポイントを示して次の学習に繋がります。

科目コード：12006 科目ナンバリング：EN20C03E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：Advanced Listening a(Advanced Listening a)

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：Selective Listening

授業の概要：

教材として加工されたリスニング教材ではなく、実際にTVや映画、歌等で学生が聞くことがある、自然かつバラエティに富むオーセンティックな音声を教材として扱う。日本人の英語学習者が聞き取りにおいて苦手とする音変化(弱形、同化、脱落等)について学び、シャドーイングとディクテーションによって、英語の自然な音調やリズム、速度を体感して聞き取る能力を伸長する訓練も併せて行う。

キーワード： オーセンティック教材、音変化、シャドーイング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自然な英語(音声)の特徴である、音変化について理解し、音変化が起こっている英語を聞き取ることができる。

評価方法： 期末テスト

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々なジャンルの英語を聞いて概要をつかむことができる。
必要な情報のみを聞き取るSelective listeningをすることができる。

評価方法： 期末テスト

評価割合： 30%

シャドーイングテスト

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしないが、私語などで周りの学習環境に迷惑をかける場合は、公正性の観点から退室を求めることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：聞き取り能力伸長のための訓練法
様々なリスニングテキストと音声の特徴World Englishes
第2回：メッセージの聴解①
第3回：メッセージの聴解②
第4回：伝説のスピーチ① 修辞の匠 JFK
第5回：伝説のスピーチ② 一般教養のコンテンツ Martin Luther King
第6回：伝説のプレゼンテーション Steve Jobs
第7回：近年のスピーチ
第8回：ニュースの英語
第9回：加工されたリスニング教材
第10回：会話の英語(TVドラマ) FRIENDS
第11回：会話の英語(TVドラマ) FRIENDS
第12回：音変化と歌の英語①
第13回：音変化と歌の英語②
第14回：文化スキーマとコマーシャルの英語①
第15回：文化スキーマとコマーシャルの英語②

使用テキスト： それぞれの回に担当教員がオリジナルの教材を用意するので、教科書は定めない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： リスニングの技能は、即座に伸長するものではないので、授業外での練習が必要である。授業で紹介する資料等を活用して各自で発展的に取り組むことが肝要である。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィス・アワー(研究室)およびICメール。

留意事項： この授業の履修者数上限は40名とする。履修希望者がこれを超える場合は現代英語学科の学生を学年が高い順に優先し、抽選を行う。

科目コード：12006

科目ナンバリング：EN20C03E

主な使用言語：英語

授業名(英文)：Advanced Listening b(Advanced Listening b)

担当者：上村 由美

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：05 即時応答

07 発表

08 協同学習

10 資料調査

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要: Listening I, IIで習得したスキルをさらに発展させるため、様々なトピックのリスニングに挑戦し、内容の理解、解釈を深めていきます。CDを中心とした授業と、TED(プレゼンテーション)やYouTubeの視聴、携帯を使用してのin-class research、またクラスメイトとのアクティビティーなどを通して多面的にリスニングスキルを習得していきます。教科書の穴埋めが目的の受け身のリスニングではなく、積極的にノートをとったり、音源内容に疑問を持ちながらリスニングに臨む姿勢を身に付けましょう。

キーワード: Active Listening, TED, Note taking skills, YouTube, Group activity, Kahoot, YouTube, self-evaluation

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた英語でのノートの取り方や英単語のabbreviationなどを活用し音源内容の main idea や supporting detailsなどの聞き取りができる。

評価方法: skill check quizzes (2回)

評価割合: 60%

TED視聴ノート (2回)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: in-class researchなどで得た予備(背景)知識を、論理的かつ簡潔にクラスメイトと共有することができる。また、その知見を音源内容とてらしあわせ、内容のさらなる理解や考察を深めることができる。

評価方法: Group Activities後のミニレポート(振り返り)

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のリスニング姿勢や授業への参加姿勢(クラスメイトとの簡単な情報・意見交換など)を振り返りシートを使って授業後に各自で実施します。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

授業外での音声英語(音楽・映画・YouTubeなど)のリスニング時間を初回に各自で設定してもらい(例えば3時間)、その達成度を受講生各自で記録、評価する。

評価割合: 10%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やミニレポートなどに人権侵害・差別的記述など著しく公正性を欠く言動を認めたり、skill checkや視聴ノートが他の受講者と著しく類似している場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

1. Course Introduction & Types of notes (note taking)
2. Unit 2 Sights and sounds (skills in note taking)
3. Unit 3 Dating (skills in note taking)
4. Unit 4 Communication and Culture (YouTube)

5. Unit 5 The internet
6. TED – mini report
7. Skill Check 1& Unit 6 Superstitions
8. Unit 7 Manners
9. Unit 8 Natural Health (YouTube)
10. Unit 9 Science trivia
11. Unit 10 Advertising
12. Unit 12 How things work (YouTube)
13. TED – mini report
14. Unit 14 Values
15. Review& Skill Check 2

使用テキスト: Brown, S. & Smith, D. 『Active Listening, 2nd Edition』 Cambridge University Press

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: リスニング中に自分がその内容(トピック)について思い浮かべた事が聞こえてくるか、または全く別の新しい情報なのかなど、目的を持ってリスニングする姿勢を心がけましょう。

授業外でもYouTube、映画など率先して英語を聞くようにしましょう。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: アポイントメントかメールにて対応します。連絡先などは初回にお知らせします。

留意事項: 可能であればデバイスを持参すること。(デバイスを活用してノートを取ったり、クイズを受けたりするため)

この授業は、基本的に英語で行われるが、必要であれば日本語でも説明される。
この科目は履修者数を20名程度とする。これを超える場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。

科目コード: 12008

科目ナンバリング: EN11C02E

主な使用言語: 英語と日本語

授業名(英文): Pronunciation I a (Pronunciation I a)

担当者: 相原 和恵

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 小学英語

AL要素: 07.発表

08.協同学修

17.発問と回答

授業の概要: 英語音声学の基礎知識を学び、発音練習や聞き取り練習を通して、英語の音のしくみを理解していきます。また、音声言語による情報を伝達する際に必要な知識と技能を学習します。基本的な授業タスクは次のとおりです。

- (1)英語の母音の調音方法の学習と発音練習と聞き取り練習 (Practice 1 – Practice 5)
- (2)英語と日本語の音声の特徴の学習
- (3)情報伝達に必要な知識と技能の習得 (Lesson 1 – Lesson 8)

キーワード: 英語音声学、英語の母音、英語と日本語の音声の特徴、音声言語による情報伝達

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語の母音のしくみを概ね80%理解し、正しく発音したり聞き取ったりすることができる。

評価方法: Review Quiz
提出物
発表

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 音声言語を使って情報を伝達する際に必要な知識や技能を概ね80%理解し、情報を効果的に伝達することができる。

評価方法: Review Quiz
提出物
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修によって得た知識や技能が提出物、発表、Review Quizの内容等に認められる場合は上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やテスト等において公平性を欠く表現や行為等があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 オリエンテーション、英語と日本語の音声の特徴、英語の母音の概説
 - 第2回 Practice 1: Front Vowels
 - 第3回 Practice 2: Back Vowels
 - 第4回 Practice 3: Central Vowels
 - 第5回 Practice 4、Practice 5: Diphthongs
 - 第6回 Practice 1 – Practice 5のまとめ、Review Quiz
 - 第7回 Review Quizの返却と解説、Lesson 1: Syllable& Word Stress
 - 第8回 Lesson 2: Sentence Stress
 - 第9回 Lesson 3: Pause
 - 第10回 Lesson 4: Pitch& Intonation
 - 第11回 Lesson 5: Linking
 - 第12回 Lesson 6: Elision (1)
 - 第13回 Lesson 7: Elision (2)
 - 第14回 Lesson 1 – Lesson 7のまとめ、Review Quiz
 - 第15回 Review Quizの返却と解説、Lesson 8: Assimilation (1)

使用テキスト: 今井由美子 他 (2020)「Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 改訂版」英宝社 2400円＋税
ISBN 978-4-269-63014-7
必要に応じてプリント等を印刷・配付またはIC-UNIPAに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 音声言語としての英語力を向上させるためには、英語の音のしくみを理解する、日本語の音との違いを理解する、調音器官の位置や動きを意識しながら発音練習をする、メッセージを効果的に相手に伝達する際に必要な知識と技能を習得することが有効です。授業タスクに積極的に取り組むとともに、事前準備学習として各自テキスト付属CDやDVDを視聴できる環境を整え、英語の母音の発音や調音方法を確認しましょう。授業後には授業タスクに再チャレンジして学習内容を確認し、DVDを視聴しながら発音練習をしましょう。授業以外でもテキ

スト以外の英語や英語音声学に関する情報に積極的に触れましょう。英語の母音を正しく発音したり聞き取ったりできるようにするために毎回60分程度の学習をおすすめします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ・オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日・時限については初回授業でお知らせします。
・必要に応じてIC-UNIPAやIC-Mailを使用して連絡をしますので、週に1～2度は確認してください。担当者のメールアドレスは初回授業でお知らせします。

留意事項： ・本授業は英語と日本語で行います。
・本授業は履修者の上限を40名程度とします。上限を超える履修希望者がいる場合は現代英語学科の上級生を優先して調整をしますので、履修登録を済ませた上で初回授業に出席してください。
・本授業は英語の母音を中心に扱います。英語の子音については Pronunciation II a を履修してください。
・各自テキストと辞書(電子辞書可)を用意してください。
・課題については誤答の傾向とその対策を示して次の学習に繋がります。

科目コード : 12008 科目ナンバリング : EN11C02E 主な使用言語 : この授業は基本的

授業名(英文) : Pronunciation I b (Pronunciation I b)

担当者 : 高橋 教雄

基本情報

年次 : 1

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜3限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 : 小学英語

AL要素 : 発表

授業の概要： 英語の4技能のうち、音声部門に集中して、効果的な情報伝達の方法を理解し、その能力を高めることを通して、英語学習(言語学習)全般に資することを目指します。音声言語(発音)を軽んじることなく、その特徴を正確に把握することが、外国語学習において極めて重要であるということを体験・実践してもらいます。

英語らしいリズムを習得し、メッセージを効果的に相手に伝える習慣と能力の向上を目指します。また、音声を大事にすることが、語彙学習にとってもいかに重要であるのかというこの理解も深めます。

キーワード： リズム、母音、子音、英語と日本語の比較

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本語との比較において、英語の音声上の特徴を理解し、効果的にメッセージを伝える能力を身につけることができる。

評価方法： (1) 授業の際に提示される課題の成績と、**評価割合：100%**
定期試験(形式未定)の結果を合わせて評価します。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 個々の語や文のレベルにとどまらず、まとまった話を他者に伝える能力(story-tellingの能力)を身につける。

評価方法： 上記「知識・技能」参照 **評価割合：(100%)**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習形式の授業であることから、授業中は特に積極的に発音練習に参加することが必須です。また、音声言語に特化した授業であることから、語彙や例文の意味については基本的に自主的に学習しておくことが求められます。語彙に関する事前学習のための課題提出を求め、メッセージの内容を正確に理解した

発表ができるようになることが求められます。

評価割合：(100%)

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 第01回 イントロダクション：音声言語の重要性
第02回 英語の音声と日本語の音声の比較(1)：超分節的特徴
第03回 英語の音声と日本語の音声の比較(2)：音節構造
第04回 英語の音声と日本語の音声の比較(3)：母音・子音
第05回 英語のリズム、強勢の基本練習、および名言の発音練習(1)
第06回 英語のリズム、強勢の基本練習、および名言の発音練習(2)
第07回 英語の母音および名言の発音練習(1)
第08回 英語の母音および名言の発音練習(2)
第09回 英語の母音および名言の発音練習(3)
第10回 英語の母音および名言の発音練習(4)
第11回 英語の母音および名言の発音練習(5)
第12回 英語の母音および名言の発音練習(6)
第13回 英語の母音および名言の発音練習(7)
第14回 Story-tellingの練習
第15回 Story-tellingの実践

使用テキスト： 小泉 節子著『コミュニケーションへの英語発音練習』南雲堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 第1回目の授業に向け、担当者作成の資料をIC-UNIPAで掲示します。各自プリントアウトし、授業の際には、この資料を毎回必ず持参してください。
授業では音声言語に特化して進めますので、語彙や例文の意味については必ず予習しておいてください。(授業中に、事前学習を確認するための質問をすることがあります。)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、事前に学務部および担当者に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 出講日の休み時間に兼任講師室(11号館2階)で、あるいはメールで対応します。

留意事項： 練習中心の授業であるため、履修者数を40名程度までとします。上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学生を優先し、抽選を行う場合があります。

科目コード：12009 科目ナンバリング：EN12C02E 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：Pronunciation II a(Pronunciation II a)

担当者：相原 和恵

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：小学英語

AL要素：07.発表
08.協同学修
17.発問と回答

授業の概要： 英語音声学の基礎知識を学び、発音練習や聞き取り練習を通して、英語の音のしくみを理

解していきます。また、音声言語による情報を伝達する際に必要な知識と技能を学習します。基本的な授業タスクは次のとおりです。
(1)英語の子音の調音方法の学習と発音練習と聞き取り練習 (Practice 6 – Practice 10)
(2)英語と日本語の音声の特徴の学習
(3)情報伝達に必要な知識と技能の習得 (Lesson 9 – Lesson 19)

キーワード: 英語音声学、英語の子音、英語と日本語の音声の特徴、音声言語による情報伝達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語の子音のしくみを概ね80%理解し、正しく発音したり聞き取ったりすることができる。

評価方法: Review Quiz
提出物
発表

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 音声言語を使って情報を伝達する際に必要な知識や技能を概ね80%理解し、情報を効果的に伝達することができる。

評価方法: Review Quiz
提出物
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修によって得た知識や技能が提出物、発表、Review Quizの内容等に認められる場合は上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やテスト等において公平性を欠く表現や行為等があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 オリエンテーション、英語と日本語の音声の特徴、英語の子音の概説
第2回 Practice 6: Stops
第3回 Practice 7: Nasals
第4回 Practice 8: Fricatives (1)
第5回 Practice 9: Fricatives(2)& Affricates
第6回 Practice 10: Lateral& Semivowels
第7回 Practice 6 – Practice 10のまとめ、Review Quiz
第8回 Review Quizの返却と解説、Lesson 9: Intonation – Series& Alternative Question
第9回 Lesson 10: Weak Form& Strong Form
第10回 Lesson 11: Assimilation (2)
第11回 Lesson 12: Assimilation (3)
第12回 Lesson 15: Stress with Speaker’s Intention
第13回 Lesson 16: Compound Words
第14回 Lesson 9 – Lesson 12, Lesson 15 – Lesson 16のまとめ、Review Quiz
第15回 Review Quizの返却と解説、Lesson 19: Word Stress Shift

使用テキスト: 今井由美子 他 (2020)「Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 改訂版」英宝社 2400円＋税
ISBN 978-4-269-63014-7
必要に応じてプリント等を印刷・配付またはIC-UNIPAに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 音声言語としての英語力を向上させるためには、英語の音のしくみを理解する、日本語の音との違いを理解する、調音器官の位置や動きを意識しながら発音練習をする、メッセージを効果的に相手に伝達する際に必要な知識と技能を習得することが有効です。授業タスクに積極的に取り組むとともに、事前準備学習として各自テキスト付属CDやDVDを視聴できる環境を整え、英語の子音の発音や調音方法を確認しましょう。授業後には授業タスクに再チャレンジして学習内容を確認し、DVDを視聴しながら発音練習をしましょう。授業以外でもテキスト以外の英語や英語音声学に関する情報に積極的に触れましょう。英語の子音を正しく発音したり聞き取ったりできるようにするために毎回60分時間程度の学習をおすすめします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ・オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日・時限については初回授業でお知らせします。
・必要に応じてIC-UNIPAまたはIC-Mailを使用して連絡をしますので、週に1～2度は確認してください。担当者のメールアドレスは初回授業でお知らせします。

留意事項: ・本授業は英語と日本語で行います。
・本授業は履修者の上限を40名程度とします。上限を超える履修希望者がいる場合は現代英語学科の上級生を優先して調整をしますので、履修登録を済ませた上で初回授業に出席してください。
・本授業は英語の子音を中心に扱います。英語の母音については Pronunciation I aを履修してください。
・本授業ではPronunciation I aで学習した知識を使うことがあります。Pronunciation II aのみを履修する場合は、必要に応じてPronunciation I aの学習内容を各自学習することをおすすめします。
・各自テキストと辞書(電子辞書可)を用意してください。
・課題については誤答の傾向とその対策を示して次の学習に繋がります。

科目コード: 12009 **科目ナンバリング:** EN12C02E **主な使用言語:** この授業は基本的

授業名(英文): Pronunciation II b (Pronunciation II b)

担当者: 高橋 教雄

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 小学英語

AL要素: 発表

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ・レベルⅡ】課題研究型

英語の4技能のうち、音声部門に集中して、効果的な情報伝達の方法を理解し、その能力を高めることを通して、英語学習(言語学習)全般に資することを目指します。音声言語(発音)を軽んじることなく、その特徴を正確に把握することが、外国語学習において極めて重要であるということを経験・実践してもらいます。

英語らしいリズムを習得し、メッセージを効果的に相手に伝える習慣と能力の向上を目指します。また、音声を大事にすることが、語彙学習にとってもいかに重要であるのかというものの理解も深めます。

キーワード: リズム、母音、子音、英語と日本語の比較

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本語との比較において、英語の音声上の特徴を理解し、効果的にメッセージを伝える能力を身につけることができる。

評価方法: 授業中の発音練習の実践、および最終段 **評価割合:** 40%

階で行われる口頭発表により評価します。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 個々の語や文のレベルにとどまらず、まとまった話を他者に伝える能力(story-tellingの能力)を身につける。

評価方法: 授業の最終段階で行われる短い物語の口頭発表、または定期試験。 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

演習形式の授業であることから、授業中は特に積極的に発音練習に参加することが必須です。また、音声言語に特化した授業であることから、語彙や例文の意味については基本的に自主的に学習しておくことが求められます。語彙に関する事前学習のための課題提出を求め、メッセージの内容を正確に理解した発表ができるようになることが求められます。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第01回 英語の音声と日本語の音声の比較(復習)(1):超分節的特徴と音節構造
 - 第02回 英語の音声と日本語の音声の比較(復習)(2):母音と子音
 - 第03回 英語の子音および名言の発音練習(1)
 - 第04回 英語の子音および名言の発音練習(2)
 - 第05回 英語の子音および名言の発音練習(3)
 - 第06回 英語の子音および名言の発音練習(4)
 - 第07回 英語の子音および名言の発音練習(5)
 - 第08回 英語の子音および名言の発音練習(6)
 - 第09回 英語の子音および名言の発音練習(7)
 - 第10回 英語の子音および名言の発音練習(8)
 - 第11回 総合的発音練習(1)
 - 第12回 総合的発音練習(2)
 - 第13回 総合的発音練習(3)
 - 第14回 総合的発音練習(4)
 - 第15回 まとめと総合的発音実践

使用テキスト: 小泉 節子著『コミュニケーションへの英語発音練習』南雲堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 前期の『Pronunciation I』に続いて履修する場合は、前期に配布した資料を毎回持参してください。後期に初めて履修する人には、初回にプリント資料を配布します。
授業では音声言語に特化して進めますので、語彙や例文の意味については必ず予習しておいてください。(授業中に、事前学習を確認するための質問をすることがあります。)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、事前に学務部および担当者に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 出講日の休み時間に兼任講師室(11号館2階)で、あるいはメールで対応します。

留意事項: 練習中心の授業であるため、履修者数を40名程度までとします。上限を超える履修希望者がいる場合は、現代英語学科の学生を優先し、抽選を行う場合があります。

科目コード : 12010

科目ナンバリング : EN20C04E

主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : Presentation a(Presentation a)

担当者 : Yoshiba, David C.

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜2限

履修可能学科・専攻 : E Pe

関連資格 :

AL要素 : 07.発表

08.協同学習

11.討論

16.振り返り用紙と応答

授業の概要 : This class will help students develop the necessary skills to become great presenters. Students will improve their public speaking, vocabulary and non-verbal communication, which are all important for a successful career after tertiary education.

キーワード : presentation, self-reflection, group work, communication, organization, writing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : Students will be graded on their ability to prepare, practice and do six presentations explaining their opinions on various topics. Students will use powerpoint or other presentation software.

評価方法 : Presentations

評価割合 : 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : Students will be graded on their ability to reflect on and analyze their own performance in order to improve.

評価方法 : Reflection Paper

評価割合 : 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will also be evaluated on their active participation in class. English must be spoken as much as possible. Students will be required to prepare powerpoint presentations outside of class hours. Students should make an effort to ask questions and comment on other students presentations. Students should also do homework on time and review frequently.

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

This will not be directly added to the grade but helping other students during class will be acknowledged and reflected in the above section on attitude.

評価割合 : 0%

▼ 公正性

Fairness and honesty are expected. Students must do their own work. Any students abusing translation software will be penalized and a reduced grade will be reflected in the Knowledge and Skills section.

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : Week 1: Unit 1- Self Introduction
Week 2: Unit 1- Presentation, Self-reflection
Week 3: Unit 2 - An Important Person or Thing / Unit 3 - Places
Week 4: Unit 2 - An Important Person or Thing / Unit 3 - Places

Week 5: Unit 2 /Unit 3 – Presentation, Self-reflection
Week 6: Unit 4 – Opinions
Week 7: Unit 4 – Opinions
Week 8: Unit 4 – Presentation, Self-reflection
Week 9: Unit 5 – Biography / Unit 6 – Stories
Week 10: Unit 5 – Biography / Unit 6 – Stories
Week 11: Unit 5 / Unit 6 – Presentation, Self reflection
Week 12: Unit 7 – Solving Problems
Week 13: Unit 7 – Presentation, Self-reflection
Week 14: Unit 8 – Final Presentation
Week 15: Unit 8 – Final Presentation, Self-reflection

使用テキスト: (2019) Ready to Present: A Guide to Better Presentations, Herman Bartelen / Malcolm Kostiuk, Cengage Learning
ISBN 978-4-8612-351-2

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Before presentations, students must review, practice and prepare their work. Reviewing the classroom videos is also helpful. Preparing powerpoint or keynote presentations is essential.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項: This class will be taught in only English.
The number of students will be limited to 25 with senior students getting priority. If more than 25 students register, participants will be decided by lottery.

科目コード: 12010 **科目ナンバリング:** EN20C04E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): Presentation b(Presentation b)

担当者: Yoshiba, David C.

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.協同学習
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要:

This class will help students develop the necessary skills to become great presenters. Students will improve their public speaking, vocabulary and non-verbal communication, which are all important for a successful career after tertiary education.

キーワード: presentation, self-reflection, group work, communication, organization, writing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will be graded on their ability to prepare, practice and do six presentations explaining their opinions on various topics. Students will use powerpoint or other presentation software.

評価方法: Presentations

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be graded on their ability to reflect on and analyze their own performance in order to improve.

評価方法: Reflection Paper

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will also be evaluated on their active participation in class. English must be spoken as much as possible. Students will be required to prepare powerpoint presentations outside of class hours. Students should make an effort to ask questions and comment on other students presentations. Students should also do homework on time and review frequently.

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

This will not be directly added to the grade but helping other students during class will be acknowledged and reflected in the above section on attitude.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness and honesty are expected. Students must do their own work. Any students abusing translation software will be penalized and a reduced grade will be reflected in the Knowledge and Skills section.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Unit 1- Self Introduction
Week 2: Unit 1- Presentation, Self-reflection
Week 3: Unit 2 - An Important Person or Thing / Unit 3 - Places
Week 4: Unit 2 - An Important Person or Thing / Unit 3 - Places
Week 5: Unit 2 /Unit 3 - Presentation, Self-reflection
Week 6: Unit 4 - Opinions
Week 7: Unit 4 - Opinions
Week 8: Unit 4 - Presentation, Self-reflection
Week 9: Unit 5 - Biography / Unit 6 - Stories
Week 10: Unit 5 - Biography / Unit 6 - Stories
Week 11: Unit 5 / Unit 6 - Presentation, Self reflection
Week 12: Unit 7 - Solving Problems
Week 13: Unit 7 - Presentation, Self-reflection
Week 14: Unit 8 - Final Presentation
Week 15: Unit 8 - Final Presentation, Self-reflection

使用テキスト: (2019) Ready to Present: A Guide to Better Presentations, Herman Bartelen / Malcolm Kostiuk, Cengage Learning
ISBN 978-4-8612-351-2

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Before presentations, students must review, practice and prepare their work. Reviewing the classroom videos is also helpful. Preparing powerpoint or keynote presentations is essential.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by

visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項： This class will be taught in only English.
The number of students will be limited to 25 with senior students getting priority. If more than 25 students register, participants will be decided by lottery.

科目コード：12012 科目ナンバリング：EN11A03E 主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：Reading I a(Reading I a)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：演習

曜時：火曜3限 履修可能学科・専攻：E

関連資格： AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 情報社会を読み解く総合英文読解スキルの習得を目的とした授業である。

キーワード： scanning, skimming, chunking

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 基本的な英文を読みこなすために必要な語彙力・文法力を身につけている。

評価方法： 小テスト **評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 未知の語彙があっても、コンテキストから推測して、パラグラフ単位で英文の内容を大まかにとらえることができる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

予習をしっかりとこなし、授業でも積極的に発言し、教科書の英文に関連した英文を見つけ出し、その内容をクラスメートの前で発表することができる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為の対しては厳重に対処する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

01. Introduction
02. UNIT 1 Steve Jobs
03. UNIT 1 Steve Jobs
04. UNIT 2 Guggenheim Museum and Online Art
05. UNIT 2 Guggenheim Museum and Online Art
06. UNIT 3 High-tech Robot to Milk Cows
07. UNIT 3 High-tech Robot to Milk Cows
08. UNIT 4 IT for Schools in the UK

- 09. UNIT 4 IT for Schools in the UK
- 10. UNIT 5 Powerchair Football
- 11. UNIT 5 Powerchair Football
- 12. UNIT 6 The Culture of Cosplay in Asia
- 13. UNIT 6 The Culture of Cosplay in Asia
- 14. UNIT 7 Leading-edge Technology for Athlete Training and Health
- 15. UNIT 7 Leading-edge Technology for Athlete Training and Health
- 16. 定期試験

使用テキスト: Eiichi Yubune et al. (2022) Strategic Reading for Global Information. SEIBIDO
 <湯舟英一他(2022)『情報社会を読み解く総合読解スキル』(成美堂)>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 最低限、教科書で指示された語彙については辞書で意味を調べておくこと。
 出版社のサイトから、教科書の英文をダウンロードまたはストリーミング可能なので、予習復習に活用すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部、及び担当者に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー(日時は初回に連絡)に対面またはオンラインで対応することに加えて、メール(アドレスは初回に提示)等のやり取りも可能です。

留意事項: 現代英語1年次必修科目であり、年度初めの英語力診断テストの結果に基づいて履修クラスが決定するので注意すること。

科目コード: 12012 **科目ナンバリング:** EN11A03E **主な使用言語:** 日本語・英語

授業名(英文): Reading I b(Reading I b)

担当者: 佐々木 大和

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 英語で書かれた文章を読むことは、日常的な場面、学術的な場面を問わず情報を入手する方法として重要である。この授業では、様々なジャンルの英文に触れることで、大学生に必要な英語の語彙と表現、および読んだ内容を正確に把握する読解力をつけることを目指す。

キーワード: 英語, リーディング, 読むこと

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 大学生に必要な英語の語彙と表現、および読んだ内容を正確に把握する読解力を身につけ、課題・レポートに正確に解答することができる。

評価方法: 定期テスト・小テスト・課題

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 与えられたトピックに対する自分の考えを、指定された条件に基づき英語を用いて正確かつ流暢に表現することができる。

評価方法: 授業内課題

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内において授業者からの発問への回答やペアワーク等の活動を非常に積極的に行っていると認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象として勘案することがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の受講生の学修の妨げとなる行為や試験中の不正行為（カンニング）を行った場合は、減点や厳重注意、失格の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第1回】オリエンテーション（授業の目的や授業の進め方等について）、英語力診断
【第2回】UNIT 1 (1) Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages
【第3回】UNIT 1 (2) Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages
【第4回】UNIT 2 (1) Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition
【第5回】UNIT 2 (2) Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition
【第6回】UNIT 3 (1) Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality
【第7回】UNIT 3 (2) Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality
【第8回】UNIT 4 (1) Panda Boom Gives New Hope for Its Survival
【第9回】UNIT 4 (2) Panda Boom Gives New Hope for Its Survival
【第10回】UNIT 5 (1) Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan
【第11回】UNIT 5 (2) Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan
【第12回】UNIT 6 (1) Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker
【第13回】UNIT 6 (2) Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker
【第14回】UNIT 7 Water Wheel Picks Up Trash in Baltimore's Waterways
【第15回】Unit 1～7のまとめ

使用テキスト： 竹内理・池田真生子・湯浅麻里子・村上正武『Toward a Diverse Society』（松柏社）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業毎にテキスト中の分からない単語や表現は調べる。また、授業内で指示された課題等にはしっかり取り組んで授業に臨むこと。そのために、授業外の学習に1時間半ほど時間を割くこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。対応を求める場合は、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については、初回に伝える。

留意事項： ■この授業は英語と日本語の両方で行われる。
■授業には辞書（電子辞書でも可）を持ってくること。
■授業の様子を見て進度や予習内容、課題を変更することがあるので、授業中の指示には注意すること。
■この授業は履修者数を40名程度とする。これを超える履修希望者数の場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。

科目コード：12012

科目ナンバリング：EN11A03E

主な使用言語：日本語|英語

授業名（英文）：Reading I c(Reading I c)

担当者：君塚 淳一

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： E

関連資格：

AL要素： 課題演習
プレゼン

授業の概要： 読みやすい英文とわかりやすい内容のテキストを使い、高校までとは異なる英文の読み方で、わかりやすく解説しながら読んでいく。また同時に課題として、小説やエッセイ、新聞記事など、様々な文体の英文にも慣れてもらいます。
また総合教材を使用するので、Exerciseも各Unitの巻末にあるますので、行います。

キーワード： 英文理解、語彙、構文、アメリカ文化と日本文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 英文の文体を理解し、専門用語が分かれば、内容が読み解ける。

評価方法： レポート

評価割合： 40%

プレゼンテーション

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 読んだ英文から、自分の意見を持ち、学んだ語彙や表現を用いた英文で発信ができる。

評価方法： 期末試験

評価割合： 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・」の評価の対象にすることもある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・」の評価の対象にすることもある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・」の評価の対象にすることもある。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回Education: The Popularity of the Japanese Language (1)
第2回Education: The Popularity of the Japanese Language (2)Exerciseと関係英文Reading
第3回Education: The Job Search for College Seniors (1)
第4回Education: The Job Search for College Seniors (2)Exerciseと関係英文Reading
第5回Entertainment: Visiting the Birthplace of Jazz(1)
第6回Entertainment: Visiting the Birthplace of Jazz(2)Exerciseと関係英文Reading
第7回Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful? (1)
第8回Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful? (2) Exerciseと関係英文Reading
第9回Society: Is illegal Immigration a Problem?(1)
第10回 Society: Is illegal Immigration a Problem? (2)Exerciseと関係英文Reading
第11回 Society: Gun Control; Two Opposing Sides (1)
第12回 Society: Gun Control; Two Opposing Sides (2)Exerciseと関係英文Reading
第13回 Business: Wall Street After 9/11(1)

第14回 Business: Wall Street After 9/11(2)Exerciseと関係英文Reading
第15回まとめ&学生によるプレゼン
定期試験

使用テキスト: American Dynamics 金星堂 ISBN978-4-7647-3944-4 1800.
必要に応じてプリント配布、後期に追加もある。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必ず不安な語彙や表現は辞書で予習すること。また課題英文なども出すので同様に。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部などに連絡ください。

授業時間外の連絡手段: 曜日、時間については初回に連絡します。

留意事項: 特になし。

科目コード:12013 科目ナンバリング:EN12A03E 主な使用言語:英語、日本語

授業名(英文): Reading II a(Reading II a)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次:1 単位数:1 授業形式:演習
曜時:火曜3限 履修可能学科・専攻: E
関連資格: AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 情報社会を読み解く総合英文読解スキルの習得を目的とした授業である。

キーワード: scanning, skimming, chunking

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 基本的な英文を読みこなすために必要な語彙力・文法力を身につけている。

評価方法: 小テスト **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 未知の語彙があっても、コンテキストから推測して、パラグラフ単位で英文の内容を大まかにとらえることができる。

評価方法: 定期試験 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

予習をしっかりとこなし、授業でも積極的に発言し、教科書の英文に関連した英文を見つけ出し、その内容をクラスメートの前で発表することができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為の対しては厳重に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 01. Introduction

02. UNIT 8 Digital Detoxing
03. UNIT 8 Digital Detoxing
04. UNIT 9 Abbey Road
05. UNIT 9 Abbey Road
06. UNIT 10 Biofuel
07. UNIT 10 Biofuel
08. UNIT 11 NY High Line
09. UNIT 11 NY High Line
10. UNIT 12 The Science behind Falling in Love
11. UNIT 12 The Science behind Falling in Love
12. UNIT 13 On the Forefront of Alzheimer's Disease
13. UNIT 13 On the Forefront of Alzheimer's Disease
14. UNIT 14 Laughter Yoga
15. UNIT 14 Laughter Yoga
16. 定期試験

使用テキスト: Eiichi Yubune et al. (2022) Strategic Reading for Global Information. SEIBIDO
 <湯舟英一他(2022)『情報社会を読み解く総合読解スキル』(成美堂)>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 最低限、教科書で指示された語彙については辞書で意味を調べておくこと。
 出版社のサイトから、教科書の英文をダウンロードまたはストリーミング可能なので、予習復習に活用すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部、及び担当者に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー(日時は初回に連絡)に対面またはオンラインで対応することに加えて、メール(アドレスは初回に提示)等のやり取りも可能です。

留意事項: 現代英語1年次必修科目であり、年度初めの英語力診断テストの結果に基づいて履修クラスが決定するので注意すること。

科目コード: 12013 **科目ナンバリング:** EN12A03E **主な使用言語:** 日本語・英語

授業名(英文): Reading II b(Reading II b)

担当者: 佐々木 大和

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 英語で書かれた文章を読むことは、日常的な場面、学術的な場面を問わず情報を入手する方法として重要である。この授業では、様々なジャンルの英文に触れることで、大学生に必要な英語の語彙と表現、および読んだ内容を正確に把握する読解力をつけることを目指す。

キーワード: 英語, リーディング, 読むこと

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 大学生に必要な英語の語彙と表現、および読んだ内容を正確に把握する読解力を身につけ、課題・レポートに正確に解答することができる。

評価方法: 定期テスト・小テスト・課題

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 与えられたトピックに対する自分の考えを、指定された条件に基づき英語を用いて正確かつ流

暢に表現することができる。

評価方法: 授業内課題

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内において授業者からの発問への回答やペアワーク等の活動を非常に積極的に行っていると認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象として勘案することがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の受講生の学修の妨げとなる行為や試験中の不正行為(カンニング)を行った場合は、減点や嚴重注意、失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 【第1回】オリエンテーション(授業の目的や授業の進め方等について), 英語力診断
 - 【第2回】UNIT 8 (1) Junk Food Advertising Is to Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK
 - 【第3回】UNIT 8 (2) Junk Food Advertising Is to Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK
 - 【第4回】UNIT 9 (1) Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks
 - 【第5回】UNIT 9 (2) Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks
 - 【第6回】UNIT 10 (1) Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance
 - 【第7回】UNIT 10 (2) Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance
 - 【第8回】UNIT 11 (1) Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away
 - 【第9回】UNIT 11 (2) Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away
 - 【第10回】UNIT 12 (1) Charity Training Cancer Detection Dogs
 - 【第11回】UNIT 12 (2) Charity Training Cancer Detection Dogs
 - 【第12回】UNIT 13 (1) 100,000 People Have Pledged to Stick to a Plant-Based Diet for What's Being Called 'Veganuary'
 - 【第13回】UNIT 13 (2) 100,000 People Have Pledged to Stick to a Plant-Based Diet for What's Being Called 'Veganuary'
 - 【第14回】UNIT 14 Artificial Intelligence Cannot Replace Doctors, Can Work Alongside Them
 - 【第15回】Unit 8~14のまとめ

使用テキスト: 竹内理・池田真生子・湯浅麻里子・村上正武『Toward a Diverse Society』(松柏社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業毎にテキスト中の分からない単語や表現は調べる。また、授業内で指示された課題等にはしっかり取り組んで授業に臨むこと。そのために、授業外の学習に1時間半ほど時間を割くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。対応を求める場合は、学務部等に連絡すること。

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 第1回Business: The Future of the Auto Industry (1)
第2回Business: The Future of the Auto Industry (2)Exerciseと関係英文Reading
第3回Sports: Major League Dreams and Odds (1)
第4回Sports: Major League Dreams and Odds (2)Exerciseと関係英文Reading
第5回Sports: F1 Racing Comes to America! (1)
第6回Sports: F1 Racing Comes to America! (2)Exerciseと関係英文Reading
第7回Environment: Environmental Champions Muir and Pinchot (1)
第8回Environment: Environmental Champions Muir and Pinchot (2)Exerciseと関係英文Reading
第9回Environment: Balancing Growth and Protectionism (1)
第10回 Environment: Balancing Growth and Protectionism (2)Exerciseと関係英文Reading
第11回 Women's Movements: The Leadership of Female CEO's (1)
第12回 Women's Movements: The Leadership of Female CEO's (2)Exerciseと関係英文Reading
第13回 Women's Movements: Today's Feminist Movement (1)
第14回 Women's Movements: Today's Feminist Movement (2)Exerciseと関係英文Reading
第15回まとめ&学生によるプレゼン
定期試験

使用テキスト： American Dynamics 金星堂 ISBN978-4-7647-3944-4 1800.
必要に応じてプリント配布、後期に追加もある。

予習・復習のポイントと 必ず不安な語彙や表現は辞書で予習すること。また課題英文なども出すので同様に。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部などに連絡ください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 曜日、時間については初回に連絡します。

留意事項： 特になし。

科目コード：12014 科目ナンバリング：EN20C02E 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：Advanced Reading(Advanced Reading)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要：BBC(英国)やCNN(米国)などのサイトから、受講学生自らキーワード検索などにより興味のある記事を選び出し、それを教材として内容理解に努め、他の受講生の前で発表することにより、ハイレベルの英文を読む力に加えて、プレゼン力をも高めることを目指す。

キーワード：多読
精読
要約

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語のニュースで取り上げられるような世界の出来事を理解するための背景知識に加えて、英語の語彙力と読解力を身につけている。

評価方法: 授業内での発表と定期(期末)試験 **評価割合:** 75%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 取り扱われているニュースの内容を理解して、要約したり、自らの考えを表現することができる。

評価方法: 授業内での発表と定期(期末)試験 **評価割合:** 25%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業外においても、新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、世界の動きを積極的に知ろうという態度を身につけている。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、上級生は下級生に教材選びなどについて積極的にアドバイスをすることが期待される。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、定期試験の際の不正行為には厳重に対処する。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: Introduction
第02回: 受講学生のグループ分け
第03回: グループのテーマ決定
第04回: グループ発表準備
第05回: グループ01発表
第06回: グループ02発表
第07回: グループ03発表
第08回: グループ04発表
第09回: グループ05発表
第10回: グループ06発表
第11回: グループ07発表
第12回: グループ08発表
第13回: グループ09発表
第14回: グループ10発表
第15回: 授業全体の振り返り

使用テキスト: BBC(英国)やCNN(米国)などのサイトから、受講学生自らが選び出して使用

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎回翌週に扱う教材を配付するので、1週間のうちに必ず目を通しておくこと。
授業で扱う話題に関する基礎知識を新聞・テレビ・インターネットなどから得ておくこと。
授業で取り上げた語彙を各自ノートなどにまとめておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項: 授業時には辞書(電子辞書)を必ず持参すること。

科目コード:12016

科目ナンバリング:EN11C03E

主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Grammar I a (Grammar I a)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素:05. 即時応答

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、英文法の基礎とやや発展的な英文法を学びます。本授業は、「基礎編」と「発展編」から成っています。

【基礎編】

英文法の基礎的な項目を解説するオンデマンド動画を事前に視聴し、それに関する問題(通称『パズグラ』)にオンライン上で解答します。解答の解説は翌週の授業内で行い、当該項目への理解度を深めます。

【発展編】

英文法の発展的な内容の講義を教室にて行います。単なる英文法の習熟だけでなく、言語学的に、または歴史的になぜそのような規則が存在するのかを考えるための講義です。

キーワード: 英文法、動詞、項構造、下位範疇化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英文法の中核をなす項目について、基礎的および発展的な内容を概ね理解している。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

質問フォーム

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語の使用時において、適切な英文法項目を論理的に判断できる。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画： 第01回: Orientation: 「文」というステージ(英語の文の歴史の変遷)
 第02回: Argument Structure (1): 項の数と意味役割(演出家としての動詞)およびその歴史の変遷
 第03回: Argument Structure (2): 多様な意味役割(さまざまな役柄)およびその歴史の変遷
 第04回: Argument Structure (3): 付加詞(メインキャラとモブキャラ)およびその歴史の変遷
 第05回: Sentence (1): 文の成立条件(プロデューサーの存在)およびその歴史の変遷
 第06回: Sentence (2): 否定文(演出家とプロデューサー)
 第07回: Sentence (3): 疑問文(寂しがりやのQ)
 第08回: Tense and Aspect (1): 時制およびその歴史の変遷
 第09回: Tense and Aspect (2): 動詞の相およびその歴史の変遷
 第10回: Tense and Aspect (3): 文の相およびその歴史の変遷
 第11回: Passive: 受身文(配役の削除)およびその歴史の変遷
 第12回: Causative: 使役文(配役の追加)およびその歴史の変遷
 第13回: Unaccusative: 非対格動詞(配役替え)およびその歴史の変遷
 第14回: Constructions: さまざまな構文およびその歴史の変遷
 第15回: まとめ
 学期末試験

使用テキスト： 特にありません。必要な資料は授業で配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【参考書】
 久野暉・高見健一『謎解きの英文法』シリーズ
 その他、授業で案内します。

【予習】
 毎回の授業で「基礎編」のオンデマンド動画を事前に視聴していただきます。また、基本的な文法事項に関する問題(パズグラ)を出しますので、必ず解答しておくように。

【復習】
 出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
 2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
 3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 12016 科目ナンバリング: EN11C03E 主な使用言語: 日本語と英語

授業名(英文): Grammar I b (Grammar I b)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 05. 即時応答

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 本授業では、英文法の基礎とやや発展的な英文法を学びます。本授業は、「基礎編」と「発展編」から成っています。

【基礎編】

英文法の基礎的な項目を解説するオンデマンド動画を事前に視聴し、それに関する問題(通称『パズグラ』)にオンライン上で解答します。解答の解説は翌週の授業内で行い、当該項目への理解度を深めます。

【発展編】

英文法の発展的な内容の講義を教室にて行います。単なる英文法の習熟だけでなく、言語学的に、または歴史的になぜそのような規則が存在するのかを考えるための講義です。

キーワード: 英文法、動詞、項構造、下位範疇化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英文法の中核をなす項目について、基礎的および発展的な内容を概ね理解している。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

質問フォーム

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語の使用時において、適切な英文法項目を論理的に判断できる。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: Orientation: 「文」というステージ(英語の文の歴史の変遷)
第02回: Argument Structure (1): 項の数と意味役割(演出家としての動詞)およびその歴史の変遷
第03回: Argument Structure (2): 多様な意味役割(さまざまな役柄)およびその歴史の変遷
第04回: Argument Structure (3): 付加詞(メインキャラとモブキャラ)およびその歴史の変遷
第05回: Sentence (1): 文の成立条件(プロデューサーの存在)およびその歴史の変遷
第06回: Sentence (2): 否定文(演出家とプロデューサー)
第07回: Sentence (3): 疑問文(寂しがりやのQ)
第08回: Tense and Aspect (1): 時制およびその歴史の変遷
第09回: Tense and Aspect (2): 動詞の相およびその歴史の変遷
第10回: Tense and Aspect (3): 文の相およびその歴史の変遷
第11回: Passive: 受身文(配役の削除)およびその歴史の変遷
第12回: Causative: 使役文(配役の追加)およびその歴史の変遷
第13回: Unaccusative: 非対格動詞(配役替え)およびその歴史の変遷

第14回: Constructions:さまざまな構文およびその歴史的変遷

第15回: まとめ

学期末試験

使用テキスト: 特にありません。必要な資料は授業で配布します。

予習・復習のポイントと 【参考書】

参考文献・資料等: 久野暁・高見健一『謎解きの英文法』シリーズ
その他、授業で案内します。

【予習】

毎回の授業で「基礎編」のオンデマンド動画を事前に視聴していただきます。また、基本的文法事項に関する問題(パズグラ)を出しますので、必ず解答しておくように。

【復習】

出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

留意事項: 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード:12017

科目ナンバリング:EN12C03E

主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Grammar II a(Grammar II a)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 05. 即時応答

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、英文法の基礎とやや発展的な英文法を学びます。本授業は、「基礎編」と「発展編」から成っています。

【基礎編】

英文法の基礎的な項目を解説するオンデマンド動画を事前に視聴し、それに関する問題(通称『パズグラ』)にオンライン上で解答します。解答の解説は翌週の授業内で行い、当該項目への理解度を深めます。

【発展編】

英文法の発展的な内容の講義を教室にて行います。単なる英文法の習熟だけでなく、言語学的に、または歴史的になぜそのような規則が存在するのかを考えるための講義です。

キーワード: 英文法、補文、名詞句、前置詞

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英文法の中核をなす項目について、基礎的および発展的な内容を概ね理解している。

評価方法: パズグラ
学期末試験
質問フォーム

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語の使用時において、適切な英文法項目を論理的に判断できる。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第01回: Orientation: 役者の心得と英語の歴史の変遷
- 第02回: Complement (1): 補文構造 (劇中劇) およびその歴史の変遷
- 第03回: Complement (2): 非定形節 (未完の物語)
- 第04回: Complement (3): Ving (この作品は実話に基づいています) およびその歴史の変遷
- 第05回: Complement (4): 過去分詞 (見えない監督) およびその歴史の変遷
- 第06回: Complement (5): PRO (見えない配役)
- 第07回: Nouns and Articles (1): 名詞およびその歴史の変遷
- 第08回: Nouns and Articles (2): 不定冠詞およびその歴史の変遷
- 第09回: Nouns and Articles (3): 定冠詞およびその歴史の変遷
- 第10回: Prepositions (1): OVER / THROUGH
- 第11回: Prepositions (2): ABOUT / ACROSS
- 第12回: Prepositions (3): AT / BY
- 第13回: Prepositions (4): FOR / IN
- 第14回: 前置詞の歴史の変遷
- 第15回: まとめ (英文法と歴史の変遷)

学期末試験

使用テキスト: 特にありません。必要な資料は授業で配布します。

予習・復習のポイントと 【参考書】

参考文献・資料等: 久野暉・高見健一『謎解きの英文法』シリーズ
その他、授業で案内します。

【予習】

毎回の授業で「基礎編」のオンデマンド動画を事前に視聴していただきます。また、基本的文法事項に関する問題(パズグラ)を出しますので、必ず解答しておくように。

【復習】

出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

留意事項: 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード:12017 科目ナンバリング:EN12C03E 主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Grammar II b(Grammar II b)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 05. 即時応答

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、英文法の基礎とやや発展的な英文法を学びます。本授業は、「基礎編」と「発展編」から成っています。

【基礎編】

英文法の基礎的な項目を解説するオンデマンド動画を事前に視聴し、それに関する問題(通称『パズグラ』)にオンライン上で解答します。解答の解説は翌週の授業内で行い、当該項目への理解度を深めます。

【発展編】

英文法の発展的な内容の講義を教室にて行います。単なる英文法の習熟だけでなく、言語学的に、または歴史的になぜそのような規則が存在するのかを考えるための講義です。

キーワード: 英文法、補文、名詞句、前置詞

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英文法の中核をなす項目について、基礎的および発展的な内容を概ね理解している。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

質問フォーム

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語の使用時において、適切な英文法項目を論理的に判断できる。

評価方法: パズグラ

評価割合: 50%

学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回: Orientation: 役者の心得と英語の歴史の変遷
第02回: Complement (1): 補文構造(劇中劇)およびその歴史の変遷
第03回: Complement (2): 非定形節(未完の物語)
第04回: Complement (3): Ving(この作品は実話に基づいています)およびその歴史の変遷
第05回: Complement (4): 過去分詞(見えない監督)およびその歴史の変遷
第06回: Complement (5): PRO(見えない配役)
第07回: Nouns and Articles (1): 名詞およびその歴史の変遷
第08回: Nouns and Articles (2): 不定冠詞およびその歴史の変遷
第09回: Nouns and Articles (3): 定冠詞およびその歴史の変遷
第10回: Prepositions (1): OVER / THROUGH
第11回: Prepositions (2): ABOUT / ACROSS
第12回: Prepositions (3): AT / BY
第13回: Prepositions (4): FOR / IN
第14回: 前置詞の歴史の変遷
第15回: まとめ(英文法と歴史の変遷)
学期末試験

使用テキスト： 特にありません。必要な資料は授業で配布します。

予習・復習のポイントと参考文 献・資料等： 【参考書】
久野 暲・高見 健一『謎解きの英文法』シリーズ
その他、授業で案内します。

【予習】

毎回の授業で「基礎編」のオンデマンド動画を事前に視聴していただきます。また、基本的な文法事項に関する問題(パズグラ)を出しますので、必ず解答しておくように。

【復習】

出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってもらいます。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード：12018

科目ナンバリング：EN21C03E

主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：Writing I a(Writing I a)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 文法、語彙、文解釈についての設問・解説を行う中で英文法の基礎と語彙力の強化を行い、正しい英文が作成できるよう、「知っている」文法・語彙知識を「使える」文法知識へと高めていきます。前期では主に、単文構造作成における注意点を扱います。各授業は、「英作文課題」、「語彙強化課題」、「英文メール執筆解説」の3部構成になっています。

【英作文課題】

各回に設定された文法項目を用いる(と想定される)英作文課題を、事前に提出してもらいます。授業内では、その模範解答を紹介したのち、学生が作成した英文へのフィードバックを行います。自身の誤りだけでなく、他者の誤りなどを知ることによって、より広範な知識の習得を目指します。

【語彙強化課題】

毎回、使用頻度の高い動詞を2つずつ選び出し、その動詞の意味や用法および用例を、オンデマンド動画にて紹介します。さらに、翌週までの課題として、扱った動詞を辞書で調べ、そこに現れる例文を転記したものを提出してもらいます。

【英文メール執筆解説】

英作文課題を通じて、語彙、文法、文体、構成の観点から、電子メールでの英作文における留意点を学習します。

キーワード： 英文ライティング、英文解釈

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 電子メールの書式に則って、英文メールを作成できる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的な英語表現を用いて、文法的に正しい英文を記述できる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

英作文課題および動詞の用例検索課題の提出、また「出席確認用フォーム」において有益な質問・コメント等の記述が認められる場合に評価対象とする。

評価割合： 50%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 第01回：イントロダクション
第02回：名詞句の正しい用法 ① (Det+AP+N) / 面会依頼の書き方① (構成・文体の確認)
第03回：名詞句の正しい用法 ② (Gen+AP+N) / 面会依頼の書き方② (語彙・文法の確認)
第04回：名詞句の正しい用法 ③ (NP+PP) / 仕事の依頼文の書き方① (構成・文体の確認)
第05回：動詞句の正しい用法 ① (V+PP) / 仕事の依頼文の書き方② (語彙・文法の確認)
第06回：動詞句の正しい用法 ② (V+XP) / 対応への感謝状の書き方① (構成・文体の確認)
第07回：動詞句の正しい用法 ③ (V+NP) / 対応への感謝状の書き方② (語彙・文法の確認)
第08回：動詞句の正しい用法 ④ (V+NP+NP) / 訪問後の感謝状の書き方① (構成・文体の確認)
第09回：動詞句の正しい用法 ⑤ (V+NP+XP) / 訪問後の感謝状の書き方② (語彙・文法の確認)
第10回：時制 (Tense) の正しい理解 / 不在に対する謝罪文の書き方① (構成・文体の確認)
第11回：相 (Aspect) の正しい理解 / 不在に対する謝罪文の書き方② (語彙・文法の確認)
第12回：助動詞 (Auxiliary) の正しい理解 / 遅延に対する謝罪文の書き方① (構成・文体の確認)
第13回：態 (Voice) の正しい理解 / 遅延に対する謝罪文の書き方② (語彙・文法の確認)
第14回：否定文および疑問文の正しい理解 / 英文メールを書く際の留意点 (語彙・文法・構成・文体)
第15回：まとめ

使用テキスト： 特にありません。使用する教材は、授業内に配布します。

予習・復習のポイントと【参考書】

参考文献・資料等： 綿貫陽・ピーターセン・マーク (2006) 『表現のための実践ロイヤル英文法』, 旺文社.

【予習】

毎回英作文課題を出題しますので、事前に解答しておくこと。

【復習】

毎回基本語彙を辞書で調べて用例を記述する課題を出しますので、決して怠らないこと。出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

- 留意事項： 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。
2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード：12018

科目ナンバリング：EN21C03E

主な使用言語：日本語・英語

授業名(英文)：Writing I b (Writing I b)

担当者：森田 一洋

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 社会問題や環境問題をテーマにしたサンプルパラグラフを読みながら、既習文法を復習し、さらに英語のパラグラフの展開方法を学ぶ。各章で扱われる展開方法とともによく使われる表現を学び、さらにその展開方法や表現を使って作文の練習をします。自然の英文を書くのに大切な構文や文体を学ぶ。

キーワード： パラグラフライティング、パラグラフ構成の理解、英文解釈

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 教科書で学んだ英語表現を用いて、文法的に正しく指定以上の語数で英文を書くことができる。

評価方法： Review

評価割合： 15%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 英文パラグラフ構成に則って、パラグラフライティングができる。

評価方法： Review

評価割合： 45%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回授業最後に学習した内容について振り返り英語で30語以上の文章でまとめたReflection Sheetをとおして主体性を評価する。(15%)

教室外において課す 自律的な英語学習Writingレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。(25%)

評価割合： 40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。試験時の不正行為が許されないのはもちろんであり、不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。また、「盗用」と判断された場合、当該作文、レポート及びスピーチ等の評価もゼロになるなどの処分を受けることになるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	オリエンテーション
第2回	Chapter 1 パラグラフとは
第3回	Chapter 1 パラグラフとは
第4回	Chapter 2 列挙 無生物を主語にして
第5回	Chapter 2 列挙 無生物を主語にして
第6回	Chapter 3例示 名詞構文
第7回	Chapter 3例示 名詞構文
第8回	Review
第9回	Chapter 4 原因・結果 動名詞
第10回	Chapter 4 原因・結果 動名詞
第11回	Chapter 5 結果・原因 文修飾の副詞
第12回	Chapter 5 結果・原因 文修飾の副詞

- 第13回 Chapter 6比較 関係副詞
第14回 Chapter 6比較 関係副詞
第15回 Review

使用テキスト: 山村三郎 兼頭章子 福岡正人 著 Writing Techniques for College Students 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】教科書を読み、練習問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。また、自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。
【復習】Reviewに備えて英文パラグラフ構成や展開、英単語、役に立つ表現の意味、使い方を確認しましょう。
【その他】教室外の自立的学修のWriting Reportにしっかりと取り組むこと。
授業には英和・和英辞典(紙体でも電子版でも可)を持参してください。毎回授業最後に出席確認と併せて、授業内で扱った内容について理解したことや質問・コメント等をReflection Sheetで書き提出しますので、パソコンを授業に持ってきて下さい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。

留意事項: 辞書、パソコンまたはタブレットを持参して下さい。
必ず予習を行っておくようにしてください。

科目コード: 12018 科目ナンバリング: EN21C03E 主な使用言語: 英語と日本語

授業名(英文): Writing I c(Writing I c)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 10: Resource research

15: Correction guidance

16: Reflection paper

授業の概要: This course aims to improve your paragraph writing skills. You will learn the basics, such as the general writing process and paragraph structure. You will also learn different rhetorical styles commonly used in academic writing. Also, by sharing your paragraphs and offering comments on those written by your peers, you will help each other to grow as writers.

キーワード: writing process, paragraph structure, styles of writing, fluency, accuracy

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students can understand the writing theories covered in class and demonstrate their understanding in their writing.

評価方法: Worksheets

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students can analyze their writings from different angles and improve them further.

評価方法: Portfolio

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Active engagement with the course materials, activities, and assignments is expected. Students monitor

their progress and reflect on their performance in the worksheet.

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

Students offer helpful comments to improve each other's writing skills.

評価割合:0%

▼公正性

Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.

評価割合:0%

▼その他

Not applicable

評価割合: Not applicable

授業計画: 第01回: Course introduction
第02回: Unit 1 Narrative Paragraphs?Fluency (1)
第03回: Unit 1 Narrative Paragraphs?Fluency (2)
第04回: Unit 2 Narrative Paragraphs?Accuracy (1)
第05回: Unit 2 Narrative Paragraphs?Accuracy (2)
第06回: Unit 3 Descriptive Paragraphs?Fluency (1)
第07回: Unit 3 Descriptive Paragraphs?Fluency (2)
第08回: Units 1-3 Revision
第09回: Unit 4 Descriptive Paragraphs?Accuracy (1)
第10回: Unit 4 Descriptive Paragraphs?Accuracy (2)
第11回: Unit 5 Compare and Contrast Paragraphs?Fluency (1)
第12回: Unit 5 Compare and Contrast Paragraphs?Fluency (2)
第13回: Unit 6 Compare and Contrast Paragraphs?Accuracy (1)
第14回: Unit 6 Compare and Contrast Paragraphs?Accuracy (2)
第15回: Units 4-6 Revision, Course wrap-up

使用テキスト: Andy Boon 著、Writing for Fluency and Accuracy、Cengage Learning、2017年

予習・復習のポイントと Complete homework prior to every class.

参考文献・資料等: Work on the assigned worksheet by the end of each unit.

障がいのある履修者への対応: Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.

授業時間外の連絡手段: During the office hours or by email. The details will be explained in the first class.

留意事項: ・This class will be taught in both English and Japanese.
・The maximum size for this class is 25 students. If more students apply, DCE students will be given priority for registering.
・This class will use Microsoft Teams for announcements, communication, and assignment distribution& submission.
・Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone) as much as possible.

科目コード:12019

科目ナンバリング:EN22C03E

主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Writing II a(Writing II a)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素： 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 文法、語彙、文解釈についての設問・解説を行う中で英文法の基礎と語彙力の強化を行い、正しい英文が作成できるよう、「知っている」文法・語彙知識を「使える」文法知識へと高めていきます。後期では主に、複文構造作成における注意点を扱います。各授業は、「英作文課題」、「語彙強化課題」、「英文エッセイ執筆解説」の3部構成になっています。

【英作文課題】

各回に設定された文法項目を用いる(と想定される)英作文課題を、事前に提出してもらいます。授業内では、その模範解答を紹介したのち、学生が作成した英文へのフィードバックを行います。自身の誤りだけでなく、他者の誤りなどを知ることによって、より広範な知識の習得を目指します。

【語彙強化課題】

毎回、使用頻度の高い動詞を2つずつ選び出し、その動詞の意味や用法および用例を紹介します。さらに、翌週までの課題として、扱った動詞を辞書で調べ、そこに現れる例文を転記したものを提出してもらいます。

【英語論文執筆解説】

テキストを通じてパラグラフの構成を理解し、英語論文執筆に関する留意点等を学習します。また、英語論文の構成を理解し、執筆における留意点を学習します。

キーワード： 英文ライティング、英文解釈

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 英語論文の形式に則って、英作文ができる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的な英語表現を用いて、文法的に正しい英文を記述できる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

英作文課題および動詞の用例検索課題の提出、また「出席確認用フォーム」において有益な質問・コメント等の記述が認められる場合に評価対象とする。

評価割合： 50%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第01回: イントロダクション
第02回: 準動詞 ①(名詞句+不定詞節) / titleの書き方

- 第03回: 準動詞 ②(SV+不定詞節) / topic sentenceの書き方①: 序論
 第04回: 準動詞 ③(SVO+不定詞節) / topic sentenceの書き方②: 本論
 第05回: 準動詞 ④(動名詞) / topic sentenceの書き方③: 結論
 第06回: 準動詞 ⑤(SV(O)+Ving) / supporting sentencesの書き方①: 序論
 第07回: 準動詞 ②(SV(O)+p.p.) / supporting sentencesの書き方②: 本論
 第08回: 関係詞節 ①(主格/目的格) / supporting sentencesの書き方③: 結論
 第09回: 関係詞節 ②(前置詞の目的語/所有格) / detail sentencesの書き方①: 序論
 第10回: 関係詞節 ③(自由関係詞) / detail sentencesの書き方②: 本論
 第11回: 関係詞節 ④(関係副詞) / detail sentencesの書き方③: 結論
 第12回: 名詞節 ①(that節) / concluding sentenceの書き方①: 序論
 第13回: 名詞節 ②(間接疑問文) / concluding sentenceの書き方②: 本論
 第14回: 名詞節 ③(同格) / concluding sentenceの書き方③: 結論
 第15回: 副詞節 / まとめ

使用テキスト: 井上逸兵(2022)『もっともシンプルな英語ライティング講義』, 慶應義塾大学出版会.

予習・復習のポイントと 【参考書】

参考文献・資料等: 綿貫陽・ビーターセン・マーク(2006)『表現のための実践ロイヤル英文法』, 旺文社.

【予習】

毎回英作文課題を出題しますので、事前に解答しておくこと。

テキストから問題を出題する場合がありますので、事前に解答しておくこと。

【復習】

毎回基本語彙を辞書で調べて用例を記述する課題を出しますので、決して怠らないこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

- 留意事項:**
1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。
 2. この授業の履修者の上限を40名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、優先学科の学生を優先して調整することがあります。
 3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 12019

科目ナンバリング: EN22C03E

主な使用言語: 日本語・英語

授業名(英文): Writing II b(Writing II b)

担当者: 森田 一洋

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 社会問題や環境問題をテーマにしたサンプルパラグラフを読みながら、既習文法を復習し、さらに英語のパラグラフの展開方法を学ぶ。各章で扱われる展開方法とともによく使われる表現を学び、さらにその展開方法や表現を使って作文の練習をします。自然の英文を書くのに大切な構文や文体を学ぶ。

キーワード: パラグラフライティング、パラグラフ構成の理解、英文解釈

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書で学んだ英語表現を用いて、文法的に正しく指定以上の語数で英文を書くことができる。

評価方法: Review

評価割合: 15%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英文パラグラフ構成に則って、パラグラフライティングができる。

評価方法: Review

評価割合: 45%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回授業最後に学習した内容について振り返り英語で30語以上の文章でまとめたReflection Sheetをとおして主体性を評価する。(15%)

教室外において課す 自律的な英語学習Writingレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。(25%)

評価割合: 40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。試験時の不正行為が許されないのはもちろんであり、不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。また、「盗用」と判断された場合、当該作文、レポート及びスピーチ等の評価もゼロになるなどの処分を受けることになるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:	第1回	オリエンテーション
	第2回	Chapter 7 対照 不定詞
	第3回	Chapter 7 対照 不定詞
	第4回	Chapter 8 分類 省略
	第5回	Chapter 8 分類 省略
	第6回	Chapter 9 分析 関係代名詞
	第7回	Chapter 9 分析 関係代名詞
	第8回	Review
	第9回	Chapter 10 定義 分詞構文
	第10回	Chapter 10 定義 分詞構文
	第11回	Chapter 11 過程 分詞
	第12回	Chapter 11 過程 分詞
	第13回	Chapter 12 問題解決策 倒置
	第14回	Chapter 12 問題解決策 倒置
	第15回	Review

使用テキスト: 山村三郎 兼頭章子 福岡正人 著 Writing Techniques for College Students 金星堂

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイントと参考文献・資料等

参考文献・資料等: 【予習】教科書を読み、練習問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。また、自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。

【復習】Reviewに備えて英文パラグラフ構成や展開、英単語、役に立つ表現の意味、使い方を確認しましょう。

【その他】教室外の自立的学修のWriting Reportにしっかりと取り組むこと。

授業には英和・和英辞典(紙体でも電子版でも可)を持参してください。毎回授業最後に出席確認と併せて、授業内で扱った内容について理解したことや質問・コメント等をReflection Sheetで書き提出しますので、パソコンを授業に持ってきて下さい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。

留意事項: 留意事項

辞書、パソコンまたはタブレットを持参して下さい。
必ず予習を行っておくようにして下さい。

科目コード:12019 科目ナンバリング:EN22C03E 主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文): Writing II c(Writing II c)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 10: Resource research
15: Correction guidance
16: Reflection paper

授業の概要: This course aims to improve your paragraph writing skills. You will learn the basics, such as the general writing process and paragraph structure. You will also learn different rhetorical styles commonly used in academic writing. Also, by sharing your paragraphs and offering comments on those written by your peers, you will help each other to grow as writers.

キーワード: writing process, paragraph structure, styles of writing, fluency, accuracy

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students can understand the writing theories covered in class and demonstrate their understanding in their writing.

評価方法: Worksheets

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students can analyze their writings from different angles and improve them further.

評価方法: Portfolio

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Active engagement with the course materials, activities, and assignments is expected. Students monitor their progress and reflect on their performance in the worksheet.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students offer helpful comments to improve each other's writing skills.

評価割合: 0%

▼公正性

Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.

評価割合: 0%

▼その他

Not applicable

評価割合: Not applicable

授業計画: 第01回: Course introduction
第02回: Unit 7 Cause and Effect Paragraphs?Fluency (1)
第03回: Unit 7 Cause and Effect Paragraphs?Fluency (2)
第04回: Unit 8 Cause and Effect Paragraphs?Accuracy (1)
第05回: Unit 8 Cause and Effect Paragraphs?Accuracy (2)
第06回: Unit 9 Summary Paragraphs?Fluency (1)
第07回: Unit 9 Summary Paragraphs?Fluency (2)
第08回: Revision of Units 7-9
第09回: Unit 10 Summary Paragraphs?Accuracy (1)
第10回: Unit 10 Summary Paragraphs?Accuracy (2)
第11回: Unit 11 Opinion Paragraphs?Fluency (1)
第12回: Unit 11 Opinion Paragraphs?Fluency (2)
第13回: Unit 12 Opinion Paragraphs?Accuracy (1)
第14回: Unit 12 Opinion Paragraphs?Accuracy (2)
第15回: Revision of Units 10-12, Course wrap-up

使用テキスト: Andy Boon 著、Writing for Fluency and Accuracy、Cengage Learning、2017年

予習・復習のポイントと Complete homework prior to every class.

参考文献・資料等: Work on the assigned worksheet by the end of each unit.

障がいのある 履修者への対応: Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.

授業時間外の連絡手段: During the office hours or by email. The details will be explained in the first class.

留意事項: ・This class will be taught in both English and Japanese.
・The maximum size for this class is 25 students. If more students apply, DCE students will be given priority for registering.
・This class will use Microsoft Teams for announcements, communication, and assignment distribution& submission.
・Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone) as much as possible.

科目コード: 12020

科目ナンバリング: EN10C07E

主な使用言語: English

授業名(英文): Interactive Studies I a(Interactive Studies I a)

担当者: Yoshiba, David C.

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

17 発問と回答

授業の概要: This class focusses on three areas. The first is listening comprehension. The second is understanding the significance of meanings. The third is instruction and logical sequence. The class uses cooking videos and online quizzes to present and assess understanding. It is augmented with vocabulary related to the processes discussed in the videos.

Students will base their presentations on the language and sequencing found in the instructional material.

キーワード: logical sequencing
instruction
description

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Learn how to understand instructions and content. Improve listening comprehension.

評価方法: Online quizzes and video materials **評価割合:** 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Learn how to sequence and present instructions in a logical, clear fashion

評価方法: An in-class presentation giving instructions **評価割合:** 30%
on how to make a food item not discussed
in the class

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students should check a cookbook to check their own understanding of the English of cooking tools, materials, and techniques.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

The skills required to give instructions can be applied to many volunteering scenarios and situations.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Students must not copy their presentation. It must be an original work. Any presentation which has clearly been copied from another work will receive no grade.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Students will study the contents of cooking videos and suggest some for classmates to use as learning material. They will also make a presentation at the end of the semester on how to cook something using the description techniques discussed in the class.

The schedule is subject to change depending on the number of students attending this class.

Week 1 Introduction and orientation

Week 2 Macarons and oatmeal cookies

Week 3 Student suggested videos

Week 4 Fudge brownies and cakes

Week 5 Doughnuts and French toast rollups

Week 6 Student suggested videos

Week 7 Candy cake pops and candy canes

Week 8 Pizzas

Week 9 Student suggested videos

Week 10 Calamari, onion rings, and chicken nuggets
Week 11 Pretzels
Week 12 Student suggested videos
Week 13 Casseroles
Week 14 Presentation preparation
Week 15 Student presentations

使用テキスト: There is no textbook. Student will be given prints in most classes, mostly covering the vocabulary to be reviewed in each video.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: A good Japanese dictionary will be useful for composing presentations.

障がいのある履修者への対応: This class is designed so that students are able to perform most tasks at their own pace. Students requiring more time than others will be able to devote their efforts accordingly.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項: This class will be taught almost entirely in English.

科目コード: 12020 **科目ナンバリング:** EN10C07E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): Interactive Studies I b (Interactive Studies I b)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08. 共同学習

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

17. 発問と回答

授業の概要: この授業では映画を観ながら日常生活やビジネスでよく使う英会話表現を学習します。映画を少しずつ視聴することによって、映画に使用される重要な口語表現と文法項目を学習し、英語の総合能力を高めることができます。そして、授業中で行うディスカッション・ロールプレイ・レビューなどのアクティブ・ラーニング型の課題に取り組むことで、自分の意見を積極的に表現できるようになります。

映画Bohemian Rhapsody(『ボヘミアン・ラプソディ』)を観ます。

キーワード: 映画、リスニング・アクティビティ、スピーキング・アクティビティ、ディクテーション、ロールプレイ、字幕作成、レビュー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 映画を観ながら、エンターテインメント業界で働いている人の葛藤、失敗や挑戦を観察し、仕事への理解を深めることができます。

評価方法: 授業への参加度、ワークシート、ディスカッション **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 映画を観ながら、英語のリスニングやスピーキングの能力を高め、英語の総合的なコミュニケー

ション能力を身につけます。

評価方法: ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、クイズ **評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス。Unit 1 (Forming the Band, Queen) (1)
第02回: Unit 1 (Forming the Band, Queen) (2)
第03回: Unit 1 (Forming the Band, Queen) (3)
第04回: Unit 2 (Bohemian Rhapsody) (1)
第05回: Unit 2 (Bohemian Rhapsody) (2)
第06回: Unit 2 (Bohemian Rhapsody) (3)
第07回: Unit 3 (Drifting Apart) (1)
第08回: Unit 3 (Drifting Apart) (2)
第09回: Unit 3 (Drifting Apart) (3)
第10回: Unit 4 (The Truth Comes out) (1)
第11回: Unit 4 (The Truth Comes out) (2)
第12回: Unit 4 (The Truth Comes out) (3)
第13回: Unit 5 (Performing in Live Aid) (1)
第14回: Unit 5 (Performing in Live Aid) (2)
第15回: Unit 5 (Performing in Live Aid) (3)

使用テキスト: 塩見佳代子, Matthew Coomber, 宮林賀奈子 (2020) 『Active English through Movies. アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語4技能』金星堂 (2,200円)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1. 教科書の読解と課題への取り組みと。
2. 授業で習った語彙などを復習すること。
3. ワークシートを記入すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: 1. この授業はアクティビティを行うクラスなので、積極的に会話やディスカッションを行なってもらいます。
2. 日英辞書を持参をすることが望ましい。
3. クラスの人数は24人を上限とします。履修希望者多数の場合は、上級生に優先して調整する可能性があります。

科目コード: 12020

科目ナンバリング: EN10C07E

主な使用言語: 日本語／英語

授業名(英文): Interactive Studies I c(Interactive Studies I c)

担当者: 上村 由美

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08 共同学修

11 討論

13 役割演技と疑似体験

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要: [授業形態ガイドライン・レベルIII]同時双方向型・[授業形態ガイドライン・レベルII]同時双方向型

私たちは日々 自分とは異なる背景を持つ人々と関わり、できれば円滑な人間関係を築きたいと努力します。しかし、価値観や、立場、文化などの違いから意思疎通がうまくいかず 誤解やコンフリクト(衝突)を招いてしまうことも少なくありません。多様化が進む日本社会の中で自分を知ること、そして相手の背景(ニーズ)を理解することは、コミュニケーションを図る上で大切な課題の一つです。この授業では、私たちの身近にある事例や課題を協調的且つ建設的に理解・解決するためのコミュニケーションスキルを実践的に学んでいきます。英語を使う企業も増えていることから、授業は英語と日本語で行われます。コミュニケーションの上達を図りたい方、英会話の上達を目指す方、教員免許取得を目指す方にも最適です。また、実践的な活動が好きな方にもお勧めです。

この授業におけるテストはありませんが、毎回行うグループ活動(ゲーム、シュミレーションなど)への積極的な参加が必須となります。

キーワード: mediation, conflict, コミュニケーション、心理学、ゲーム、シュミレーション、文化、社会学、実践、時事問題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 架空の事例・事象の理解・解決に向けて、どのようにアプローチするのか、授業で得た知識や知見、コミュニケーションスキルなどを記述する事ができる。

評価方法: Final in-class Report

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で行うシュミレーションやロールプレイ、また自分の実体験などから得た知見や、経験、感情などを考察し、今後それをどのようにいかすのかを簡潔に述べる事ができる。

評価方法: 学習ジャーナル (振り返り)

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

初回の授業でクラスとして設定する目標を(例えば『人の話は最後まで聞く』『まずは英語で発言してみる』など)、自分はどのくらい達成できたのか、各授業の終了10分前に振り返りシートを使って自己評価する。

評価割合: 40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、クラブ活動や職場など 日々の人とのやり取りの中で実践的に深められた知見等がFinal Reportや学習ジャーナルに反映される場合は、上記の『知識・技能』または『思考力・判断力・表現力』の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、相手の背景を理解する事も目的の一つとする授業なので、グループ活動中またはレポートなどに人権侵害・差別的発言や記述など著しく公正性をかく言動を認めた場合は、減点や厳重注意の対象とする。学習ジャーナルが他の受講生と著しく類似している場合も減点や厳重注意の対象となるので注意する事。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. Course Introduction/Setting goals and rules as class
 2. What is conflict management?
 3. Case Study 1
 4. Ways to deal with conflict
 5. Skills for effective communication
 6. Skills for effective communication 2- Paralinguistic factors
 7. Case Study 2
 8. Active listening
 9. Paraphrasing and asking questions
 10. Case Study 3
 11. Informing others of your needs
 12. Case Study 4
 13. Rules for mediation and mediators
 14. Case Study 5
 15. Review - in-class report
- **Subject to change

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前は、心をオープンにしておこう。会話や作業を楽しみましょう。

鈴木有香（八代京子監修）『交渉とメディエーション 協調的問題解決のためのコミュニケーション』三修社2009年。

鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』自由国民社 2011年。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： アポイントメントかメールにて対応します。連絡先などは初回にお知らせします。

留意事項： 授業でデバイスを使用する場合は、事前に連絡をします。15回目の授業は持参してください。

この授業は、英語と日本語の両方で行われる。また、履修上限を20名とする。

科目コード：12021

科目ナンバリング：EN10C08E

主な使用言語：English

授業名(英文)：Interactive Studies II a(Interactive Studies II a)

担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07 発表

授業の概要: This class focusses on three areas. The first is listening comprehension. The second is understanding the significance of meanings. The third is finding practical or specific information from a longer text. The class uses travel videos and online quizzes to present and assess understanding. It is augmented with vocabulary related to the information discussed in the videos.

Students will base their own online quizzes on the language and techniques found in the instructional material.

キーワード: searching for relevant information
listening comprehension

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Learn how to understand the process of searching from specific information in lengthy texts.
Improve listening comprehension.

評価方法: Online quizzes and video materials **評価割合:** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Demonstrate their understanding of how to discern important items in a lengthy text

評価方法: An in-class presentation giving instructions **評価割合:** 30%
on how to make a food item not discussed
in the class

▼学修に主体的に取り組む態度

Students should check a cookbook to check their own understanding of the English of cooking tools, materials, and techniques.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

The skills required to give instructions can be applied to many volunteering scenarios and situations.

評価割合: 0%

▼公正性

Students must not copy their presentation. It must be an original work. Any presentation which has clearly been copied from another work will receive no grade.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Students will:
Practice listening comprehension
How to gather information in English about countries and travel
Continue their study of giving English presentations

Students will be responsible finding and sharing videos in many classes. These videos will comprise 30% of student grades. Students will also create a presentation describing how to make a recipe not covered in the class.

The schedule may change according to the number of students attending.

Week 1 Travel guide to Tokyo
Week 2 Travel guide to London
Week 3 Travel guide to New York
Week 4 Travel guide to Paris
Week 5 Travel guide to Hong Kong
Week 6 Travel guide to Korea and Seoul
Week 7 Travel guide to Shanghai
Week 8 ?Travel guide to Italy
Week 9 Travel guide to Vanuatu and Portland
Week 10 Travel guide to Jordan and Los Angeles
Week 11 Travel guide to Quito and Singapore
Week 12 Travel guide to Australia
Week 13 Travel guide to Moscow and St. Louis
Week 14 How to Travel Cheaply
Week 15 Vocabulary Quiz

使用テキスト: There is no textbook. Student will be given prints in most classes, mostly covering the vocabulary to be reviewed in each video.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: A good Japanese dictionary will be useful for composing presentations.

障がいのある履修者への対応: This class is designed so that students are able to perform most tasks at their own pace. Students requiring more time than others will be able to devote their efforts accordingly.

授業時間外の連絡手段: Students are invited to use the teacher's university email address announced in class.

留意事項: This class will be taught almost entirely in English.

科目コード: 12021 **科目ナンバリング:** EN10C08E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): Interactive Studies II b (Interactive Studies II b)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08. 共同学習

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

17. 発問と回答

授業の概要: この授業では映画を観ながら日常生活やビジネスでよく使う英会話表現を学習します。映画を少しずつ視聴することによって、映画に使用される重要な口語表現と文法項目を学習し、英語の総合能力を高めることができます。そして、授業中で行うディスカッション・ロールプレイ・レビューなどのアクティブ・ラーニング型の課題に取り組むことで、自分の意見を積極的に表現できるようになります。

映画The Intern(『マイ・インターン』)を観ます。

キーワード: 映画、リスニング・アクティビティ、スピーキング・アクティビティ、ディクテーション、ロールプレイ、字幕作成、レビュー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 映画を観ながら、ファッション業界で働いている人の葛藤、失敗や挑戦を観察し、仕事への理解を深めることができます。

評価方法: 授業への参加度、ワークシート、ディスカッション **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 映画を観ながら、英語のリスニングやスピーキングの能力を高め、英語の総合的なコミュニケーション能力を身につけます。

評価方法: ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、クイズ **評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス。Unit 6 (Applying for a Senior Internship) (1)
第02回: Unit 6 (Applying for a Senior Internship) (2)
第03回: Unit 6 (Applying for a Senior Internship) (3)
第04回: Unit 7 (The working Environment at ATF) (1)
第05回: Unit 7 (The working Environment at ATF) (2)
第06回: Unit 7 (The working Environment at ATF) (3)
第07回: Unit 8 (The problems ATF Faces) (1)
第08回: Unit 8 (The problems ATF Faces) (2)
第09回: Unit 8 (The problems ATF Faces) (3)
第10回: Unit 9 (Working Women and Working Life Balance) (1)
第11回: Unit 9 (Working Women and Working Life Balance) (2)
第12回: Unit 9 (Working Women and Working Life Balance) (3)
第13回: Unit 10 (The Possibility of Hiring a New CEO) (1)
第14回: Unit 10 (The Possibility of Hiring a New CEO) (2)
第15回: Unit 10 (The Possibility of Hiring a New CEO) (3)

使用テキスト: 塩見佳代子, Matthew Coomber, 宮林賀奈子 (2020)『Active English through Movies? アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語4技能』金星堂 (2,200¥)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

1. 教科書の読解と課題への取り組みくこと。
2. 授業で習った語彙などを復習すること。
3. ワークシートを記入すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

- 留意事項：** 1. この授業はアクティビティを行うクラスなので、積極的に会話やディスカッションを行なってもらいます。
2. 日英辞書を持参することが望ましい。
3. クラスの人数は20人を上限とします。履修希望者多数の場合は、上級生に優先して調整する可能性があります。

科目コード：12041 科目ナンバリング：EN20C24K 主な使用言語：英語

授業名(英文)：観光英語(English in Tourism)

担当者：McLain, Michael D.

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：4:課題解消

7:発表

8:協同学習

11:討論

授業の概要：「遠隔授業」(同時双方向型)

この授業では、様々な面白い課題を紹介して、英語でディスカッションをしながら、意見や情報を表現できるようになる。グループの中で論争せず、聞く、話す、理解することができるようになる。

In this class, we will learn how to have a discussion in English. We will study the process step-by-step and learn how to discuss to share ideas and explore possibilities. This class will be conducted in English and speaking Japanese is not allowed. Students must be motivated and willing to speak only English. Please note that this syllabus may change depending on time constraints.

キーワード： Discussion, Group work, Task-based Language Teaching, Presentation

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 英語でグループでDiscussionをするにあたっての教科書で学んだことの基礎知識やプロセスを身につける。

We will learn how to have a discussion in English by studying the process in the textbook.

評価方法： 定期クイズ

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験を踏まえて、グループでプレゼンテーションをしてもらう。課題についてグループの中の情報や意見交換、役割分担を考えながら、プレゼンテーション形式で英語で発表することができる。In preparation for group presentations, students will learn how to exchange ideas and opinions.

評価方法： グループプレゼンテーション

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語での発言、グループの中の役割を評価する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Students are expected to attend every class and actively participate in groups. They will learn how to come up with ideas, determine if those ideas are good and learn how to express their opinions while using English to communicate.

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。但し、プレゼンテーションや原稿を作る準備を上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。This will not directly affect the grade, however, based on how much the student interacts when preparing presentations, the grade can be affected and reflected in the "Ability to come up with, judge and present ideas" section.

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。グループを決めるのはランダム形式で行います。This will not be directly reflected in the grade. However, any discriminatory comments, expressions, acts of cheating or plagiarism will result in reduced marks and a warning. Groups will be decided randomly.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Class 1: Class introduction, Orientation
Class 2: Units 1 and 2- Immigration and Shopping
Class 3: Units 3 and 4-Taking the Train and Hotels
Class 4: Units 5 and 6- Home-stays and Snowboard Rentals
Class 5: Quiz and Practice
Class 6: Units 7 and 8-Tell me about your country, How was your weekend?
Class 7: Units 9 and 10- At the hospital and having breakfast
Class 8: Units 11 and 12- Sightseeing and Internet cafe
Class 9: Quiz and Practice
Class10: Units 13 and 14- Restaurants and Cycling
Class 11: Units 15 and 16- Visiting China and Cycling Trouble
Class 12: Units 17 and 18- Checking out of Hotel and Beach Party
Class 13: Quiz and Practice
Class 14: Units 19 and 20-Airport and Flight Home
Class 15: Final Practice and wrap-up/ Final Quiz

使用テキスト： Discussion: Process and Principles
by Charles LeBeau David Harrington
ISBN 9781929274772

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特になし

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
この科目は履修者数を25名程度とする。これを超える履修希望者数の場合は上級生に優先することもある。

科目コード：12042

科目ナンバリング：EN20C20K

主な使用言語：英語

授業名(英文)：エアライン英語(English in Airline Business)

担当者：沼館 ジェニー

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：4:課題解消
8:協同学習
11:討論
13:役割演技と擬似体験
17:発問と回答

授業の概要：

この授業では、航空業界や機内サービスに関する英語を中心に学びます。教科書を使用し、グループワーク、クイズ、ロールプレイを行います。この授業を修了すると、エアライン英語とサービス産業に関する知識を深め、エアラインやカスタマーサービス関連の仕事に応用できるようになります。

This class will focus on learning English related to the airline industry and service inside the airplane. Students will study from a textbook, do group work, quizzes, and perform role-plays. Upon completion of this course, the students will have greater knowledge of Airline English, the service industry and will be able to apply this knowledge for an airline or customer service-related career.

キーワード： Airline, English, Hospitality, Cabin Attendant, Service

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：この授業で学んだことを使って、エアラインに関する語彙力が高まる。Students will learn vocabulary related to the airline industry.

評価方法：クイズ

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業に積極的に参加し、クラスメートの前でロールプレイシナリオを行うよう求められます。エアラインサービス業界で成功するために必要な英語とテクニックを学びます。

Students will participate actively in class and be asked to perform role-play scenarios in front of classmates. Students will learn the English and techniques needed to succeed in the Airline Service Industry.

評価方法：ロールプレイング(2回)
宿題

評価割合：70%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に直接含まないが上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the "Ability

to think, judge and express” section.

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: Week 1 ? Course Introduction
Week 2 ? Unit 1 “Airline Flight”
Week 3 ? Unit 2 “Aircraft”
Week 4 ? Unit 3 “Aircraft Crew”
Week 5 ? Unit 4 “Pre-flight Boarding”
Week 6 ? Unit 5 “Boarding”
Week 7 ? Review / Preparation for Role-play 1
Week 8 ? Role-play 1
Week 9 ? Unit 6 “Take-off”
Week 10 ? Unit 7 “Food& Drinks”
Week 11 ? Unit 8 “In-flight Problems”
Week 12 ? Unit 9 “Emergencies”
Week 13 ? Unit 10 “Landing”
Week 14 ? Review / Preparation for Role-play 2
Week 15 ? Role-play 2

使用テキスト: タイトル:Communicate in the Cabin 1
著者:Simon Cookson
ISBN: 9798454903671

各自でAmazonで購入してください。第2週から使いますので早めに購入することを薦めます。Kindleバージョンでも紙の本でも構いません。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

Students should bring their own devices to do research on the internet.
インターネットでリサーチができるようタブレット、パソコン、スマートフォンを持参する。

This class will use moodle for quizzes and homework
この授業ではmoodleでクイズや宿題を出してもらいます。

履修人数や状況によってシラバスは変更する可能性がある。

科目コード:12043 科目ナンバリング:EN20C17K 主な使用言語:

授業名(英文): ホテル英語(English in Hotel Business)

担当者: 担当者未定

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:日曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素:

授業の概要:

キーワード:

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合:

▼実践的ボランティア

評価割合:

▼公正性

評価割合:

▼その他

評価割合:

授業計画:

使用テキスト:

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段:

留意事項:

科目コード:12047 科目ナンバリング:EN20C05K 主な使用言語:英語、日本語

授業名(英文): 異文化間コミュニケーション(Intercultural Communication)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:日本語

AL要素: AL要素

- 08. 協同学修
- 11. 討論
- 16. 振り返り用紙と応答
- 17. 発問と回答

授業の概要: この授業では、異文化間コミュニケーションの基礎となる言語と文化の関係、異文化接触、カルチャーショック、文化の価値観、ステレオタイプなどについて学びます。そして、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴をはじめ、文化の異なる人たち同士の間でミスコミュニケーションが起きないように、コミュニケーションをどのように図れば良いのかを考えながら、実践的な異文化間コミュニケーション能力を高めることを目指します。

キーワード: 異文化間コミュニケーション、異文化理解、多文化、ダイバーシティ、文化価値観、ステレオタイプ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1) 異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
2) 文化的多様性のメカニズムを明らかにすること。
3) 日本の文化の多様性に気づき、異文化理解を深めることができる。

評価方法: 授業への参加度、ディスカッション、グループワーク、中間試験、期末試験 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: それぞれの文化の違いを尊重しながら、コミュニケーションを図ることができる。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

業への取り組み姿勢、授業への貢献度(発言、質問)を評価対象とする。

評価割合: 40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回. ガイダンス。
第2回. Communication
第3回. Culture
第4回. Nonverbal Communication
第5回. Communicating Clearly
第6回. Culture and Values
第7回. Culture and Perception
第8回. 中間とりまとめ
第9回. Diversity

- 第10回. Stereotypes
- 第11回. Culture Shock
- 第12回. Culture and Change
- 第13回. Talking about Japan
- 第14回. Becoming a Global Person
- 第15回. 総まとめ
- 定期試験

使用テキスト: Peter Vincent (2017). Speaking of Intercultural Communication.南雲堂(2,090円)

予習・復習のポイントと 教科書と配布資料の読解と課題への取り組みが求められます。

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

- 留意事項:**
- 1)この授業は英語と日本語の両方で行われます。
 - 2)授業には必ず、教科書と辞書(電子辞書可)を持参してください。
 - 3)授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。
 - 4)履修希望者多数の場合は、人数を調整する可能性があります。

科目コード: 12048 **科目ナンバリング:** EN20C14K **主な使用言語:** English

授業名(英文): 国際観光論(Studies in World Tourism)

担当者: 担当者未定

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 日曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07. 発表(Presentation)
11. 討論(Discussion)
17. 発問と回答(Questioning and answers)

授業の概要: This course explores the tourism industry sector in the context of contemporary globalisation and trade in services. You will learn tourism as a form of international business, and understand its implications. You will actively participate in in-class discussions and presentations.

キーワード: Tourism, international tourism, tourism business, globalisation

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Through the course, you should be able to understand the effects of globalisation on tourism, and how tourism businesses are becoming internationalised.

評価方法: Open-book exam

評価割合: 35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: You should be able to explain why tourism is becoming increasingly internationalised in English.

評価方法: Presentation

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

Please attend and prepare for every seminar, as well as actively participate in discussions and share your

comments/questions.

評価割合：5%

▼実践的ボランティア

Students are expected to actively participate in discussions and group works fully in English.

評価割合：0%

▼公正性

Negative and discriminative behaviours, acts, sleeping and disrespect will not be tolerated. And the student will be immediately reprimanded.

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- Week1: Course Introduction
- Week2: Tourism and international business
- Week3: Regulating international tourism: global governance
- Week4: Regulating international tourism: citizenship
- Week5: The internationalisation of tourism: regulation of international visitor flows
- Week6: International and transnational aspects of the global cruise industry
- Week7: The internationalisation of tourism commodity chains
- Week8: Internationalisation in adventure tourism: the mobility of people, products and innovations
- Week9: Open-book Exam
- Week10: Presentation preparation
- Week11: Presentation preparation
- Week12: Group presentation 1
- Week13: Group presentation 2
- Week14: Group presentation 3
- Week15: Group presentation 4

使用テキスト： No textbook. Course materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

1. This course will feature a combination of lectures, class discussions and group presentations. You will need to read the course & additional reading materials and pay attention in lecture, taking and revising your notes as the content of the lectures will be important for your assignments.
2. Since this lecture will be conducted in English, it is very important that you work with your colleagues to fully comprehend the course, as well as to complete any individual or group projects that are assigned.
3. Additional reading materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ワーキングアワーにメールでの連絡を行います。連絡先については初回にお知らせします。

留意事項：

1. This course will be taught solely in English. Upper intermediate to advanced English skills are required.
2. Please note that this syllabus is tentative. According to students' needs, ability and interests, the 15 lectures above and their contents may be changed.
3. Please bring the textbook and the dictionary (an electronic dictionary is acceptable).

科目コード:12049

科目ナンバリング:EN20C34E

主な使用言語:日本語|英語

授業名(英文):通訳入門(Introduction to Interpretation)

担当者: 館野 真

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:日本語

AL要素:07.発表

08.共同学修

13.役割演技と模擬体験

授業の概要:【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

日本に住む外国人の数が増え、英語で通訳をする機会も多くなってきました。本講義は、通訳を理論的に学びつつ、通訳の準備、訓練、練習を行います。通訳に関連する一連の作業を通して、総合的な英語力の向上を図ることも目的とします。

毎週の授業は基本的に、前半で(1)教科書に沿って通訳訓練方法を実践し、後半で(2)時事を取り扱ったテーマについて通訳の準備と練習を行います。一つの出来事や対象に対して日英両言語で同時に取り組む一連の作業を通して、英語と日本語双方向の「正確な理解」と「分かり易い表現」が出来るようになることを目指します。

キーワード: 逐次通訳、クイックレスポンス、シャドーイング、リテンション、イメージ、サイト・トランスレーション(サイトラ)、ノートテーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 通訳の準備、発話の仕方などを理解し、英文を一行ごとに逐次で通訳できるようにする。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

小テスト

定期試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業中で解説を受けた部分を基礎として、聞き手に分かりやすい訳出を考え出すことができる。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

質問と応答

通訳演習

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。但し、自主的な学修によって得た知見や訳出などが通訳復習発表時のパフォーマンスで見られた場合、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあります。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。但し授業中の発言やテストなどにおいて著しく公正性を欠く言動やカンニングなどの不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画： 第01回 オリエンテーション
第02回 通訳訓練方法紹介と練習
- 第03回 英語リプロ(1)、時事テーマ(A)原稿の翻訳
第04回 英語リプロ(2)、時事テーマ(A)内容の理解
第05回 英語リプロ(3)、時事テーマ(A)イメージから表現へ
第06回 英語リプロ(4)、時事テーマ(A)訓練
第07回 英語リプロ(5)、時事テーマ(A)逐次通訳演習
- 第08回 英語リプロ(6)、時事テーマ(B)原稿の翻訳
第09回 英語リプロ(7)、時事テーマ(B)内容の理解
第10回 英語リプロ(8)、時事テーマ(B)イメージから表現へ
第11回 英語リプロ(9)、時事テーマ(B)訓練
第12回 英語リプロ(10)、時事テーマ(B)逐次通訳演習
- 第13回 時事テーマ(C)逐次通訳の準備と演習
第14回 時事テーマ(C)逐次通訳の準備と演習
第15回 まとめ・総括

定期試験

※「英語リプロ」：教科書を使用した、英語リプロダクション・トレーニングのこと
※上記授業計画は、授業の進行状況に応じて変更されることがあります。

使用テキスト： 小倉慶郎『増補版 英語リプロダクション トレーニング 入門編』(2022年)
ISBN 978-4-88724-666-9

予習・復習のポイントと【予習】授業前に、該当する教科書のLesson、および、課題で取り扱った語彙や慣用句をよ
参考文献・資料等： く覚えておきましょう。基本、毎回の授業中に小テストを行います。

【復習】基本的に毎週MOODLE上に課題が出題されますので、真摯に取り組み、期限までに提出してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後等に対応。LINE、および、メール。

留意事項： 学習効果の維持のため、履修者の人数が制限される場合があります。履修希望者の数が制限人数を上回った場合は、基本的に4年次の学生を優先して受け入れ、2～3年次の学生は抽選となりますのでご了承ください。

科目コード：12055 科目ナンバリング：EN20C35E 主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：政治・経済の英語(English in Politics and Economy)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：10. 資料調査課題

11. 討論

12. 課題討議法

13. 役割演技と擬似体験

授業の概要： この授業は、「日本国憲法」の成立過程でなされた日米間の英文書簡を読み解く中で、正し

い英文解釈の方法を学び、同時に憲法成立過程の正しい歴史認識を持つことを目指します。その上で、改憲に向けた議論やそこで指摘されている課題を調査し、それらがどの程度妥当なものであるかを議論します。

この授業は「英文書簡を読む」、「体験型学習」の3部構成になっています。

【体験型学習】

・「議論」

グループに分かれ、各トピックごとに「歴史」、「思想背景」、「問題点」の側面から調査し、報告してもらいます。その知識を踏まえて、自身の考えをまとめ、議論してもらいます。

・「討論」

各グループの意見をまとめ、報告したのち、グループ間で討論を行います。グループ内では各人が自分が調査した範囲の専門家として発言することになります。

・「模擬国会」

仮定の国会審議をロールプレイする模擬国会を行います。実際に議事の場に身を置くことで、民主的政治の在り方について考えてもらいます。なお、模擬国会での決議は「仮想」ではなく、実際に本授業内での効力を持ちます。

キーワード： 政治・経済、英文読解、クリティカルシンキング、憲法

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 辞書・文法書を使用することで、英字新聞や英語で書かれた政治・経済分野の英文を正確に読むことができる。

評価方法： 提出課題(英文書簡読解)
学期末課題

評価割合： 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 根拠に基づいて自身の考え(意見・主張)を構築することができる。

評価方法： 議論
学期末課題

評価割合： 75%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な対象とはしない。ただし、授業後に配布する「出席確認用フォーム」において有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループワークにおいて、積極的に議論を活性化するなどの行為が認められる場合は、上記の「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とする場合がある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、また、授業中の発言において人権侵害・差別的発言等の著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第01回：イントロダクション
第02回：改憲論の争点 [1]:議論計画
第03回：改憲論の争点 [2]:議論準備
第04回：改憲論の争点 [3]:議論1日目

- 第05回:改憲論の争点 [4]:議論2日目
- 第06回:9条の現在・過去・未来 [1]:議論計画
- 第07回:9条の現在・過去・未来 [2]:議論準備
- 第08回:9条の現在・過去・未来 [3]:議論1日目
- 第09回:9条の現在・過去・未来 [4]:議論2日目
- 第10回:緊急事態条項の行方 [1]:議論計画
- 第11回:緊急事態条項の行方 [2]:議論準備
- 第12回:緊急事態条項の行方 [3]:議論1日目
- 第13回:緊急事態条項の行方 [4]:議論2日目
- 第14回:模擬国会 [1]
- 第15回:模擬国会 [2]

使用テキスト: 木村草太他 (2018)『「改憲」の論点』, 集英社.
青木高夫 (2013)『日本国憲法はどう生まれたか?』, ディスカヴァー・トゥエンティワン.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【参考書】
永井幸寿 (2016)『憲法に緊急事態条項は必要か』, 岩波書店.

【予習】

授業前には、必ず次回扱う箇所を読み、わからない語彙や構文について予習しておくこと。
課題として次回読む範囲から問題を出題しますので、事前に解答しておくこと。
トピックに関して事前に調査し、議論する上で必要となる知識を十分に得ておくこと。

【復習】

誤読のあった箇所などを見直し、正しい読み方を再確認すること。
出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します・曜日・時限については初回にお伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項: 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。
2. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 12058 **科目ナンバリング:** EN20C36E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 文化・社会の英語(English in Culture and Society)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 08. 共同学習
11. 討論
17. 発問と回答

授業の概要: この授業では、社会や文化の視点から「アメリカ」という国家を考察します。特に、最先端の議論がなされている人種・ジェンダー・民主主義・格差などの話題に目を向け、複雑な現代アメリカの社会を理解することを目指します。
本授業は、基本的に教科書のテーマに沿って進めていきますが、教科書の読解にとどまるのではなく、各テーマに関連するグループ・ディスカッションを通じて、スピーキング能力を体系的に学んでいきます。

キーワード: アメリカ文化、アメリカ社会、アメリカ事情、人種、ジェンダー、民主主義、格差

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: アメリカ社会の重要な問題を知ること、アメリカという国家についての理解を深めることができます。

評価方法: 授業への参加度、教科書とワークシートの課題への取り組み **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1) 教科書の内容をよく理解した上で、文化や社会に関する語彙力を高める。
2) グループ・ディスカッションを通じて、自分の考えを英語で発信する能力を高める。

評価方法: グループ・ディスカッション、クイズ **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への取り組み姿勢、授業への貢献度(発言、質問)を評価します。
「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: Introduction
第02回: Unit 1. Gun Control
第03回: Unit 2. Trump's Border Wall
第04回: Unit 3. Occupy Wall Street
第05回: Unit 4. Racism in America
第06回: Unit 5. Obamacare and the Fear of Socialism
第07回: Unit 6. Native American Struggles
第08回: Unit 7. Women's Right Movement
第09回: Unit 9. The Students' Loan Crisis
第10回: Unit 10. Dirty Tricks in Congress
第11回: Unit 11. Shale Gas
第12回: Unit 12. Plastic Garbage in the Ocean
第13回: Unit 13. Genetically Modified Foods
第14回: Unit 14. Big Tech Hegemony: GAFA and BATH
第15回: Summary

使用テキスト: 塚田幸光, 中村嘉雄, Ayed Hasian (2022) 『Inside and Out American Culture and Society. 現代アメリカを読み解く』金星堂 (2,200円)

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
1. 教科書の読解と課題への取り組みと。
 2. 授業で習った語彙などを復習すること。
 3. ワークシートを記入すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

- 留意事項：**
1. 授業には必ず、教科書と辞書(電子辞書可)を持参してください。
 2. 授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。
 3. クラスの人数は30人を上限とします。履修希望者多数の場合は、上級生に優先して調整する可能性があります。

科目コード：12063 科目ナンバリング：EN20C13E 主な使用言語：English

授業名(英文)：デジタル・コミュニケーション(Digital Communication)

担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：04 課題解決

07 発表

15 レポート指導

授業の概要： Podcasts have become a significant form of digital communication. A huge variety of producers of podcasts have come to provide an equally large variety of information for their audiences. This class will help students understand some of the issues in creating and running podcasts, as well as how to present information in the form of persuasion.

キーワード： podcast
presentation
internet literacy

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： English for informative purposes
English for persuasion

評価方法： writing of podcast script and its recording **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： Principles for presentation podcasts

評価方法： editing, production, and publishing finished podcast **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

Learn about what a podcast is, how to record on your smartphone or other digital device, and the differences of various digital sound files as related to podcasts.

Students often face difficulties in clearly expressing ideas to unfamiliar audiences. The teacher has long experience in operating websites sharing information with a variety of audiences. These experiences will

be made available to the students enrolled in this class.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will learn about information dissemination through podcasts which may augment volunteer activities.

評価割合: 0%

▼公正性

Plagiarism will result in a failing grade.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Overview of course and assignment of presentation topic
Week 2: Script writing--the basics of presentation and information
Week 3: Script writing--using information
Week 4: What is persuasion?
Week 5: Script writing--techniques for informing and persuading
Week 6: Overview of recording a podcast: tools, formats, and environments
Week 7: Making clear presentations
Week 8: Principles in combining sound, language, and message
Week 9: Effective combination of voice, sound, and music
Week 10: Script performance and recording
Week 11: Editing voice recordings
Week 12: Recording and editing music and background sound
Week 13: Timing and final production
Week 14: Podcast hosting and presentation
Week 15: Listening and critiquing final products

使用テキスト: Prints will be provided in class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: <http://www.digitaltrends.com/how-to/how-to-make-a-podcast/>
<http://lifehacker.com/how-to-start-your-own-podcast-1709798447>
<http://www.wikihow.com/Start-Your-Own-Podcast>

障がいのある履修者への対応: As this class will be conducted primarily in a computer lab, students will be able to conduct much of their work at their own pace both inside and outside of the class time.

授業時間外の連絡手段: Students are invited to use the university email address provided in the class.

留意事項: This class will be taught almost entirely in English except for the most technical aspects. It will also require either a degree of computer literacy.

科目コード: 12069 科目ナンバリング: EN20C28K 主な使用言語: 日本語と英語

授業名(英文): 子供の英語教育(English Education for Children)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 小学英語

AL要素: 04: 課題解決

10: 資料調査課題

11: 討論

授業の概要： この授業は、小学校における英語教育の概要を理解することを目的とする。根底にある理念や、「外国語活動」「外国語科」の目標の違い、授業で活用できる指導法や指導技術、具体的な教材の種類や開発方法などを学び、できる限り演習も行う。また、自律的学習課題では、今後の指導者として求められる知識や能力に関する情報を収集し、指導者としての資質を高める習慣を身につける。

キーワード： 小学校英語教育、外国語活動、外国語科、指導法、指導技術、教材

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・小学校英語教育の理念、目標、関連する理論を理解できる。
・児童に適した指導方法や技術を理解できる。
・中学年の活動型、高学年の教科型の英語指導の目標を理解し、授業を計画できる。

評価方法： 復習テスト

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 小学校の英語教育の現状と課題を理解し、今後の指導者として必要な資質について考察できる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

自律的学習を通して、自らの英語コミュニケーション能力の向上に努めると同時に、子供の英語教育へのアプローチや教授法、教材に関して常に新しい情報を集めることができる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループ活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びにつながるよう努める。

評価割合： 0%

▼公正性

活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第01回：オリエンテーション
第02回：指導者の英語力と自律的学習課題説明
第03回：外国語教育の目標と理念
第04回：言語習得理論の基礎
第05回：指導方法 (1):さまざまな教授法
第06回：指導方法 (2):発達段階に合った指導法
第07回：復習テスト1、自律的学習中間報告
第08回：指導技術: クラスルーム・イングリッシュ
第09回：英語授業作り
第10回：4技能の指導 (1): 聞く、話す
第11回：4技能の指導 (2): 読む、書く
第12回：教材の使い方・選び方と開発方法
第13回：ICTの活用
第14回：復習テスト2、自律的学習振り返り
第15回：よりよい授業実践を目指して、授業のまとめ

使用テキスト： 特になし。授業で使用する資料は、必要に応じて配布される。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・授業前にその日にカバーするトピックについて考え、宿題があれば授業前に終わらせる。
・授業後は、その日の内容や配布資料について復習するとともに、関連事項について自律的学習を進める。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項：・この授業は日本語と英語の両方で行われる。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参する。

科目コード：12071 科目ナンバリング：EN20C26K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：異文化理解教育(Educating for Cross-cultural Understanding)

担当者：君塚 淳一

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 日本語

AL要素：

授業の概要： 本授業は、講義形式だけでなく演習型のスタイルも取り、実際に生じた問題なども具体例として提案し、学生同士でのディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、進めていきます。知識として必要な内容については、予習・復習など含め学外習得作業も依頼し、また講師からの解説のための講義も行う。受講生は、異文化理解では、そして異文化理解教育では何をすべきかを正しく認識し、多様化する社会のなかで、何が問題であるかを考えたい。文化とは言うまでもなく異なる地域、社会、コミュニティ、個人などで育まれたもので、価値観が反映され、感情が伴い、その衝突は複雑なものになる。またその問題を回避しようと文化相対主義、多文化主義教育、間文化主義、共生、協働などのキーワードにも触れて学んで行く。

キーワード： 異文化理解教育、異文化コミュニケーション、自文化、多文化主義教育、文化多元主義、間文化主義、文化相対主義

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 世界はグローバル化、ダイバーシティなど多様化し、同時にそれを受け入れるべき社会が理想となる中で、「異文化理解」はどう考えるべきか、また「異文化」を意識する上で「自文化」の認識はどう関係づけるかの。本授業科目では、各文化の中で自分を支える「アイデンティティ」の問題を、多様化する社会でいかに捉えるかについても最終的には学ぶことになります。

評価方法： 課題レポートおよびプレゼンテーション **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1)多様な世界の文化の中での異文化コミュニケーションの課題を理解している。2)多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。3)英語が使用言語の国々や地域の歴史、社会、文化の基本的知識がある。

評価方法： 学期末課題レポート **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

事前に、キーワードや項目などを挙げておき、調べての発表や、ある問題について主体的に考えをまとめる作業も課題として提示する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。ただし毎回提出してもらうリアクションペーパーと学期末試験に記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすこともある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしない。ただし毎回提出してもらうリアクションペーパーと学期末試験に記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすこともある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 授業計画 第1回:オリエンテーション
第2回: 異文化とは何か、また自文化とは何か(イントロダクション)
第3回:異文化理解教育では何をすべきか、その目標やゴールは何か
第4回:コミュニケーションと異文化理解(1)英語教科書も題材に
第5回:英語コミュニケーションと異文化理解(2)英語教科書も題材に
第6回:グローバル社会と異文化(3)英語教科書も題材に
第7回:多文化共生社会をどう生きるか(4)
第9回:異なる文化の捉え方(1):違いと変化自己と自文化への気づき
第10回:異なる文化の捉え方(2):認識と価値観
第11回:異文化理解と文化相対主義の課題(ケーススタディ)と間文化主義
第12回:異文化・共生・協働と文化相対主義の課題(ケーススタディ)
第13回:プレゼンテーション(1)とディスカッションと批評
第14回:プレゼンテーション(2)とディスカッションと批評
第15回:全体の振り返りとまとめ 定期試験 テキスト 必要に応じて、プリントを配布します。

使用テキスト： プリントあるいはネット上で配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 西山教行編(2019)『グローバル化のなかの異文化間教育-異文化間能力の考察と文脈化の試み』
明石書店。
細川英雄ほか(2015)『異文化間教育とは何か-グローバル人材育成のために』(2015)くろしお出版
ブシャー、ジェラルド(2017)『間文化主義(インターカルチャリズム):多文化共生の新しい可
能性』彩流社。
メイヤー、エリン(2015)『異文化理解力-相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教
養』英治出版。

障がいのある履修者への対応： 事前にご連絡いただければ、できる限りの対応を致しますので、ご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： メールにてご連絡ください

留意事項： 今年度は集中講義であるので、欠席には注意してください。

科目コード:12072 科目ナンバリング:EN10C05K 主な使用言語:英語を素材にして

授業名(英文): 言語習得論(Studies in Language Acquisition)

担当者: Le Pavoux, Mari

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 小学英語 日本語

AL要素:17発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】課題研究型。UC-UNIPAに資料・課題をアップします。

第1言語習得、第2言語習得、外国語習得における文法、語彙、音声の習得、および年齢・認知スタイル・学習のストラテジー・動機付けなどの学習者要因を取り上げ、解説する。

キーワード: 第2言語習得、文法の習得、語彙の習得、音声の習得、動機付け

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語教育の分野の中で、「ことばの習得」に関わりのある諸問題と、それらを研究するための基礎となる理論を理解できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

該当しない

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

この授業は、主に日本語で講義を行います。具体例などの素材は、英語です。

評価割合: この授業は、主に日本語で講義を

授業計画: 第1回:この授業の扱う範囲と、15回分の講義についての概説
第2回:言語の定義の歴史的変遷・人間の進化という視点から見た言語の役割
第3回:構造主義とは・生得主義とは・認知主義とは
第4回:行動主義心理学から認知心理学(有意味学習・認知ストラテジーなど)までの研究の流れ
第5回:学習に関する心理学の変遷に伴う日本における指導法の変化
第6回:母語習得と外国語習得および第二言語習得の類似点と相違点
第7回:形態素の習得順序と言語発達
第8回:否定形の習得順序と言語発達
第9回:関係節の習得と、関係節化の可能性の階層・言語の有標/無標

- 第10回: 中間言語という考え方と、文法の指導、文法の意識化
 - 第11回: 音韻の習得その1 (閉鎖音の声出しの時間の習得)
 - 第12回: 音韻の習得その2 (子音連結時の語中音添加などのL2学習者の中間言語的発音の特徴)
 - 第13回: 語彙の習得 (母語話者、L2学習者の持つ語彙数と語彙のタイプ・心的辞書)
 - 第14回: 語彙の習得その2 (語彙指導のあり方と記憶)
 - 第15回: 学習者要因 (動機付け・年齢・認知スタイル)
- 定期試験

使用テキスト: 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で扱った項目について、各自参考書などで理解を深めるようにしましょう。
参考書: Rod Ellis 著「Second Language Acquisition」(Oxford University Press)

障がいのある履修者への対応: まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード: 12075 **科目ナンバリング:** EN20C38K **主な使用言語:** 日本語と英語

授業名(英文): 英語学概論B(Introduction to English Studies B)

担当者: 三輪 健太

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 05. 即時応答
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: この授業では、英語における句(語・文)の内部構造を学び、そこに関わる文法的操作の理解を深めます。また、それらの歴史的な変遷を知ることで、なぜ英語が今在るような姿をしているのか、つまり、現代英語が持つ文法規則の源流を探っていきます。
英文法というと、さまざまな文法規則を「覚える」ものだと考える人が多いのではないのでしょうか。たしかに、英文法を学ぶ上で記憶しなければならないことはたくさんあります。しかし、中学・高校で学んできた学校文法の枠から足を踏み出すと、個々の文法規則の間に共通性やさらに上位の規則が存在することに気づきます。そのような気づきを得て、英文法について「考える」ことが、この授業の目的です。

キーワード: 形態論、統語論、生成文法、英語学、英語史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で扱った英語における形態論・統語論及び英語史(形態・統語)について、80%程度の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 単なる文法を規則として暗記するのではなく、身の回りに溢れる法則性の発見方法や、その存在論的根拠を考察できる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・

コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回: インTRODクシヨン
第02回: 統語論 (1) 句の構造
第03回: 統語論 (2) 句構造規則
第04回: 統語論 (3) 抽象的な構造
第05回: 統語論 (4) 変形規則
第06回: 統語論 (5) Xバー理論
第07回: 統語論 (6) 文・節の構造
第08回: 統語論 (7) Move α
第09回: 統語論 (8) 原理とパラメーター
第10回: 形態論 (1) 語の構成要素
第11回: 形態論 (2) 派生
第12回: 形態論 (3) 派生の条件
第13回: 形態論 (4) 複合
第14回: 形態論 (5) 項構造／統語構造の歴史的変遷
第15回: 形態論 (6) 2種類の自動詞／語形の歴史的変遷
学期末試験

使用テキスト： 中島平三 (2011)『ファンダメンタル英語学 改訂版』, ひつじ書房.

予習・復習のポイントと 【参考書】

参考文献・資料等： 授業内で紹介します。

【予習】

授業前に、次回分の用語の意味・現象を調べるオンライン課題を出しますので、テキストの該当箇所を参考にしながら解答しておくこと。

【復習】

授業後は、授業で扱った内容理解を確認するオンライン課題を出しますので、解答しておくこと。期限後に解説動画を配信しますので、そちらで解答を確認し、知識を定着させるように。

出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。
2. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード：12078

科目ナンバリング：EN20C39K

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 英語文学概論A(Introduction to English Language Literature A)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 発表 討論

授業の概要: イギリス文学を文化的事象のひとつとして、イギリスの歴史・社会・文化との関連から通時的・共時的に捉え、その豊饒な文学的世界について理解を深めることを目標にします。各時代を代表する作家の作品を原文(抜粋)で読んで、その実際を確かめながら授業を進めます。

キーワード: イギリス文学, ルネサンス, 古典主義, ロマン主義, モダニズム, 文化史, 観念史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 古代から現代までのイギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

とくになし。

評価割合: とくになし。

授業計画: 第1回「古英語・中英語の文学(15世紀まで)」
[古英語, 中英語, 『ベオウルフ』, 古英詩]
第2回「古英語・中英語の文学(15世紀まで)」
[ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』, ウィリアム・ラングランド]
第2回「ルネサンスの文学(15世紀-16世紀)」
[トマス・モア, フィリップ・シドニー, エドモンド・スペンサー]
第3回「演劇の時代(16世紀後半)」
[トマス・キッド, クリストファー・マーロウ]
第4回「ウィリアム・シェイクスピアの時代(1564-1616)」

- [ウィリアム・シェイクスピア]
 第5回「清教徒革命と共和制 (17世紀前半)」
 [フランシス・ベーコン, ベン・ジョンソン, 形而上派詩人, 王党派詩人]
 第6回「王政回復期の文学 (17世紀後半)」
 [ジョン・ミルトン, ジョン・バニヤン, ジョン・ドライデン]
 第7回「18世紀の散文, 詩, 演劇」
 [ジョナサン・スウィフト, アレキサンダー・ポープ, サミュエル・ジョンソン]
 第8回「小説の誕生と成長 (18世紀)」
 [ダニエル・デフォー, サミュエル・リチャードソン, ローレンス・スターン, ジェイン・オースティン]
 第9回「ロマン主義時代の光と影 (19世紀前半)」
 [ウィリアム・ブレイク, ウィリアム・ワーズワス, S・T・コールリッジ, P・B・シェリー, ジョン・キーツ]
 第10回「ヴィクトリア朝の散文と詩 (19世紀後半)」
 [アルフレッド・テニソン, ロバート・ブラウニング, ジョン・ラスキン, ウォルター・ペイター]
 第11回「ヴィクトリア朝の小説 (19世紀後半)」
 [チャールズ・ディケンズ, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, オスカー・ワイルド, トマス・ハーディ]
 第12回「20世紀の詩と演劇 (20世紀前半)」
 [G・M・ホプキンス, W・B・イエイツ, T・S・エリオット, W・H・オーデン]
 第13回「20世紀の小説 (20世紀前半)」
 [ジョセフ・コンラッド, ヴァージニア・ウルフ, ジェイムズ・ジョイス, E・M・フォスター, D・H・ロレンス]
 第14回「戦後の文学 (20世紀後半)」
 [ディラン・トマス, ジョージ・オーウェル, サミュエル・ベケット]
 第15回「新世紀の文学」
 [カズオ・イシグロ, イアン・マキューアン]

使用テキスト: とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習では、シラバスを参照して、授業で取り上げる作家や時代について概要をつかむ。復習では、資料をもとに授業内容を整理するとともに、興味をもった作家を中心にその作品にふれてみる(はじめは日本語訳、次にできれば原文で)。参考書として、まずは次のものを—イギリス文学初心者には読みやすい、ジョン・サザーランド著(河合祥一郎訳)『若い読者のための文学史』(すばる舎, 2020年)。イギリス文学史のかくれた名著、齋藤美洲編著『イギリス文学史序説』(中教出版, 1978年)。小説家の書いた文学的香りがして写真も豊富な、マーガレット・ドラブル著(奥原宇・丹羽隆子訳)『風景のイギリス文学』(研究社, 1993年)。内容が詳細かつ包括的で図版も多く盛り込んだ、パット・ロジャーズ編(櫻庭信之監訳)『図説イギリス文学史』(大修館書店, 1990年)。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード:12079 科目ナンバリング:EN20C42K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童文学(英語圏)(Children's Literature (English-language Countries))

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：輪読活動

授業の概要： 英語圏における児童文学の展開を具体的な作品を読みながら確認します。語学的に正しく作品を読むこと、次に想像力をふくらませながら作品を読むこと、とくにこの2点を意識して読んでいきます。原文で作品を読める語学力を養うとともに、英語圏の児童文学の背景にある歴史や文化についても学んでいきます。

キーワード： イギリス文学, 児童文学, 文化史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 英語圏の児童文学を読んで味わえるための英語力を身につける。児童文学の文化的背景について理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 文学作品を読んで、その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

とくになし。

評価割合： とくになし。

授業計画：

- 第1回：児童文学とは何か
- 第2回：『マザーグース』
- 第3回：『三匹のこぶたのお話』
- 第4回：『ピーターラビットのおはなし』
- 第5回：『クマのプーさん』
- 第6回：『ホビットの冒険』
- 第7回：『不思議の国のアリス』
- 第8回：『秘密の花園』
- 第9回：『トムは真夜中の庭で』
- 第10回：『ピーター・パン』
- 第11回：『くまのパディントン』
- 第12回：『床下の小人たち』
- 第13回：『ホビットの冒険』
- 第14回：『ライオンと魔女』
- 第15回：全体のまとめ

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では授業で読むテキストの当該箇所を、辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと。復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること。またできるだけ児童文学作品を読む機会(日本語訳で可)を増やすこと。参考書として、瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝夫『英米児童文学史』(研究社, 1971), 谷本誠剛『児童文学入門』(研究社, 1995), 日本イギリス児童文学学会編『英米児童文学ガイド』(研究社, 2001)。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12082 科目ナンバリング：EN31A01E 主な使用言語：この授業は英語と

授業名(英文)：現代英語演習I a (Contemporary English Seminar I a)

担当者：上野 尚美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07. 発表、17. 発問と回答

授業の概要： 英語の教員を目指している学生が、英語教育の分野に関する知識を深め、当該分野についてプレゼンテーションおよびディスカッションをし、英語力も伸長することができるような指導をする。

キーワード： 英語教育、英語教員

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 英語教員に必要な知識および英語力を身に付けることができる。

評価方法： 授業中に行う小テスト

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った英語教育の内容から興味のあるトピックを選び、それについて調べ、自分の考えも入れながら、プレゼンテーションをすることができる。

評価方法： スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション

評価割合： 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやディベート等の活動において、積極的に参加しようとする姿勢が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

また、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】イントロダクション(授業の進め方および評価方法等についての説明)
【第02回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#1
【第03回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#2
【第04回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#3
【第05回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#4
【第06回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#5
【第07回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#6
【第08回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#7
【第09回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#8
【第10回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#9
【第11回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#10
【第12回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#11
【第13回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#12
【第14回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#13
【第15回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#14

使用テキスト：『英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100』植田一三他著 語研

予習・復習のポイントと ・松村昌紀 (2010)『英語教育を知る58の鍵』大修館書店 1,944円

参考文献・資料等： ・この授業では、予習・復習に60時間必要である。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： オンライン授業が開始された場合は、本授業は同時双方型の授業を行います。

科目コード：12082 科目ナンバリング：EN31A01E 主な使用言語：日本語と英語双方

授業名(英文)：現代英語演習I b (Contemporary English Seminar I b)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要： 英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表はPresentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。

キーワード： 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法：グループ発表

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法：グループ発表

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合：10%

▼その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合：Vocabulary Notebookの作成におい

- 授業計画：
01. Drama Week 1: 口語英語表現分析、取り上げるドラマの紹介
 02. Drama Week 2: 口語英語表現分析、ドラマの登場人物紹介
 03. Drama Week 3: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェア紹介
 04. Drama Week 4: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェアトライアル
 05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表グループ分け
 06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
 07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
 08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
 09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
 10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
 11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
 12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
 13. Presentation Week 1
 14. Presentation Week 2
 15. Presentation Week 3

使用テキスト：・南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)
(学園生協でゼミ生全員購入必要)
・他に毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項：ノート代金として220円(税込)を徴収します。
各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード：12082

科目ナンバリング：EN31A01E

主な使用言語：日本語と英語双方

授業名(英文): 現代英語演習I c (Contemporary English Seminar I c)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要: 外国文学を学ぶことには、物語そのものを楽しむだけでなく、ことばの修得と異文化理解の意味もあります。このゼミでは、イギリス文学を代表する作品を、小説、演劇、詩、児童文学、四つのジャンルからそれぞれ選び、その歴史的・文化的背景にも注目しながら精読することで、イギリスの文学また広く文化について理解を深めていきます。2023年度前期は、演劇のジャンルから、ウィリアム・シェイクスピアWilliam Shakespeare (1564-1616) の『ロミオとジュリエット』Romeo and Julietを取り上げます。

キーワード: 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合: 10%

▼ その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合: Vocabulary Notebookの作成におい

授業計画:

01. Drama Week 1: 口語英語表現分析、取り上げるドラマの紹介
02. Drama Week 2: 口語英語表現分析、ドラマの登場人物紹介
03. Drama Week 3: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェア紹介
04. Drama Week 4: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェアトライアル
05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表グループ分け
06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始

11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
13. Presentation Week 1
14. Presentation Week 2
15. Presentation Week 3

使用テキスト: 南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)を各自生協で購入してください。

加えて、毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項: ノート代金として220円(税込)を徴収します。
各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード:12082 科目ナンバリング:EN31A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 現代英語演習I d(Contemporary English Seminar I d)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 輪読活動

授業の概要: 外国文学を学ぶことには、物語そのものを楽しむだけでなく、ことばの修得と異文化理解の意味もあります。このゼミでは、イギリス文学を代表する作品を、小説、演劇、詩、児童文学、四つのジャンルからそれぞれ選び、その歴史的・文化的背景にも注目しながら精読することで、イギリスの文学また広く文化について理解を深めていきます。2023年度前期は、演劇のジャンルから、ウィリアム・シェイクスピアWilliam Shakespeare (1564-1616) の『ロミオとジュリエット』Romeo and Julietを取り上げます。

キーワード: イギリス文学, 演劇, ウィリアム・シェイクスピア, イギリス文化, 異文化理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: イギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容、あるいは授業中の発言などから認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対

象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や期末試験などの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：ウィリアム・シェイクスピアの生涯
第2回：プロローグ・第1幕1場
第3回：第1幕5場
第4回：プロローグ・第2幕2場(1)
第5回：第2幕2場(2)
第6回：第3幕1場
第7回：第3幕1場
第8回：第3幕5場(1)
第9回：第3幕5場(2)
第10回：第4幕1場
第11回：第4幕3場
第12回：第5幕1場
第13回：第5幕3場(1)
第14回：第5幕3場(2)
第15回：現代の『ロミオとジュリエット』

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では、授業で取り上げる箇所の十分な調べをする(わからない単語は辞書で丹念に調べ、日本語に訳す。表現内容の説明を準備する)。復習では、授業内容を整理するとともに、授業でとりあげなかった箇所、参考文献を読んで理解を深める。参考文献・資料については、授業で読む箇所に応じて適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12082 科目ナンバリング：EN31A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：現代英語演習I e (Contemporary English Seminar I e)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：アクティブ・ラーニング

授業の概要： この授業では、インプットとアウトプットを連動させたTask-Based Language Teachingを行います

す。インプットとしては、映画を題材として使用し、英語特有の表現や自らの言語使用に活用できる表現を学び、映画が扱う文化的な側面や背景についての講義も行います。この後、インプットで扱った内容に関連のあるトピックや設定で、学生はアウトプットを行うSpeaking Taskに取り組みます。タスク遂行中の英語の発話はCALLシステムで録音し、活動後録音内容を書き起こすことで、自らの英語のスピーキング力の実態を知り、改善を図ります。また、毎回、タスクのパフォーマンスを1ペア録画し、次時にクラス全体で視聴しながら、コミュニケーションスタイル全般や使用された英語表現の分析を行い、更に自らのアウトプットの精度を上げます。

キーワード： TBLT、タスク、インプット、アウトプット、インタラクション、パフォーマンス評価

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ英語の表現について、文法および語用論的使用に関する知識を持つ。

評価方法： ライティングタスク

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・言語および非言語コミュニケーションのスタイルには個人差があることをクラスメイトのパフォーマンスや映画の場面等から学び、自らのアウトプットに使用することができる。

評価方法： ・タスク・パフォーマンス

評価割合： 70%

・学期末スピーキングテスト

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので、インプットで学んだことをアウトプットに積極的に活かし、主体的・積極的にタスクに取り組むことが求められる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、タスクの遂行中、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的評価の対象とはしない。ただし、授業中の発言やタスク中の英語でのパフォーマンスにおいて、著しく公正性を欠く差別表現等が認められた場合は、減点や嚴重注意をすることがある。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション(授業の進め方と評価方法)プリタスクの実施
第2回:プリタスクの分析とコミュニケーション技法についての講義
第3回:映画クリップによる英語表現の学習①
第4回:スピーキングタスク①の実施
第5回:スピーキングタスク①の分析とフォローアップ
第6回:映画クリップによる英語表現の学習②
第7回:スピーキングタスク②の実施
第8回:スピーキングタスク②の分析とフォローアップ
第9回:映画クリップによる英語表現の学習③
第10回:スピーキングタスク③の実施
第11回:スピーキングタスク③の分析とフォローアップ
第12回:映画クリップによる英語表現の学習④

- 第13回:スピーキングタスク④の実施
 第14回:スピーキングタスク④の分析とフォローアップ
 第15回:「話すこと」(やり取り)の自己評価

使用テキスト: オリジナルの教材を担当教員が用意して配布するので教科書は定めない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であるが、同じアウトプット技能でもライティングを行うことが定着に寄与するため、復習としてトピックに関するライティングの課題を出すことがある。また、映画が扱う文化的事項については、他の映画や本などを参考資料・文献として授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項: この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。

科目コード: 12082 **科目ナンバリング:** EN31A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習I f (Contemporary English Seminar I f)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次: 3	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 火曜2限		履修可能学科・専攻: E
関連資格:		AL要素: 08:協同学習 07:発表 16:振り返り用紙と応答 11:討論

授業の概要: [Fluency, Critical Thinking and Cultural Awareness] In this seminar, we are going to focus on two main things.
 First, we will focus on improving your fluency by speaking as much English as possible. Students will record one-minute speeches every three or four weeks and then analyze them at the end of the year.
 Second, we will do group activities and games to promote cultural awareness and critical thinking skills. Critical thinking is an important skill that will help you learn how to make good decisions in the future. We will also think about our own culture in order to understand other cultures better. Students will write reflection reports to summarize what they learned and their feelings.

キーワード: Critical Thinking, Discussion, Fluency

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 毎回行われるActivityに対して、説教句的に参加する。毎回のReflection Papersを作成及び提出することによって英語で自分の文化や異文化について深く論じるようになる。

評価方法: Reflection Papers **評価割合:** 70%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
 ・自分の英語力を理解。録音データを研究し自分の英語(単語の数、使い方、コミュニケーション能力)を上達する。

評価方法: 録音データの制作・提出・期末レポート **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、グループワークやペアワークの時積極的に取り組む姿がある学生には実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言やレポートの記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回： Class explanation and introductions
第2回： Activity 1, Reflection Report
第3回： Activity 2, Reflection Report
第4回： Activity 3, Reflection Report
第5回： Activity 4, Reflection Report
第6回： Activity 5, Reflection Report
第7回： Activity 6, Reflection Report
第8回： Activity 7, Reflection Report
第9回： Activity 8, Reflection Report
第10回： Activity 9, Reflection Report
第11回： Activity 10, Reflection Report
第12回： Activity 11, Reflection Report
第13回： Activity 12, Reflection Report
第14回： Activity 13, Reflection Report
第15回： Report writing

使用テキスト： None. Worksheets will be distributed in class by the teacher.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であることから、英語で話すことが大事。外国のニュースや文化について調べてくる。授業で学んだことをreflection reportsに書いて提出する、自分のスピーキング力はどうか変わったかを図るため、録音したSpeechのレポートを期末に提出する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項： この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。事情によりシラバスが変わる可能性があります。各授業で録音をしますので、毎回必ずスマートフォンやタブレットを持ってくること。

科目コード：12082

科目ナンバリング：EN31A01E

主な使用言語：English

授業名(英文)：現代英語演習I g (Contemporary English Seminar I g)

担当者：Yoshida, David C.

基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 04:課題解消
07:発表
08:協同学習
10:資料調査
17:発問と回答

授業の概要 : This class will focus on the use and meaning of a key feature of the English language, phrasal verbs. Phrasal verbs are a vital part of spoken English and present specific problems for many Japanese students. In analyzing the phrasal verbs, special emphasis will be placed on the elements of these expressions found after the main verb. Students will learn how phrasal verbs function in English sentences, how they differ from their single word synonyms, and how phrasal verbs can be grouped by the elements following the main

キーワード : Communication, Expression, Vocabulary Acquisition, Linguistic Analysis

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : Students will learn how the various elements of phrasal verbs function and learn their various uses to improve their English comprehension and verbal production.

評価方法 : Weekly quizzes about the expressions of the week **評価割合 :** 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : Students will apply the knowledge described above through creation of materials for practice and retention.

評価方法 : Composition of sentences and dialogs containing relevant expressions **評価割合 :** 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students should be prepared to research more information that they will likely use in their practice texts and presentations. It will also be necessary for students to be prepared to write and edit carefully their own writing and to be very careful to avoid plagiarism.

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

Volunteerism is not directly an element of this course, however, students can be encouraged to make use of the material and skills acquired in this class to help in educational activities and projects.

評価割合 : 0%

▼ 公正性

Students should be aware that they are participating in a seminar in which they will be graded according to the final product of their efforts. Group cooperation will be important.

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : Week 1: Orientation and explanation

Week 2: Away

Week 3: Back

Week 4: Behind and Between

Week 5: Beyond
Week 6: By
Week 7: Down
Week 8: For
Week 9: Forward
Week 10: From
Week 11: In and Into
Week 12: Of
Week 13: Off
Week 14: On
Week 15: Review, summary, and final quiz

使用テキスト: Prints and online material will be provided to the students.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Because there will be any expressions to be learned, it is suggested that students make use of apps such as Quizlet, Anki, or other tools for memorizing expressions. This will greatly aid in the retention of the material to be analyzed.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office.

留意事項: This seminar will require some group of pair work. Accordingly students will have to cooperate with each other to effectively conclude certain assignments. Additionally, students will need to conduct some original research.

科目コード: 12082 **科目ナンバリング:** EN31A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習I h (Contemporary English Seminar I h)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

10 資料調査課題

17 発問と回答

授業の概要: 本ゼミでは社会言語学という言語学の分野について学習します。具体的には、多言語社会、言語消滅、スラング、男と女のコミュニケーションの違い、若者ことば、差別語、地域方言などのテーマを取り上げて、ことばが社会の中でどのような役割を果たしているか一緒に考える予定です。英語の事例が中心ですが、世界の色々な言語の例も多く取り上げます。前期の前半は社会言語学に関するテキストブックを精読し、ディスカッションをしながら、社会言語学に関する基礎知識を取得します。後半は気になるテーマを選んで、3-4人で共同研究を行って、グループ発表(20min)をしていただきます。

キーワード: 社会言語学、地域・社会階層・人種・年齢・性別・アイデンティティによる英語使用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** 1. 言語と社会的要因との関係について習います。
2. 社会言語学的な視点から英語をより客観的に見るできるようになります。

評価方法: 社会言語学の専門書の輪読、ディスカッション **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ディスカッションや発表を通じて、英語で論理的に考え、表現する能力を身につけます。

評価方法: 発表 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス
第02回: ディスカッション 1
第03回: ディスカッション 2
第04回: ディスカッション 3
第05回: ディスカッション 4
第06回: ディスカッション 5
第07回: データ分析方法
第08回: 発表の基礎知識
第09回: 発表の準備
第10回: グループ発表実習1
第11回: グループ発表実習2
第12回: グループ発表実習3
第13回: グループ発表実習4
第14回: グループ発表実習5
第15回: まとめ

使用テキスト: 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習
資料は事前に十分に読み込んで授業に臨むこと。

参考文献

Holmes, J., & Wilson, N. (2017). An Introduction to Sociolinguistics (5th ed.). Routledge.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: 授業は主に英語によるディスカッションと発表で構成されていますので、積極的な発言を心がけることが大切です。
また、授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード:12083 科目ナンバリング:EN32A01E 主な使用言語:この授業は英語と

授業名(英文):現代英語演習Ⅱa(Contemporary English SeminarⅡa)

担当者:上野 尚美

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜2限

履修可能学科・専攻:E

関連資格:

AL要素:07.発表
17.発問と回答

授業の概要: 英語の教員を目指している学生が、英語教育の分野に関する知識を深め、当該分野についてプレゼンテーションおよびディスカッションをし、英語力も伸長することができるような指導をする。

キーワード: 英語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語教員に必要な知識および英語力を身に付けることができる。

評価方法: 授業中に行う小テスト

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った英語教育の内容から興味のあるトピックを選び、それについて調べ、自分の考えも入れながら、プレゼンテーションをすることができる。

評価方法: スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやディベート等の活動において、積極的に参加しようとする姿勢が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

また、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画：**【第01回】イントロダクション(前期と異なるテーマを決め、第2回目以降に英語で発表、討論及び実践を行う)
 【第02回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#1
 【第03回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#2
 【第04回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#3
 【第05回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#4
 【第06回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#5
 【第07回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#6
 【第08回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#7
 【第09回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#8
 【第10回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#9
 【第11回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#10
 【第12回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#11
 【第13回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#12
 【第14回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#13
 【第15回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#14

使用テキスト：『英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100』植田一三他著 語研

予習・復習のポイントと 松村昌紀 (2010)『英語教育を知る58の鍵』大修館書店 1,944円

参考文献・資料等：この授業では、予習・復習に60時間必要である。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： オンライン授業が開始された場合は、本授業は同時双方型の授業を行います。

科目コード：12083

科目ナンバリング：EN32A01E

主な使用言語：日本語と英語双方

授業名(英文)：現代英語演習II b (Contemporary English Seminar II b)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要： 前期に引き続き、英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表は Presentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。前期よりレベルの向上した分析・発表をすることが期待されます。

キーワード： 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法： グループ発表

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合: 10%

▼その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合: Vocabulary Notebookの作成におい

- 授業計画:**
01. Drama Week 1: 口語英語表現分析
 02. Drama Week 2: 口語英語表現分析
 03. Drama Week 3: 口語英語表現分析
 04. Drama Week 4: 口語英語表現分析
 05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表テーマ検討開始
 06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
 07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
 08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
 09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
 10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
 11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
 12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
 13. Presentation Week 1
 14. Presentation Week 2
 15. Presentation Week 3

使用テキスト: ・南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)
(学園生協でゼミ生全員購入必要)
・他に毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項: 各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード:12083

科目ナンバリング:EN32A01E

主な使用言語:日本語と英語双方

授業名(英文):現代英語演習II c(Contemporary English Seminar II c)

担当者:菅野 弘久

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要： 前期に引き続き、英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表は Presentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。前期よりレベルの向上した分析・発表をすることが期待されます。

キーワード： 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法： グループ発表

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法： グループ発表

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合： 10%

▼その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合： Vocabulary Notebookの作成におい

授業計画：

01. Drama Week 1: 口語英語表現分析
02. Drama Week 2: 口語英語表現分析
03. Drama Week 3: 口語英語表現分析
04. Drama Week 4: 口語英語表現分析
05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表テーマ検討開始
06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
13. Presentation Week 1
14. Presentation Week 2

15. Presentation Week 3

使用テキスト: 前期購入の『海外ドラマ英和辞典』を引き続き使用します。
加えて、毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項: 各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード:12083 科目ナンバリング:EN32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 現代英語演習II d(Contemporary English Seminar II d)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 輪読活動

授業の概要: 外国文学を学ぶことには、物語そのものを楽しむだけでなく、ことばの修得と異文化理解の意味もあります。このゼミでは、イギリス文学を代表する作品を、小説、演劇、詩、児童文学、四つのジャンルからそれぞれ選び、その歴史的・文化的背景にも注目しながら精読することで、イギリスの文学また広く文化について理解を深めていきます。2023年度後期は、児童文学のジャンルから、ルイス・キャロルLewis Carroll (1832-1898)の『不思議な国のアリス』Alice's Adventures in Wonderlandを取り上げます。

キーワード: イギリス文学, 児童文学, ルイス・キャロル, ノンセンス, イギリス文化, 異文化理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: イギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容、あるいは授業中の発言などから認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やレポートなどの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：ルイス・キャロルの生涯
第2回：うさぎ穴を落ちる(第1章)
第3回：涙のたまり池(第2章)
第4回：コーカス競争と長い尾話(第3章)
第5回：うさぎがリトル・ビルを呼びつける(第4章)
第6回：イモムシの忠告(第5章)
第7回：ブタと胡椒(第6章)
第8回：気がふれ茶った会(第7章)
第9回：クィーンのクローケー場(第8章)
第10回：まがいタートルの物語(第9章)
第11回：エビのカドリール(第10章)
第12回：だれがタルトを盗んだか(第11章)
第13回：アリスの証言(第12章)
第14回：不思議なことばの国のアリス
第15回：ノンセンスの系譜

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では、授業で取り上げる箇所の十分な調べをする(わからない単語は辞書で丹念に調べ、日本語に訳す。表現内容の説明を準備する)。復習では、授業内容を整理するとともに、授業でとりあげなかった箇所、参考文献を読んで理解を深める。参考文献・資料は、授業で読む箇所に応じて適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12083 科目ナンバリング：EN32A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：現代英語演習II e(Contemporary English Seminar II e)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：アクティブ・ラーニング

授業の概要： この授業では、インプットとアウトプットを連動させたTask-Based Language Teachingを行います。インプットとしては、映画を題材として使用し、英語特有の表現や自らの言語使用に活用できる表現を学び、映画が扱う文化的な側面や背景についての講義も行います。この後、インプットで扱った内容に関連のあるトピックや設定で、学生はアウトプットを行うSpeaking Taskに取り組みます。タスク遂行中の英語の発話はCALLシステムで録音し、活動後録音内容を書き起こすことで、自らの英語のスピーキング力の実態を知り、改善を図ります。また、毎回、タスクのパフォーマンスを1ペア録画し、次時にクラス全体で視聴しながら、コミュニケーション

スタイル全般や使用された英語表現の分析を行い、更に自らのアウトプットの精度を上げます。
ここまでは前期と同じでスピーキングの中でも<やり取り>に関する演習ですが、後期はまとめとしてプレゼンテーション(<発表>)に取り組みます。

キーワード: TBLT、タスク、インプット、アウトプット、インタラクション、プレゼンテーション、パフォーマンス評価

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ英語の表現について、文法および語用論的使用に関する知識を持つ。

評価方法: ライティングタスク

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・言語および非言語コミュニケーションのスタイルには個人差があることをクラスメイトのパフォーマンスや映画の場面等から学び、自らのアウトプットに使用することができる。

評価方法: ・タスク・パフォーマンス

評価割合: 70%

・学期末プレゼンテーション

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので、インプットで学んだことをアウトプットに積極的に活かし、主体的・積極的にタスクに取り組むことが求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、タスクの遂行中、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的評価の対象とはしない。ただし、授業中の発言やタスク中の英語でのパフォーマンスにおいて、著しく公正性を欠く差別表現等が認められた場合は、減点や嚴重注意をすることがある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:前期 スピーキングテストの振り返りとコミュニケーション技法についての講義

第2回:映画クリップによる英語表現の学習①

第3回:スピーキングタスク①の実施

第4回:スピーキングタスク①の分析とフォローアップ

第5回:映画クリップによる英語表現の学習②

第6回:スピーキングタスク②の実施

第7回:スピーキングタスク②の分析とフォローアップ

第8回:映画クリップによる英語表現の学習③

第9回:スピーキングタスク③の実施

第10回:スピーキングタスク③の分析とフォローアップ

第11回:スピーキング<やり取り>と<発表>についての講義

第12回:プレゼンテーションについての講義

第13回:プレゼンテーション①

第14回:プレゼンテーション②

第15回:プレゼンテーション③

使用テキスト: オリジナルの教材を担当教員が用意して配布するので教科書は定めない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であるが、同じアウトプット技能でもライティングを行うことが定着に寄与するため、復習としてトピックに関するライティングの課題を出すことがある。また、映画が扱う文化的事項については、他の映画や本などを参考資料・文献として授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項: この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。

科目コード: 12083 **科目ナンバリング:** EN32A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習II f(Contemporary English Seminar II f)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08:協同学習

07:発表

16:振り返り用紙と応答

11:討論

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型) on TEAMS

[Fluency, Critical Thinking and Cultural Awareness] In this seminar, we are going to focus on two main things.

First, we will focus on improving your fluency by speaking as much English as possible. Students will record one-minute speeches every three or four weeks and then analyze them at the end of the year.

Second, we will do group activities and games to promote cultural awareness and critical thinking skills. Critical thinking is an important skill that will help you learn how to make good decisions in the future. We will also think about our own culture in order to understand other cultures better. Students will write reflection reports to summarize what they learned and their feelings.

キーワード: Critical Thinking, Discussion, Fluency

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 毎行行われるActivityに対して、説教句的に参加する。毎回のReflection Papersを作成及び提出することによって英語で自分の文化や異文化について深く論じるようになる。

評価方法: Reflection Papers

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・自分の英語力を理解。録音データを研究し自分の英語(単語の数、使い方、コミュニケーション能力)を上達する。

評価方法: 録音データの制作・提出・期末レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、グループワークやペアワークの時積極的の取り組む姿がある学生には実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言やレポートの記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回： Class explanation and introductions
第2回： Activity 1, Reflection Report
第3回： Activity 2, Reflection Report
第4回： Activity 3, Reflection Report
第5回： Activity 4, Reflection Report
第6回： Activity 5, Reflection Report
第7回： Activity 6, Reflection Report
第8回： Activity 7, Reflection Report
第9回： Activity 8, Reflection Report
第10回： Activity 9, Reflection Report
第11回： Activity 10, Reflection Report
第12回： Activity 11, Reflection Report
第13回： Activity 12, Reflection Report
第14回： Activity 13, Reflection Report
第15回： Report writing

使用テキスト： None. Worksheets will be distributed in class by the teacher.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であることから、英語で話すことが大事。外国のニュースや文化について調べてくる。授業で学んだことをreflection reportsに書いて提出する、自分のスピーキング力はどう変わったかを図るため、録音したSpeechのレポートを期末に提出する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項： この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。事情によりシラバスが変わる可能性があります。録音できる機会(スマートフォン、タブレット)を毎回持つてくること。

科目コード：12083

科目ナンバリング：EN32A01E

主な使用言語：English

授業名(英文)：現代英語演習II g(Contemporary English Seminar II g)

担当者：Yoshida, David C.

基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 04:課題解消
07:発表
08:協同学習
10:資料調査
17:発問と回答

授業の概要 : This class will focus on the use and meaning of a key feature of the English language, phrasal verbs. Phrasal verbs are a vital part of spoken English and present specific problems for many Japanese students. In analyzing the phrasal verbs, special emphasis will be placed on the elements of these expressions found after the main verb. Students will learn how phrasal verbs function in English sentences, how they differ from their single word synonyms, and how phrasal verbs can be grouped by the elements following the main

キーワード : Communication, Expression, Vocabulary Acquisition, Linguistic Analysis

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : Students will learn how the various elements of phrasal verbs function and learn their various uses to improve their English comprehension and verbal production.

評価方法 : Weekly quizzes about the expressions of the week **評価割合 : 30%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : Students will apply the knowledge described above through creation of materials for practice and retention.

評価方法 : Composition of sentences and dialogs containing relevant expressions **評価割合 : 70%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students should be prepared to research more information that they will likely use in their practice texts and presentations. It will also be necessary for students to be prepared to write and edit carefully their own writing and to be very careful to avoid plagiarism.

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

Volunteerism is not directly an element of this course, however, students can be encouraged to make use of the material and skills acquired in this class to help in educational activities and projects.

評価割合 : 0%

▼ 公正性

Students should be aware that they are participating in a seminar in which they will be graded according to the final product of their efforts. Group cooperation will be important.

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : Week 1: Orientation and review of previous semester
Week 2: On
Week 3: Off
Week 4: Out

Week 5: Over
Week 6: Past
Week 7: Through
Week 8: To
Week 9: Under
Week 10: Up
Week 11: With
Week 12: Front
Week 13: Other expressions I
Week 14: Other expressions II
Week 15: Review, summary, and final quiz

使用テキスト: Prints and online material will be provided to the students.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Because there will be any expressions to be learned, it is suggested that students make use of apps such as Quizlet, Anki, or other tools for memorizing expressions. This will greatly aid in the retention of the material to be analyzed.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office.

留意事項: This seminar will require some group of pair work. Accordingly students will have to cooperate with each other to effectively conclude certain assignments. Additionally, students will need to conduct some original research.

科目コード: 12083 **科目ナンバリング:** EN32A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習II h (Contemporary English Seminar II h)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

10 資料調査課題

17 発問と回答

授業の概要: 本ゼミでは社会言語学という言語学の分野について学習します。具体的には、地域方言、スラング、男と女のコミュニケーションの違い、若者ことば、差別語などのテーマを取り上げて、ことばが社会の中でどのような役割を果たしているか一緒に考える予定です。英語の事例が中心ですが、世界の色々な言語の例も多く取り上げます。後期の前半は社会言語学に関するテキストブックを精読し、ディスカッションをしながら、社会言語学に関する基礎知識を取得します。後半は気になるテーマを選んで、個人研究を行って、個人発表(15 min)をしていただきます。

キーワード: 社会言語学、地域・社会階層・人種・年齢・性別・アイデンティティによる英語使用

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 1. 言語と社会的要因との関係について習います。
2. 社会言語学的な視点から英語をより客観的に見るできるようになります。

評価方法: 社会言語学の専門書の輪読、ディスカッション **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ディスカッションや発表を通じて、英語で論理的に考え、表現する能力を身につけます。

評価方法: 発表 **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス
第02回: ディスカッション (1)
第03回: ディスカッション (2)
第04回: ディスカッション (3)
第05回: ディスカッション (4)
第06回: ディスカッション (5)
第07回: ディスカッション (6)
第08回: 発表準備(1)
第09回: 発表準備 (2)
第10回: 個人発表実習1 (3名の学生による発表)
第11回: 個人発表実習2 (3名の学生による発表)
第12回: 個人発表実習3 (3名の学生による発表)
第13回: 個人発表実習4 (3名の学生による発表)
第14回: 個人発表実習5 (3名の学生による発表)
第15回: まとめ

使用テキスト: 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等: 資料は事前に十分に読み込んで授業に臨むこと。

参考文献

Holmes, J., & Wilson, N. (2017). An Introduction to Sociolinguistics. (5th ed.). Routledge.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: ゼミは主に英語によるディスカッションと発表で構成されていますので、自発的な学びと積極的な発

言を心がけることが大切です。
また、授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード : 12084 科目ナンバリング : EN43A01E 主な使用言語 : この授業は英語と

授業名(英文) : 現代英語演習III a (Contemporary English Seminar III a)

担当者 : 上野 尚美

基本情報

年次 : 4

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜2限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 07. 発表

17. 発問と回答

授業の概要 : 英語の教員を目指している学生が、英語教育の分野に関する知識を深め、当該分野についてプレゼンテーションおよびディスカッションをし、英語力も伸長することができるような指導をする。

キーワード : 英語教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 英語教員に必要な知識および英語力を身に付けることができる。

評価方法 : 授業中に行う小テスト

評価割合 : 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った英語教育の内容から興味のあるトピックを選び、それについて調べ、自分の考えも入れながら、プレゼンテーションをすることができる。

評価方法 : スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート

評価割合 : 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやディベート等の活動において、積極的に参加しようとする姿勢が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

また、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【第01回】イントロダクション(授業の進め方および評価方法等についての説明)
【第02回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#1
【第03回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#2
【第04回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#3

- 【第05回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#4
- 【第06回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#5
- 【第07回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#6
- 【第08回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#7
- 【第09回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#8
- 【第10回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#9
- 【第11回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#10
- 【第12回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#11
- 【第13回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#12
- 【第14回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#13
- 【第15回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#14

使用テキスト: 『英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100』植田一三他著 語研

予習・復習のポイントと ・松村昌紀 (2010)『英語教育を知る58の鍵』大修館書店 1,944円

参考文献・資料等: ・この授業では、予習・復習に60時間必要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: オンライン授業が開始された場合は、本授業は同時双方型の授業を行います。

科目コード: 12084 **科目ナンバリング:** EN43A01E **主な使用言語:** 日本語と英語双方

授業名(英文): 現代英語演習III b (Contemporary English Seminar III b)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要: 英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表はPresentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。

キーワード: 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合：10%

▼その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合：Vocabulary Notebookの作成におい

- 授業計画：**
01. Drama Week 1: 口語英語表現分析、取り上げるドラマの紹介
 02. Drama Week 2: 口語英語表現分析、ドラマの登場人物紹介
 03. Drama Week 3: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェア紹介
 04. Drama Week 4: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェアトライアル
 05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表グループ分け
 06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
 07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
 08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
 09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
 10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
 11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
 12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
 13. Presentation Week 1
 14. Presentation Week 2
 15. Presentation Week 3

使用テキスト：

- ・南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)
(学園生協でゼミ生全員購入必要)
- ・他に毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
- ・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項： ノート代金として220円(税込)を徴収します。
各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード：12084 科目ナンバリング：EN43A01E 主な使用言語：日本語と英語双方

授業名(英文)：現代英語演習III c (Contemporary English Seminar III c)

担当者：菅野 弘久

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表
08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要: 英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表はPresentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。

キーワード: 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合: 10%

▼ その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合: Vocabulary Notebookの作成におい

授業計画:

01. Drama Week 1: 口語英語表現分析、取り上げるドラマの紹介
02. Drama Week 2: 口語英語表現分析、ドラマの登場人物紹介
03. Drama Week 3: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェア紹介
04. Drama Week 4: 口語英語表現分析、分析用ソフトウェアトライアル
05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表グループ分け
06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
13. Presentation Week 1
14. Presentation Week 2
15. Presentation Week 3

使用テキスト: 南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)を各自生協で購入してください。

加えて、毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項： ノート代金として220円(税込)を徴収します。
各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。
昨年度からの継続履修者(4年生)は、3年生の指導を期待します。

科目コード：12084 科目ナンバリング：EN43A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：現代英語演習Ⅲ d(Contemporary English Seminar Ⅲ d)

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：輪読活動

授業の概要： 外国文学を学ぶことには、物語そのものを楽しむだけでなく、ことばの修得と異文化理解の意味もあります。このゼミでは、イギリス文学を代表する作品を、小説、演劇、詩、児童文学、四つのジャンルからそれぞれ選び、その歴史的・文化的背景にも注目しながら精読することで、イギリスの文学また広く文化について理解を深めていきます。2023年度前期は、演劇のジャンルから、ウィリアム・シェイクスピアWilliam Shakespeare (1564-1616) の『ロミオとジュリエット』Romeo and Julietを取り上げます。

キーワード： イギリス文学、演劇、ウィリアム・シェイクスピア、イギリス文化、異文化理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： イギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容、あるいは授業中の発言などから認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や期末試験などの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：ウィリアム・シェイクスピアの生涯
第2回：プロローグ・第1幕1場
第3回：第1幕5場
第4回：プロローグ・第2幕2場(1)
第5回：第2幕2場(2)
第6回：第3幕1場
第7回：第3幕1場
第8回：第3幕5場(1)
第9回：第3幕5場(2)
第10回：第4幕1場
第11回：第4幕3場
第12回：第5幕1場
第13回：第5幕3場(1)
第14回：第5幕3場(2)
第15回：現代の『ロミオとジュリエット』

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では、授業で取り上げる箇所の十分な調べをする(わからない単語は辞書で丹念に調べ、日本語に訳す。表現内容の説明を準備する)。復習では、授業内容を整理するとともに、授業でとりあげなかった箇所、参考文献を読んで理解を深める。参考文献・資料については、授業で読む箇所に応じて適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12084 科目ナンバリング：EN43A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：現代英語演習III e (Contemporary English Seminar III e)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：アクティブ・ラーニング

授業の概要： この授業では、インプットとアウトプットを連動させたTask-Based Language Teachingを行います。インプットとしては、映画を題材として使用し、英語特有の表現や自らの言語使用に活用できる表現を学び、映画が扱う文化的な側面や背景についての講義も行います。この後、インプットで扱った内容に関連のあるトピックや設定で、学生はアウトプットを行うSpeaking Taskに取り組みます。タスク遂行中の英語の発話はCALLシステムで録音し、活動後録音内容を書き起こすことで、自らの英語のスピーキング力の実態を知り、改善を図ります。また、毎回、タスクのパフォーマンスを1ペア録画し、次時にクラス全体で視聴しながら、コミュニケーションスタイル全般や使用された英語表現の分析を行い、更に自らのアウトプットの精度を上げま

す。

キーワード: TBLT、タスク、インプット、アウトプット、インタラクション、パフォーマンス評価

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだ英語の表現について、文法および語用論的使用に関する知識を持つ。

評価方法: ライティングタスク

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・言語および非言語コミュニケーションのスタイルには個人差があることをクラスメイトのパフォーマンスや映画の場面等から学び、自らのアウトプットに使用することができる。

評価方法: ・タスク・パフォーマンス

評価割合: 70%

・学期末スピーキングテスト

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので、インプットで学んだことをアウトプットに積極的に活かし、主体的・積極的にタスクに取り組むことが求められる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、タスクの遂行中、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的評価の対象とはしない。ただし、授業中の発言やタスク中の英語でのパフォーマンスにおいて、著しく公正性を欠く差別表現等が認められた場合は、減点や嚴重注意をすることがある。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回:オリエンテーション(授業の進め方と評価方法)フリタスクの実施
 - 第2回:フリタスクの分析とコミュニケーション技法についての講義
 - 第3回:映画クリップによる英語表現の学習①
 - 第4回:スピーキングタスク①の実施
 - 第5回:スピーキングタスク①の分析とフォローアップ
 - 第6回:映画クリップによる英語表現の学習②
 - 第7回:スピーキングタスク②の実施
 - 第8回:スピーキングタスク②の分析とフォローアップ
 - 第9回:映画クリップによる英語表現の学習③
 - 第10回:スピーキングタスク③の実施
 - 第11回:スピーキングタスク③の分析とフォローアップ
 - 第12回:映画クリップによる英語表現の学習④
 - 第13回:スピーキングタスク④の実施
 - 第14回:スピーキングタスク④の分析とフォローアップ
 - 第15回:「話すこと」(やり取り)の自己評価

使用テキスト: オリジナルの教材を担当教員が用意して配布するので教科書は定めない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であるが、同じアウトプット技能でもライティングを行うことが定着に寄与するため、復習としてトピックに関するライティングの課題を出すことが

ある。また、映画が扱う文化的事項については、他の映画や本などを参考資料・文献として授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項: この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。

科目コード:12084 科目ナンバリング:EN43A01E 主な使用言語:英語

授業名(英文):現代英語演習III f(Contemporary English Seminar III f)

担当者:沼館 ジェニー

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08:協同学習

07:発表

16:振り返り用紙と応答

11:討論

授業の概要: [Fluency, Critical Thinking and Cultural Awareness] In this seminar, we are going to focus on two main things.
First, we will focus on improving your fluency by speaking as much English as possible. Students will record one-minute speeches every three or four weeks and then analyze them at the end of the year.
Second, we will do group activities and games to promote cultural awareness and critical thinking skills. Critical thinking is an important skill that will help you learn how to make good decisions in the future. We will also think about our own culture in order to understand other cultures better. Students will write reflection reports to summarize what they learned and their feelings.

キーワード: Critical Thinking, Discussion, Fluency

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 毎行行われるActivityに対して、説教句的に参加する。毎回のReflection Papersを作成及び提出することによって英語で自分の文化や異文化について深く論じるようになる。

評価方法: Reflection Papers

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・自分の英語力を理解。録音データを研究し自分の英語(単語の数、使い方、コミュニケーション能力)を上達する。

評価方法: 録音データの制作・提出・期末レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、グループワークやペアワークの時積極的の取り組む姿がある学生には実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言やレポートの記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回： Class explanation and introductions
第2回： Activity 1, Reflection Report
第3回： Activity 2, Reflection Report
第4回： Activity 3, Reflection Report
第5回： Activity 4, Reflection Report
第6回： Activity 5, Reflection Report
第7回： Activity 6, Reflection Report
第8回： Activity 7, Reflection Report
第9回： Activity 8, Reflection Report
第10回： Activity 9, Reflection Report
第11回： Activity 10, Reflection Report
第12回： Activity 11, Reflection Report
第13回： Activity 12, Reflection Report
第14回： Activity 13, Reflection Report
第15回： Report writing

使用テキスト： None. Worksheets will be distributed in class by the teacher.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であることから、英語で話すことが大事。外国のニュースや文化について調べてくる。授業で学んだことをreflection reportsに書いて提出する、自分のスピーキング力はどうか変わったかを図るため、録音したSpeechのレポートを期末に提出する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項： この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。事情によりシラバスが変わる可能性があります。各授業で録音をしますので、毎回必ずスマートフォンやタブレットを持ってくること。

科目コード：12084 科目ナンバリング：EN43A01E 主な使用言語：English

授業名(英文)：現代英語演習III g (Contemporary English Seminar III g)

担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：04:課題解消
07:発表
08:協同学習

授業の概要: This class will focus on the use and meaning of a key feature of the English language, phrasal verbs. Phrasal verbs are a vital part of spoken English and present specific problems for many Japanese students. In analyzing the phrasal verbs, special emphasis will be placed on the elements of these expressions found after the main verb. Students will learn how phrasal verbs function in English sentences, how they differ from their single word synonyms, and how phrasal verbs can be grouped by the elements following the main

キーワード: Communication, Expression, Vocabulary Acquisition, Linguistic Analysis

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn how the various elements of phrasal verbs function and learn their various uses to improve their English comprehension and verbal production.

評価方法: Weekly quizzes about the expressions of the week **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will apply the knowledge described above through creation of materials for practice and retention.

評価方法: Composition of sentences and dialogs containing relevant expressions **評価割合:** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students should be prepared to research more information that they will likely use in their practice texts and presentations. It will also be necessary for students to be prepared to write and edit carefully their own writing and to be very careful to avoid plagiarism.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteerism is not directly an element of this course, however, students can be encouraged to make use of the material and skills acquired in this class to help in educational activities and projects.

評価割合: 0%

▼公正性

Students should be aware that they are participating in a seminar in which they will be graded according to the final product of their efforts. Group cooperation will be important.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Orientation and explanation

Week 2: Away

Week 3: Back

Week 4: Behind and Between

Week 5: Beyond

Week 6: By

Week 7: Down

Week 8: For

Week 9: Forward

Week 10: From

Week 11: In and Into
Week 12: Of
Week 13: Off
Week 14: On
Week 15: Review, summary, and final quiz

使用テキスト: Prints and online material will be provided to the students.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Because there will be any expressions to be learned, it is suggested that students make use of apps such as Quizlet, Anki, or other tools for memorizing expressions. This will greatly aid in the retention of the material to be analyzed.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office.

留意事項: This seminar will require some group of pair work. Accordingly students will have to cooperate with each other to effectively conclude certain assignments. Additionally, students will need to conduct some original research.

科目コード: 12084 **科目ナンバリング:** EN43A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習III h (Contemporary English Seminar III h)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

10 資料調査課題

17 発問と回答

授業の概要: 本ゼミでは社会言語学という言語学の分野について学習します。具体的には、多言語社会、言語消滅、スラング、男と女のコミュニケーションの違い、若者ことば、差別語、地域方言などのテーマを取り上げて、ことばが社会の中でどのような役割を果たしているか一緒に考える予定です。英語の事例が中心ですが、世界の色々な言語の例も多く取り上げます。前期の前半は社会言語学に関するテキストブックを精読し、ディスカッションをしながら、社会言語学に関する基礎知識を取得します。後半は気になるテーマを選んで、3-4人で共同研究を行って、グループ発表(20min)をしていただきます。

キーワード: 社会言語学、地域・社会階層・人種・年齢・性別・アイデンティティによる英語使用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 言語と社会的要因との関係について習います。

2. 社会言語学的な視点から英語をより客観的に見ることができるようになります。

評価方法: 社会言語学の専門書の輪読、ディスカッション **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ディスカッションや発表を通じて、英語で論理的に考え、表現する能力を身につけます。

評価方法: 発表 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス
第02回: ディスカッション 1
第03回: ディスカッション 2
第04回: ディスカッション 3
第05回: ディスカッション 4
第06回: ディスカッション 5
第07回: データ分析方法
第08回: 発表の基礎知識
第09回: 発表の準備
第10回: グループ発表実習1
第11回: グループ発表実習2
第12回: グループ発表実習3
第13回: グループ発表実習4
第14回: グループ発表実習5
第15回: まとめ

使用テキスト: 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等: 資料は事前に十分に読み込んで授業に臨むこと。

参考文献

Holmes, J., & Wilson, N. (2017). An Introduction to Sociolinguistics (5th ed.). Routledge.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: 授業は主に英語によるディスカッションと発表で構成されていますので、積極的な発言を心がける

ことが大切です。
また、授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード:12085 科目ナンバリング:EN44A01E 主な使用言語:この授業は英語と

授業名(英文):現代英語演習IV a(Contemporary English Seminar IV a)

担当者:上野 尚美

基本情報

年次:4 単位数:2 授業形式:演習

曜時:火曜2限 履修可能学科・専攻:E

関連資格: AL要素:07. 発表
17. 発問と回答

授業の概要: 英語の教員を目指している学生が、英語教育の分野に関する知識を深め、当該分野についてプレゼンテーションおよびディスカッションをし、英語力も伸長することができるような指導をする。

キーワード: 英語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語教員に必要な知識および英語力を身に付けることができる。

評価方法: 授業中に行う小テスト **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った英語教育の内容から興味のあるトピックを選び、それについて調べ、自分の考えも入れながら、プレゼンテーションをすることができる。

評価方法: スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート **評価割合:** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやディベート等の活動において、積極的に参加しようとする姿勢が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

また、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】イントロダクション(前期と異なるテーマを決め、第2回目以降に英語で発表、討議及び実践を行う)

【第02回】学生が選択したトピックについての発表・討議・実践#1

- 【第03回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#2
- 【第04回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#3
- 【第05回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#4
- 【第06回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#5
- 【第07回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#6
- 【第08回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#7
- 【第09回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#8
- 【第10回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#9
- 【第11回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#10
- 【第12回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#11
- 【第13回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#12
- 【第14回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#13
- 【第15回】学生が選択したトピックについての発表・討論・実践#14

使用テキスト: 『英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100』植田一三他著 語研

予習・復習のポイントと ・松村昌紀 (2010)『英語教育を知る58の鍵』大修館書店 1,944円

参考文献・資料等: ・この授業では、予習・復習に60時間必要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: オンライン授業が開始された場合は、本授業は同時双方型の授業を行います。

科目コード: 12085 **科目ナンバリング:** EN44A01E **主な使用言語:** 日本語と英語双方

授業名(英文): 現代英語演習IV b (Contemporary English Seminar IV b)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要: 前期に引き続き、英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表は Presentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。前期よりレベルの向上した分析・発表をすることが期待されます。

キーワード: 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法: グループ発表

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合：10%

▼その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合：Vocabulary Notebookの作成におい

- 授業計画：
01. Drama Week 1: 口語英語表現分析
 02. Drama Week 2: 口語英語表現分析
 03. Drama Week 3: 口語英語表現分析
 04. Drama Week 4: 口語英語表現分析
 05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表テーマ検討開始
 06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
 07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
 08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
 09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
 10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
 11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
 12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
 13. Presentation Week 1
 14. Presentation Week 2
 15. Presentation Week 3

使用テキスト：・南谷三世(2019)『海外ドラマ英語辞典』(KADOKAWA)
(学園生協でゼミ生全員購入必要)
・他に毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項：各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。

科目コード：12085 科目ナンバリング：EN44A01E 主な使用言語：日本語と英語双方

授業名(英文)：現代英語演習IV c (Contemporary English Seminar IV c)

担当者：菅野 弘久

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：**AL要素：** 07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

授業の概要： 前期に引き続き、英語のテレビドラマのセリフを主たるデータとして用いて、コンピュータのソフトにより様々な角度から分析し、口語英語表現の特徴を探ることが目的のゼミです。2・3人のグループでテーマを決め、分析結果はPowerPoint形式のプレゼンテーションファイルにして発表していただきます(発表は Presentation Weekに実施)。毎時間冒頭には、担当者によるドラマに用いられるWords & Phrasesの解説を聞いて、各自Vocabulary Notebookをまとめるtaskがあります。前期よりレベルの向上した分析・発表をすることが期待されます。

キーワード： 英語ドラマ、口語表現、コンピュータ分析、グループ発表、Vocabulary Notebook

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： 口語英語に関する知識と、それをコンピュータで分析する技能が身についている。

評価方法： グループ発表

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 口語英語の分析結果をPowerPoint形式のスライドにまとめ、効率的に発表することができる。

評価方法： グループ発表

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の準備過程において、メンバーとの関わりに主体的に取り組むことができる。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

発表スライドにおいて、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合： 10%

▼ その他

Vocabulary Notebookの作成において、語彙や表現の理解に役立つ情報をしっかりと書き加えることができる。

評価割合： Vocabulary Notebookの作成におい

授業計画：

01. Drama Week 1: 口語英語表現分析
02. Drama Week 2: 口語英語表現分析
03. Drama Week 3: 口語英語表現分析
04. Drama Week 4: 口語英語表現分析
05. Drama Week 5: 口語英語表現分析、発表テーマ検討開始
06. Drama Week 6: 口語英語表現分析、発表テーマ決定
07. Drama Week 7: 口語英語表現分析、データ収集
08. Drama Week 8: 口語英語表現分析、データ分析開始
09. Drama Week 9: 口語英語表現分析、データ分析終了
10. Drama Week 10: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル作成開始
11. Drama Week 11: 口語英語表現分析、発表前打ち合わせ日決定
12. Drama Week 12: 口語英語表現分析、プレゼンテーションファイル完成
13. Presentation Week 1
14. Presentation Week 2
15. Presentation Week 3

使用テキスト： 前期購入の『海外ドラマ英和辞典』を引き続き使用します。

加えて、毎時間プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・Vocabulary Notebookは復習が大事です。語彙や表現の理解に役立つ情報を見つけ、書き加えることが必要です。
・発表準備の過程においては、グループ内で共同作業を進め、ある程度まとまったところで事前指導の時間(授業時間外)を取ります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別またはグループ面談で対応します。

留意事項： 各自のデータ保存用にUSBメモリを用意すること。
昨年度からの継続履修者(4年生)には、3年生の指導を期待します。

科目コード：12085 科目ナンバリング：EN44A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：現代英語演習IV d(Contemporary English Seminar IV d)

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：輪読活動

授業の概要： 外国文学を学ぶことには、物語そのものを楽しむだけでなく、ことばの修得と異文化理解の意味もあります。このゼミでは、イギリス文学を代表する作品を、小説、演劇、詩、児童文学、四つのジャンルからそれぞれ選び、その歴史的・文化的背景にも注目しながら精読することで、イギリスの文学また広く文化について理解を深めていきます。2023年度後期は、児童文学のジャンルから、ルイス・キャロルLewis Carroll (1832-1898) の『不思議な国のアリス』Alice's Adventures in Wonderlandを取り上げます。

キーワード： イギリス文学、児童文学、ルイス・キャロル、ノンセンス、イギリス文化、異文化理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： イギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験やアクションペーパーの記述内容、あるいは授業中の発言などから認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やレポートなどの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：ルイス・キャロルの生涯
第2回：うさぎ穴を落ちる(第1章)
第3回：涙のたまり池(第2章)
第4回：コーカス競争と長い尾話(第3章)
第5回：うさぎがリトル・ビルを呼びつける(第4章)
第6回：イモムシの忠告(第5章)
第7回：ブタと胡椒(第6章)
第8回：気がふれ茶った会(第7章)
第9回：クィーンのクローケー場(第8章)
第10回：まがいタートルの物語(第9章)
第11回：エビのカドリール(第10章)
第12回：だれがタルトを盗んだか(第11章)
第13回：アリスの証言(第12章)
第14回：不思議なことばの国のアリス
第15回：ノンセンスの系譜

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では、授業で取り上げる箇所の十分な調べをする(わからない単語は辞書で丹念に調べ、日本語に訳す。表現内容の説明を準備する)。復習では、授業内容を整理するとともに、授業でとりあげなかった箇所、参考文献を読んで理解を深める。参考文献・資料は、授業で読む箇所に応じて適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12085 科目ナンバリング：EN44A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：現代英語演習IV e (Contemporary English Seminar IV e)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：アクティブ・ラーニング

授業の概要： この授業では、インプットとアウトプットを連動させたTask-Based Language Teachingを行います。インプットとしては、映画を題材として使用し、英語特有の表現や自らの言語使用に活用できる表現を学び、映画が扱う文化的な側面や背景についての講義も行います。この後、インプットで扱った内容に関連のあるトピックや設定で、学生はアウトプットを行うSpeaking Taskに取り組みます。タスク遂行中の英語の発話はCALLシステムで録音し、活動後録音内容を書き起こすことで、自らの英語のスピーキング力の実態を知り、改善を図ります。また、毎回、タスクのパフォーマンスを1ペア録画し、次時にクラス全体で視聴しながら、コミュニケーションスタイル全般や使用された英語表現の分析を行い、更に自らのアウトプットの精度を上げま

す。
ここまででは前期と同じでスピーキングの中でも<やり取り>に関する演習ですが、後期はまとめとしてプレゼンテーション(<発表>)に取り組みます。

キーワード: TBLT、タスク、インプット、アウトプット、インタラクション、プレゼンテーション、パフォーマンス評価

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ英語の表現について、文法および語用論的使用に関する知識を持つ。

評価方法: ライティングタスク

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。
・言語および非言語コミュニケーションのスタイルには個人差があることをクラスメイトのパフォーマンスや映画の場面等から学び、自らのアウトプットに使用することができる。

評価方法: ・タスク・パフォーマンス

評価割合: 70%

・学期末プレゼンテーション

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので、インプットで学んだことをアウトプットに積極的に活かし、主体的・積極的にタスクに取り組むことが求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、タスクの遂行中、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的評価の対象とはしない。ただし、授業中の発言やタスク中の英語でのパフォーマンスにおいて、著しく公正性を欠く差別表現等が認められた場合は、減点や嚴重注意をすることがある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:前期 スピーキングテストの振り返りとコミュニケーション技法についての講義
第2回:映画クリップによる英語表現の学習①
第3回:スピーキングタスク①の実施
第4回:スピーキングタスク①の分析とフォローアップ
第5回:映画クリップによる英語表現の学習②
第6回:スピーキングタスク②の実施
第7回:スピーキングタスク②の分析とフォローアップ
第8回:映画クリップによる英語表現の学習③
第9回:スピーキングタスク③の実施
第10回:スピーキングタスク③の分析とフォローアップ
第11回:スピーキング<やり取り>と<発表>についての講義
第12回:プレゼンテーションについての講義
第13回:プレゼンテーション①
第14回:プレゼンテーション②
第15回:プレゼンテーション③

使用テキスト: オリジナルの教材を担当教員が用意して配布するので教科書は定めない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であるが、同じアウトプット技能でもライティングを行うことが定着に寄与するため、復習としてトピックに関するライティングの課題を出すことがある。また、映画が扱う文化的事項については、他の映画や本などを参考資料・文献として授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項: この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。

科目コード: 12085 **科目ナンバリング:** EN44A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習IV f (Contemporary English Seminar IV f)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 08:協同学習

07:発表

16:振り返り用紙と応答

11:討論

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型) on TEAMS

[Fluency, Critical Thinking and Cultural Awareness] In this seminar, we are going to focus on two main things.

First, we will focus on improving your fluency by speaking as much English as possible.

Students will record one-minute speeches every three or four weeks and then analyze them at the end of the year.

Second, we will do group activities and games to promote cultural awareness and critical thinking skills. Critical thinking is an important skill that will help you learn how to make good decisions in the future. We will also think about our own culture in order to understand other cultures better. Students will write reflection reports to summarize what they learned and their feelings.

キーワード: Critical Thinking, Discussion, Fluency

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 毎行われるActivityに対して、説教句的に参加する。毎回のReflection Papersを作成及び提出することによって英語で自分の文化や異文化について深く論じるようになる。

評価方法: Reflection Papers

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・様々なトピックや場面で、正確かつ適切に英語を使って話すことができる。

・自分の英語力を理解。録音データを研究し自分の英語(単語の数、使い方、コミュニケーション能力)を上達する。

評価方法: 録音データの制作・提出・期末レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、英語の「話すこと」(やり取り)の能力の伸長を目指す授業であるので主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、グループワークやペアワークの時積極的に取り組む姿がある学生には実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とししない。但し、授業中の発言やレポートの記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回： Class explanation and introductions
第2回： Activity 1, Reflection Report
第3回： Activity 2, Reflection Report
第4回： Activity 3, Reflection Report
第5回： Activity 4, Reflection Report
第6回： Activity 5, Reflection Report
第7回： Activity 6, Reflection Report
第8回： Activity 7, Reflection Report
第9回： Activity 8, Reflection Report
第10回： Activity 9, Reflection Report
第11回： Activity 10, Reflection Report
第12回： Activity 11, Reflection Report
第13回： Activity 12, Reflection Report
第14回： Activity 13, Reflection Report
第15回： Report writing

使用テキスト： None. Worksheets will be distributed in class by the teacher.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業の主眼は、スピーキング能力の慎重であることから、英語で話すことが大事。外国のニュースや文化について調べてくる。授業で学んだことをreflection reportsに書いて提出する、自分のスピーキング力はどうか変わったかを図るため、録音したSpeechのレポートを期末に提出する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 研究室(オフィス・アワー)、およびICメールでの相談・連絡を行います。

留意事項： この授業は原則として英語で行うので、受講生も英語で受け答えをすることが期待される。事情によりシラバスが変わる可能性があります。録音できる機会(スマートフォン、タブレット)を毎回持つてくること。

科目コード：12085 科目ナンバリング：EN44A01E 主な使用言語：English

授業名(英文)：現代英語演習IV g (Contemporary English Seminar IV g)

担当者：Yoshida, David C.

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： E

関連資格：

AL要素： 04:課題解消
07:発表
08:協同学習
10:資料調査
17:発問と回答

授業の概要： This class will focus on the use and meaning of a key feature of the English language, phrasal verbs. Phrasal verbs are a vital part of spoken English and present specific problems for many Japanese students. In analyzing the phrasal verbs, special emphasis will be placed on the elements of these expressions found after the main verb. Students will learn how phrasal verbs function in English sentences, how they differ from their single word synonyms, and how phrasal verbs can be grouped by the elements following the main

キーワード： Communication, Expression, Vocabulary Acquisition, Linguistic Analysis

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Students will learn how the various elements of phrasal verbs function and learn their various uses to improve their English comprehension and verbal production.

評価方法： Weekly quizzes about the expressions of the week **評価割合：30%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will apply the knowledge described above through creation of materials for practice and retention.

評価方法： Composition of sentences and dialogs containing relevant expressions **評価割合：70%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students should be prepared to research more information that they will likely use in their practice texts and presentations. It will also be necessary for students to be prepared to write and edit carefully their own writing and to be very careful to avoid plagiarism.

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

Volunteerism is not directly an element of this course, however, students can be encouraged to make use of the material and skills acquired in this class to help in educational activities and projects.

評価割合：0%

▼ 公正性

Students should be aware that they are participating in a seminar in which they will be graded according to the final product of their efforts. Group cooperation will be important.

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Week 1: Orientation and review of previous semester
Week 2: On
Week 3: Off
Week 4: Out
Week 5: Over
Week 6: Past

Week 7: Through
Week 8: To
Week 9: Under
Week 10: Up
Week 11: With
Week 12: Front
Week 13: Other expressions I
Week 14: Other expressions II
Week 15: Review, summary, and final quiz

使用テキスト: Prints and online material will be provided to the students.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Because there will be any expressions to be learned, it is suggested that students make use of apps such as Quizlet, Anki, or other tools for memorizing expressions. This will greatly aid in the retention of the material to be analyzed.

障がいのある履修者への対応: If students have special needs, the teacher will do what is necessary to help. Please discuss any issues with the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office.

留意事項: This seminar will require some group of pair work. Accordingly students will have to cooperate with each other to effectively conclude certain assignments. Additionally, students will need to conduct some original research.

科目コード: 12085 **科目ナンバリング:** EN44A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語演習IV h(Contemporary English Seminar IV h)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

10 資料調査課題

17 発問と回答

授業の概要: 本ゼミでは社会言語学という言語学の分野について学習します。具体的には、地域方言、スラング、男と女のコミュニケーションの違い、若者ことば、差別語などのテーマを取り上げて、ことばが社会の中でどのような役割を果たしているか一緒に考える予定です。英語の事例が中心ですが、世界の色々な言語の例も多く取り上げます。
後期の前半は社会言語学に関するテキストブックを精読し、ディスカッションをしながら、社会言語学に関する基礎知識を取得します。後半は気になるテーマを選んで、個人研究を行って、個人発表(15 min)をしていただきます。

キーワード: 社会言語学、地域・社会階層・人種・年齢・性別・アイデンティティによる英語使用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 言語と社会的要因との関係について習います。

2. 社会言語学的な視点から英語をより客観的に見ることができるようになります。

評価方法: 社会言語学の専門書の輪読、ディスカッション **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ディスカッションや発表を通じて、英語で論理的に考え、表現する能力を身につけます。

評価方法: 発表 **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回: ガイダンス
第02回: ディスカッション (1)
第03回: ディスカッション (2)
第04回: ディスカッション (3)
第05回: ディスカッション (4)
第06回: ディスカッション (5)
第07回: ディスカッション (6)
第08回: 発表準備(1)
第09回: 発表準備 (2)
第10回: 個人発表実習1 (3名の学生による発表)
第11回: 個人発表実習2 (3名の学生による発表)
第12回: 個人発表実習3 (3名の学生による発表)
第13回: 個人発表実習4 (3名の学生による発表)
第14回: 個人発表実習5 (3名の学生による発表)
第15回: まとめ

使用テキスト: 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等: 資料は事前に十分に読み込んで授業に臨むこと。

参考文献

Holmes, J., & Wilson, N. (2017). An Introduction to Sociolinguistics. (5th ed.). Routledge.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: ゼミは主に英語によるディスカッションと発表で構成されていますので、自発的な学びと積極的な発言を心がけることが大切です。

また、授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード : 12086 科目ナンバリング : EN10C09E 主な使用言語 : 英語と日本語

授業名(英文) : 英語検定試験対策講座A a(English Proficiency Test Preparation A a)

担当者 : 岩重 理香

基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜1限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N

関連資格 :

AL要素 : 05. 即時応答

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要 : このクラスは英語検定試験の1つのTOEIC Listening & Reading TEST (以下TOIEC)の受験を検討している学生に向けての、資格試験対策講座です。主に、これまでTOEIC対策をしたことがない、受験をしたことがないといった、ビギナーに向けたクラスです。クラスではTOEICのテストの形式や受験者の英語力を測る方法を説明し、受験の際に十分に力を発揮できるように演習問題で練習をします。また、スコアアップだけではなく、総合的な英語運用能力の向上につながる学習方法も紹介します。授業中の学習のみならず、自宅での演習を行うことで学習した内容の定着を図ります。授業時間はリスニングセクションの演習を通してTOEICの問題形式や取り扱われるトピック、ボキャブラリーを学習します。また、英文法の基礎を入門テキストを使って自宅で学習します。

キーワード : TOEIC Listening & Reading Test, listening, dictation, repeating, shadowing, overlapping, pronunciation, sound change, stress, rhythm, intonation, American accent, British accent, Canadian accent, Australian accent, English grammar

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : TOEICテストで使われるナチュラルスピードの英語音声から重要な情報を聞き取れるようになる。

TOIECテストに取り組むのに必要な基本的な文法規則が運用できるようになる。

TOEICテストの頻出表現のうち基本的なものを理解できるようになる。

以上のことを確認するReview Quizに80%解答できる。

評価方法 : 授業回ごとにMoodleで実施されるReview quiz **評価割合 :** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : TOEICテストの概要を知り、自主的な対策学習を計画し実行できるようになることで、不安なく受験できる。

入門レベルの実践テストで80%解答できる。

評価方法: 8、15回?

授業で実施
するReview
wと実践演
習

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業内容の復習をワークシートの指示に従って実施し、振り返りを記入してMoodleから提出する。
テキスト2の『TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル』を初回に案内するペースで各自学習し、その記録する。
上記の自習の80%に取り組んでいる。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしないが、履修期間内にTOEIC Listening & Reading testを受験することが望ましい。

評価割合: 直接的な評価対象とはしないが、履

授業計画: 受講生の英語力を考慮しながら、次の予定を進めていく。
第1回オリエンテーション: 授業紹介、TOEICテストについて
第2回 Part 1 写真描写問題「人物の動作」
第3回 Part 1 写真描写問題「人物の場所、位置」
第4回 Part 1 写真描写問題「光景の描写」
第5回 Part 2 応答問題「Wh疑問文」
第6回 Part 2 応答問題「Yes/No疑問文」
第7回 Part 2 応答問題「機能疑問文」
第8回 Part 2 応答問題「選択疑問文・平叙文」/Part 1&2 Review
第9回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「全体から概要を知る」
第10回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「会話やトークの流れを理解する」
第11回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「会話やトークの詳細を聞き取る(1)」
第12回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「会話やトークの詳細を聞き取る(2)」
第13回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「図表問題」
第14回 Part 3 会話問題& Part 4 説明文問題「意図問題」
第15回 Part 4& 3 Review

使用テキスト: 早川幸治 / 番場直之 著(2023)GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC? L&R TEST 全パート・全頻出!
TOEIC? L&Rテスト実戦問題GIGA 金星堂
高橋恭子(2017) TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリルアルク

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
・テキスト(2冊)を購入したら、両方のテキストの学習用音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
・授業中に学習した内容が定着するように、ワークシートを中心に復習に重点をおいて学習すること。(復習なしではスコアアップやハイスコアの獲得はできません。)
・テキストに出てくるわからない単語は調べておく。
・毎回授業の前に?テスト(語彙、unit毎の復習等)をMoodle上で実施するので、指定された範

囲
の単語、表現の暗記、テキストの学習を計画的に?うこと。

・授業には必ずテキストと辞書を持参する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り相談に応じますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項: ・このクラスはTOEIC Listening & Readingテストの受験を予定している学生のための対策講座です。受講期間中にTOEIC(公開、IP)を受験することが望ましいです。
・この授業ではテキストGIGA BOOSTER FOR THE TOEIC? L&RTESTのリスニングセッションだけを学習し、後期の英語検定試験対策講座Baで同テキストのリーディングセッションを学習します。
・この科目は履修上限を原則30名とします。上限を超える履修希望者がいる場合は初回に人数調整を行います。(上限を超えた場合、抽選を実施します。テキストの購入は受講が確定してからにしてください。)

・この授業は英語と日本語の両方で行われます。

科目コード:12086 科目ナンバリング:EN10C09E 主な使用言語:日本語・英語

授業名(英文): 英語検定試験対策講座A b(English Proficiency Test Preparation A b)

担当者: 佐々木 大和

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 本講義では、実践的英語力のさらなる育成のために、TOEIC試験で一定の得点を取得できる英語力(特に語彙、文法、リーディング、リスニング)を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、自分で第三者にTOEIC問題を解説できるようになるため、問題の解法などをしっかりと理解することを目指す。

キーワード: 英語, TOEIC, リーディング, リスニング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた英語の語彙・文法・表現、および読んだ・聞いた内容を正確に理解する能力を身につけ、概ね最終課題の80%以上の項目に正確に解答できる。

評価方法: 期末テスト・小テスト・課題

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 与えられたTOEICの問題を正確にわかりやすく解説することができる。

評価方法: 課題レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内において授業者からの発問への回答やペアワーク等の活動を非常に積極的に行っていると認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象として勘案することがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の受講生の学修の妨げとなる行為や試験中の不正行為(カンニング)を行った場合は、減点や厳重注意、失格の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

授業計画: 【第1回】オリエンテーション(授業の目的や授業の進め方, TOEIC等について), 自己英語力分析
【第2回】UNIT 1 Travel
【第3回】UNIT 2 Dining Out
【第4回】「旅行」と「食事」に関するTOEIC問題演習
【第5回】UNIT 3 Daily Life
【第6回】UNIT 4 Entertainment
【第7回】「日常生活」と「娯楽」に関するTOEIC問題演習
【第8回】Unit 1~4のまとめ・発展問題演習①
【第9回】UNIT 5 Purchasing
【第10回】UNIT 6 Offices
【第11回】「買い物」と「オフィス」に関するTOEIC問題演習
【第12回】Unit 7 Clients
【第13回】「顧客」に関するTOEIC問題演習
【第14回】Unit 5~7のまとめ・発展問題演習②
【第15回】Unit 1~7の最終まとめ

使用テキスト: Koji Hayakawa・Naoyuki Bamba 著『GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST』(金星堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業毎にテキスト中の分からない単語や表現は調べる。また、授業内で指示された課題等にはしっかり取り組んで授業に臨むこと。そのために、授業外の学習に1時間半ほど時間を割くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。対応を求める場合は、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については、初回に伝える。

留意事項: ■この授業は英語と日本語の両方で行われる。
■授業には辞書(電子辞書でも可)を持ってくること。
■授業の様子を見て進度や予習内容, 課題を変更することがあるので, 授業中の指示には注意すること。

科目コード:12087

科目ナンバリング:EN10C10E

主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文):英語検定試験対策講座B a(English Proficiency Test Preparation B a)

担当者:岩重 理香

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格:

AL要素: 05. 即時応答

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: このクラスは英語検定試験の1つのTOEIC Listening & Reading TEST (以下TOIEC)の受験を検討している学生に向けての、資格試験対策講座です。
スコアアップだけではなく、総合的な英語運用能力の向上につながる学習方法も紹介します。授業中の学習のみならず、自宅での演習を行うことで学習した内容の定着を図ります。
授業時間はリーディングセクションの演習を通してTOEICの問題形式や取り扱われるトピック、ボキャブラリーを学習します。また、語彙とリスニングのドリルを使って自宅で学習します。

キーワード: TOEIC Listening & Reading Test、英文法、語彙、長文読解、スラッシュリーディング、スキミング、スキミング、パラグラフリーディング、listening, dictation, repeating, shadowing, overlapping, pronunciation, sound change, stress, rhythm, intonation, American accent, British accent, Canadian accent, Australian accent,

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 基本的な文法規則を運用してTOEICテストの穴埋め問題に対応できるようになる。
TOEICテストで取り上げられるトピックに慣れ、まとまった量の英文を読んで必要な情報を見つけ出せるようになる。
TOEICテストの頻出表現のうち基本的なものを理解できるようになる。

以上のことを確認するReview Quizに80%解答できる。

評価方法: 授業回ごとにeラーニングシステムで実施されるReview quiz **評価割合: 45%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: TOEICテストの概要を知り、自主的な対策学習を計画し実行できるようになることで、不安なく受験できる。
解答根拠を考え、説明できるようになる。
入門レベルの実践テストで80%解答できる。

評価方法: 15回目のReviewと実践演習 **評価割合: 25%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業内容の復習をワークシートの指示に従って実施し、振り返りを記入して提出する。
テキスト2の『TOEIC(R)L&Rテスト英単語 ゼロからスコアが稼げるドリル』を初回に案内するペースで各自学習し、それを記録する。
上記の自習の80%に取り組んでいる。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

TOEIC Listening & Readingテストをこの年度中に最低1回受験すること。スコアシートもしくは受験票、受験料の支払いレシートなどで受験をしたことを証明すること。

評価割合：TOEIC Listening & Readingテストを

授業計画： Reading Section対策を受講生の英語力を考慮しながら、次の予定で進めていく。

- 1 オリエンテーション(授業紹介・TOEICテストについて)／品詞と?型
- 2 Unit 1 Travel
- 3 Unit 1 review/ Unit 2 Dining out& Unit 3 Daily Life
- 4 Units 2& 3 review/ Unit 4 Entertainment
- 5 Unit 4 review/ Unit 5 Purchasing& Unit 6 Offices
- 6 Units 5& 6 review/ Unit 7 Clients
- 7 Unit 7 review/ Unit 8 Recruiting
- 8 Unit 8 review/ Unit 9 Personnel
- 9 Unit 9 review/ Unit 10 Advertising
- 10 Unit 10 review/ Unit 11 Media
- 11 Unit 11 review/ Unit 12 Finance
- 12 Unit 12 review/ Unit 13 Meetings
- 13 Unit 13 review/ Unit 14 Sales& Marketing
- 14 Unit 14 review/ Unit 15 Seminar& Workshop
- 15 Reviewと実践演習(Mock Quiz)

使用テキスト： 早川幸治 / 番場直之 著(2023)GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC? L&R TEST 全パート・全頻出！
TOEIC? L&Rテスト実戦問題GIGA 金星堂
?橋恭?(2020)『TOEIC(R)L&Rテスト英単語 ゼロからスコアが稼げるドリル』 アルク

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
-テキスト(2冊)を購入したら、両方のテキストの学習用音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
-授業中に学習した内容が定着するように、ワークシートを中心に復習に重点をおいて学習すること。(復習なしではスコアアップやハイスコアの獲得はできません。)
-テキストに出てくるわからない単語は調べておく。
-毎回授業の冒頭で小テスト(穴埋めディクテーション、語彙、unit毎の復習等)を実施するので、指定された範囲の単語、表現の暗記、テキストの学習を計画的に行うこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り相談に応じますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項：

- ・この授業はTOEIC Listening& Readingテストの受験を予定している学生のための対策講座です。受講期間中にTOEIC(公開、IP)を受験することが求められます。
- ・この授業では授業時間中、及び課題の提出にeラーニングシステム(Moodle、Checklink)を使用します。
- ・この授業では前期の英語検定試験対策講座Aaで使用したテキストGIGA BOOSTER FOR THE TOEIC? L&R TESTのリーディング'セクション'だけを学習します。
- ・この授業は履修上限を原則30名とします。上限を超える履修希望者がいる場合は初回に人数調整を行います。(上限を超えた場合、抽選を実施します。テキストの購入は受講が確定してからにしてください。)
- ・この授業は英語と日本語の両方で行われます。

科目コード：12087

科目ナンバリング：EN10C10E

主な使用言語：日本語・英語

授業名(英文)：英語検定試験対策講座B b(English Proficiency Test Preparation B b)

担当者：佐々木 大和

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：本講義では、実践的英語力のさらなる育成のために、TOEIC試験で一定の得点を取得できる英語力（特に語彙、文法、リーディング、リスニング）を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、自分で第三者にTOEIC問題を解説できるようになるため、問題の解法などをしっかりと理解することを目指す。

キーワード：英語、TOEIC、リーディング、リスニング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で解説を受けた英語の語彙・文法・表現、および読んだ・聞いた内容を正確に理解する能力を身につけ、概ね最終課題の80%以上の項目に正確に解答できる。

評価方法：期末テスト・小テスト・課題

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：与えられたTOEICの問題を正確にわかりやすく解説することができる。

評価方法：課題レポート

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内において授業者からの発問への回答やペアワーク等の活動を非常に積極的にに行っていると認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象として勘案することがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の受講生の学修の妨げとなる行為や試験中の不正行為（カンニング）を行った場合は、減点や嚴重注意、失格の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第1回】オリエンテーション（授業の目的や授業の進め方、TOEIC等について）、自己英語力分析
【第2回】UNIT 8 Recruiting
【第3回】UNIT 9 Personnel
【第4回】「採用・求人」と「人事」に関するTOEIC問題演習
【第5回】UNIT 10 Advertising
【第6回】UNIT 11 Media
【第7回】「広告・宣伝」と「メディア」に関するTOEIC問題演習
【第8回】Unit 8～11のまとめ・発展問題演習③
【第9回】UNIT 12 Finance
【第10回】UNIT 13 Meetings
【第11回】「財務」と「会議・打ち合わせ」に関するTOEIC問題演習

- 【第12回】Unit 14 Sales& Marketing
- 【第13回】Unit 15 Seminar& Workshop
- 【第14回】「売上・販売促進」と「セミナー・研修」に関するTOEIC問題演習
- 【第15回】Unit 8～15の最終まとめ

使用テキスト: Koji Hayakawa・Naoyuki Bamba 著『GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST』(金星堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業毎にテキスト中の分からない単語や表現は調べる。また、授業内で指示された課題等にはしっかり取り組んで授業に臨むこと。そのために、授業外の学習に1時間半ほど時間を割くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。対応を求める場合は、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については、初回に伝える。

留意事項: ■この授業は英語と日本語の両方で行われる。
 ■授業には辞書(電子辞書でも可)を持ってくること。
 ■授業の様子を見て進度や予習内容、課題を変更することがあるので、授業中の指示には注意すること。

科目コード:12088 科目ナンバリング:EN10C11E 主な使用言語:日本語/英語

授業名(英文): 英語検定試験対策講座C(English Proficiency Test Preparation C)

担当者: 上村 由美

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格:

AL要素: 05 即時応答
 07 発表
 08 協同学習
 10 資料調査
 16 振り返り用紙と応答
 17 発問と回答

授業の概要: TOEFL ITP対策のための授業です。TOEFL ITPは、団体受験用試験で、スコアはその受験実施団体内でのみ有効とされます。在学中に留学を考えている方や、今後 TOEFLを受験し 留学や就職先でのキャリアアップを考えている方は、TOEFL学習の入り口として捉えるとよいでしょう。授業では教科書の問題を中心に解いていきます。TOEFL ITPの問題は4者択一となっていますが、受け身の学習ではなく積極的に練習・復習問題に取り組み、問題の分析・理解を深め解法を習得していきましょう。TOEFLのスコアアップには、授業外での学習も欠かせません。各自学習計画を立てて、スコアアップに取り組みましょう。

キーワード: TOEFL ITP, TOEFL, Listening, 文法、リーディング、読解

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業での解説や練習を通して得たTOEFL ITP攻略に必要な知識、技術を活用し、Post-testで60%～70%正確に解答することができる。

評価方法: Post-test (Final)

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書Practice testの解説と練習問題の作成・解説を行うことができる。

評価方法: Practice Testの問題の解説(口頭)

評価割合: 30%

文法練習問題の作成と解説

▼学修に主体的に取り組む態度

実践的ボランティア参照。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業外での自主学習時間を初回に各自で設定してもらい(例えば3時間)、その達成度を単語クイズ、熟語クイズ、リスニングクイズなどで評価する。

評価割合: 20%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や演習問題などに人権侵害・差別的記述など著しく公正性を欠く言動を認めたり、練習問題の解答などが他の受講者と著しく類似している場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. Course Introduction & Pre-test Listening
 2. Listening and Pre-test Grammar
 3. Listening and Pre-test Reading
 4. Listening and Practice Test 1(演習と解説、練習問題)
 5. Listening and Practice Test 1(演習と解説、練習問題)
 6. Listening and Practice Test 1(演習と解説、練習問題)
 7. Listening and Practice Test 2(演習と解説、練習問題)
 8. Listening and Practice Test 2(演習と解説、練習問題)
 9. Listening and Practice Test 2(演習と解説、練習問題)
 10. Listening and Practice Test 3(演習と解説、練習問題)
 11. Listening and Practice Test 3(演習と解説、練習問題)
 12. Listening and Practice Test 3(演習と解説、練習問題)
 13. Listening and Practice Test 3(演習と解説、練習問題)
 14. Review
 15. Review
 16. Final

使用テキスト: ポール・ワーデン、ロバート・ヒルキ、藤井哲郎 『完全攻略! TOEFL ITP テスト 模試4回分』 アルク

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中のみTOEFL ITPの練習をするのではなく、各自で学習計画を立て、リスニング、文

法、長文読解など演習・復習を繰り返しましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： アポイントメントかメールにて対応します。連絡先などは初回にお知らせします。

留意事項： できる限りデバイスを持参してください。

この授業は、日本語／英語で行われる。

この科目は履修者数を20名程度とする。これを超える場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。

科目コード：12091 科目ナンバリング：EN20C50E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：旅行業務資格講座(Tourism Certificate Test Preparation)

担当者：小川 裕嗣

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc W F N M

関連資格：

AL要素：18. その他

授業の概要： 旅行業務取扱管理者は、旅行業界唯一の国家資格です。国家試験が実施されており、旅行会社で旅行商品を販売するための国家資格として認定されているものです。この授業では、前半は、旅行業法の中身を詳しく解説します。後半は、旅行業約款を、「旅行者の責任」という消費者保護の考え方を中心に説明します。なお、旅行業協会での実務経験を活かし、問題の再発防止のために旅行業法が整備されていった経緯、旅行業約款の整備が旅行業界に与えた影響などについてできるだけ具体的な事例を紹介し、旅行商品売買の法律的な取扱いが身近な、ごく日常的な問題だと感じられるような授業にしていきたいと思えます。

キーワード： 国家試験、登録制度、営業保証金、旅行業務取扱料金、旅行者の責任

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 「旅行業法」と「旅行業約款」は、国家試験の試験科目です。授業で受けた解説により、この国家試験の問題の概ね80%を解くことができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容について、これまでに身に着けている知見や経験を踏まえて考察し、簡潔に自らの所見を表現することができる

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	旅行業務取扱管理者試験の概要 旅行業法の目的 登録制度(1)
	第2回	旅行業法 登録制度(2) 営業保証金制度
	第3回	旅行業法 旅行業務取扱管理者 外務員 旅行業務取扱料金 取引条件の説明
	第4回	旅行業法 契約書面 旅行業約款 標識
	第5回	旅行業法 広告の記載事項 旅程管理業務 旅程管理主任者 受託契約
	第6回	旅行業法 旅行者代理業者 禁止行為 業務停止と登録の取消し
	第7回	旅行業法 旅行サービス手配業
	第8回	旅行業法 旅行業協会
	第9回	旅行業約款 約款の適用範囲 通信契約 契約の申込み 契約内容の変更
	第10回	旅行業約款 契約の解除 団体・グループ契約 旅程管理の業務内容
	第11回	旅行業約款 旅行代金の変更 契約の解除
	第12回	旅行業約款 旅行者の責任(1) 旅程保証、損害賠償
	第13回	旅行業約款 旅行者の責任(2) 特別補償
	第14回	受注型企画旅行契約 手配旅行契約 その他の約款
	第15回	まとめ
		定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は全てUNIPAの「授業資料」に掲示する。授業に出席の際には印刷して持参すること

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料としてUNIPAに掲載されている各回の資料を読んで、
・授業前に、各回の分からない用語を調べる。
・授業後は、講義で解説された例題をもう一度解き直し、解法の理解を深める。参考資料として次の著作を推薦する。
『旅行業務取扱管理者試験 一発合格テキスト 2. 旅行業法・約款』(大原出版株式会社)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールアドレスへのアクセス可とします。学務部等に照会してください。

留意事項： 科目コード14173「旅行業I(約款・法令)(Travel Agent Business I(Laws and Ordinances))」と内容的に重複する部分が多いです。この科目と重複履修することは止めてください。

科目コード：12092 科目ナンバリング：EN21C04E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：秘書検定講座I a(Preparing for Secretarial Exam I a)

担当者：森本 敦司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 18その他

授業の概要： 本科目は、秘書職のみならず、広くオフィスワーカーに必要とされる基本理論を、具体的な問題演習などを通じて身につけることをその第一の目標とする。講義の構成は「Ⅰ 基本的な理論を学ぶ」、「Ⅱ 問題演習により秘書業務の基本を身につける」、「Ⅲ 問題演習によりビジネス常識を身につける」の3部構成をとり、秘書技能検定試験3級レベルの知識・技能の習得を目指す。あわせて、課題演習も授業の終わりに毎回実施し、より実践的な秘書理論の理解を促す。

キーワード： 秘書業務、ビジネスマナー、ビジネス常識、秘書技能検定試験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた基本的な知識、技能について、概ね 80% の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、毎回課題演習により理解を深めることができる。

評価方法： 課題演習

評価割合： 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 【第01回】オリエンテーション：秘書の定義、秘書に求められる理論と実践
- 【第02回】秘書の役割と機能
- 【第03回】職務に対する心構え
- 【第04回】上司の指示を正しく受ける心構え
- 【第05回】指示されたことを実行する能力
- 【第06回】上司に仕事に専念してもらうためになすべきこと
- 【第07回】秘書としての身だしなみと良識
- 【第08回】秘書に求められるパーソナリティ
- 【第09回】秘書の業務内容について
- 【第10回】秘書業務を効率的におこなうに当たってなすべきこと
- 【第11回】秘書業務の進め方：(1) マナー・接遇・技能
- 【第12回】秘書業務の進め方：(2) 上司の身の回りの世話・予定外の仕事
- 【第13回】秘書のマナーと心得
- 【第14回】話し方と人間関係

【第15回】まとめと総復習:配付資料の確認と講義の全体像の把握
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

参考資料
実務技能検定協会編『秘書技能検定試験3級実問題集』早稲田教育出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項: デバイスを持参すること。

科目コード:12092 科目ナンバリング:EN21C04E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 秘書検定講座I b(Preparing for Secretarial Exam I b)

担当者: 森本 敦司

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 18その他

授業の概要: 本科目は、秘書職のみならず、広くオフィスワーカーに必要とされる基本理論を、具体的な問題演習などを通じて身につけることをその第一の目標とする。講義の構成は「Ⅰ 基本的な理論を学ぶ」、「Ⅱ 問題演習により秘書業務の基本を身につける」、「Ⅲ 問題演習によりビジネス常識を身につける」の3部構成をとり、秘書技能検定試験3級レベルの知識・技能の習得を目指す。あわせて、課題演習も授業の終わりに毎回実施し、より実践的な秘書理論の理解を促す。

キーワード: 秘書業務、ビジネスマナー、ビジネス常識、秘書技能検定試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた基本的な知識、技能について、概ね 80% の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 筆記試験

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、毎回課題演習により理解を深めることができる。

評価方法: 課題演習

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション：秘書の定義、秘書に求められる理論と実践
【第02回】秘書の役割と機能
【第03回】職務に対する心構え
【第04回】上司の指示を正しく受ける心構え
【第05回】指示されたことを実行する能力
【第06回】上司に仕事に専念してもらうためになすべきこと
【第07回】秘書としての身だしなみと良識
【第08回】秘書に求められるパーソナリティ
【第09回】秘書の業務内容について
【第10回】秘書業務を効率的におこなうに当たってなすべきこと
【第11回】秘書業務の進め方：(1) マナー・接遇・技能
【第12回】秘書業務の進め方：(2) 上司の身の回りの世話・予定外の仕事
【第13回】秘書のマナーと心得
【第14回】話し方と人間関係
【第15回】まとめと総復習：配付資料の確認と講義の全体像の把握
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

参考資料
実務技能検定協会編『秘書技能検定試験3級実問題集』早稲田教育出版

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項： デバイスを持参すること。

科目コード：12093 科目ナンバリング：EN22C04E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：秘書検定講座II a(Preparing for Secretarial Exam II a)

担当者：森本 敦司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：18その他

授業の概要：「秘書検定講座Ia」で秘書に求められる基礎的知識を学んだうえで、より高度で複雑な電話応対、来客応対、慶弔業務、指示・報告の仕方など、上級秘書に必要なヒューマンスキル(ビジネスの場で要求される対人関係能力)を養う。上級秘書に求められる資質と能力について

理解し、より高度な深い知識と技能を身につける。また、秘書技能検定試験2級、準1級の受験指導も行い、就職試験対策としても役立つ講義とする。

キーワード： 秘書業務、ビジネスマナー、ビジネス常識、秘書技能検定試験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた基本的な知識、技能について、概ね 80% の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、毎回課題演習により理解を深めることができる。

評価方法： 課題演習

評価割合： 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 【第01回】オリエンテーション:この授業の到達目標と概略
- 【第02回】企業の組織形態
- 【第03回】秘書として備える要件、役割と機能
- 【第04回】秘書とコミュニケーション
- 【第05回】指示・報告の仕方
- 【第06回】人間関係と話し方
- 【第07回】電話応対
- 【第08回】企業における交際業務
- 【第09回】贈答のしきたり
- 【第10回】模擬問題
- 【第11回】ビジネス文書の作成
- 【第12回】会議の知識
- 【第13回】ファイリングと資料管理、模擬問題
- 【第14回】ビジネス基礎用語と模擬問題
- 【第15回】秘書検定受験指導、および総まとめ定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

参考資料
実務技能検定協会編『秘書技能検定試験2級実問題集』早稲田教育出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項： デバイスを持参すること。

科目コード：12093 科目ナンバリング：EN22C04E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：秘書検定講座II b(Preparing for Secretarial Exam II b)

担当者：森本 敦司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：18その他

授業の概要：「秘書検定講座Ib」で秘書に求められる基礎的知識を学んだうえで、より高度で複雑な電話応対、来客応対、慶弔業務、指示・報告の仕方など、上級秘書に必要なヒューマンスキル(ビジネスの場で要求される対人関係能力)を養う。上級秘書に求められる資質と能力について理解し、より高度な深い知識と技能を身につける。また、秘書技能検定試験2級、準1級の受験指導も行い、就職試験対策としても役立つ講義とする。

キーワード： 秘書業務、ビジネスマナー、ビジネス常識、秘書技能検定試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた基本的な知識、技能について、概ね 80% の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、毎回課題演習により理解を深めることができる。

評価方法： 課題演習

評価割合： 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション:この授業の到達目標と概略
【第02回】企業の組織形態
【第03回】秘書として備える要件、役割と機能
【第04回】秘書とコミュニケーション
【第05回】指示・報告の仕方
【第06回】人間関係と話し方
【第07回】電話応対
【第08回】企業における交際業務
【第09回】贈答のしきたり
【第10回】模擬問題
【第11回】ビジネス文書の作成
【第12回】会議の知識
【第13回】ファイリングと資料管理、模擬問題
【第14回】ビジネス基礎用語と模擬問題
【第15回】秘書検定受験指導、および総まとめ定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

参考資料

実務技能検定協会編『秘書技能検定試験2級実問題集』早稲田教育出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項： デバイスを持参すること。

科目コード：12097 科目ナンバリング：EN20C51E 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：英語教員採用試験対策講座(English Teacher Employment Exam Preparation)

担当者：相原 和恵

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07.発表

08.協同学修

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

15.レポート指導

17.発問と回答

授業の概要： 本授業では茨城県教員採用試験の口述試験・集団討論・模擬授業に焦点を当て、中学校及び高等学校の英語教師に必要な知識やスキルを身に付けていきます。基本的な授業タスクは次のとおりです。

- (1) 教育用語の学習
 - (2) 口述試験の練習
 - (3) レポート発表または集団討論の練習
 - (4) 教材検討会または模擬授業の練習
- 担当教員の茨城県公立中学校英語教員としての実務経験を活かし、教育現場の事例を紹介しながら授業を進めていきます。

キーワード： 学習指導要領、英語教育と英語科教育、教員採用試験、口述試験、集団討論、模擬授業、教材研究、英語教員に必要な知識とスキル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 英語教員に必要な知識の概ね80%を理解することができる。

評価方法： 小テスト
発表

評価割合： 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 英語教員に必要な知識とスキルを理解し、それを踏まえて自分の考えや自分のデザインする授業と教材について文字言語と音声言語で表現することができる。またクラスメートの発表を聞いてその内容について自分の意見を表現することができる。

評価方法： スピーチ原稿作成と発表
レポート作成と発表
教材作成と発表

評価割合： 75%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修によって得た知識がスピーチ・レポート・教材の発表と内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やテスト等において公平性を欠く表現や行為等があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第1回】オリエンテーション、教員採用試験から見た英語教師に必要な知識とスキル、口述試験について、口述試験の練習と解説①(志望動機)
【第2回】英語教師の資質(口述試験の練習と解説②)
【第3回】英語学習の意義(口述試験の練習と解説③)
【第4回】心に響いた言葉(口述試験の練習と解説④)
【第5回】生徒にすすめたい本(口述試験の練習と解説⑤)
【第6回】集団討論について、集団討論の評価①(Team Teaching)
【第7回】理想の授業(レポート発表または集団討論②)
【第8回】英語学習者の心理(レポート発表または集団討論③)
【第9回】教材研究(レポート発表または集団討論④)
【第10回】評価(レポート発表または集団討論⑤)

- 【第11回】模擬授業について、教材検討会または模擬授業①(Oral Interaction)
- 【第12回】Listening指導(教材検討会または模擬授業②)
- 【第13回】Reading指導(教材検討会または模擬授業③)
- 【第14回】Speaking指導(教材検討会または模擬授業④)
- 【第15回】Writing指導(教材検討会または模擬授業⑤)

使用テキスト: 授業で使用する資料は印刷・配付します。
英語科教育法の履修者はそのテキストと中学校英語教科書を持参してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・毎回教育用語に関する小テストを実施しますので学習しておいてください。
- ・スピーチ原稿作成・レポート執筆・教材作成の際には、学習指導要領、文部科学省HP、茨城県教育委員会HP、教育関連の記事等を参考にしてください。
- ・教育用語の学習、レポート執筆、教材作成、模擬授業の練習等、毎回60分程度の準備と学習が必要です。
- ・本授業は個別での学習が難しい口述試験・集団討論・模擬授業に焦点を当てますが、授業外では教員採用試験の参考書や問題集を使って試験に向けての学習を進めたり、日頃から教育関連の記事に触れることをおすすめします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段:

- ・オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。
- ・必要に応じてIC-UNIPAやIC-Mailを使用して連絡をしますので、週に1~2度は確認をしてください。担当者のメールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項:

- ・本授業は英語と日本語で行います。
- ・教職を志望し英語教員に必要な英語力を伸ばしたい学生に向いている科目です。
- ・スピーチ原稿とレポートにはコメントを付記し、スピーチ発表・集団討論・教材作成・模擬授業は事前に示す評価基準に基づいて評価票を作成します。

科目コード: 12105 科目ナンバリング: EN11A02E 主な使用言語: English

授業名(英文): Audio Visual English I(Audio Visual English I)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次: 1 単位数: 1 授業形式: 演習
 曜時: 水曜2限 履修可能学科・専攻: E
 関連資格: AL要素: 17 発問と回答

授業の概要: 特例期間中の授業形態: 遠隔授業(オンデマンド型)

This course aims to build on student listening abilities and increase vocabulary used in everyday conversation. Students will also learn about cultural differences between Japan and America and will be exposed to many metaphors and slang used in daily conversation.

キーワード: vocabulary
 listening comprehension
 intercultural understanding
 flexibility

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: English-language listening skills, vocabulary, cultural understanding

評価方法: Weekly homework **評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Learning to differentiate meanings of vocabulary items differing within a variety of contexts

評価方法: Online quizzes

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Homework will be offered in an on-demand style and must be submitted through moodle. Students will be required to do homework every week and two quizzes during the semester. Accordingly, it is essential for students to be punctual with their preview and review studies.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

Questions and input from students is valued and encouraged. Both of these will help create a more communicative classroom facilitating a common understanding of the needs and desires of the students.

評価割合: 0%

▼その他

The online vocabulary lists and weekly quizzes discussed in the skills section above are to be completed as homework, both as preparation and review. The preparation and review will be an important part of your grade. Failure to complete these tasks will result in a failing grade.

評価割合: The online vocabulary lists and wee

授業計画: There are two parts in each class. In the first part, students will learn about different nuances in the difference between Japanese and English. In the second part, students will watch an American television series in order to help them improve their listening and vocabulary.

One episode will be shown and explained every week. There will be two quizzes. Students are required to answer questions on an online forum every week.

Week 1 Course explanation, preparation, familiarization with class website

Week 2 Episode 1

Week 3 Episode 2

Week 4 Episode 3

Week 5 Episode 4

Week 6 Episode 5

Week 7 Episode 6

Week 8 Quiz 1

Week 9 Episode 7

Week 10 Episode 8

Week 11 Episode 9

Week 12 Episode 10

Week 13 Episode 11

Week 14 Episode 12

Week 15 Quiz 2

使用テキスト: None. Worksheets and homework will be available on moodle.

Students who apply to study online must be able to watch the show at home through a streaming service of their choice.

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** Grading: Homework 60%, Quizzes 40%

Students should prepare a notebook for checking and logging vocabulary and expressions

covered in the class. They should also prepare to learn multiple meanings for items for which there are more than one meanings.

A good English-Japanese dictionary is also required.

障がいのある履修者への対応: Efforts will be made to ensure every student is treated fairly. Students with particular needs should contact the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Students are invited to use the teacher's university email address announced in class.

留意事項: The schedule is tentative and may change according to student needs, abilities or interests.

IMPORTANT: The contents and delivery of this class may be subject to change depending upon changing external circumstances.

科目コード:12106 科目ナンバリング:EN12A02E 主な使用言語: English

授業名(英文): Audio Visual English II(Audio Visual English II)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 17 発問と回答

授業の概要: 特例期間中の授業形態:遠隔授業(オンデマンド型)

This course aims to build on student listening abilities and increase vocabulary used in everyday conversation. Students will also learn about cultural differences between Japan and America and will be exposed to many metaphors and slang used in daily conversation.

キーワード: vocabulary
listening comprehension
intercultural understanding
flexibility

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: English-language listening skills, vocabulary, cultural understanding

評価方法: Weekly homework

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Learning to differentiate meanings of vocabulary items differing within a variety of contexts

評価方法: Online quizzes

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Homework will be offered in an on-demand style and must be submitted through moodle. Students will be required to do homework every week and two quizzes during the semester. Accordingly, it is essential for students to be punctual with their preview and review studies.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

Questions and input from students is valued and encouraged. Both of these will help create a more communicative classroom facilitating a common understanding of the needs and desires of the students.

評価割合 : 0%

▼その他

The online vocabulary lists and weekly quizzes discussed in the skills section above are to be completed as homework, both as preparation and review. The preparation and review will be an important part of your grade. Failure to complete these tasks will result in a failing grade.

評価割合 : The online vocabulary lists and wee

授業計画 : There are two parts in each class. In the first part, students will learn about different nuances in the difference between Japanese and English. In the second part, students will watch an American television series in order to help them improve their listening and vocabulary.

One episode will be shown and explained every week. There will be two quizzes. Students are required to answer questions on an online forum every week.

Week 1 Course explanation, preparation, familiarization with class website

Week 2 Episode 13

Week 3 Episode 14

Week 4 Episode 15

Week 5 Episode 16

Week 6 Episode 17

Week 7 Episode 18

Week 8 Quiz 1

Week 9 Episode 19

Week 10 Episode 20

Week 11 Episode 21

Week 12 Episode 22

Week 13 Episode 23

Week 14 Episode 24

Week 15 Quiz 2

使用テキスト : None. Worksheets and homework will be available on moodle.

Students who apply to study online must be able to watch the show at home through a streaming service of their choice.

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等** : Grading: Homework 60%, Quizzes 40%

Students should prepare a notebook for checking and logging vocabulary and expressions covered in the class. They should also prepare to learn multiple meanings for items for which there are more than one meanings.

A good English-Japanese dictionary is also required.

**障がいのある
履修者への対応** : Efforts will be made to ensure every student is treated fairly. Students with particular needs should contact the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段 : Students are invited to use the teacher's university email address announced in class.

留意事項 : The schedule is tentative and may change according to student needs, abilities or interests.

IMPORTANT: The contents and delivery of this class may be subject to change depending upon changing external circumstances.

科目コード:12107

科目ナンバリング:EN21C01E

主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文): Audio Visual English III(Audio Visual English III)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: アメリカで放映されたテレビドラマの映像を教材に用いて、口語英語の表現に積極的に触れ、文脈から未知の表現の意味と用法を推測できる能力を養い、既知の表現については理解を深め、積極的に使えるようになることを目指す。

キーワード: 口語英語
Form / Meaning / Use

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 未知の英語表現に出会った時、辞書に頼る前にその意味・用法を推測できる。
既知の英語表現を受動的に理解できるだけでなく、能動的に使うことができる。

評価方法: 授業内での発問に対する回答
小テスト
学期末のノート提出

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 話し言葉特有の表現については、書き言葉で使うのが望ましくない場合があるということを理解し、そのような場合、書き言葉ではどのような代替表現が望ましいかを判断できる。

評価方法: 授業内での発問に対する回答
小テスト
学期末のノート提出

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内容を積極的にノートテイクすることができる。
復習時にノートに自ら調べた内容を書き加えることができる。

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他人のノートの丸写し等の不正行為には厳重に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: Episode 1-1
第02回: Episode 1-2
第03回: Episode 1-3
第04回: Episode 2-1
第05回: Episode 2-2
第06回: Episode 2-3
第07回: Episode 3-1

- 第08回: Episode 3-2
- 第09回: Episode 3-3
- 第10回: Episode 4-1
- 第11回: Episode 4-2
- 第12回: Episode 4-3
- 第13回: Episode 5-1
- 第14回: Episode 5-2
- 第15回: Episode 5-3

使用テキスト: アメリカで放映されたテレビドラマ Gossip Girl の Season 1 の映像を使用

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: ドラマの登場人物やストーリーの概要についての情報を得ておく。
 復習: ノートの余白に口語表現を理解し、使用するために必要な情報を書き加える。
 参考文献・資料等: 授業時に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項: ノート代金として220円(税込)を徴収します。

科目コード: 12109 **科目ナンバリング:** EN20C21E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): エアライン演習A(Airline English Practicum A)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: 2	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 集中講義	履修可能学科・専攻: E	
関連資格:	AL要素: 03.実験・実技・体験 07.発表 09.実地調査 13.役割演技と疑似体験	

授業の概要: 客室乗務員やグランドスタッフとしての知識や技能を学ぶ。空港施設見学に加えて、航空業界就職対策、フライトアテンダント実務、英会話面接対策、航空券発券業務など一通りの航空業務を研修する。航空業界への就職の意欲をもってもらい、またキャリア実現のスタートラインに立つ意欲をもってもらい、まえもって事前学習パンフレットを記入完成し、事後に研修パンフレットと報告書を記入完成して提出してもらおう。

キーワード: 英語、エアライン、イメージアップ、キャビンアテンダント、グランドスタッフ、ホスピタリティマインド、ヒューマンケア

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 航空業界に関する深い知識や英語力、航空業界に必要な適性・自己表現力・コミュニケーション力を習得する。

評価方法: 授業出席と、課題 **評価割合:** TBA

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 学生が持つ航空業界への興味がより深くなり、業界へ就職を現実として考えるようになる。

また、語学力をアップさせながら、積極的にコミュニケーションをとれる自己表現力や、業界に必要な知識を身につけられることを期待する。

評価方法: 授業出席と、課題 **評価割合:** TBA

▼学修に主体的に取り組む態度

原則、すべての授業への出席が必要です。

評価割合：TBA

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。

評価割合：TBA

▼公正性

授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合：TBA

▼その他

航空業務についての模擬的集中研修をして、エアラインスタッフとしての知識・技能を学ぶ。

評価割合：航空業務についての模擬的集中研

授業計画： 本講義は集中講義です。

1日5時間(1時間60分)、6日間の授業を、航空業専門学校のスタッフが本学で行う。ほかに1日は、成田空港若しくは羽田空港に出向いて、税関、空港施設、モックアップ、スタッフ打ち合わせ、などの見学をする。事前学習、事後学習をそれぞれ数回行う。

使用テキスト： 事前学習パンフレット、事前研修パンフレット、報告書が手渡される。

予習・復習のポイントと 学習会にてアナウンスします。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。

留意事項： ・本講義の受講者数は、最大18名まで。
・個人負担費用として6～8万円程度(予定)を用意できること。
・事前に2度の学習会があるので、かならず予習をして臨むこと。
・集中講義のため、全出席することが極めて重要となります。
・最少催行人数(10名)の申し込みがない場合は、授業は中止になります。

科目コード：12111

科目ナンバリング：EN10C06E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：翻訳入門(Introduction to Translation)

担当者：菅野 弘久

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：討論 レポート指導

授業の概要： 日本の近代化を進める上で大きく影響した翻訳について、背景にある翻訳論と実際に翻訳されたものをもとに考えます。

キーワード： 翻訳, 翻訳論, 異文化コミュニケーション, 近代化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 明治時代からの主要な翻訳論について、その内容を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法：学期末レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：それぞれの翻訳論の相違点と共通点を理解した上で、それらを現在の文化的状況から評価し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法：学期末レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末レポートの記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や学期末レポートの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：翻訳の理論
第2回：文化と翻訳
第3回：文明開化と翻訳
第4回：明治・大正の翻訳論
第5回：近代科学と翻訳
第6回：聖書・讃美歌の翻訳
第7回：詩歌の翻訳
第8回：小学唱歌と翻訳
第9回：翻訳と翻案
第10回：シェイクスピアの翻訳(1)(明治・大正)
第11回：シェイクスピアの翻訳(2)(昭和・平成)
第12回：児童文学と翻訳
第13回：昭和・平成の翻訳論
第14回：職業としての翻訳
第15回：翻訳文化

使用テキスト： とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習ではシラバスを参照して、授業で取り上げる翻訳論について概要をつかむ。復習では、言及されている作品・事項について確認し、原典への理解を深める。参考書として、柳父章『翻訳とはなにかー日本語と翻訳文化』(法政大学出版, 1976年)、亀井俊介編『近代日本の翻訳文化』(中央公論社, 1994年)、柳父章『近代日本語の思想ー翻訳文体成立事情』(法政大学出版局, 2017年)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：12115

科目ナンバリング：EN20C41E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 英語文学講読(Readings in English Language Literature)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 輪読活動

授業の概要: 20世紀イギリス文学を代表する作家の短編作品を精読します。語学的に正しく作品を読むこと、次に想像力をふくらませながら作品を読むこと、とくにこの2点を意識して読んでいきます。原文で作品を読める英語力を養うとともに、物語の背景にあるイギリスの歴史や文化について学んでいきます。

キーワード: イギリス文学, 20世紀, 短編小説, モダニズム, 文化史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 20世紀イギリス文学の短編小説を読んで味わえるための英語力を身につける。20世紀イギリス文学・文化の基本的な背景について理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 文学作品を読んで、その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ その他

とくになし。

評価割合: とくになし。

授業計画: 第1回:20世紀イギリス小説について
第2回:Kazuo Ishiguro, "A Family Supper" (1)
第3回:Kazuo Ishiguro, "A Family Supper" (2)
第4回:Kazuo Ishiguro, "A Family Supper" (3)
第5回:Muriel Spark, "The House of the Famous Poet" (1)
第6回:Muriel Spark, "The House of the Famous Poet" (2)
第7回:Muriel Spark, "The House of the Famous Poet" (3)
第8回:Graham Greene, "The Invisible Japanese Gentleman"
第9回:David Lodge, "Hotel des Boobs" (1)
第10回:David Lodge, "Hotel des Boobs" (2)
第11回:David Lodge, "Hotel des Boobs" (3)

- 第12回: Julian Barnes, “One of Kind” (1)
- 第13回: Julian Barnes, “One of Kind” (2)
- 第14回: Julian Barnes, “One of Kind” (3)
- 第15回: 全体のまとめ

使用テキスト: Malcolm Bradbury, ed., The Penguin Book of Modern British Short Stories (Penguin Books, 1987).
使用する箇所については担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習では授業で読むテキストの当該箇所を、辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと。復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること。またできるだけイギリスの小説を読む機会(日本語訳で可)を増やすこと。参考書として、イギリス文学初心者には読みやすい、ジョン・サザーランド著(河合祥一郎訳)『若い読者のための文学史』(すばる舎, 2020年)。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード: 12116 **科目ナンバリング:** EN30C07K **主な使用言語:** English

授業名(英文): 地域研究(英語圏)(Area Studies (English-speaking Societies))

担当者: Yoshiba, David C.

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 04 課題解決
05 即時応答
11 討論
17 発問と回答

授業の概要: A common misconception among students is that English-speaking countries are more similar than they actually are. This class will examine the geography, societies, and the peoples of various English-speaking countries and explore their similarities and their differences. This will enrich students' understanding of the variety of these various countries and gain a new insight into international understanding.

キーワード: international understanding, geography, resources, comparative cultures

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: This class will examine the geography, peoples, societies, and political systems of especially the UK, US, and Australia, in addition to others. Students will acquire a detailed understanding of the similarities and differences among these countries.

評価方法: Final examination

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be required to search for answers to questions and answer quizzes to develop their investigative abilities and further their understanding of the materials presented in class.

評価方法: Weekly online quizzes and homework

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

In order to further their understanding of the materials, students will be required to find answers to questions to weekly quizzes as described above. The aim of this is to encourage students to investigate and research the subject on their own.

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

Students are invited to share their acquired understanding with others to broaden international understanding generally.

評価割合：0%

▼公正性

Fairness and honesty are two of the topics covered in this class. There is no separate grade included for these topics. However, they will be included in the overall grade as described above.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Week 1: Introduction to class
Week 2: What is in a name? Place names in the UK and what they tell us
Week 3: Place names in the US and what they tell us.
Week 4: Place names in former colonies
Week 5: The importance of resource
Week 6: The basic geography of the UK
Week 7: The basic geography of the US and Canada
Week 8: The basic geography of Australia, New Zealand, and the Caribbean
Week 9: The basic geography of other English-speaking countries
Week 10: Comparing the political systems of the US, UK, and Australia
Week 11: Comparing the societies of the US, UK, and Australia
Week 12: Populations and ethnic diversity in the US, UK, and Australia
Week 13: Regional differences in the US and UK
Week 14: International relations among English-speaking countries
Week 15: Course review
Week 16: Final test

使用テキスト： Materials specific to this class will be introduced in the first class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： Students should become very familiar with how to use online map resources.

障がいのある履修者への対応： Consideration of the needs of those with disadvantages will be made according to the nature of their disadvantages. Additional information may be provided to the student concerning how their personal difficulty is addressed in the country where they are planning to study.

授業時間外の連絡手段： Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項： This class will be taught mostly in English, with Japanese limited to the language being discussed as the subject.

科目コード：12117 科目ナンバリング： 主な使用言語：English, with key w
授業名(英文)：日本文化発信演習(Practice in Transmitting Japanese Culture)
担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：05即時応答
07発表
11討論

授業の概要：

特例期間中の授業形態：遠隔授業(同時双方型)

This class will consider various aspects of "traditional" Japanese culture through bilingual texts. Students will attempt to explore this culture through the eyes of non-Japanese people in order to understand what may or may not be the understanding in others of Japanese culture. It will also consider sources of "official culture" such as "omotenashi" and "cool Japan" and how that can be transmitted and for what purposes.

キーワード： Cross-cultural communication, cross-cultural understanding, self-exploration

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

Students will be exposed to how Japanese culture is explained in English and how Japanese cultural artifacts are labeled in English.

評価方法： Weekly quizzes

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： This class has as its final goal a deepening in students' understanding of their own traditional culture and increased ability to describe and discuss their culture. It will also consider sources of "official culture" such as "omotenashi" and "cool Japan."

評価方法： Students will create two short videos to be placed on the class website. Students will peer-evaluate the videos in addition to teacher evaluation.

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be required to demonstrate their understanding of the course contents every week of the class. They will need to read both the English and Japanese version of the texts in order to understand not only the concepts but the linguistic content, as well.

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

While volunteerism is not included as a graded category, the nature of this course is to encourage discussion of cultural themes as a voluntary activity.

評価割合：0%

▼公正性

All students will be treated equally. Additionally, expressions of "cultural superiority" or cultural tropes will not be allowed.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1週：神道と佛教

- 第2週:茶道
- 第3週:書道
- 第4週:折紙
- 第5週:生け花
- 第6週:“Cool Japan”、小テスト1
- 第7週:狂言
- 第8週:能
- 第9週:歌舞伎
- 第10週:文楽
- 第11週:漫才, “Omotenashi”
- 第12週:落語、小テスト2
- 第13週:柔道
- 第14週:空手
- 第15週:合気道、小テスト3

使用テキスト: 日本の伝統的文化、山本素子著、IBCパブリッシングISBN978-4-7946-0033-2

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: As written above, students will need to prepare for class each week in advance. They will also need to need to answer quiz questions, the answers for which might only be provided during class time.

The short video presentations will require several hours each of preparation.

障がいのある履修者への対応: The teacher will endeavor to assist any student with disabilities as far as is appropriate for the class. Any disabilities or difficulties should be reported to the student affairs office. Students may feel free, if they choose, to discuss any problems directly with the teacher.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher’s office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項: 教科書には日本語の対訳があるが授業は全て英語で行なわれるため、学生はできる限り英語の内用を理解する必要がある。

科目コード: 12120 **科目ナンバリング:** EN10C30K **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): 英語教材論(児童)(TEFL Material Design (Primary School))

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜6限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 小学英語

AL要素: 10: Resource research

13: Role playing

授業の概要: This course helps you explore materials for teaching English to elementary school students. You will first understand the difference between the activity-type instruction for 3rd and 4th graders and the subject-type instruction for 5th and 6th graders. Subsequently, you will study the characteristics of standard teaching materials and consider their appropriate use depending on the instructional context. You will also learn how to interact with students in English or elicit responses from them and practice these skills in micro-teaching.

キーワード: teaching materials, English activities, English as an academic subject, classroom English

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・Students can understand the difference in instructional goals of the activity-type and the subject-type English classes.
・Students can understand the importance of classroom English and correctly use various expressions.

評価方法: Review test

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students can select or create appropriate teaching materials and use them while communicating with students.

評価方法: Micro-teaching reports

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students engage in autonomous learning on a daily basis. They should improve their English communication skills and explore teaching materials for children to expand their repertoire.

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

Students are expected to share their works to enhance each other's learning experience.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.

評価割合: 0%

▼ その他

Not applicable

評価割合: Not applicable

授業計画: 第01回: Course introduction
第02回: Autonomous learning assignment explanation
第03回: Selecting materials for 3rd and 4th graders
第04回: Selecting materials for 5th and 6th graders
第05回: Classroom English& Interaction
第06回: Review test& autonomous learning peer check
第07回: Visual materials - lecture
第08回: Visual materials - practice
第09回: Audio materials - lecture
第10回: Audio materials - practice
第11回: Audio visual materials - lecture
第12回: Audio visual materials - practice
第13回: ICT materials - lecture
第14回: ICT materials - practice
第15回: Course reflection& wrap-up

使用テキスト: None. The class materials will be provided by the instructor as needed.

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** ・Complete homework before coming to class.
・Review the content covered in class& explore other online resources for the autonomous learning assignment.

**障がいのある
履修者への対応:** Students with special needs will receive necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.

授業時間外の連絡手段: During the office hours or by email. The details will be explained in the first class.

- 留意事項：**
- ・This class will be taught primarily in English with explanations in Japanese as needed.
 - ・This class will use Microsoft Teams for announcements, communication, and assignment distribution& submission.
 - ・Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone) as much as possible.

科目コード：12121 科目ナンバリング：EN31C01E 主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：英語教育実践研究(幼児)I a(Theory and Practice in TEFL (Preschool) I a)

担当者：高木 有美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：02: 模擬実践

13: 役割演技と疑似体験

16: 振り返り

授業の概要： この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行くことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード： 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。
・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法： 実習記録、
作成教材報告書

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回：歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動の researched と実践練習
第03回：実習1の計画及び準備
第04回：実習の準備及び実習1
第05回：実習2の計画及び準備
第06回：実習の準備及び実習2
第07回：実習3の計画及び準備
第08回：実習の準備及び実習3
第09回：実習4の計画及び準備
第10回：実習の準備及び実習4
第11回：実習5の計画及び準備
第12回：実習の準備及び実習5
第13回：実習6の計画及び準備
第14回：実習の準備及び実習6
第15回：実習の振り返りとまとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。
参考文献・資料等： ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項： ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参すること。

科目コード：12121 科目ナンバリング：EN31C01E 主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：英語教育実践研究(幼児)I b(Theory and Practice in TEFL (Preschool) I b)

担当者：高木 有美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：02: 模擬実践
13: 役割演技と疑似体験
16: 振り返り

授業の概要： この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行くことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード： 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。

・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回:オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回:歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動のリサーチと実践練習
第03回:実習1の計画及び準備
第04回:実習の準備及び実習1
第05回:実習2の計画及び準備
第06回:実習の準備及び実習2
第07回:実習3の計画及び準備
第08回:実習の準備及び実習3
第09回:実習4の計画及び準備
第10回:実習の準備及び実習4
第11回:実習5の計画及び準備
第12回:実習の準備及び実習5
第13回:実習6の計画及び準備
第14回:実習の準備及び実習6
第15回:実習の振り返りとまとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイント ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。

参考文献・資料等: ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項: ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメ

ントなど)には Microsoft Teamsを利用する。

・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回で
きるだけ持参すること。

科目コード:12122 科目ナンバリング:EN32C01E 主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文):英語教育実践研究(幼児)II a(Theory and Practice in TEFL (Preschool) II a)

担当者:高木 有美

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻:E

関連資格:

AL要素:02:模擬実践

13:役割演技と疑似体験

16:振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行うことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。

・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回:オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について

- 第02回: 歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動の researched と実践練習
- 第03回: 実習1の計画及び準備
- 第04回: 実習の準備及び実習1
- 第05回: 実習2の計画及び準備
- 第06回: 実習の準備及び実習2
- 第07回: 実習3の計画及び準備
- 第08回: 実習の準備及び実習3
- 第09回: 実習4の計画及び準備
- 第10回: 実習の準備及び実習4
- 第11回: 実習5の計画及び準備
- 第12回: 実習の準備及び実習5
- 第13回: 実習6の計画及び準備
- 第14回: 実習の準備及び実習6
- 第15回: 実習の振り返りとまとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。
 ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項: ・履修者数を20名程度とする。
 ・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
 ・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teams を利用する。
 ・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回で
 きるだけ持参すること。

科目コード: 12122 **科目ナンバリング:** EN32C01E **主な使用言語:** 日本語と英語

授業名(英文): 英語教育実践研究(幼児)II b(Theory and Practice in TEFL (Preschool) II b)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 02: 模擬実践
 13: 役割演技と疑似体験
 16: 振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行うことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。
 ・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回:オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回:歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動のリサーチと実践練習
第03回:実習1の計画及び準備
第04回:実習の準備及び実習1
第05回:実習2の計画及び準備
第06回:実習の準備及び実習2
第07回:実習3の計画及び準備
第08回:実習の準備及び実習3
第09回:実習4の計画及び準備
第10回:実習の準備及び実習4
第11回:実習5の計画及び準備
第12回:実習の準備及び実習5
第13回:実習6の計画及び準備
第14回:実習の準備及び実習6
第15回:実習の振り返りとまとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。

参考文献・資料等: ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項: ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回で
きるだけ持参すること。

科目コード:12123

科目ナンバリング:EN31C02E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 英語教育実践研究(児童) a(Theory and Practice in TEFL (Primary School) a)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 小学英語

AL要素: 実習

授業の概要: 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード: 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法: 実習記録および作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)

第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」

第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術

第4回: 教材開発の原理と教材作成

第5回: 大みか小学校での授業実習①

- 第6回:大みか小学校での授業実習②
- 第7回:大みか小学校での授業実習③
- 第8回:大みか小学校での授業実習④
- 第9回:大みか小学校での授業実習⑤
- 第10回:大みか小学校での授業実習⑥
- 第11回:大みか小学校での授業実習⑦
- 第12回:大みか小学校での授業実習⑧
- 第13回:大みか小学校での授業実習⑨
- 第14回:大みか小学校での授業実習⑩
- 第15回:日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト: 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項: ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード: 12123 **科目ナンバリング:** EN31C02E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 英語教育実践研究(児童) b(Theory and Practice in TEFL (Primary School) b)
担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 木曜1限 **履修可能学科・専攻:** E
関連資格: 小学英語 **AL要素:** 実習

授業の概要: 公立小学校(日上市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード: 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法: 実習記録および作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)
 - 第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
 - 第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術
 - 第4回: 教材開発の原理と教材作成
 - 第5回: 大みか小学校での授業実習①
 - 第6回: 大みか小学校での授業実習②
 - 第7回: 大みか小学校での授業実習③
 - 第8回: 大みか小学校での授業実習④
 - 第9回: 大みか小学校での授業実習⑤
 - 第10回: 大みか小学校での授業実習⑥
 - 第11回: 大みか小学校での授業実習⑦
 - 第12回: 大みか小学校での授業実習⑧
 - 第13回: 大みか小学校での授業実習⑨
 - 第14回: 大みか小学校での授業実習⑩
 - 第15回: 日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト: 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項： ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード：12124

科目ナンバリング：EN32C02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語教育実践研究(児童)Ⅱa(Theory and Practice in TEFL (Primary School) Ⅱa)

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：小学英語

AL要素：実習

授業の概要： 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード： 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法： 実習記録および作成教材報告書

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など

著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：小学校における英語教育の導入の歴史（世界と日本）
第2回：学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
第3回：児童への英語教育の理念と指導技術
第4回：教材開発の原理と教材作成
第5回：大みか小学校での授業実習①
第6回：大みか小学校での授業実習②
第7回：大みか小学校での授業実習③
第8回：大みか小学校での授業実習④
第9回：大みか小学校での授業実習⑤
第10回：大みか小学校での授業実習⑥
第11回：大みか小学校での授業実習⑦
第12回：大みか小学校での授業実習⑧
第13回：大みか小学校での授業実習⑨
第14回：大みか小学校での授業実習⑩
第15回：日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト： 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項： ★この授業は『英語教育実践研究（児童）Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ（男女ともにスーツ着用）が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード：12124

科目ナンバリング：EN32C02E

主な使用言語：日本語

授業名（英文）：英語教育実践研究（児童）Ⅱ b（Theory and Practice in TEFL（Primary School）Ⅱ b）

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：小学英語

AL要素：実習

授業の概要： 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード： 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法： 実習記録および作成教材報告書

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的な評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)
- 第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
- 第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術
- 第4回: 教材開発の原理と教材作成
- 第5回: 大みか小学校での授業実習①
- 第6回: 大みか小学校での授業実習②
- 第7回: 大みか小学校での授業実習③
- 第8回: 大みか小学校での授業実習④
- 第9回: 大みか小学校での授業実習⑤
- 第10回: 大みか小学校での授業実習⑥
- 第11回: 大みか小学校での授業実習⑦
- 第12回: 大みか小学校での授業実習⑧
- 第13回: 大みか小学校での授業実習⑨
- 第14回: 大みか小学校での授業実習⑩
- 第15回: 日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト: 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項: ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード: 12125 **科目ナンバリング:** EN30C02E **主な使用言語:** 日本語と英語

授業名(英文): 英語教育実践研究(中等)(Theory and Practice in TEFL (Secondary School))

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 前期(金曜4限)、後期(金曜4限)

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 01: 実地訓練

授業の概要: 本授業は、事前指導、中学校におけるインターンシップ、事後指導で構成されます。事前指導は、全履修学生の時間割を考慮しながら適宜行います。事前指導には、中学校でのオリエンテーションや課題も含まれます。インターンシップは、中学校担当者から渡されるスケジュールに従って、9月中に実施されます。中学校でのオリエンテーションとスケジュールについては、中学校担当者と調整の上、追って連絡します。

キーワード: 英語教育、インターンシップ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 教育実習とは異なるが、実際の英語教育の現場を参観することにより、英語の教員になるにはどのような知識と技能が必要であるのか、また、教員に必要な資質とは何かについて学ぶことができる。

評価方法: 事前事後のレポートおよび報告書によって **評価割合:** 50%
評価
する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習中に、教員として必要な資質とは何かについて学び、どのような教員になりたいかについて自分なりの考えをまとめることができる。

評価方法: 事前事後のレポートおよび報告書によって
評価
する。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】(4月) 事前指導#1:大学内オリエンテーション
【第02回】(5月) 事前指導#2:「Internship」の目的と意義
【第03回】(5月) 事前指導#3:報告書について
【第04回】(6月) 事前指導#4:ICJHにおける現場体験について#1
【第05回】(6月) 事前指導#5:ICJHにおける現場体験について#2
【第06回】(7月) 事前指導#6:ICJH内オリエンテーション
【第07回】(9月) 事後指導:現場体験をふりかえって

事前指導においては、教育実習生に匹敵する立場で中学校で実習するにあたり、教員としての心構え、報告書の書き方、服装、持ち物等、実習校(茨城キリスト教学園中学校)の方針に沿うように指導します。

実習校においては、すべてインターンシップ担当教員の指示にしたがって現場体験します。

事後指導においては、報告書とレポートを提出してもらい、現場体験で得られたものについて話し合います。

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習校である茨城キリスト教学園中学校について調べておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項: この科目を履修するためには、真剣に英語の教員を目指しており、かつ、10日間におよぶ実習期間、無遅刻・無欠席で、真摯に実習する心構えが必要ですが、英語の教員を志望している学生には大変役に立つ科目なので、履修を強く推奨します。履修を希望している学生は、必ず担当者に申し出、許可を受けてください。どのような事情があっても、事前に申し出をせず、勝手に登録をした学生の履修は認めませんので注意してください。

状況によっては、9月初旬に予定されているインターンシップの日程が変更になる可能性もあります。

科目コード: 12126

科目ナンバリング: EN20C31E

主な使用言語: 英語

授業名(英文): 英語教育演習(TEFL Practice)

担当者：Stephens, M. Patrick

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：03 Experience, 04 Project-based Learning, 08 Group work, 11 Discussion

授業の概要：遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)

This course will give students first-hand experience teaching and working with local elementary school children. Students will learn the basics of syllabus and lesson planning, materials creation, and event planning. During the semester, students will plan and organize a summer English program for elementary school children. Then, on August 7th (Monday), 8th (Tuesday), and 9th (Wednesday), the class will run the program known in the community as, “English Explorer” for three hours each afternoon from 13:00 to 16:00 on the university campus.

キーワード：Young learners, English education, Teaching, Experiential learning, Practicum, Teaching Experience, Elementary school English

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：Students will create lessons and materials for young learner English education using a notional/functional syllabus. Students will learn how to use materials to teach in an elementary school English program.

評価方法：Curriculum planning and preparation

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：Students will work in groups to evaluate and make constructive comments about other groups' lesson plans and plans for teaching materials to improve the overall program. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価方法：Lesson and teaching materials peer review

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will cooperate with class members to teach English in a three-day elementary school English program on August 7th (Mon), 8th (Tue), and 9th (Wed) for three hours each day. Students will teach grade 3, 4 and 5 elementary school children to prepare them linguistically to succeed in various situational tasks in English over the three days of the program. Students will supervise the children and work in all aspects of the program: reception, warm up games, language lessons, functional tasks, break time, group games and the final ceremony.

評価割合：50%

▼実践的ボランティア

Students will work to make the experience for the elementary school participants and their parents a pleasant one. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合：0%

▼公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合：0%

▼その他

None

評価割合 : None

授業計画 : Class 1 Program organization explanation
Class 2 Curriculum brainstorming/planning
Class 3 Lesson planning
Class 4 Lesson peer-review
Class 5 Materials preparation
Class 6 Materials peer-review
Class 7 Lesson demonstrations and feedback
Class 8 Lesson demonstrations and feedback
Class 9 Program overview and leadership training
Class 10 Elementary school English program practicum (Day 1)
Class 11 Elementary school English program practicum (Day 1)
Class 12 Elementary school English program practicum (Day 2)
Class 13 Elementary school English program practicum (Day 2)
Class 14 Elementary school English program practicum (Day 3)
Class 15 Elementary school English program practicum (Day 3)

使用テキスト : None

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : The following videos will give students a general idea of the kind of program this class will create. Students will interact with elementary school children using English in various situational contexts.
<https://www.youtube.com/watch?v=-1WVSeASGtE>
https://www.youtube.com/watch?v=nmG7yM_WtMg
<https://www.youtube.com/watch?v=rvo1EiwEhk>

障がいのある履修者への対応 : I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段 : I will be happy to talk with students outside of class during my office hours. I will give out my email address and the times of office hours at the beginning of the class. Students should use email to contact me for appointments.

留意事項 : This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
The number of students in this class is limited due to the number of elementary school students participating in the program.

科目コード : 12127 科目ナンバリング : EN30C03E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 英語科教育法I (Teaching of English I)

担当者 : 上野 尚美

基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜5限

履修可能学科・専攻 : E Pe

関連資格 : 教職 小学英语

AL要素 : 11. 討論、17. 発問と回答

授業の概要 : 中学校または高等学校における英語教育に寄与できるよう、学習指導要領、音声や文字の指導、異文化理解、ICTの活用方法、評価方法(観点別学習状況の評価、言語能力の測定と評価等)について学び、小・中・高等学校を通じた効果的な英語教育について指導する。

キーワード: 中等教育免許、中学校第一種(英語)、高等学校第一種(英語)

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 中学校及び高等学校の外国語(英語)の教員を目指す者として、下記の項目について概ね80%理解し、実行することができる。

評価方法: ほぼ毎回実施する小テスト

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によってさらに理解を深め、論理的かつ簡潔によりよい英語教育について自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 55%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中に実施する討論や教員の発問への積極的な回答および英語力測定試験受験は加点の対象とするが、遅刻や欠席が多い場合は、総合評価を1ランク落とすなど、減点の対象とする。

評価割合: 5%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に実施する小テストでカンニング行為が発覚した場合は、失格の対象とするので、注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 英語の国際化と日本の英語教育
- 第3回: 学習指導要領(小学校)
- 第4回: 学習指導要領(中学校)
- 第5回: 学習指導要領(高等学校)
- 第6回: 英語教員 Part 1(求められる英語教師像)
- 第7回: 英語教員 Part 2(教材研究)
- 第8回: 英語教員 Part 3(実践研究)
- 第9回: 小学校における外国語(英語)活動 Part 1
- 第10回: 小学校における外国語(英語)活動 Part 2
- 第11回: 測定と評価 Part 1
- 第12回: 測定と評価 Part 2
- 第13回: e・ラーニングとCALL教室 Part 1
- 第14回: e・ラーニングとCALL教室 Part 2
- 第15回: 総括
定期試験

使用テキスト: 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店)

予習・復習のポイントと ・授業前には、指示されたテキストの個所を予習し、小テストの範囲を勉強してくること。

参考文献・資料等: ・参考資料として次の3点を推薦する。

『小学校学習指導要領 外国語活動編 (大型本)』(東洋出版社)

『中学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
・この授業では、講義30時間(1コマ2時間×15週)+予習・復習時間60時間が必要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 中学校第一種・高等学校第一種(英語)免許、およびJ-SHINE資格取得のための必修科目なので、当該資格取得を目的としていない学生は履修できないので注意すること。
オンライン授業が開始された場合は、本授業は同時双方型の授業を行います。

科目コード:12128 科目ナンバリング:EN30C04E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 英語科教育法II(Teaching of English II)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素: 模擬授業

授業の概要: 日本の中学校、高等学校で英語の授業を行うことができる実践力をつけるための授業です。『学習指導要領』が求める英語教育の目標を理解し、それを達成することができる授業を考案し、実践できる指導技術を最新の指導法について講義を聴くだけでなく、実際にマイクロ・ティーチング(ミニ模擬授業)を行うことで身につけます。担当教員は、10年以上公立中学校の英語科教諭として実務経験があります。実務経験を活かし、生徒の実態に寄り添った教科指導についての理解を深めます。

キーワード: 英語教育の目標、学習指導要領、マイクロ・ティーチング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 中学校、高等学校の英語の授業を、生徒にわかりやすく、正しい内容を教えることができる。

評価方法: 学習指導細案

評価割合: 50%

マイクロ・ティーチング

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 学習指導細案を、それぞれの観点についてもれなく論理的に書くことができる。

指導に使う活動およびワークシート等を作成することができる。

評価方法: 学習指導細案

評価割合: 50%

教材

ワークシート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、生徒の理解を促進することを目指して、指導案や教材の作製に主体的に取り組む態度は必須である。工夫がみられる場合は、上記「思考力・判断力・表現力」の項目に加点することもある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしないが、進んで生徒にかかわり学習指導をより効果の上がるものとする必要は必要な視点である。学習指導案やマイクロティーチングにおいてこのような態度が見られる場合は、上記の「知識・技能」の項目に加点する場合もある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしないが、指導案の内容やマイクロ・ティーチングにおいて、人権侵害や差別表現など著しく公正性を欠く言動については、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：コミュニケーション能力の育成
第2回：文法の学習と指導 <講義>
第3回：文法の導入、練習活動の作成
第4回：聞くことの指導 <講義>
第5回：リスニング活動の作成
第6回：読むことの指導 <講義>
第7回：リーディング活動の作成
第8回：話すこと[やり取り]の指導 <講義>
第9回：スピーキング(会話)活動の作成
第10回：話すこと[発表]の指導 <講義>
第11回：スピーキング活動(モノローグ)の作成
第12回：書くことの指導 <講義>
第13回：ライティングの活動の作成
第14回：領域統合型の言語活動 <講義>
第15回：領域統合型の言語活動の作成

使用テキスト： 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版(大修館書店)
『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』
New Horizon English Course 1～3 東京書籍
Sunshine English Course 1～3 開隆堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： マイクロ・ティーチングには指導細案および教材を作成して臨むことが予習となる。マイクロ・ティーチングは教師だけでなくピア評価も行うので、評価シートのコメントを読み、自分の授業の良い点、改善点を確認することが復習となる。参考文献、リソースブックについては授業で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィス・アワー(研究室にて)、他はICメール。

留意事項： 本科目は、教員を目指す学生以外の履修は原則として認めない。

科目コード：12129 科目ナンバリング：EN30C05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語科教育法Ⅲ(Teaching of English Ⅲ)

担当者：村上 美保子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：模擬授業

授業の概要： 日本の中学校、高等学校で英語の授業を行うことができる実践力をつけるための授業です。『学習指導要領』が求める英語教育の目標を理解し、それを達成することができる授業を考案し、実践できる指導技術を最新の指導法について講義を聴くだけでなく、実際にマイクロ・ティーチング(ミニ模擬授業)を行うことで身につけます。担当教員は、10年以上公立中学

校の英語科教諭として実務経験があります。実務経験を活かし、生徒の実態に寄り添った教科指導についての理解を深めます。

キーワード： 英語教育の目標、学習指導要領、マイクロ・ティーチング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 中学校、高等学校の英語の授業を、生徒にわかりやすく、正しい内容を教えることができる。

評価方法： 学習指導細案
マイクロ・ティーチング

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学習指導細案を、それぞれの観点についてもれなく論理的に書くことができる。
指導に使う活動およびワークシート等を作成することができる。

評価方法： 学習指導細案
教材
ワークシート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、生徒の理解を促進することを目指して、指導案や教材の作製に主体的に取り組む態度は必須である。工夫がみられる場合は、上記「思考力・判断力・表現力」の項目に加点することもある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしないが、進んで生徒にかかわり学習指導をより効果の上がるものとする必要は必要な視点である。学習指導案やマイクロティーチングにおいてこのような態度が見られる場合は、上記の「知識・技能」の項目に加点する場合もある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしないが、指導案の内容やマイクロ・ティーチングにおいて、人権侵害や差別表現など著しく公正性を欠く言動については、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回:教科書と教材研究
- 第2回:学習指導案と授業計画
- 第3回:学習到達目標の設定と単元・年間指導計画
- 第4回:発問の種類とインタラクションの意義
- 第5回:マイクロティーチング(1) クラスルームイングリッシュとスモールトーク
- 第6回:マイクロティーチング(2) 発問とインタラクション
- 第7回:マイクロティーチング(3) 前時の復習と小テスト
- 第8回:マイクロティーチング(4) 新出語彙の指導と発音
- 第9回:マイクロティーチング(5) 文法事項の導入・説明
- 第10回:マイクロティーチング(6) 文法事項の練習
- 第11回:マイクロティーチング(7) 教科書の音読
- 第12回:マイクロティーチング(8) 教科書本文の内容把握方法
- 第13回:マイクロティーチング(9) 発展的な言語活動
- 第14回:マイクロティーチング(10) 学習到達目標
- 第15回:指導形態(ソロ・ティーチングとティーム・ティーチング)

使用テキスト： 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版(大修館書店)

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』
New Horizon English Course 1～3 東京書籍
Sunshine English Course 1～3 開隆堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： マイクロ・ティーチングには指導細案および教材を作成して臨むことが予習となる。マイクロ・ティーチングは教師だけでなくピア評価も行うので、評価シートのコメントを読み、自分の授業の良い点、改善点を確認することが復習となる。参考文献、リソースブックについては授業で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィス・アワー(研究室にて)、他はICメール。

留意事項： 本科目は、教員を目指す学生以外の履修は原則として認めない。

科目コード：12130 科目ナンバリング：EN30C06E 主な使用言語：日本語&英語

授業名(英文)：英語科教育法Ⅳ(Teaching of English Ⅳ)

担当者：Le Pavoux, Mari

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践

授業の概要： [特例期間中の授業形態] 課題研究型 (IC-UNIPA経由で課題を出し、フィードバックします)

中学校または高等学校における英語教育に寄与できるよう、英語教育と英語教育学、学習者要員、語彙、表現に関する指導、英語教授法、第二言語習得について指導する。

キーワード： 学習者要因、語彙指導、英語教育指導法、言語習得

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた英語教育に関する事項の80%意味が分かり、説明することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知識や知見をふまえ、教育の現場で使用できるような教材を作成し、模擬授業を行うことができる。

評価方法： 学期末試験

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

高校生や中学を想定して模擬授業を行うことができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

該当しない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を書く言動やカンニングなどの不正行為があった場合、原点や嚴重注意の対象とな

るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

この科目は、英語で講義を聞き、発表をします。部分的に日本語を使用します。

評価割合：この科目は、英語で講義を聞き、発

授業計画： 第1回：イントロダクション
第2回：英語教育と英語教育学
第3回：学習者 Part 1
第4回：学習者 Part 2
第5回：英語教授法 Part 1
第6回：英語教授法 Part 2
第7回：英語教授法 Part 3
第8回：英語教授法 Part 4
第9回：英語教授法 Part 5
第10回：第二言語習得 Part 1
第11回：第二言語習得 Part 2
第12回：第二言語習得 Part 3
第13回：語彙、辞書検索指導 Part 1
第14回：語彙、辞書検索指導 Part 2
第15回：総括
定期試験

使用テキスト： 望月昭彦編著「新学習指導要領に基づく英語教育」(大修館書店)

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： テキストは下読みし、調べても分からない項目を特定してくる。指示された課題は授業前までに完成させてくること。

参考書：「小学校学習指導要領 外国語活動編」「中学校学習指導要領 外国語活動編」
「高等学校学習指導要領 外国語活動編」

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡先等を問い合わせてください。

留意事項： 特になし

科目コード：12131 科目ナンバリング：EN20C37K 主な使用言語：講義は日本語を中

授業名(英文)：英語学概論A(Introduction to English Studies A)

担当者：高橋 教雄

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：資料調査課題

授業の概要： 外国語(英語)学習、とりわけ<コミュニケーション能力>を身に付けるためには、音声学習がその基礎として重要な意味を持つ。また、言語の歴史的変遷において、音声がどのように変化してきたのかを理解することは、人間と言語とのかかわりの中で捉えることによってより深く理解できる。

本授業では、日本語(母語)と比較し、また歴史的変遷を扱いながら、現代英語の音声上の特徴を理解できるようになることを目指す。

キーワード： 外国語学習、国際共通語、音韻構造、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** (1) 言語学習(外国語学習)における音声学習がもつ意味・重要性を理解できるようになる。
 (2) 国際共通語として多様な分野で使用される現代英語の音声の特徴について、その実態を日本語との比較において理解できるようになる。
 (3) 現代英語の音韻構造について理解できるようになる。
 (4) 現代英語の音声、音韻構造の背景となる歴史上の変遷を理解できるようになる。
 (5) 英語の音声と綴り字の関係およびその背景となる歴史的変遷について理解できるようになる。
 (6) 英語の様々な方言に対応することができるようになる。

評価方法: (1) 授業時に提示される課題と、定期試験 **評価割合: 100%**
 の結果を合わせて評価します。

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1) 国際共通語として多様な分野で使用される現代英語の音声の特徴について説明することができるようになる。
 (2) 現代英語の音韻構造について説明することができるようになる。
 (3) 現代英語の音声、音韻構造の背景となる歴史上の変遷について説明することができるようになる。
 (4) 英語の音声と綴り字の関係およびその背景となる歴史的変遷について説明することができるようになる。

評価方法: 上記「知識・技能」参照 **評価割合: (100%)**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業内容を十分理解できるように、各自整理しておくことが望まれる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:** 第01回 言語(英語および母語としての日本語)における音声の重要性
 第02回 言語音の(一般的)分類およびその基準
 第03回 英語のリズムと日本語のリズム、およびその背景となる歴史的変遷
 第04回 現代英語における強母音と弱母音、およびその背景となる歴史的変遷
 第05回 英語の母音(1): 前舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第06回 英語の母音(2): 後舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第07回 英語の母音(3): 中舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第08回 英語の子音(1): 閉鎖音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第09回 英語の子音(2): 摩擦音、破擦音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第10回 英語の子音(3): 鼻音、側音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
 第11回 子音結合
 第12回 音声環境と単音(1): 現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる同化
 第13回 音声環境と単音(2): 現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる異化
 第14回 音声環境と単音(3): 現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる添加
 第15回 音声環境と単音(4): 現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる脱落
 定期試験

使用テキスト: 特定のテキストは使用せず、担当者作成のプリント資料を随時配布する。

予習・復習のポイントと (参考書)

参考文献・資料等: A.C. Gimson, An Introduction to the Pronunciation of English
その他の参考書等については、必要に応じて授業時に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、事前に学務部および担当者に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 出講日の休み時間に兼任講師室(11号館2階)で、あるいはメールで対応します。

留意事項: 講義形式の授業ですが、普段から周囲の言語音に注意を払い、授業で扱う様々な現象の具体例を探しておく姿勢が求められます。

科目コード: 12132 **科目ナンバリング:** EN20C06K **主な使用言語:** 英語、日本語

授業名(英文): 英語学概論C(Introduction to English Studies C)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 05 既時応答

11 討論

17 発問と回答

授業の概要: この授業では、国際共通語としての英語でのコミュニケーションについて理解を深める。特に、意味論や語用論の分野の視点から、英語でのコミュニケーションにおける話し手の意図する意味とその解釈のメカニズムについて学習する。まず初めに、グローバル化する世界における英語の役割について学ぶ。次に、語の意味、意味関係、文脈上の意味、話し手の意図、話し手と聞き手との関係や文化的背景などに注目し、様々な英語の会話や文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いを明らかにする。

キーワード: 国際英語論、意味論、語用論、意味、文脈、話し手の意図、会話分析

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 英語学の諸領域のうち、「国際英語論」、「意味論」、「語用論」の基礎を学習する。
2. 日本語・英語の使用上の違いについて理解し、英語の会話に関する授業指導に活かす。

評価方法: 授業への参加度・宿題(Moodleを利用して)、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語の会話や文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いの理解を深めます。

評価方法: 授業への参加度、宿題(Moodleを利用して)、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：世界共通語としての英語(1) (グローバル化する世界における英語の役割について)
第2回：世界共通語としての英語(2) (国際英語論、世界の英語変遷について)
第3回：意味論とは何か？ (語の意味、意味関係について)
第4回：語用論とは何か？ (意味論と語用論の関係、文脈上の意味、話し手の意図について)
第5回：会話の含意(1) (言外の意味、協調の原理について)
第6回：会話の含意(2) (会話の格率、ヘッジ表現について)
第7回：直示(人称的直示、空間的直示、時間的直示について)
第8回：指示(指示表現、話し手の目的、話し手の信念について)
第9回：中間テスト
第10回：前提(1) (話し手の想定、命題について)
第11回：前提(2) (前提のタイプ、前提トリガーについて)
第12回：発話行為(1) (J.L.オースティンの発話高理論、発話行為の構成、遂行発話について)
第13回：発話行為(2) (J.R.サールの発話行為理論について)
第14回：フェイスとポライトネス(1) (社会的距離、権力距離、言語使用域について)
第15回：フェイスとポライトネス(2) (ネガティブ・フェイス、ポジティブ・フェイス、フェイスを脅かす行為・フェイスを保つ行為について)まとめ
期末テスト

使用テキスト： 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 予習・復習

参考文献・資料等：

1. Moodle上の課題を行う。
2. 講義中に配布した資料の内容を復習する。

参考文献

1. George Yule (1996). Pragmatics. Oxford University Press.
2. 『ことばと発話状況—語用論への招待』(2000) (オックスフォード言語研究叢書 ジョージ・ユール著, 高司 正夫翻訳、リーベル出版)。
3. O’Keeffe Anne, Clancy Brian& Adolphs Svenja (2019). Introducing Pragmatics in Use (2nd edition). Routledge.
4. 『Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics』(2011) (Alan Cruse 著、Oxford University Press 出版)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 授業には必ず、辞書(電子辞書可)を持参してください。

科目コード：12133

科目ナンバリング：EN20C44K

主な使用言語：英語・日本語

授業名(英文): 人権と英語表現(Human Rights and English Expressions)

担当者: 黒澤 東

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16 振り返り用紙と応答

授業の概要: このコースでは、生きる権利を侵害されている人たちの生の言葉などの様々なケースを、ドキュメンタリー映像/歌の歌詞などから取り上げ、人権と英語表現について学びます。各回の授業では、事例の把握と、さらにその映像作品中のセリフを字幕翻訳してみることを通じて理解を深めます。また、英語を学ぶということは、すでに出来上がっている言葉(英語文化の価値観/社会観が反映された結果物としての英語)を身につけるように感じるかもしれません。しかし英語を使うということは、同時にそのことによって、自分自身がさらにその価値観/社会観を再生産していることにもなります。こうした観点から、自分自身の英語が社会に対してどのような影響力があるのかを再考します。

キーワード: 世界人権宣言、格差、差別、抑圧、Language Awareness、Political Correctness、社会方言、Inclusive Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 人権(格差やマイノリティなど)に関連して、英語を使うことによって、意図しない影響を社会的に及ぼすことがあるということ(Language Awareness/Political Correctness)を理解する。

評価方法: 各回の提出課題および期末課題

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 言葉を使うということは、その瞬間に自分自身が、その言語/社会を再生産し、その言語の価値観/社会観を維持/普及しているという、社会と言語の関係性(Institutional=制度としての言語観)についても理解を深める。

評価方法: 各回の提出課題および期末課題

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

各回の授業では、字幕翻訳の課題提出があります。これには単にその英語を理解するだけでなく、映像テキスト全般の場面の理解が求められます。授業全般を通じて、社会や良識をともなった能動的な把握/理解力を期待します。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 01. オリエンテーション: 「世界人権宣言」について
02. 「デトロイトのLGBT」の英語表現
03. 「デトロイトのホームレス」の英語表現
04. 「日本の就職難」の英語表現

05. 「日本の過労死」の英語表現
 06. 「イギリスの若年貧困層」の英語表現(1)
 07. 「イギリスの若年貧困層」の英語表現(2)
 08. 「ギリシャへの中東移民」の英語表現
 09. 「アメリカの公開養子制度」の英語表現
 10. 「イギリスの移民労働者」の英語表現
 11. 「イギリスのホームレス」の英語表現
 12. 「カナダの先住民政策」の英語表現
 13. 「障害のある人」の英語表現
 14. Language Awarenessについて
 15. まとめ
- 定期試験は実施しません(レポート提出あり)

使用テキスト: 必要に応じ授業で資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。参考資料はその都度、提示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 12135 **科目ナンバリング:** EN20C43K **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): 児童文化(英語圏)(Children's Culture (English-language Countries))

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 07: Presentation

11: Discussion

16: Reflection paper

授業の概要: This course aims to expand your knowledge and understanding of children's lives in English-speaking countries. We'll explore events, activities, and relationships surrounding them and consider how they absorb social values and develop their identities. We'll also discuss how their daily lives compare and contrast with those in Japan.

キーワード: social values, cultural identity, communication style, visible & invisible elements of culture

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students can understand materials related to children's everyday lives in English-speaking countries and examine how their culture compares and contrasts with that in Japan.

評価方法: Review tests

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:

- Students can research topics that interest them and expand their frame of reference about children's culture.
- Students can introduce their topic and clearly explain their thoughts while exercising audience awareness.

評価方法: Presentation, Report

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students are expected to preview class materials and be ready to participate in activities and discussions.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students are expected to share their works to enhance each other's learning experiences.

評価割合: 0%

▼公正性

Students are expected to be fair and respectful to each other as they take part in class activities. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.

評価割合: 0%

▼その他

Not applicable

評価割合: Not applicable

授業計画: Week 01: Course introduction
Week 02: Summer vacations
Week 03: School subjects
Week 04: Clubs
Week 05: Review test 1& Presentation preparation
Week 06: Family relationships
Week 07: Food
Week 08: Holidays
Week 09: Review test 2& Presentation preparation
Week 10: Media
Week 11: Technology
Week 12: Gender
Week 13: Review test 3& Presentation preparation
Week 14: Presentation
Week 15: Presentation, Course wrap-up

使用テキスト: None. We will use online materials or those provided by the instructor.

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: ・Preview the class materials beforehand. Look up unfamiliar words and expressions and bring any questions about the materials.
・Fill out the reflection section of the day's worksheet. Also, explore materials related to the topic covered in class for self-study.

障がいのある
履修者への対応: Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.

授業時間外の連絡手段: During the office hours or by email. The details will be explained in the first class.

留意事項: ・This class will be taught both in English and Japanese.
・This class will use Microsoft Teams for announcements, communication, and assignment distribution& submission.
・Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone) as much as possible.

科目コード: 12136

科目ナンバリング: EN20C40K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 英語文学概論B(Introduction to English Language Literature B)

担当者: 君塚 淳一

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17.設問と回答

授業の概要： アメリカ文学の作家の生没や作品の出版年を、単に年代順に羅列し、暗記するようなことはせず、作品をアメリカ史と照合させ、生み出された時代の人々の心情や出来事から解き明かしていく。そして学際的な、当概論の研究法を基に、各自がテーマを持ち、作品の分析もしてもらうことになる。また映像化された作品や作品分析法を解説したビデオ教材なども用いていく。ほぼ毎回、前回の復習をパワーポイントで行ってから当日の講義に入る。

キーワード： アメリカ小説、アメリカ史、学際的研究、多民族、人種

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 作家と作品をアメリカ史と照合させ、生み出された時代の人々の心情や出来事から解き明かすことができる。

評価方法： 課題レポートおよびクイズ

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 当概論の文学理解や研究法を基に、各自がテーマを持ち、作品の分析ができる。

評価方法： 学期末課題レポート

評価割合： 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験に記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験に記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしない。ただし授業中の発言や試験などの記述において、人権侵害や差別的な発言など、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 植民地時代とアメリカ文学
- 第3回 領土争いから独立戦争の時代
- 第4回 アメリカン・ルネッサンスと超絶主義
- 第5回 南北戦争とその時代
- 第6回 地方主義とリアリズム
- 第7回 世紀末から20世紀初頭の都市の発展と移民増大の時代ー写実主義から自然主義へ
- 第8回 1920年代への胎動、第一次世界大戦と1920年代
- 第9回 20年代ロストジェネレーションの作家たち
- 第10回 1930年代の大恐慌とアメリカ文学
- 第11回 第二次世界大戦と戦争文学
- 第12回 アフリカ系アメリカ文学
- 第13回 ユダヤ系アメリカ文学

第14回 現代アメリカ文学のゆくえ
第15回 まとめ&学生による課題発表
定期試験

使用テキスト: プリントで配布する。ファイルを用意。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前は予習か所として提示した部分の下調べをすること。また授業後は配布プリントをよく読み直し、理解を深めること。
参考文献:『概説アメリカ文学史』(金星堂) 横沢四郎ほか。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 曜日時間については初回に連絡します。

留意事項: 特になし

科目コード: 12138 **科目ナンバリング:** EN10A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語基礎演習I a(Basic English Seminar I a)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 木曜4限		履修可能学科・専攻: E
関連資格:		AL要素: 07 発表 10 資料調査課題 17 発問と回答

授業の概要: この基礎ゼミでは、今日における異文化間コミュニケーションのツールとしての「英語」の役割を考えていくと同時に、「違い」を尊重するということを学んでいきます。授業は教科書に沿って問題、内容確認、ディスカッションを行います。

キーワード: 異文化間コミュニケーション、英語の国際化・多文化化、自己表現

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1) 英語の多様性について理解することができる。
2) 異文化間コミュニケーションにおける英語の役割を理解することができる。
3) 自分のことや考えを発信する能力を高めることができる。

評価方法: 問題確認、ディスカッション **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 違いの違いを尊重しながら、コミュニケーションを図ることができる。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への取り組み姿勢、授業への貢献度(発言、質問)を評価対象とする

評価割合: 50%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス。
 - 第2回 Whose English ?
 - 第3回 "My Mother Isn't Well, Sir."
 - 第4回 Your Variety Is Better Than Mine.
 - 第5回 What Is the Culture of English?
 - 第6回 Where Should I Go to Learn English?
 - 第7回 Who Makes the Best English Teachers?
 - 第8回 English Is an Asian Language!
 - 第9回 What Is My First Language?
 - 第10回 What Does It Mean to Be Bilingual
 - 第11回 When Should We learn English?
 - 第12回 "You Said So!" "No, We Didn't!"
 - 第13回 What Do people Talk About?
 - 第14回 Japanese Schools, English Classes and Stereotypes: An Informal Account of a Recent Visit to Japanese Schools
 - 第15回 まとめ

使用テキスト： 本名信之他 (2018)『アクロス・カルチャーズ:異文化間コミュニケーションのための総合英語』、三修社 (1,700円)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習として、テキストの読解と課題への取り組みが求められます。(60分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

- 留意事項：**
- 1) 授業は主に英語によるディスカッションで構成されていますので、積極的な発言を心がけることが大切です。
 - 2) 授業には必ず、教科書と辞書(電子辞書可)を持参してください。
 - 3) 授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード：12138

科目ナンバリング：EN10A01E

主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：現代英語基礎演習I b(Basic English Seminar I b)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：08.協同学修

授業の概要： 本演習は、英語で書かれた論文を読むためのスキルを向上させることを目的とします。これまで学習してきた英文法の規則をいかに活用して英文を解釈するか、そしてそれらが本当に正しいか、さらに、それらの言語使用においてどのような制約が存在するかを、英語で書かれた英文法に関する論文を読む中で学びます。

当然ながら、英語で書かれた論文を読む際は、英語力と読解力が要求されます。本演習は、これらの技術を磨くために「英文読解」と「学術的文章を読む」という2つのセッションから構成されています。

【英文読解】

英語で書かれた論文の中で、英文法がどのように機能しているかを体感します。簡単な英文でも、英文法の知識がないと正確な解釈が困難であり、誤読の可能性を含むことを肌で感じてください。英文読解の基礎力講座としての側面もあります。

【学術的文章を読む】

学術論文を読む上で必要とされるスキルや、漠然とした知識から自身の問いや主張を導き出すまでのプロセスを追体験してもらいます。

キーワード： 英文法、統語論、意味論、文化、社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 基本的な英文法の知識に基づいて、英文解釈ができる。

評価方法： 英文読解課題

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 論文を論理的に読むができる。他者の主張に対する批判を適切に行うことができる。

評価方法： 英文読解課題

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に配信する「出席確認用フォーム」において、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

普段触れる英語表現の中に「なぜ？」と問える力を培います。楽しみながら、知的好奇心を刺激しましょう。

評価割合： 普段触れる英語表現の中に「なぜ

授業計画： 第01回: オリエンテーション

第02回: 論文の構造

第03回: 序論を読む (1)

第04回: 序論を読む (2)

第05回: 先行研究の要約 (1)

第06回: 先行研究の要約 (2)

第07回: 先行研究の批判 (1)

第08回: 先行研究の批判 (2)

- 第09回: 先行研究の批判 (3)
- 第10回: 根拠・証拠 (1)
- 第11回: 根拠・証拠 (2)
- 第12回: 根拠・証拠 (3)
- 第13回: 結論を読む (1)
- 第14回: 結論を読む (2)
- 第15回: まとめ
- (第16回: キャリア講座)

使用テキスト: 特にありません。必要な資料は授業で配布します。

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等: 毎回の授業で、英文解釈や英文の理解を問う課題を出しますので怠らないこと。

【復習】

出席確認と併せて、授業内で扱った内容についての質問・コメントを求めますので、復習した上でわからなかったことや考えたことを記述してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。

留意事項: 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。
2. この授業は英語と日本語の両方で行われます。
3. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってもらいます。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 12138

科目ナンバリング: EN10A01E

主な使用言語: 英語と日本語

授業名(英文): 現代英語基礎演習I c(Basic English Seminar I c)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題

授業の概要: 4年間大学で英語を学んでいくにあたって、その基礎となる語彙力をつけていくにはどうしたらいいかを共に考え、実践していく授業です。いわゆる「受験勉強」とは違った形で、効果的に語彙力を高めることを目指し、自ら選択した分野の教材を見つけ出し、クラスメートにプレゼン(発表)することを通じて、「語彙指導」のトレーニングも行います。

キーワード: Vocabulary Building
Form / Meaning / Use
Vocabulary Teaching

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 英語の語彙力を高めるための方法を知り、自ら実践できる。
英語語彙の使用法を他者に伝えることができる。

評価方法: プレゼン(クラスメートに対する発表) **評価割合:** 25%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 自ら教材を見つけ出すにあたって、自身の現状の学力に適した難易度であるかを判断できる。

評価方法: プレゼンに先立つ事前指導
学期末のレポート

評価割合: 25%

▼学修に主体的に取り組む態度

図書館やインターネットなどを積極的に利用し、主体的に教材を探することができる。

評価割合: 25%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

発表時やレポート作成時に、適切な引用ができる。

評価割合: 25%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: ガイダンス(授業内容の説明)
第02回: 語彙学習のためのテーマ(分野)紹介
第03回: 語彙学習のためのテーマ(分野)設定
第04回: 個人プレゼン(発表) <テーマ(分野)の予告>
第05回: 類似テーマ(分野)を選んだ者同士のグループ設定
第06回: PowerPointの使い方の基礎指導
第07回: プレゼン(発表)準備のためのグループワーク(1)
第08回: プレゼン(発表)準備のためのグループワーク(2)
第09回: Presentation Week (1)
第10回: Presentation Week (2)
第11回: Presentation Week (3)
第12回: Presentation Week (4)
第13回: Presentation Week (5)
第14回: Presentation Week (6)
第15回: 授業全体の振り返り

使用テキスト: 自ら教材を見つけ出すことを原則とする。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: 予習: 自分の興味のある特定分野(スポーツ、芸能、行事等)の英語語彙について、図書館
資料やインターネット等で調べる。
復習: クラスメートのプレゼン(発表)を聞いて学んだことを整理する。
参考文献・資料等: 自ら探すことを原則とするが、教員へのアドバイスを求めてもよい。

障がいのある
履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項: 受け身ではなく、主体性・積極性が求められる授業です。

科目コード: 12138

科目ナンバリング: EN10A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 現代英語基礎演習I d(Basic English Seminar I d)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E

関連資格：

AL要素：発表 資料調査課題 レポート指導

授業の概要： 大学で学ぶために不可欠な資料・情報収集の方法，レポート・論文作成方法，プレゼンテーションの技術，また心構えについて段階的に学んでいきます。

キーワード： 学び，図書館，レポート作成，論文作成，プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 主体的に大学生活をおくるために必要な知識や技法を身につけ，それらを活用できる。

評価方法： 授業内の小テスト

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に考えて，その内容を適切な文章またはプレゼンテーションで表すことができる。

評価方法： レポート課題およびプレゼンテーション

評価割合： 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での課題・作業への取り組む姿勢，また積極的な発言による授業参加が顕著であると認められるときは，これを評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが，授業中の発言やレポート課題の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には，減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

とくになし。

評価割合： とくになし。

授業計画：

- 第1回：大学での学び
- 第2回：キャリアデザイン
- 第3回：学びの技法（講義の聞き方）
- 第4回：情報収集術
- 第5回：図書館活用法
- 第6回：読書論
- 第7回：レポートの作成(1)
- 第8回：レポートの作成(2)
- 第9回：レポートの作成(3)
- 第10回：プレゼンテーションの技術(1)
- 第11回：プレゼンテーションの技術(2)
- 第12回：プレゼンテーションの技術(3)
- 第13回：ディベートの技法(1)
- 第14回：ディベートの技法(2)
- 第15回：英語<で>学ぶ方法

使用テキスト： とくにテキストは指定せず，授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習ではシラバスを参照して授業内容の概要をつかむ。復習では資料内容を再確認し，それぞれの技法を実践して理解を深める。また日常的に新聞をはじめ本を読む時間を確保して，読書習慣を身につけるようにする。参考書については，授業中に適宜紹介。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項: 授業内の課題・作業に積極的に取り組むこと。

科目コード: 12139 科目ナンバリング: EN20A01E 主な使用言語: 英語

授業名(英文): 現代英語基礎演習II a (Basic English Seminar II a)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 04 Project-based learning, 08 Group work, 11 Discussion, 17 Questioning and answers

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)

In this seminar we will look at our habits and how they affect our lives: our relationships, our goals and our success. We will learn about good study habits for university students and discuss habits in other parts of our lives. Then, using their own goals, students will design habit loops to reach those goals. Class time will be used to create plans, evaluate progress, talk about difficulties, and adjust plans for success at university.

キーワード: English, Second-year seminar, the habit loop, changing habits, study skills, study habits

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will learn about the dynamics of human habits, study habits and how to change habits for successful outcomes.

評価方法: Written goals, plans and progress reports in Japanese and English. **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will write and speak about their own goals for university and life.

評価方法: Small-group presentations **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students will give feedback to their peers about their writing.

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

Students will have their writing checked outside of class by interns and/or the teacher before the deadline to ensure comprehensibility. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼ 公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

授業計画: Week 1 – Class Introduction, Icebreaking activities, Getting-to-know-you activities
Week 2 –Getting-to-know-you activities; Mindsets
Week 3 –Lighthouse Park walk
Week 4 –Stretch Goals
Week 5 – SMART Goals
Week 6 –Prepare for interviews with OC students about life goals.
Week 7 –Oklahoma Christian University group project
Week 8 –Oklahoma Christian University group project
Week 9 –Oklahoma Christian University group project
Week 10 – Start Habit Experiment; Fill out Habit Experiment worksheet; Work on Presentation
Week 11 – Presentation– Statement of Goal; Start writing Statement of Goal Paper
Week 12 – Peer–editing of Statement of Goal Paper
Week 13 – Group Discussion: Changing your habits; Prepare Evaluation of Progress Paper and presentation
Week 14 – Presentation– Evaluation of Progress on Habit Experiment 2
Week 15 – Group Discussion: Next Habit challenge

使用テキスト: None

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Students can read the following books about changing habits to prepare for this class.
習慣の力: チャールズ デュヒッグ (著), Charles Duhigg (その他), 渡会 圭子 (翻訳)
式 複利で伸びる1つの習慣: ジェームズ・クリアー (著), 牛原 眞弓 (翻訳)

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: I will be happy to talk with students outside of class during my office hours. I will give out my email address and the times of office hours at the beginning of the class. Students should use email to contact me for appointments.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード: 12139 科目ナンバリング: EN20A01E 主な使用言語: 英語と日本語

授業名(英文): 現代英語基礎演習II b (Basic English Seminar II b)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07: Presentation

08: Group work

14: Reading in turn and discussion

授業の概要: The theme of this seminar is career & wellness. We will begin by considering the significance of your 20s as the formative years of your life. Subsequently, we will cover

topics such as career planning, stress management, and connecting with others, all of which are critical pieces of a fulfilling life. For each topic, we will watch relevant presentations, discuss their implications for your lives, and work on a small project as an application.

キーワード: motivation, career, skills, wellness, resilience, communication

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students can understand the main ideas of the assigned presentations, analyze their strengths and weaknesses, and explain their relevance to their own lives.

評価方法: Quizzes

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: •Students can summarize the assigned presentations, prepare discussion questions, and lead discussions.

•Students can apply the introduced methods to enhance their life skills.

評価方法: Group presentation, Projects

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students are expected to preview the class materials and be prepared to participate in class activities and discussions.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

Students should be willing to share their works to enhance each other's learning experiences.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.

評価割合: 0%

▼ その他

Not applicable

評価割合: Not applicable

授業計画: Week 01: Course introduction & guidance
Week 02: Looking ahead to your 20s (1)
Week 03: Looking ahead to your 20s (2)
Week 04: Project 1 workshop
Week 05: Developing your skills (1)
Week 06: Developing your skills (2)
Week 07: Project 2 workshop
Week 08: Project showcase 1
Week 09: Building resilience (1)
Week 10: Building resilience (2)
Week 11: Project 3 workshop
Week 12: Connecting with others (1)
Week 13: Connecting with others (2)
Week 14: Project 4 workshop
Week 15: Project showcase 1, Course Wrap-up

使用テキスト: None. The class materials will be provided by the instructor as needed.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Watch the assigned presentation and prepare to explain the content and your reaction to it.

Review the class's content and think of possible applications to your own life.

障がいのある履修者への対応: Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.

授業時間外の連絡手段: During the office hours or by email. The details will be explained in the first class.

留意事項: ・This class will be taught primarily in English with Japanese explanations when needed.
・This class will use Microsoft Teams for announcements, communication, and assignment distribution& submission.
・Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone) as much as possible.

科目コード: 12139 **科目ナンバリング:** EN20A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 現代英語基礎演習II c(Basic English Seminar II c)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表
08 共同学習
11 討論
17 発問と回答

授業の概要: このゼミでは日本では当たり前だが、海外では驚かれる、カッコいいと思われる、日本の文化と技術の特徴について学びます。はじめに、NHKの番組「Cool Japan 発掘！ カッコいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」をもとに作られた教科書を使用し、様々なトピックをめぐるディスカッションとグループワークを行います。次に、学習の基礎となるアカデミック・プレゼンテーションの作り方について学びます。最後に、それらを踏まえて、気になる「不思議な・Cool日本」に関して調べ、PowerPointを使った個人プレゼンテーション(15分)を行っていただきます。

キーワード: 異文化理解、日本文化、Cool Japan、ディスカッション、プレゼンテーションの作り方

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本の文化の多様性に気づき、異文化理解を深めることができます。

評価方法: 授業への参加度、ディスカッション、グループワーク **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1.日本の文化と日本の魅力を英語で説明できるようになります。
2.英語でのプレゼンテーションの基礎知識を身につけます。

評価方法: プレゼンテーション **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回：ガイダンス。
第02回：Long-established business.
第03回：Volunteer work.
第04回：High-Tech Living (Automobiles)
第05回：Japanese Tableware.
第06回：Homemakers of Japan.
第07回：Japanized Foreign Dishes.
第08回：Senior Citizens (Medical Checkups)
第09回：Money
第10回：プレゼンテーションの基礎知識(1)
第11回：プレゼンテーションの基礎知識(2)
第12回：プレゼンテーション実習2(4-5名の学生による発表)
第13回：プレゼンテーション実習3(4-5名の学生による発表)
第14回：プレゼンテーション実習4(4-5名の学生による発表)
第15回：プレゼンテーション実習4(4-5名の学生による発表。まとめ)

使用テキスト： 津田 晶子, 金志 佳代子, Christopher Valvona (2019)『Discovering Cool Japan / 発掘!かっこいいニッポン: 異文化理解から日本文化発信へ』成美堂 (2,500円)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習として、教科書や配布資料の読解と課題への取り組みとプレゼンテーションの準備が求められます。(90分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 1) 授業には必ず、教科書と辞書(電子辞書可)を持参してください。
2) 授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。
3) 授業の受講人数、受講生の取組みなどの事情により、授業計画は変更する可能性があります。

科目コード：12139 科目ナンバリング：EN20A01E 主な使用言語：English

授業名(英文)：現代英語基礎演習II d(Basic English Seminar II d)

担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07 発表(Presentation)
10 資料調査課題(Resource research)
17 発問と回答(Questioning and answers)

授業の概要： In this course, students will learn how to carry out debates and discussions in English. This course will cover topics including but not limited to: crime and punishment; governance; social, moral and religious; and culture, education, and sport. Students will be divided into small groups and carry out in-group debates and discussions. Students will also learn how

to make arguments regarding controversial issues. Students will present their arguments regarding a chosen topic of their own by the end of this semester.

キーワード: Argument and debate, critical thinking, social issues, contemporary society, presentation skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Through the course, you will be able to critically discuss and argue about contemporary social issues in English.

評価方法: In-class debates and discussions

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Through the course, you will be able to express your ideas and opinions regarding certain social issues critically, and presenting your ideas to others.

評価方法: Presentation

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students are expected to attend every seminar and actively participate into discussions and debates.

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

Students are expected to actively participate in discussions and group works.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Negative and discriminative behaviours, acts, sleeping and disrespect will not be tolerated. And the student will be immediately reprimanded.

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。 □

授業計画: Week1: Course introduction - What is an argument?

Week2: Analysing simple arguments

Week3: Finding more details in arguments

Week4: Exploring weakness and finding strengths

Week5: Assessing the credibility of evidence

Week6: Mock debate

Week7: Course review

Week8: Presentation skills

Week9: Presentation preparation

Week10: Presentation 1

Week11: Presentation 2

Week12: Presentation 3

Week13: Presentation 4

Week14: Presentation 5

Week15: Presentation 6

使用テキスト: Course materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Additional reading materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：** 第1回目と第15回目はキャンパスにおいて、第2回目～第14回目は、研修先のハワイ・パシフィック大学キャンパスにおいて授業を実施します。プログラムA(主として中等教育教員志望者対象)とプログラムB(主として初等教育教員志望者対象)が同時進行します。最終スケジュールは6月頃に決定される予定ですので、それに沿って適宜事前指導します。
- 【第1回】事前指導(6月に実施予定)
 - 【第2回】Developing a Philosophy of Language Teaching/英語の発音・会話練習#1
 - 【第3回】Attention& Awareness in Language Classroom/英語の発音・会話練習#2
 - 【第4回】Communication Activities for EFL Learners/クラスルームイングリッシュ#1
 - 【第5回】Culture and English as an International Language/クラスルームイングリッシュ#2
 - 【第6回】Strategies for Teaching Vocabulary/ALTとの打ち合わせに必要な会話練習
 - 【第7回】Teaching English Through English/Small Talk 練習#1
 - 【第8回】Extensive Reading: Helping Students to Become EFL Readers/Small Talk 練習#2
 - 【第9回】Approaches to Teaching Writing/Small Talk 練習#1
 - 【第10回】Motivating Foreign Language/Learners/英語の指導#1
 - 【第11回】Intercultural Communication/英語の指導#2
 - 【第12回】Developing Interactive Competence for EFL Learners/英語の指導#3
 - 【第13回】Using Games to Teach English to Young Learners/マイクロティーチング
 - 【第14回】Wrap-Up Session/まとめ
 - 【第15回】事後指導

使用テキスト： プリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 英語のニュースを聞く、アプリで英会話の練習をするなどして、現地で気後れしないように英語に慣れておきましょう。

日本の中学校、小学校の英語の教科書を購入して、どのような授業が行われているのか、英語で説明できるようにしておきましょう。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応しますので、まずは学務部にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 当該研修には、この授業を履修する学部学生の他に、本学大学院生、現職の英語教員(小学校、中学校、高等学校)が参加し、英語教育に関する研修を行います。そのため、将来真剣に教職を目指す学生のみが対象となることに留意してください。

研修期間は2023年8月6日～20日の予定で、研修費(渡航費、授業料、宿泊費等)として約70万円の費用を見込んでいます。研修参加費の支払いは5月頃になります。

日本およびハワイのコロナ感染症の状況により、実施が不可となる場合もあります。

質問のある学生は、村上(murakami-m@icc.ac.jp)にメールで質問してください。

科目コード：12142 科目ナンバリング：EN30C07E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：論文作成法(Training in Thesis Writing)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：10. 資料調査課題
15. レポート指導

授業の概要： この授業では、学術的な考えに基づいて、「論文」を日本語及び英語で書く方法を学びます。授業は、「論トレ」、「アカデミックライティング」、「論文執筆講座」の3つのセッションで構成されます。

【論トレ】

一口に「考える」と言っても、その中にはいくつもの思考過程が含まれます。また、「書く」という行為も同様に、様々な作業に細分化されます。授業では、それらの論文執筆に必要とされるスキルを向上させるための課題を解く中で、学問的な問いの立て方や論理展開を思考する力をトレーニングしていきます

【アカデミックライティング】

英文で論文(要旨)を書く上で、適切な語彙・表現などを、オンデマンド動画で解説します。毎回、それらに関する問題が出されますので、事前に回答しておくこと。

【論文執筆講座】

論文を執筆するには、まず自分の主張が存在する必要があります。自身の関心のある事柄のぼんやりとした知識体系から、いかに自身の主張へとつなげるかを学びます。また、論文には執筆に関わるルールが存在します。そのような論文執筆時の留意点などを習得することが目的です。

キーワード： アカデミックライティング、クリティカルシンキング、ロジカルライティング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本語及び英語の「学術的な」論文としての表現を身につけており、5000字程度の日本語論文と400語程度の英語要旨を書くことができる。

評価方法： 課題論文

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 先行研究を正しく批判し、論理的な主張を展開することができる。

評価方法： 課題論文

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内で配布するコメントシートにおいて、有益な質問・コメント等の記述が認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、剽窃行為はペナルティの対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第01回: オリエンテーション
第02回: テーマを決める
第03回: 文献を複数探す
第04回: 通説と諸説をわけ
第05回: 結論と根拠を特定する
第06回: 批判する(ホントカナ?の心)

- 第07回: 反論する
- 第08回: 根拠と証拠を探す
- 第09回: 論文の構成を考える
- 第10回: 剽窃から引用へ
- 第11回: 文章を読みやすくする
- 第12回: 情報の要／不要をわかる
- 第13回: 推敲する
- 第14回: 最終チェック
- 第15回: まとめ

使用テキスト: 特にありません。必要資料は適宜授業で紹介します。

予習・復習のポイントと【参考書】
参考文献・資料等: 参考文献として以下を挙げておきます

吉田友子 (2015)『アカデミックライティング入門?英語論文作成法』, 慶應義塾大学出版会.
 山口裕之 (2013)『コピペと言われないレポートの書き方教室 3つのステップ』, 新曜社.
 野矢茂樹 (2006)『入門!論理学』, 中央公論新社.
 その他、授業内で紹介します。

【予習】
 「アカデミックライティング」の課題を事前に行い、その解説をオンデマンド動画にて視聴してもらいます。
 「論トレ」の課題を事前に行い、オンライン上にて解答してもらいます。
 随時、授業の進捗に合わせて、論文執筆を進めていってもらいます。

【復習】
 問題が指摘された箇所について修正をしていくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項:

1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. この授業の履修者の上限を20名程度とします。履修希望者数がこれを超える場合は、調整することがあります。
3. 中級程度のライティング能力を備えていることが求められます。
4. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってもらいます。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 12143 **科目ナンバリング:** EN40C01S **主な使用言語:** 日本語と英語

授業名(英文): 卒業研究 a(Graduation Thesis a)

担当者: 上野 尚美

基本情報

年次: 4 **単位数:** 4 **授業形式:** 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素:** 10. 資料調査課題

授業の概要: 卒業研究を希望する者が、指導教員のアドバイスをもとに自分でテーマを決め、そのテーマに沿った研究を行い、研究論文を完成させることができるように指導する。

キーワード: 卒業論文、卒業研究、英語教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 卒業研究を完成させるために、扱っている題目に関する知識・技能を身につけることができる。

評価方法: 面接指導により評価する。

評価割合: 50%

▼**思考力・判断力・表現力**

到達目標: 執筆中の卒業研究において自主学修によって得られた知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの考え方を表現することができる。

評価方法: 執筆された原稿により評価する。

評価割合: 50%

▼**学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼**実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼**公正性**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼**その他**

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 30回の授業時間の指導を基本とするが、卒業論文のテーマに応じて個別の指導も適宜行う。

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・指導を受ける前に必要な文献を読み、疑問点があれば指導を受ける際に質問ができるようにまとめること。
・調べるように指示された事は、次回の指導までに調べておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 指導教員の指示にしたがって、論文執筆計画通りに進められるように努めること。

科目コード: 12143

科目ナンバリング: EN40C01S

主な使用言語: English

授業名(英文): 卒業研究 b(Graduation Thesis b)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: Seminar

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 15.レポート指導

授業の概要: In order to help you writing your dissertation, this course will provide you with guidances concerning the following aspects:

1. Formulating a research question
2. Engaging with literature on your topic
3. Research ethics
4. Methodology

5. Data collection and analysis
6. Writing and formatting

キーワード: Dissertation, Methodology, Sociology, Critical Analysis

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Writing a dissertation that explores a clear issue, problem or question, drawing on theory and research from sociology and other related fields.

評価方法: Dissertation

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Developing an argument based on your chosen research topic while engaging with existing literature

評価方法: Dissertation

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、論文の内容において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 30回の授業時間の指導を基本とするが、卒業論文のテーマに応じて個別の指導も適宜行う。

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

Some helpful texts and textbooks:

Gibson, W., & Brown, Andrew. (2009). Working with Qualitative Data. London: SAGE Publications. Broder Sumerson, J. (2013) Finish Your Dissertation, Don't Let it Finish You!
Thomas, G. (2013) How to Do Your Research Project. London: SAGE Publications.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: ワーキングアワーにメールでの連絡を行います。連絡先については初回にお知らせします。

留意事項: You can write your dissertation in either English or Japanese (but English is strongly preferred), although this class will be solely conducted in English.

科目コード: 12143

科目ナンバリング: EN40C01S

主な使用言語: 指導は日本語|論

授業名(英文): 卒業研究 c(Graduation Thesis c)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 研究指導

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 10.資料調査課題
15.レポート課題

授業の概要: ゼミで扱う口語英語のデータ分析(語彙分析)など、英語学・応用言語学に関する論文の作成を目的とする学生に対する指導を行う。

キーワード: 英語学、応用言語学、音声学、音韻論、語彙論、語用論、辞書学、コーパス言語学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語学または応用言語学の専門的知識を身につけている。

評価方法: 研究論文

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的な文章を作成することができる。

評価方法: 研究論文

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

各自の研究テーマに関して、参考文献を主体的に探し出すことができる。また、分析のための言語データを主体的に扱うことができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

研究論文作成において、引用のルールを守ることができる。

評価割合: 20%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 01-02. 研究テーマの適切性に関する相談・指導
03-04. 研究テーマに関する基本文献の選定
05-06. 基本文献の講読
07-08. 先行研究のレビュー
09-10. 研究テーマにおける「仮説」の設定
11-12. 研究テーマに関する言語データの選定
13-14. 言語データ分析の手法に関する相談・指導
15-16. 言語データ分析の実践
17-18. 言語データ分析結果の発表
19-20. 言語データ分析結果に基づく考察
21-22. 「仮説」が支持されたかどうかの考察
23-24. 論文第1稿の作成
25-26. 論文第1稿の精査
27-28. 論文第2稿の作成
29-30. 論文第2稿の精査→完成

使用テキスト: 論文のテーマにより決定

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習においては研究テーマに関する参考文献をしっかりと読むこと。復習においては指摘された内容を研究論文に反映させるように努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項: 卒業研究で私の指導を希望する学生は、事前にしっかりと相談すること。

科目コード: 12143 **科目ナンバリング:** EN40C01S **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 卒業研究 d(Graduation Thesis d)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 4 **単位数:** 4 **授業形式:** 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素:** レポート指導

授業の概要: 卒業論文作成のサポートを行います。教員は履修学生の研究テーマに沿った資料収集、分析、考察を指導し、学生は教員との議論をとおして論文を作成します。

キーワード: 卒業論文, 論文作成, 文学研究, 文化研究, 文学批評

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 大学での卒業研究の意義を自覚し、明晰かつ論理的な文章で論文を書くことができる。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 先行研究を踏まえ、独創的な視点から研究対象を考察し、その内容を明確に表現できる。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が卒業論文の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、議論での発言や卒業論文の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ その他

とくになし。

評価割合: とくになし。

授業計画: 履修者を対象とする集中講義の他、卒業研究のテーマに合わせて個別に定期的に対応します。具体的な指導の流れは、「テーマと研究方法の設定」「資料の収集方法」「論文の書き方」「資料の分析と考察」「原稿の確認」「推敲と書式の統一」。

使用テキスト： とくになし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 卒業論文作成には多くの時間と労力を必要とするので余裕をもつてのぞむこと。参考資料については研究の進捗に応じて適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： 卒業研究のテーマはイギリス文学またはイギリス文化を対象とし、関心のある作品・作家または内容について具体的であることを前提とします。

科目コード：12143 科目ナンバリング：EN40C01S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究 e(Graduation Thesis e)

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職(専修免許)

AL要素：発問と回答

授業の概要： 本授業は、卒業論文の執筆に必要な知識・技術を学び、論文の章を執筆する演習を伴う。

キーワード： 修士論文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： APAスタイルでの論文を執筆するための知識を身につけている。

評価方法： 卒業論文

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らの研究課題について、論文の形式に則り、十分に表現することができる。

評価方法： 卒業論文

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業外で執筆をしなくてはならないので、学修に主体的に取り組む態度は必須である。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし論文において、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、期末レポートにおいて、剽窃等の著しく公正性を欠く行為が見られた場合は、減点等の措置をとる場合がある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：論文の形式(APAスタイル)について

第2回:章立て、アウトラインの作成
第3回:第1章の執筆
第4回:第1章の修正
第5回:第1章の推敲
第6回:第1章の再修正
第7回:第2章の執筆
第8回:第2章の修正
第9回:第2章の推敲
第10回:第2章の再修正
第11回:第3章の執筆
第12回:第3章の修正
第13回:第3章の推敲
第14回:第3章の再修正
第15回:参考文献、引用

使用テキスト: APA Publication Manual 第7版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実際の執筆は授業外で行い、これが予習にあたる。授業で添削したものを修正版として仕上げ遂行する作業が復習にあたる。
参考文献・資料等は授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ICメールで連絡の上、研究室でのオフィス・アワー以外の相談にも対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 12143 **科目ナンバリング:** EN40C01S **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 卒業研究 f(Graduation Thesis f)

担当者: 沼館 ジュニー

基本情報

年次: 4 **単位数:** 4 **授業形式:** 集中|個別面談
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:** E
関連資格: なし。 **AL要素:** 15. レポート指導

授業の概要: 基本的に個別指導になりますが、論文執筆者間での意見交換をする場を設けたいと思っています。自分の殻に閉じこもらずに、他者の意見に耳を傾けることを心がけましょう。また、他者へコメントを寄せることが、思いがけず自分への反省に繋がる場合があります。

キーワード: 英語学、日本語学、言語学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 問題点が明瞭に指摘し、研究論文として適切な形式・内容で論文を執筆できる。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的に議論を進め、適切に証拠・根拠を提示している。読み手に理解しやすく書ける。

評価方法: 卒業論文 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。定期的に面談をし、進捗報告をすること。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、剽窃行為のないよう注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 定期的な個別指導によって、計画的に研究を進めていきます。

使用テキスト： 特にありません。自身で必要な資料を集め、読み進めましょう。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 随時面談し、不明な点があれば教員に質問すること。演習での学習が反映されるのが望ましいですが、独自の関心に沿ってどんどん文献を読んでいって下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お知らせします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 1. 指導や相談はこまめに行いたいと思いますので、お気軽にメール、もしくは研究室に足を運んで下さい。
2. 「論文作成法」を受講していることが望ましいですが、適宜論文執筆指導も行います。

科目コード：12143

科目ナンバリング：EN40C01S

主な使用言語：English

授業名(英文)：卒業研究 f(Graduation Thesis f)

担当者：沼館 ジェニー

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07 発表

09 実地調査

10 資料調査課題

15 レポート指導

授業の概要： This class is to assist students' development of critical thinking, research, and writing skills.

キーワード： research thesis
research
writing

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： Improvement of research and writing skills

評価方法： research of thesis contents, construction of thesis contents and their explanations

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： development of critical thinking skills

評価方法： development of thesis argument

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

The student must take responsibility for the content and planning of the thesis.

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

Dependent on the research topic chosen by student

評価割合:0%

▼公正性

Plagiarism will result in a failing grade.

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: Students should plan to finish the research stage of their thesis before the beginning of the autumn semester and write the thesis during the fall. They should have the final draft done by December.

使用テキスト: Dependent on the research topic chosen by student

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Dependent on the research topic chosen by student

障がいのある履修者への対応: As thesis instruction and assistance is on an individual basis, assistance given to students will be individualized for all students.

授業時間外の連絡手段: The teacher's university email address will be given to all students individually enrolling in this class.

留意事項: Students must be responsible for their research projects.

科目コード:12143 科目ナンバリング:EN40C01S 主な使用言語:English

授業名(英文):卒業研究g(Graduation Thesis g)

担当者:Yoshiba, David C.

基本情報

年次:4

単位数:4

授業形式:演習

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07 発表

09 実地調査

10 資料調査課題

15 レポート指導

授業の概要: This class is to assist students' development of critical thinking, research, and writing skills.

キーワード: research thesis
research
writing

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Improvement of research and writing skills

評価方法: research of thesis contents, construction **評価割合:** 50%

of thesis contents and their explanations

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: development of critical thinking skills

評価方法: development of thesis argument

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

The student must take responsibility for the content and planning of the thesis.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Dependent on the research topic chosen by student

評価割合: 0%

▼公正性

Plagiarism will result in a failing grade.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Students should plan to finish the research stage of their thesis before the beginning of the autumn semester and produce their writing during the autumn semester.

使用テキスト: Dependent on the research topic chosen by student

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Dependent on the research topic chosen by student

障がいのある履修者への対応: As thesis instruction and assistance is on an individual basis, assistance given to students will be individualized for all students.

授業時間外の連絡手段: The teacher's university email address will be given to all students individually enrolling in this class.

留意事項: Students must be responsible for their research projects.

科目コード: 12143

科目ナンバリング: EN40C01S

主な使用言語: 英語、日本語

授業名(英文): 卒業研究 h(Graduation Thesis h)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: -

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 10.資料調査課題
15.レポート指導

授業の概要: 個別指導によって計画的に研究を進めていきます。

キーワード: 言語学、意味論、語用論、社会言語学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語の意味論・語用論、また社会言語学に関わるテーマについて調査・研究を行うことができます。

評価方法: 研究論文の形式・内容を総合的に評価し

評価割合: 100%

ます。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」と合わせて評価します。

評価方法：「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、指導実施中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 個別指導によって計画的に研究を進めていきます。

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと「論文作成法」の授業を受けることが望ましいです。

参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 論文は英語もしくは日本語で書くことができます。

質問などありましたらYuliya Dzyabko (yu.dzyabko@icc.ac.jp)まで連絡してください。

科目コード：12144

科目ナンバリング：EN11A01E

主な使用言語：English

授業名(英文)：English Communication I a(English Communication I a)

担当者：上村 由美

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職

AL要素：05 Response System

08 Group Work

13 role playing

15 Correction Guidance

17 Questioning and Answer

授業の概要： [特例期間中の授業形態] 遠隔授業(同時双方向型)

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English to "communicate." Students will learn to use English structures, phrases, and vocabulary that are appropriate to their proficiency levels based on Common European

Framework of Reference (CEFR). Students will interact in English with the teacher and each other in groups and pairs through communicative activities such as role-play and information gaps. They will also be introduced to simple conversation management strategies and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students are encouraged to write simple paragraphs online or in-class to improve their writing skills and enhance their language learning process as a whole. By the end of the course, students will have the sense of "being able to function" in real situations using the English that they have studied in class.

キーワード: Communication, Conversation, Communicative language learning, four (4) skills, ECRF, Grammar, English vocabulary, Group work, strategies

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will be able to show the understanding of English structures and knowledge of vocabulary and phrases that they studied in class on paper and speaking tests.

評価方法: 3 Unit Quizzes (written)

評価割合: 15%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be able to conduct a 6 to 8- minute conversation solely in English on the topics covered in class. . They will be able to (at least try to) actively participate and include everyone in the conversation process. Also, they can carry on the conversation even when they don't have enough language by finding the ways to make up for it. Students will be able to write short paragraphs expressing their opinions or describing things clearly and effectively.

評価方法: Graded Conversation Test

評価割合: 35%2015

Essay writing (3)

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will play an active role in accomplishing the tasks prepared for each lesson. They are willing to challenge and make mistakes in the process of learning English. Also, they are willing to help each other out.

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

Students will attend chat hours offered by DCE interns, and at least 5 attendances are required. However, students can attend as many chat hours as they want to practice using English, to learn about other cultures, and to simply enjoy the college life. The gained abilities to use English through the practice may be shown and valued accordingly in the evaluation categories above as well.

Students will be enrolled in the Moodle system and expected to complete assignments each week.

評価割合: 20%1010

▼ 公正性

Although this category is not directly reflected in the grade evaluation, if a student makes discriminatory remarks and/or behavior towards a certain individual or a group of people, the student will be warned and advised. Also, cheating on tests and copying someone else's words and ideas (plagiarism) on the writing

assignments will have serious consequences such as receiving a score of 0 for the assignments.

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

- 授業計画:
1. Introduction
 2. Unit 1 Education: A: "I'm taking six classes"
 3. B: "You are not allowed to..."
 4. C: "My behavior"
 5. Quiz 1 and Task
 6. Unit 2 Personal stories: A: "What were you doing?"
 7. B: "Guess what!"
 8. C: "I was really frightened!"
 9. Quiz 2 and Task
 10. Unit 3 Style and fashion: A: "Fashion trends"
 11. B: "Does this come in...?"
 12. C: "The latest look"
 13. Quiz 3 and Task
 14. Graded Conversation Test Practice
 15. Graded Conversation and conference with the instructor

使用テキスト: Richards, J.C. and Bohlke, D. 『Four Corners 3 second edition』 Cambridge University Press

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: Students must bring a dictionary. (Electric or Paper) Cellphone use in class is prohibited unless otherwise specified.

Campus notebook: A-size

Preview the unit you will be studying in up-coming class. If you find words that you don't know the meaning, look them up in a dictionary. (15 to 20 minutes)

Complete activities on Moodle.

Watch English TV and movies to improve listening skills. Also, attend as many chat hours as you can to improve your speaking and conversation skills.

障がいのある
履修者への対応: Willing to work alongside of the students with special needs as much as possible. Please contact the office of student affairs first.

授業時間外の連絡手段: By appointment or email. The contact information will be shared at the first class meeting.

留意事項: You will need a device when taking quizzes(in-class), completing tasks(in-class), and writing short paragraphs(homework).

This class will be taught solely in English. Please note that about 25 students is the maximum size for this class and that DCE students will be given priority for registering if the students to be admitted exceeds that number.

科目コード: 12144

科目ナンバリング: EN11A01E

主な使用言語: 英語

授業名(英文): English Communication I b(English Communication I b)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職

AL要素：4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要：遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)

コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード：Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法：定期クイズ
定期試験

評価割合：35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法：会話テスト

評価割合：15%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合：50%

▼実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Week 1: Introduction and class explanation / speaking activity
Week 2: Unit 1 Lesson A
Week 3: Unit 1 Lesson B
Week 4: Unit 1 Lesson C
Week 5: Unit 1 Quiz / Communication task
Week 6: Unit 2 Lesson A
Week 7: Unit 2 Lesson B
Week 8: Unit 2 Lesson C
Week 9: Unit 2 Quiz / Communication task
Week 10: Unit 3 Lesson A
Week 11: Unit 3 Lesson B
Week 12: Unit 3 Lesson C
Week 13: Unit 3 Quiz / Graded Conversation 1
Week 14: Graded Conversation 1
Week 15: Final Quiz Units 1-3 / Communication task

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press.
ISBN 978-1-108-55859-4

予習・復習のポイントと参考文 献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留 意 事 項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード：12144 科目ナンバリング：EN11A01E 主な使用言語：English

授業名(英文)：English Communication I c(English Communication I c)

担当者：上村 由美

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職

AL要素： 05 Response System
08 Group Work
13 role playing
15 Correction Guidance
17 Questioning and Answer

授業の概要： [特例期間中の授業形態] 遠隔授業(同時双方向型)

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English to "communicate." Students will learn to use English structures, phrases, and vocabulary that are appropriate to their proficiency levels based on Common European Framework of Reference (CEFR). Students will interact in English with the teacher and each other in groups and pairs through communicative activities such as role-play and information gaps. They will also be introduced to simple conversation management strategies and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students are encouraged to write simple paragraphs online or in-class to improve their writing skills and enhance their language learning process as a whole. By the end of the course, students will have the sense of "being able to function" in real situations using the English that they have studied in class.

キーワード： Communication, Conversation, Communicative language learning, four (4) skills, ECRF, Grammar, English vocabulary, Group work, strategies

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Students will be able to show the understanding of English structures and knowledge of vocabulary and phrases that they studied in class on paper and speaking tests.

評価方法： 3 Unit Quizzes (written)

評価割合： 15%15

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will be able to conduct a 6 to 8- minute conversation solely in English on the topics covered in class. . They will be able to (at least try to) actively participate and include everyone in the conversation process. Also, they can carry on the conversation even when they don't have enough language by finding the ways to make up for it. Students will be able to write short paragraphs expressing their opinions or describing things clearly and effectively.

評価方法： Graded Conversation Test

評価割合： 35%2015

Essay writing (3)

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will play an active role in accomplishing the tasks prepared for each lesson. They are willing to challenge and make mistakes in the process of learning English. Also, they are willing to help each other out.

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

Students will attend chat hours offered by DCE interns, and at least 5 attendances are required. However, students can attend as many chat hours as they want to practice using English, to learn about other cultures, and to simply enjoy the college life. The gained abilities to use English through the practice may be shown and valued accordingly in the evaluation categories above as well.

Students will be enrolled in the Moodle system and expected to complete the assignments each week.

評価割合: 20%

▼公正性

Although this category is not directly reflected in the grade evaluation, if a student makes discriminatory remarks and/or behavior towards a certain individual or a group of people, the student will be warned and advised. Also, cheating on tests and copying someone else's words and ideas (plagiarism) on the writing assignments will have serious consequences such as receiving a score of 0 for the assignments.

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

- 授業計画:**
1. Introduction
 2. Unit 1 My interest: A: "I'm interested in fashion"
 3. B: "Can you repeat that please?"
 4. C: "Do you play sports?"
 5. Quiz 1 and Task
 6. Unit 2 Descriptions: A: "He's talkative and friendly"
 7. B: "I don't think so."
 8. C: "What do they look like?"
 9. Quiz 2 and Task
 10. Unit 3 Rain or shine: A: "It's extremely cold."
 11. B: "In my opinion,..."
 12. C: "I'd like to play chess."
 13. Quiz 3 and Task
 14. Graded Conversation Test Practice
 15. Graded Conversation and conference with the instructor

使用テキスト: Richards, J.C. and Bohlke, D. 『Four Corners 2 second edition』 Cambridge University Press

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Students must bring a dictionary. (Electric or Paper) Cellphone use in class is prohibited unless otherwise specified.

Campus notebook: A-size

Preview the unit you will be studying in up-coming class. If you find words that you don't know the meaning, look them up in a dictionary. (15 to 20 minutes)

Complete the activities on Moodle.

Watch English TV and movies to improve listening skills. Also, attend as many chat hours as you can to improve your speaking and conversation skills.

障がいのある履修者への対応: Willing to work alongside of the students with special needs as much as possible. Please contact the office of student affairs first.

授業時間外の連絡手段: By appointment or email. The contact information will be shared at the first class meeting.

留意事項: You will need a device when taking quizzes(in-class), completing tasks(in-class), and writing short paragraphs(homework).

This class will be taught solely in English. Please note that about 25 students is the maximum size for this class and that DCE students will be given priority for registering if the students to be admitted exceeds that number.

科目コード: 12144 **科目ナンバリング:** EN11A01E **主な使用言語:** 英語
授業名(英文): English Communication I d(English Communication I d)
担当者: McLain, Michael D.

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習
曜時: 火曜2限 **履修可能学科・専攻:** E
関連資格: 教職 **AL要素:** 4:課題解消
8:協同学習
11:討論
17:発問と回答

授業の概要: “遠隔授業(同時双方向型)
コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。
教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ **評価割合:** 30
定期試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 30

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 40

▼実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Introduction and class explanation / speaking activity
Week 2: Lesson 1A
Week 3: Lesson 1B
Week 4: Lesson 1C
Week 5: Quiz 1 / Activity
Week 6: Lesson 2A
Week 7: Lesson 2B
Week 8: Lesson 2C
Week 9: Quiz 2 / Activity
Week 10: Lesson 3A
Week 11: Lesson 3B
Week 12: Lesson 3C
Week 13: Quiz 3 / Activity
Week 14: Graded Conversation Practice
Week 15: Graded Conversations/Final
定期試験 Units 1-3

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55859-4

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: Please use email to contact teacher.

留意事項: This class will be taught in English.

この授業は英語のみで行われる。
Maximum number of students is 25.

科目コード:12145 科目ナンバリング:EN12A01E 主な使用言語: English

授業名(英文): English Communication II a(English Communication II a)

担当者: 上村 由美

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式: 演習

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 教職

AL要素: 05 Response System
08 Group Work
13 role playing
15 Correction Guidance
17 Questioning and Answer

授業の概要: [授業形態ガイドライン・レベルIII]同時双方向型・[授業形態ガイドライン・レベルII]同時双方向型

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English to "communicate." Students will learn to use English structures, phrases, and vocabulary that are appropriate to their proficiency levels based on Common European Framework of Reference (CEFR). Students will interact in English with the teacher and each other in groups and pairs through communicative activities such as role-play and information gaps. They will also be introduced to simple conversation management strategies and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students are encouraged to write simple paragraphs online or in-class to improve their writing skills and enhance their language learning process as a whole. By the end of the course, students will have the sense of "being able to function" in real situations using the English that they have studied in class.

キーワード: Communication, Conversation, Communicative language learning, four (4) skills, ECRF, Grammar, English vocabulary, Group work, strategies

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will be able to show the understanding of English structures and knowledge of vocabulary and phrases that they studied in class on paper and speaking tests.

評価方法: 3 Unit Quizzes (written)

評価割合: 15%15

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be able to conduct a 6 to 8- minute conversation solely in English on the topics covered in class. . They will be able to (at least try to) actively participate and include everyone in the conversation process. Also, they can carry on the conversation even when

they don't have enough language by finding the ways to make up for it.
Students will be able to write short paragraphs expressing their opinions or describing things clearly and effectively.

評価方法: Graded Conversation Test

評価割合: 35%2015

Essay writing (3)

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will play an active role in accomplishing the tasks prepared for each lesson. They are willing to challenge and make mistakes in the process of learning English. Also, they are willing to help each other out.

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

Students will attend chat hours offered by DCE interns, and at least 5 attendances are required. However, students can attend as many chat hours as they want to practice using English, to learn about other cultures, and to simply enjoy the college life. The gained abilities to use English through the practice may be shown and valued accordingly in the evaluation categories above as well.

Students are expected to complete assignments on Moodle each week.

評価割合: 20%1010

▼公正性

Although this category is not directly reflected in the grade evaluation, if a student makes discriminatory remarks and/or behavior towards a certain individual or a group of people, the student will be warned and advised. Also, cheating on tests and copying someone else's words and ideas (plagiarism) on the writing assignments will have serious consequences such as receiving a score of 0 for the assignments.

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

- 授業計画:**
1. Welcome back!
 2. Unit4 Interesting lives: A: "Have you ever been on TV?"
 3. B: "What I mean is..."
 4. C: "Life experiences"
 5. Quiz 1 and Task
 6. Unit 5 Our world: A: "Older, taller, and more famous"
 7. B: "I don't believe it!"
 8. C: "World geography"
 9. Quiz 2 and Task
 10. Unit 6 Organizing your time: A: "A busy week"
 11. B: "Can I take a message?"
 12. C: "Can you do me a favor?"
 13. Quiz 3 and Task
 14. Graded Conversation Test Practice
 15. Graded Conversation and conference with the instructor

使用テキスト: Richards, J.C. and Bohlke, D. 『Four Corners 3 second edition』 Cambridge University Press

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Students must bring a dictionary. (Electric or Paper) Cellphone use in class is prohibited unless otherwise specified.

Campus notebook: A-size

Preview the unit you will be studying in up-coming class. If you find words that you don't

know the meaning, look them up in a dictionary. (15 to 20 minutes)

Complete the activities on Moodle.

Watch English TV and movies to improve listening skills. Also, attend as many chat hours as you can to improve your speaking and conversation skills.

障がいのある履修者への対応: Willing to work alongside of the students with special needs as much as possible. Please contact the office of student affairs first.

授業時間外の連絡手段: By appointment or email. The contact information will be shared at the first class meeting.

留意事項: You will need a device when taking quizzes(in-class), completing tasks(in-class), and writing short paragraphs(homework).

This class will be taught solely in English. Please note that about 25 students is the maximum size for this class and that DCE students will be given priority for registering if the students to be admitted exceeds that number.

科目コード:12145 科目ナンバリング:EN12A01E 主な使用言語:英語

授業名(英文): English Communication II b(English Communication II b)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:教職

AL要素: 4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要: コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

授業がオンラインになった場合は授業はZoomでいつも通り行います。この授業のmoodleサイトにZoomのリンクがありますので、そちらを確認してください。

キーワード: Task-based Learning, Communication, Conversation, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 55%

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Welcome back / speaking activity
Week 2: Lesson 4A
Week 3: Lesson 4B
Week 4: Lesson 4C
Week 5: Quiz 1 / Communication task
Week 6: Lesson 5A
Week 7: Lesson 5B
Week 8: Lesson 5C
Week 9: Quiz 2 / Communication task
Week 10: Lesson 6A
Week 11: Lesson 6B
Week 12: Lesson 6C
Week 13: Quiz 3 / Graded Conversation
Week 14: Graded Conversation
Week 15: Final quiz Units 4-6 / Communication task

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press.
ISBN 978-1-108-55859-4

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
There will be a maximum of 25 students in this class.

科目コード: 12145 **科目ナンバリング:** EN12A01E **主な使用言語:** English

授業名(英文): English Communication II c(English Communication II c)

担当者: 上村 由美

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 教職

AL要素: 05 Response System
08 Group Work
13 role playing
15 Correction Guidance
17 Questioning and Answer

授業の概要: [授業形態ガイドライン・レベルIII]同時双方向型・[授業形態ガイドライン・レベルII]同時双方向型

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English to "communicate." Students will learn to use English structures, phrases, and vocabulary that are appropriate to their proficiency levels based on Common European Framework of Reference (CEFR). Students will interact in English with the teacher and each other in groups and pairs through communicative activities such as role-play and information gaps. They will also be introduced to simple conversation management strategies and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students are encouraged to write simple paragraphs online or in-class to improve their writing skills and enhance their language learning process as a whole. By the end of the course, students will have the sense of "being able to function" in real situations using the English that they have studied in class.

キーワード: Communication, Conversation, Communicative language learning, four (4) skills, ECRF, Grammar, English vocabulary, Group work, strategies

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will be able to show the understanding of English structures and knowledge of vocabulary and phrases that they studied in class on paper and speaking tests.

評価方法: 3 Unit Quizzes (written)

評価割合: 15%15

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be able to conduct a 6 to 8- minute conversation solely in English on the topics covered in class. . They will be able to (at least try to) actively participate and include everyone in the conversation process. Also, they can carry on the conversation even when they don't have enough language by finding the ways to make up for it.
Students will be able to write short paragraphs expressing their opinions or describing things clearly and effectively.

評価方法: Graded Conversation Test

評価割合: 35%2015

Essay writing (3)

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will play an active role in accomplishing the tasks prepared for each lesson. They are willing to challenge and make mistakes in the process of learning English. Also, they are willing to help each other out.

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

Students will attend chat hours offered by DCE interns, and at least 5 attendances are required. However, students can attend as many chat hours as they want to practice using English, to learn about other cultures, and to simply enjoy the college life. The gained abilities to use English through the practice may be shown and valued accordingly in the evaluation categories above as well.

Students are expected to complete the activities on Moodle.

評価割合: 20%1010

▼公正性

Although this category is not directly reflected in the grade evaluation, if a student makes discriminatory remarks and/or behavior towards a certain individual or a group of people, the student will be warned and advised. Also, cheating on tests and copying someone else's words and ideas (plagiarism) on the writing assignments will have serious consequences such as receiving a score of 0 for the assignments.

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

- 授業計画:**
1. Welcome back!
 2. Unit4 Life at home: A: "There's a lot of light."
 3. B: "Can you turn down the music?"
 4. C: "I always hang up my clothes."
 5. Quiz 1 and Task
 6. Unit 5 Health: A: "Breathe deeply."
 7. B: "I'm not feeling well."
 8. C: "How healthy are you?"
 9. Quiz 2 and Task

10. Unit 6 What's on TV?: A: "I love watching game shows."
11. B: "I don't really agree."
12. C: "I'm recording documentary."
13. Quiz 3 and Task
14. Graded Conversation Test Practice
15. Graded Conversation and conference with the instructor

使用テキスト: Richards, J.C. and Bohlke, D. 『Four Corners 2 second edition』 Cambridge University Press

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Students must bring a dictionary. (Electric or Paper) Cellphone use in class is prohibited unless otherwise specified.

Campus notebook: A-size

Preview the unit you will be studying in up-coming class. If you find words that you don't know the meaning, look them up in a dictionary. (15 to 20 minutes)

Complete the activities on Moodle.

Watch English TV and movies to improve listening skills. Also, attend as many chat hours as you can to improve your speaking and conversation skills.

障がいのある履修者への対応: Willing to work alongside of the students with special needs as much as possible. Please contact the office of student affairs first.

授業時間外の連絡手段: By appointment or email. The contact information will be shared at the first class meeting.

留意事項: You will need a device when taking quizzes(in-class), completing tasks(in-class), and writing short paragraphs(homework).

This class will be taught solely in English. Please note that about 25 students is the maximum size for this class and that DCE students will be given priority for registering if the students to be admitted exceeds that number.

科目コード: 12145

科目ナンバリング: EN12A01E

主な使用言語: 英語

授業名(英文): English Communication II d(English Communication II d)

担当者: McLain, Michael D.

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 教職

AL要素: 4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要: 「遠隔授業」(同時双方向型)

コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活

動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 30

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 30

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 40

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: Welcome back / speaking activity

Week 2: Lesson 4A

Week 3: Lesson 4B

Week 4: Lesson 4C

Week 5: Quiz 1 / Activity
Week 6: Lesson 5A
Week 7: Lesson 5B
Week 8: Lesson 5C
Week 9: Quiz 2 / Activity
Week 10: Lesson 6A
Week 11: Lesson 6B
Week 12: Lesson 6C
Week 13: Quiz 3 / Activity
Week 14: Graded Conversation Practice
Week 15: Graded Conversations/Final
定期試験 Units 1-3

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55859-4

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード: 12146 **科目ナンバリング:** EN21A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): English Communication III a(English Communication III a)

担当者: 沼館 ジュニー

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格: 教職

AL要素: 4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要:

コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: クイズ

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 45%

▼ 実践的ボランティア

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 授業内容の説明、自己紹介、会話アクティビティ
第2回 Unit 7 Lesson A (副詞の使い方)
第3回 Unit 7 Lesson B (意見の表し方)
第4回 Unit 7 Lesson C (現在完了形の使い方)
第5回 Unit 7 Lesson D (性格を計ろう)
第6回 Unit 8 Lesson A (数量詞の使い方)
第7回 Unit 8 Lesson B (答え方と断り方)
第8回 Unit 8 Lesson C (仮定法の使い方)

- 第9回 Unit 8 Lesson D (解決を見つけよう)
- 第10回 Unit 9 Lesson A (不定詞1の表現)
- 第11回 Unit 9 Lesson B (謝り方・言い訳の作り方)
- 第12回 Unit 9 Lesson C (句動詞・助動詞で推測の表現)
- 第13回 Unit 9 Lesson D (人生相談室)
- 第14回 会話テストの準備と練習
- 第15回 会話テスト
- 定期試験

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55859-4
 *セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
 Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN:978-1-009-28655-8

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
 Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
 The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
 この授業は英語のみで行われる。

科目コード: 12146 **科目ナンバリング:** EN21A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): English Communication III b(English Communication III b)

担当者: Martin Allen Campbell

基本情報

年次: 2	単位数: 1	授業形式: 演習
曜時: 月曜2限	履修可能学科・専攻: E Pe	
関連資格: 教職	AL要素: 4: 課題解消 8: 協同学習 11: 討論 17: 発問と回答	

授業の概要: コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。
 教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of

learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: クイズ

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。

Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 60%

▼実践的ボランティア

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 授業内容の説明、自己紹介、会話アクティビティ

第2回 Unit 7 Lesson A (副詞の使い方)

第3回 Unit 7 Lesson B (意見の表し方)

第4回 Unit 7 Lesson C (現在完了形の使い方)

第5回 Unit 7 Lesson D (性格を計ろう)

第6回 Unit 8 Lesson A (数量詞の使い方)

第7回 Unit 8 Lesson B (答え方と断り方)

第8回 Unit 8 Lesson C (仮定法の使い方)
第9回 Unit 8 Lesson D (解決を見つけよう)
第10回 Unit 9 Lesson A (不定詞1の表現)
第11回 Unit 9 Lesson B (謝り方・言い訳の作り方)
第12回 Unit 9 Lesson C (句動詞・助動詞で推測の表現)
第13回 Unit 9 Lesson D (人生相談室)
第14回 会話テストの準備と練習
第15回 会話テスト
定期試験

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press.
ISBN 978-1-108-55859-4
再履修者や教科書を新しく購入しなければならない学生はUnits 7-12だけの教科書を買うことを勧めます。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3B (Second Edition). Cambridge University Press.
ISBN 978-1-108-55982-9

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。
Prior to every class, students should review the textbook material and do homework.
Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp).

留意事項: この授業は英語のみで行われる。
This class will be taught in English.

科目コード: 12146 **科目ナンバリング:** EN21A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): English Communication III c(English Communication III c)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: 2 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 金曜1限 **履修可能学科・専攻:** E Pe

関連資格: 教職 **AL要素:** 4:課題解消
8:協同学習
11:討論
17:発問と回答

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)
コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。
教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

授業がオンラインになった場合は授業はZoomでいつも通り行います。この授業のmoodleサイトにZoomのリンクがありますので、そちらを確認してください。

キーワード: Task-based Learning, Communication, Conversation, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 35%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 50%

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1: 自己紹介と授業紹介 / 会話のアクティビティ
Week 2: レッスン 7A 比較形容詞
Week 3: レッスン 7B 交渉

Week 4: レッスン 7C 服に関する形容詞
Week 5: クイズ 7 / コミュニケーションタスク
Week 6: レッスン 8A お勧め致すること
Week 7: レッスン 8B お勧め致すること
Week 8: レッスン 8C 場所に関する形容詞
Week 9: クイズ 8 / コミュニケーションタスク
Week 10: レッスン 9A キャリアについて
Week 11: レッスン 9B 不確実性を表現する
Week 12: レッスン 9C 正確に関する形容詞
Week 13: クイズ 9 / 会話テスト
Week 14: 会話テスト
Week 15: クイズ / コミュニケーションタスク

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-56021-4
*セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-627772-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
There will be a maximum of 25 students in this class.

科目コード: 12146 **科目ナンバリング:** EN21A01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): English Communication III d(English Communication III d)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格: 教職

AL要素: 4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)
コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。
教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、

話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

授業がオンラインになった場合は授業はZoomでいつも通り行います。この授業のmoodleサイトにZoomのリンクがありますので、そちらを確認してください。

キーワード: Task-based Learning, Communication, Conversation, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 35%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 50%

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画： Week 1: 自己紹介と授業紹介 / 会話のアクティビティ
Week 2: レッスン 7A 比較形容詞
Week 3: レッスン 7B 交渉
Week 4: レッスン 7C 服に関する形容詞
Week 5: クイズ 7 / コミュニケーションタスク
Week 6: レッスン 8A お勧め致すること
Week 7: レッスン 8B お勧め致すること
Week 8: レッスン 8C 場所に関する形容詞
Week 9: クイズ 8 / コミュニケーションタスク
Week 10: レッスン 9A キャリアについて
Week 11: レッスン 9B 不確実性を表現する
Week 12: レッスン 9C 正確に関する形容詞
Week 13: クイズ 9 / 会話テスト
Week 14: 会話テスト
Week 15: クイズ / コミュニケーションタスク

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-56021-4
*セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-62772-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
There will be a maximum of 25 students in this class.

科目コード：12147 **科目ナンバリング：**EN22A01E **主な使用言語：**英語

授業名(英文)：English Communication IV a(English Communication IV a)

担当者：沼館 ジェニー

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要： コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って

授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 45%

▼ 実践的ボランティア

先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画： 第1回 授業内容の説明、会話アクティビティ
第2回 Unit 10 Lesson A (再帰代名詞の使い方)
第3回 Unit 10 Lesson B (アドバイスの捉え方)
第4回 Unit 10 Lesson C (句動詞・不定詞2の使い方)
第5回 Unit 10 Lesson D (すごい成果だね)
第6回 Unit 11 Lesson A (複合形容詞・過去受動態の使い方)
第7回 Unit 11 Lesson B (説明の仕方)
第8回 Unit 11 Lesson C (完了形の使い方)
第9回 Unit 11 Lesson D (自分の音楽を作る)
第10回 Unit 12 Lesson A (動名詞の使い方)
第11回 Unit 12 Lesson B (好みの聞き方・言い方)
第12回 Unit 12 Lesson C (助動詞で規則を説明)
第13回 Unit 12 Lesson D (観光しよう)
第14回 会話テストの準備と練習
第15回 会話テスト
定期試験

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55859-4
*セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN:978-1-009-28655-8

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード：12147 **科目ナンバリング：**EN22A01E **主な使用言語：**英語

授業名(英文)： English Communication IV b(English Communication IV b)

担当者： Martin Allen Campbell

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe

関連資格：教職

AL要素：4: 課題解消

8: 協同学習

11: 討論

17: 発問と回答

授業の概要： コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って

授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

キーワード: Task-based Learning, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: クイズ

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。

Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 60%

▼ 実践的ボランティア

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画： 第1回 授業内容の説明、会話アクティビティ
第2回 Unit 10 Lesson A (再帰代名詞の使い方)
第3回 Unit 10 Lesson B (アドバイスの捉え方)
第4回 Unit 10 Lesson C (句動詞・不定詞2の使い方)
第5回 Unit 10 Lesson D (すごい成果だね)
第6回 Unit 11 Lesson A (複合形容詞・過去受動態の使い方)
第7回 Unit 11 Lesson B (説明の仕方)
第8回 Unit 11 Lesson C (完了形の使い方)
第9回 Unit 11 Lesson D (自分の音楽を作る)
第10回 Unit 12 Lesson A (動名詞の使い方)
第11回 Unit 12 Lesson B (好みの聞き方・言い方)
第12回 Unit 12 Lesson C (助動詞で規則を説明)
第13回 Unit 12 Lesson D (観光しよう)
第14回 会話テストの準備と練習
第15回 会話テスト
定期試験

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55859-4
再履修者や教科書を新しく購入しなければならない学生はUnits 7-12だけの教科書を買うことを勧めます。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 3B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-55982-9

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。
Prior to every class, students should review the textbook material and do homework.
Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp).

留意事項： この授業は英語のみで行われる。
This class will be taught in English.

科目コード：12147 科目ナンバリング：EN22A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：English Communication IV c(English Communication IV c)

担当者：Stephens, M. Patrick

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：4:課題解消

8:協同学習

11:討論

17:発問と回答

授業の概要： コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここで

は、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

授業がオンラインになった場合は授業はZoomでいつも通り行います。この授業のmoodleサイトにZoomのリンクがありますので、そちらを確認してください。

キーワード: Task-based Learning, Communication, Conversation, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 55%

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Week 1: 自己紹介と授業紹介 / 会話のアクティビティ
Week 2: レッスン 10A レストランに関する言葉
Week 3: レッスン 10B レストランで使う表現
Week 4: レッスン 10C 料理と食べ物
Week 5: クイズ 10 / コミュニケーションタスク
Week 6: レッスン 11A 映画の種
Week 7: レッスン 11B 提案すること
Week 8: レッスン 11C 音楽の種
Week 9: クイズ 11 / コミュニケーションタスク
Week 10: レッスン 12A 個人的な目標
Week 11: レッスン 12B 物語を伝えること
Week 12: レッスン 12C 予測をすること
Week 13: クイズ 12 / 会話テスト
Week 14: 会話テスト
Week 15: クイズ / コミュニケーションタスク

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-56021-4
*セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-62772-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
There will be a maximum of 25 students in this class.

科目コード：12147 科目ナンバリング：EN22A01E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：English Communication IV d(English Communication IV d)

担当者：Stephens, M. Patrick

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：4:課題解消
8:協同学習
11:討論

授業の概要: コミュニケーション能力を高めるためには、英語の4つのスキルの上達が必要となる。ここでは、英語でのコミュニケーションのし方や進め方が身に付くよう、教科書と補足教材を使って授業を進める。

教科書の問題を解くことで、読み書きの力をつけ、また、学生同士で意見交換をすることで、話す力と聞く力を高めていく。さらに、Task-based language teaching (タスクによる言語活動)を元に作成された補足教材を使うことで、英語でのコミュニケーションスキルをより上達させる。この授業で学修した学生は自然な英語で会話ができるようになる。

In English Communication, we have the goal of introducing students to the concept of learning English in order to communicate. Students will learn to interact in English with the teacher and each other in groups and pairs. Classroom activities based on textbook content involve role-play, information gaps and other communicative language teaching techniques. Students will also be introduced to simple conversation management tools and will practice them regularly in guided conversations. Additionally, students will learn and practice strategies and skills such as those needed for the STEP test.

授業がオンラインになった場合は授業はZoomでいつも通り行います。この授業のmoodleサイトにZoomのリンクがありますので、そちらを確認してください。

キーワード: Task-based Learning, Communication, Conversation, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、文法や語彙力が高まる。Students will learn grammar and vocabulary.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: この授業で学んだことを使って、英語でコミュニケーションができるようになる。言葉だけではなく、ニュアンス、ジェスチャーなどの会話術を修得するようになる。実際に使われている英語を勉強して、発言できるようになる。Students will learn how to communicate in English using not only language, but also gestures, nuances and other conversation skills. They will learn how English is used in the real world and learn how to express themselves.

評価方法: 会話テスト

評価割合: 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 55%

▼ 実践的ボランティア

インターン生や先生と積極的に授業外に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。Interaction with teachers or interns outside of class may have a positive effect on the grades included in the "Attitude towards learning" section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions,

or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: Week 1: 自己紹介と授業紹介 / 会話のアクティビティ
Week 2: レッスン 10A レストランに関する言葉
Week 3: レッスン 10B レストランで使う表現
Week 4: レッスン 10C 料理と食べ物
Week 5: クイズ 10 / コミュニケーションタスク
Week 6: レッスン 11A 映画の種
Week 7: レッスン 11B 提案すること
Week 8: レッスン 11C 音楽の種
Week 9: クイズ 11 / コミュニケーションタスク
Week 10: レッスン 12A 個人的な目標
Week 11: レッスン 12B 物語を伝えること
Week 12: レッスン 12C 予測をすること
Week 13: クイズ 12 / 会話テスト
Week 14: 会話テスト
Week 15: クイズ / コミュニケーションタスク

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-56021-4
*セクションが変わったため教科書が変わる学生は誰かと交換することをお勧めします。新しく購入する学生はUnits 7-12だけの教科書を買ってください。
Richards, J. C., Bohlke, D. (2019) Four Corners 2B (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-108-62772-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
There will be a maximum of 25 students in this class.

科目コード:12148

科目ナンバリング:EN11C01E

主な使用言語:英語

授業名(英文): Conversation I(Conversation I)

担当者: McLain, Michael D.

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 04 Problem-based learning, 08 Group

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)

Students will learn a combination of vocabulary and conversation strategies based on the theme of each unit. Every other class, students will have lengthy conversation sessions with multiple partners to reinforce memory of new material and conversational English. Also, listening is an integral aspect of this course.

キーワード: Conversation skills, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: Students will understand and learn to use vocabulary and conversational strategies.

評価方法: Conversation Tests 1,2

評価割合: 30%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: Students will be challenged to think globally about different issues which are raised in the text, such as consumerism, social, and environmental problems.

評価方法: Final Conversation Test

評価割合: 30

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students should be prepared for each lesson.

評価割合: 40%

▼ **実践的ボランティア**

Students will actively practice their English with interns and the teacher outside the class. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼ **公正性**

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼ **その他**

None

評価割合: None

授業計画: 1. Introductions, Orientation, Ice Breaker

2. Unit 1 Introductions

3. Unit 1 Introductions 2

4. Unit 2 Family

5. Unit 2 Family 2

6. Unit 3 Shopping

7. Unit 3 Shopping 2

8. Conversation Test 1

9. Unit 4 Food

10. Unit 4 Food 2

11. Unit 5 Music

12. Unit 5 Music 2

13. Conversation Test 2

14. Final Conversation Test Prep

15. Final Conversation Test

使用テキスト: Kenny and Woo (2011) Nice Talking With You 1. Singapore: CambridgeUniversity Press. ISBN: 978-0-521-1808-1 Students must buy a NEW book or use a book which has NOT been written in.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are STRONGLY encouraged to practice outside of class with the interns.

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please email me for questions.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
Maximum number of students will be 25.

科目コード: 12150 **科目ナンバリング:** EN20C01E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): Advanced Conversation(Advanced Conversation)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 教職

AL要素: 04 Problem-based learning, 08 Group work, 11 Discussion, 17 Questioning and answers

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)
テキストを使って日常では触れにくい話題について英語で意見交換をし、まとめる力を習得する。授業は『話す』『聞く』ことに重点を置いているが、『読む』『書く』については、さらに進んだ話題をするために準備・情報収集しながら、技能を習得していく。

キーワード: 第二外国語、会話力、コミュニケーション、ディスカッション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will understand and learn to use vocabulary and conversational phrases from the class.
様々な語彙や会話で使われるフレーズの使い方を、理解を深めながら習得します。

評価方法: 単語のクイズとノート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn to think critically about their world, make judgements and be able to express opinions in English. This expression will be done in conversation form, but it will also be done in written form as part of the thought process.
英語で自分たちの世界を考察し、状況判断力や自己表現力を習得します。
表現する際は会話だけでなく、思考過程を文章でも表現してもらいます。

評価方法: 会話アセスメント

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students will complete necessary homework, to prepare for class conversations and projects. Students will participate in group work and group conversations.

各回とも、教員や他の学生と積極的に英語で会話してもらいます。授業で使う会話の内容やプロジェクトの準備をするなど、与えられた課題をやって授業に臨んでください。授業はグループ単位で行います。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

Students will actively practice their English with interns and the teacher outside the class. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

授業以外でも教員やインターンと積極的に英語を実践してもらいます。
(評価に反映されます。)

評価割合：0%

▼公正性

This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 第1回:授業内容の説明、自己紹介、英語でのウォーミングアップ
第2回:What are bad manners?
第3回:What if your partner cheated on you?
第4回:How do we solve the problem of bullying?
第5回:単語のクイズ(U1, U2, U3)、会話の練習
第6回:会話アセスメント (U1, U2, U3)
第7回:What is sexual harassment?
第8回:What is appropriate punishment for children?
第9回:What do you think about the death penalty?
第10回:単語クイズ(U4, U5, U6)、会話の練習
第11回:会話の練習
第12回:会話アセスメント (U4, U5, U6)
第13回:会話の練習
第14回:単語のまとめ、会話の練習
第15回:会話アセスメント (U1, U2, U3, U4, U5, U6)
定期試験:なし

使用テキスト： Materials will provided by the teacher.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。スピーキングやリスニングを高めるためChat Hourを積極的に参加することが望ましい。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential. To improve speaking and listening, participation in Chat Hour is necessary.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

The maximum number of students for this class is 20. If there are more students registered for the class on the first day, students closer to graduation will be given first priority.

科目コード:12151 科目ナンバリング:EN21C02E 主な使用言語:英語

授業名(英文): Discussion I a (Discussion I a)

担当者: McLain, Michael D.

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 4:課題解消
7:発表
8:協同学習
11:討論

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)

この授業では、様々な面白い課題を紹介して、英語でディスカッションをしながら、意見や情報を表現できるようになる。グループの中で論争せず、聞く、話す、理解することができるようになる。

In this class, we will learn how to have a discussion in English. We will study the process step-by-step and learn how to discuss to share ideas and explore possibilities. This class will be conducted in English and speaking Japanese is not allowed. Students must be motivated and willing to speak only English. Please note that this syllabus may change depending on time constraints.

キーワード: Discussion, Group work, Task-based Language Teaching, Presentation

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英語でグループでDiscussionをするにあたっての教科書で学んだことの基礎知識やプロセスを身につける。

We will learn how to have a discussion in English by studying the process in the textbook.

評価方法: 定期クイズ

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業における経験を踏まえて、グループでプレゼンテーションをしてもらう。課題についてグループの中の情報や意見交換、役割分担を考えながら、プレゼンテーション形式で英語で発表することができる。In preparation for group presentations, students will learn how to exchange ideas and opinions.

評価方法: グループプレゼンテーション

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語での発言、グループの中の役割を評価する。英語でのコミュニケーション

ンを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Students are expected to attend every class and actively participate in groups. They will learn how to come up with ideas, determine if those ideas are good and learn how to express their opinions while using English to communicate.

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。但し、プレゼンテーションや原稿を作る準備を上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。This will not directly affect the grade, however, based on how much the student interacts when preparing presentations, the grade can be affected and reflected in the "Ability to come up with, judge and present ideas" section.

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。グループを決めるのはランダム形式で行います。This will not be directly reflected in the grade. However, any discriminatory comments, expressions, acts of cheating or plagiarism will result in reduced marks and a warning. Groups will be decided randomly.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Week 1 Course introduction: What is a discussion?
Week 2 First Discussion: Introducing our Planet
Week 3 Discussion Process: Loop 1 Sharing your Experiences 1
Week 4 Discussion Process: Loop 1 Sharing your Experiences 2
Week 5 Discussion 1: Best and Worst Experiences
Week 6 Group discussion 1
Week 7 Discussion Process: Loop 2 Sharing your Ideas 1
Week 8 Discussion Process: Loop 2 Sharing your Ideas 2
Week 9 Discussion 2: Help the Tsunami Victims
Week 10 Group discussion 2
Week 11 Discussion Process: Loop 3 Exploring Positions
Week 12 Discussion Process: Loop 3 Exploring Positions
Week 13 Discussion 3: The Greatest Heroes
Week 14 Group discussion 3 practice
Week 15 Group discussion Final

使用テキスト： Discussion: Process and Principles
by Charles LeBeau David Harrington
ISBN 9781929274772

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。

履修者への対応： Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： 大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher can be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
この科目は履修者数を25名程度とする。これを超える履修希望者数の場合は上級生に優先することも
ある。

科目コード : 12151

科目ナンバリング : EN21C02E

主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : Discussion I b(Discussion I b)

担当者 : Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜2限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 07. 発表
08. 協同学修
10. 資料調査課題
11. 討論
17. 発問と回答

授業の概要 : 本授業では、日本や海外で議論されている様々な分野の社会問題について、英語で討論を行う能力を身につけていきます。はじめに、教科書のテーマに沿って、様々なトピックをもとにグループ・ディスカッションとアクティビティを行います。次に、それらを踏まえて、グループで気になるトピックについて調べ、最後に、PowerPointを使った大きなディベートを行っていただきます。

本授業は、基本的に教科書のテーマに沿って進めていきますが、教科書の読解にとどまるのではなく、各テーマに関連するグループ・ディスカッションを通じて、スピーキング能力を体系的に学んでいきます。授業は、グループ・ワークを中心に進めていきます。

キーワード : 社会問題、ディスカッション、ディベート、グループワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1. 現代社会の重要な問題の理解を深めることができます。
2. 自分の考えを発信する能力を高めることができます。

評価方法 : 授業への参加度、ディスカッション、グループワーク **評価割合 : 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 1. 英語で明確な理由を述べ、相手を説得する能力を身につけます。
2. 英語でのディベートと発表の基礎知識を身につけます。

評価方法 : ディベート、プレゼンテーション **評価割合 : 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回: ガイダンス。
第02回: Staying connected to friends or being exposed to risks?
第03回: Women's Protection or Gender Equality?
第04回: Eco or Ego?
第05回: A Rewarding Pastime or a Waste of Time?
第06回: Democracy: Its Advantages and Disadvantages
第07回: Hopes and Fears around Casinos
第08回: Should High Schoolers Work Part-time?
第09回: ディベート準備(1)
第10回: ディベート準備(2)
第11回: ディベート実習(1)
第12回: ディベート実習(2)
第13回: ディベート実習(3)
第14回: ディベート実習(4)
第15回: ディベート実習(5)まとめ

使用テキスト： Take a Stance. Discussing Today's Controversial Issues 2 (2018). National Geographic Learning /Cengage Learning K.K. (2,150円)

予習・復習のポイントと 教科書の読解と課題への取り組みが求められます。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： ※本授業は英語のみで行います。
※授業には、教科書と辞書(電子辞書可)を必ず持参してください。
※この科目は履修者数を25名程度とします。履修希望者多数の場合は、上級生に優先して調整する可能性があります。
※授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。

科目コード：12152 科目ナンバリング：EN22C02E 主な使用言語：英語

授業名(英文)：Discussion II a(Discussion II a)

担当者：McLain, Michael D.

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：4:課題解消
7:発表
8:協同学習
11:討論

授業の概要：「遠隔授業」(同時双方向型)

この授業では、様々な面白い課題を紹介して、英語でディスカッションをしながら、意見や情報を表現できるようになる。グループの中で論争せず、聞く、話す、理解することができるようになる。

In this class, we will learn how to have a discussion in English. We will study the process step-by-step and learn how to discuss to share ideas and explore possibilities. This class will be conducted in English and speaking Japanese is not allowed. Students must be motivated and willing to speak only English. Please note that this syllabus may change depending on time constraints.

キーワード： Discussion, Group work, Task-based Language Teaching, Presentation

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 英語でグループでDiscussionをするにあたっての教科書で学んだことの基礎知識やプロセスを身につける。

We will learn how to have a discussion in English by studying the process in the textbook.

評価方法： 定期クイズ

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験を踏まえて、グループでプレゼンテーションをしてもらう。課題についてグループの中の情報や意見交換、役割分担を考えながら、プレゼンテーション形式で英語で発表することができる。In preparation for group presentations, students will learn how to exchange ideas and opinions.

評価方法： グループプレゼンテーション

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語での発言、グループの中の役割を評価する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Students are expected to attend every class and actively participate in groups. They will learn how to come up with ideas, determine if those ideas are good and learn how to express their opinions while using English to communicate.

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。但し、プレゼンテーションや原稿を作る準備を上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。This will not directly affect the grade, however, based on how much the student interacts when preparing presentations, the grade can be affected and reflected in the "Ability to come up with, judge and present ideas" section.

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。グループを決めるのはランダム形式で行います。This will not be directly reflected in the grade. However, any discriminatory comments, expressions, acts of cheating or plagiarism will result in reduced marks and a warning. Groups will be decided randomly.

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： Week 1 Discussion Process: Loop 4 Searching for the Best Positions 1
Week 2 Discussion Process: Loop 4 Searching for the Best Positions 2
Week 3 Discussion 1: The Three Best Movies
Week 4 Group discussion 1
Week 5 Discussion Process: Loop 5 Know your Criteria 1
Week 6 Discussion Process: Loop 5 Know your Criteria 2
Week 7 Discussion 2: Finding the Right Person
Week 8 Group discussion 2
Week 9 Discussion Process: Loop 6 Listing the Options 1
Week 10 Discussion Process: Loop 6 Listing the Options 2
Week 11 Discussion 3: Designing a Menu

Week 12 Group discussion 3 practice
Week 13 Discussion Process: Loop 7 Choosing the Best Solution 1
Week 14 Discussion Process: Loop 7 Choosing the Best Solution 2
Week 15 Discussion 4: Studying Abroad practice
Final Test Group Discussion

使用テキスト: Discussion: Process and Principles
by Charles LeBeau David Harrington
ISBN 9781929274772

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 特になし

**障がいのある
履修者への対応:** 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
この科目は履修者数を25名程度とする。これを超える履修希望者数の場合は上級生に優先することも
ある。

科目コード: 12152 **科目ナンバリング:** EN22C02E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): Discussion II b (Discussion II b)

担当者: Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 協同学修
10. 資料調査課題
11. 討論
17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、日本や海外で議論されている様々な分野の社会問題について、英語で討論を行う能力を身につけていきます。はじめに、教科書のテーマに沿って、様々なトピックをもとにグループ・ディスカッションとアクティビティを行います。次に、それらを踏まえて、グループで気になるトピックについて調べ、最後に、PowerPointを使った大きなディベートを行っていただきます。
本授業は、基本的に教科書のテーマに沿って進めていきますが、教科書の読解にとどまるのではなく、各テーマに関連するグループ・ディスカッションを通じて、スピーキング能力を体系的に学んでいきます。授業は、グループ・ワークを中心に進めていきます。

キーワード: 社会問題、ディスカッション、ディベート、グループワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 現代社会の重要な問題の理解を深めることができます。

2. 自分の考えを発信する能力を高めることができます。

評価方法: 授業への参加度、ディスカッション、グループワーク **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 英語で明確な理由を述べ、相手を説得する能力を身につけます。
2. 英語でのディベートと発表の基礎知識を身につけます。

評価方法: ディベート、プレゼンテーション **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: ガイダンス。
第02回: The Pros and Cons of Globalization
第03回: Humans or AI? .
第04回: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?
第05回: Big Government or Limited Government?
第06回: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?
第07回: Severe Punishment or Rehabilitation?
第08回: Open Borders or Closed Societies?
第09回: ディベート準備(1)
第10回: ディベート準備(2)
第11回: ディベート実習(1)
第12回: ディベート実習(2)
第13回: ディベート実習(3)
第14回: ディベート実習(4)
第15回: ディベート実習(5)まとめ

使用テキスト: Take a Stance. Discussing Today's Controversial Issue (2018). National Geographic Learning /Cengage Learning K.K. (2,150円)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書の読解と課題への取り組みが求められます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: ※本授業は英語のみで行います。
※授業には、教科書と辞書(電子辞書可)を必ず持参してください。
※この科目は履修者数を25名程度とします。履修希望者多数の場合は、上級生に優先して調整する可能性があります。
※授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。

科目コード : 12153 科目ナンバリング : EN30C01E 主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : Advanced Discussion (Advanced Discussion)

担当者 : 沼館 ジェニー

基本情報

年次 : 3 単位数 : 1 授業形式 : 演習

曜時 : 水曜3限 履修可能学科・専攻 : E

関連資格 : 教職 AL要素 : 4:課題解消
7:発表
10:資料調査課題
11:討論
12:課題討議法

授業の概要 : 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型) on TEAMS

多国籍の人々と話す話題が難しく、時々論争になることがある。この授業では、様々な話題を紹介して、英語でディスカッションをしながら、外国と日本の文化や時事問題を比較する。学生は色々な視点から様々な問題について学び、考え、議論し、意見を出せるようにする。6つのトピックについて2週間ごとに分けて学ぶ。一つのトピックにつき研究を基にした自分の意見についてレポートを提出する。最後は用意されている15個のトピックの中から、学生自身が選んだトピックについて、日本と外国を比較しながら英語でプレゼンテーションをする。When speaking with people from many countries, the topics are often difficult or controversial. In this class, we will introduce and discuss some 'taboo' topics and relate them to foreign and Japanese culture. Please note that this syllabus may change depending on time constraints.

キーワード : Discussion, English, Intercultural Understanding, Stating opinions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で取り上げること的理解、いろんな視点からその知識や情報を使って、英語でレポートが書けるようになる。Students will be able to understand a variety of topics from different cultural perspectives and learn how to write reports in English stating their opinions.

評価方法 : レポート **評価割合 :** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 自分が選んだトピックについて、研究し、クイズや興味深い動画を製作して、英語で日本と外国の比較をして、プレゼンテーションをすることができる。Students will choose a topic, research it and present it in English.

評価方法 : プレゼンテーション **評価割合 :** 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語での発言、グループの中の役割を評価する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。Students are expected to attend every class and actively participate in groups. They will learn how to come up with ideas, determine if those ideas are good and learn how to express their opinions while using English to communicate.

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。但し、授業外でインターンや先生にレポートやプレゼンテーションを見てもらうことで、上記の「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象になることもある。

This will not directly affect the grade but interaction with interns or teachers outside of class may have a positive effect on the grades in the "Attitude towards independent study" section above.

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。特にインターネットの記事や書かれているもののコピーは禁止です。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades. In particular, copying anything directly from the internet is prohibited.

評価割合：0%

▼その他

特になし

None

**評価割合：特になし
None**

- 授業計画：**
- 第1回:授業説明、英語によるアクティビティー
 - 第2回:トピック1:個人情報の扱い方 (履歴書の比較:アメリカと日本)
 - 第3回:トピック1:個人情報の扱い方 (プライベートな質問の比較:アメリカと日本)
 - 第4回:トピック2:人の特徴・人格について(パートナーを探すときに大切なこと)
 - 第5回:トピック2:人の特徴・人格について(人生相談に対してのアドバイス)
 - 第6回:トピック3:処罰の仕方 (罪に対する処罰:意見交換)
 - 第7回:トピック3:処罰の仕方 (日本と外国の比較)
 - 第8回:トピック4:移民問題について (海外の移民問題)
 - 第9回:トピック4:移民問題について (日本にいる移民のためにどうすればいい)
 - 第10回:トピック5:飲酒運転について (日本の現状と意見交換)
 - 第11回:トピック5:飲酒運転について(海外の現状と防止対策)
 - 第12回:トピック6:美容について (いろいろな国の美容基準)
 - 第13回:トピック6:美容について(タトゥーやピアスに対しての日本の考え方)
 - 第14回:学生によるプレゼンテーション(前半)
 - 第15回:学生によるプレゼンテーション(後半)

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。
The teacher will provide handouts for each class.

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等： インターネットや英字新聞の時事問題の記事を読む。
レポートの添削を見て、次のレポートを出すときに同じ間違いをしないように復習する。
To prepare for this class, please read articles in the newspapers or on the internet about current issues.
After receiving the edited reports from the teacher, look them over and try to avoid making similar mistakes the next time.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： Discussion I 又は Discussion II は修得済みことが望ましい。
This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
この科目は履修者数を20名程度とする。これを超える履修希望者数の場合は、現代英語学科の学生を優先して調整することがある。その上、上級生に優先することもある。

科目コード:12154

科目ナンバリング:EN11C05E

主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Education Activities I a(Education Activities I a)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜1限 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 02: 模擬実践

13: 役割演技と疑似体験

16: 振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行くことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。
・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回:オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回:歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動のリサーチと実践練習
第03回:実習1の計画及び準備
第04回:実習の準備及び実習1

- 第05回: 実習2の計画及び準備
- 第06回: 実習の準備及び実習2
- 第07回: 実習3の計画及び準備
- 第08回: 実習の準備及び実習3
- 第09回: 実習4の計画及び準備
- 第10回: 実習の準備及び実習4
- 第11回: 実習5の計画及び準備
- 第12回: 実習の準備及び実習5
- 第13回: 実習6の計画及び準備
- 第14回: 実習の準備及び実習6
- 第15回: 実習の振り返りとまとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。
・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項: ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参すること。

科目コード: 12154 **科目ナンバリング:** EN11C05E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): Education Activities I b (Education Activities I b)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 木曜1限 木曜2限 **履修可能学科・専攻:** E

関連資格: **AL要素:** 実習

授業の概要: 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード: 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法: 実習記録および作成教材報告書 **評価割合:** 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的な評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)
 - 第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
 - 第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術
 - 第4回: 教材開発の原理と教材作成
 - 第5回: 大みか小学校での授業実習①
 - 第6回: 大みか小学校での授業実習②
 - 第7回: 大みか小学校での授業実習③
 - 第8回: 大みか小学校での授業実習④
 - 第9回: 大みか小学校での授業実習⑤
 - 第10回: 大みか小学校での授業実習⑥
 - 第11回: 大みか小学校での授業実習⑦
 - 第12回: 大みか小学校での授業実習⑧
 - 第13回: 大みか小学校での授業実習⑨
 - 第14回: 大みか小学校での授業実習⑩
 - 第15回: 日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト: 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項: ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード: 12155 科目ナンバリング: EN12C05E 主な使用言語: 日本語と英語

授業名(英文): Education Activities II a (Education Activities II a)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜1限 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 02: 模擬実践

13: 役割演技と疑似体験

16: 振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行くことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。
・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回：歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動の researched と実践練習
第03回：実習1の計画及び準備
第04回：実習の準備及び実習1
第05回：実習2の計画及び準備
第06回：実習の準備及び実習2
第07回：実習3の計画及び準備
第08回：実習の準備及び実習3
第09回：実習4の計画及び準備
第10回：実習の準備及び実習4
第11回：実習5の計画及び準備
第12回：実習の準備及び実習5
第13回：実習6の計画及び準備
第14回：実習の準備及び実習6
第15回：実習の振り返りとまとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。
参考文献・資料等： ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項： ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参すること。

科目コード：12155 科目ナンバリング：EN12C05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： Education Activities II b(Education Activities II b)

担当者： 村上 美保子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜1限 木曜2限

履修可能学科・専攻： E

関連資格：

AL要素：実習

授業の概要： 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード： 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材

開発ができる。

評価方法： 実習記録および作成教材報告書

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的な評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)
第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術
第4回: 教材開発の原理と教材作成
第5回: 大みか小学校での授業実習①
第6回: 大みか小学校での授業実習②
第7回: 大みか小学校での授業実習③
第8回: 大みか小学校での授業実習④
第9回: 大みか小学校での授業実習⑤
第10回: 大みか小学校での授業実習⑥
第11回: 大みか小学校での授業実習⑦
第12回: 大みか小学校での授業実習⑧
第13回: 大みか小学校での授業実習⑨
第14回: 大みか小学校での授業実習⑩
第15回: 日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト： 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項： ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード:12156 科目ナンバリング:EN23C03E 主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Education Activities III a(Education Activities III a)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜1限 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 02: 模擬実践

13: 役割演技と疑似体験

16: 振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行くことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。

・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学びに寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回：歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動の研究と実践練習
第03回：実習1の計画及び準備
第04回：実習の準備及び実習1
第05回：実習2の計画及び準備
第06回：実習の準備及び実習2
第07回：実習3の計画及び準備
第08回：実習の準備及び実習3
第09回：実習4の計画及び準備
第10回：実習の準備及び実習4
第11回：実習5の計画及び準備
第12回：実習の準備及び実習5
第13回：実習6の計画及び準備
第14回：実習の準備及び実習6
第15回：実習の振り返りとまとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。

参考文献・資料等： ・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項： ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回で
きるだけ持参すること。

科目コード：12156 科目ナンバリング：EN23C03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： Education Activities III b(Education Activities III b)

担当者： 村上 美保子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜1限 木曜2限

履修可能学科・専攻： E

関連資格：

AL要素：実習

授業の概要： 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード： 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法：実習記録および作成教材報告書

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法：学期末レポート

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的な評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：小学校における英語教育の導入の歴史（世界と日本）
第2回：学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
第3回：児童への英語教育の理念と指導技術
第4回：教材開発の原理と教材作成
第5回：大みか小学校での授業実習①
第6回：大みか小学校での授業実習②
第7回：大みか小学校での授業実習③
第8回：大みか小学校での授業実習④
第9回：大みか小学校での授業実習⑤
第10回：大みか小学校での授業実習⑥
第11回：大みか小学校での授業実習⑦
第12回：大みか小学校での授業実習⑧
第13回：大みか小学校での授業実習⑨
第14回：大みか小学校での授業実習⑩
第15回：日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト： 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項: ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード:12157 科目ナンバリング:EN24C03E 主な使用言語:日本語と英語

授業名(英文): Education Activities IV a(Education Activities IV a)

担当者: 高木 有美

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜1限 水曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:

AL要素: 02: 模擬実践

13: 役割演技と疑似体験

16: 振り返り

授業の概要: この授業は、幼児の発達段階に応じた教材や活動を考え、幼稚園で実習を行うことを目的とする。まず、幼児の認知、情緒の発達を理解し、それに見合う指導法や指導技術を学ぶ。また、歌、絵本、ダンス、ゲーム、クラフトなどの教材をどのように使えば幼児に適した英語指導ができるかを考える。それらの知識をもとに、幼稚園での活動を計画し、実習を行う。講義、教材作成、実習、振り返りのプロセスを繰り返しながら、必要な実践を積む。

キーワード: 幼児の認知・情緒発達、実習、教材、幼児のための英語指導法・技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・幼児の発達段階に即した英語指導を計画し、実践することができる。

・幼児に分かりやすい英語表現や視覚的要素を使い、目的に合わせた教材を開発することができる。

評価方法: 実習記録、
作成教材報告書

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習を振り返り、幼児のための英語指導者として必要な知識やスキル、資質について考え、今後の計画を立てることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら教材や指導法のリサーチをし、常に知識の幅を広げ、スキル向上に努める姿勢が求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、グループでの準備活動時には意見を出し合い、互いの理解や学び

に寄与する。また、実習時には、幼児とのコミュニケーションを図り、充実した時間を共有できるよう努める。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、活動には公平で前向きな態度でのぞむ。不正行為はしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：オリエンテーション及び日本の幼児英語教育の現状について
第02回：歌・ゲーム等の幼児に適した教材・活動の研究と実践練習
第03回：実習1の計画及び準備
第04回：実習の準備及び実習1
第05回：実習2の計画及び準備
第06回：実習の準備及び実習2
第07回：実習3の計画及び準備
第08回：実習の準備及び実習3
第09回：実習4の計画及び準備
第10回：実習の準備及び実習4
第11回：実習5の計画及び準備
第12回：実習の準備及び実習5
第13回：実習6の計画及び準備
第14回：実習の準備及び実習6
第15回：実習の振り返りとまとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： ・実習で実施する活動についての計画及び練習に積極的に取り組む。

・参考文献は、必要に応じて配布する。

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細については、初回授業で連絡します。大学のメールシステムでの連絡も可能です。

留意事項： ・履修者数を20名程度とする。
・授業計画は、実習先の幼稚園のスケジュールにより変更になることがある。
・授業に関する連絡事項、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを利用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回で
きるだけ持参すること。

科目コード：12157 科目ナンバリング：EN24C03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： Education Activities IV b(Education Activities IV b)

担当者： 村上 美保子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜1限 木曜2限

履修可能学科・専攻： E

関連資格：

AL要素：実習

授業の概要： 公立小学校(日立市立大みか小学校)での外国語・外国語活動の授業に参加し、児童の学習活動の補助を行ったり、自らが作成した教材を使用して指導を行ったりすることで、小学校における英語指導者としての実践を積むことを目的とする授業である。実習は10回行い、後

の5回は、小学校における「外国語活動」(3・4年生)と「外国語科」(5・6年生)に関する理念と指導技術に関する講義と教材作成を行う。本授業担当教員は、公立中学校の英語科教諭として10年以上の実務経験を有する。小学校における外国語(英語)の必修化に伴い強調される、小・中連携について、実務経験を踏まえた視点を提供する。

キーワード: 小学校英語 外国語活動 外国語科

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた教材開発の原理や「外国語活動」「外国語科」の違いを考慮に入れた教材開発ができる。

評価方法: 実習記録および作成教材報告書 **評価割合:** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、実習によって得た経験をふまえて考察し、理論的に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート **評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、公立小学校への実習は本学と大みか小学校との信頼関係に基づいていることを十分認識し、学修に主体的かつ適切に取り組むことが期待される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習の性格上、積極的に児童にかかわろうとする態度は必須であり、それが顕著に見られたり、見られない場合は上記の「技能」の評価に総合的に付加する場合がある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、実習記録やレポートの記述において、人権侵害・差別表現など著しく公正性を欠く記述がみられた場合は総合的な評価での減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 小学校における英語教育の導入の歴史(世界と日本)
第2回: 学習指導要領にみる「外国語活動」と「外国語科」
第3回: 児童への英語教育の理念と指導技術
第4回: 教材開発の原理と教材作成
第5回: 大みか小学校での授業実習①
第6回: 大みか小学校での授業実習②
第7回: 大みか小学校での授業実習③
第8回: 大みか小学校での授業実習④
第9回: 大みか小学校での授業実習⑤
第10回: 大みか小学校での授業実習⑥
第11回: 大みか小学校での授業実習⑦
第12回: 大みか小学校での授業実習⑧
第13回: 大みか小学校での授業実習⑨
第14回: 大みか小学校での授業実習⑩
第15回: 日本の小学校における英語教育の将来について

使用テキスト: 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
『NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6』東京書籍
『Picture Dictionary-New Horizon Elementary English Course』東京書籍

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実習記録はその週のうちに仕上げるのが良い復習となる。学期末にまとめて書くことは内容が薄くなりがちである。

参考文献や資料等は授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーは研究室で対応します。ICメールやUNIPAでの連絡可能です。

留意事項： ★この授業は『英語教育実践研究(児童)Ⅱa』を同学期に必ず履修してください。

この授業は公立小学校の授業で実習を行うため、実習生としてふさわしい髪形などの身だしなみ(男女ともにスーツ着用)が求められます。注意を受けても改善が見られない場合は、履修取りやめを勧告することがあります。

大みか小学校で英語の授業の実習を行う他科目全体で20名を履修上限人数とし、これを超える場合は抽選とします。J-shine資格取得希望者を優先します。

また、昨今のコロナ感染症拡大防止の観点から、上記の人数制限を下回る履修となる場合や、大みか小学校における実習が制限され、予定の20時間の実習が提供できない場合があります。

科目コード：12158 科目ナンバリング：EN10C03K 主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：コミュニケーション概論(Overview of Communication)

担当者：Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：05 既時応答

11 討論

17 発問と回答

授業の概要： この授業では、コミュニケーションという概念をわかりやすく紹介します。まず、コミュニケーションのメカニズムが理解できるように言語学的な理論を紹介します。次に、文化とコミュニケーションや社会とコミュニケーションというテーマを取り上げ、言語と文化の関係、異文化接触、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴、社会生活におけるコミュニケーションなどについて説明します。最後に、説得的コミュニケーションを基本とする要因、コミュニケーション・スタイル、コミュニケーションの丁寧さなどに注目していきます。

キーワード： コミュニケーション、ことばとコミュニケーション、非言語コミュニケーション、コミュニケーションと文化、コミュニケーションと社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： コミュニケーション学の基礎(コミュニケーションとは何か、文化・社会とコミュニケーションの関係など)について学習します。

評価方法： 授業への参加度・宿題(Moodleを利用して)、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 英語を用いて自己実現ができるように、コミュニケーションを構成する言語、文化、社会的な背景についての知識を深めます。

評価方法： 授業への参加度・

評価割合：50%

宿題(Moodleを利用して)、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1週: Introduction
第2週: What is Communication
第3週: Verbal Communication
第4週: Nonverbal Communication I
第5週: Nonverbal Communication II
第6週: Culture and Communication I
第7週: Culture and Communication II
第8週: Culture and Communication III
第9週: 理解確認(中間テスト)
第10週: Society and Communication I
第11週: Society and Communication II
第12週: Society and Communication III
第13週: Media, Technology and Communication
第14週: Informative and Persuasive Communication
第15週: 総まとめ
期末テスト

使用テキスト： 特にありません。必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習
1. Moodle上の課題を行う。(30分)
2. 講義中に配布した資料を読むこと。(30分)

参考文献

1. 岡野雅雄(編著)(2008)『わかりやすいコミュニケーション学：基礎から応用まで』三和書籍
2. 辻大介,是永 論,関谷 直也(2014)『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 授業には必ず辞書(電子辞書可)を持参してください。

科目コード：12161

科目ナンバリング：EN20C11E

主な使用言語：英語/日本語

授業名(英文)：グループ・マネジメント(Group Management)

担当者：上村 由美

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：08 共同学修

11 討論

13 役割演技と疑似体験

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要：[特例期間中の授業形態] 遠隔授業(同時双方向型)

グローバル化の影響で、日本の学校や職場における多様化が進んでいます。そのような現代社会にあっては、年齢や性別に関係なく様々な仕事を任せられ、自分とは異なる背景を持つ人々と協働し、円滑に業務を遂行する事を求められます。しかし、価値観や文化の違いから意思疎通が上手く行かず、誤解やコンフリクト(衝突)を招いてしまう事も少なくありません。この授業では、そのような現代社会において必要なグループマネジメントスキルやファシリテーターとしてのスキルを実践的に学んでいきます。近年企業などでは、英語で意思疎通を図る事が多い事から、授業は基本的に英語で行なわれます。英会話の上達を図りたい方、コミュニケーション力の向上を図りたい方に最適です。また、実践的な活動が好きな方にもお勧めです。

この授業におけるテストはありませんが、毎授業行なうグループ活動(ゲーム、シュミレーションなど)への積極的な参加が必須となります。

キーワード： Group management, facilitator, conflict, コミュニケーション、心理学、ゲーム、シュミレーション、文化、社会学、実践、時事問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：架空の事例・事象の理解・解決に向けて、どのようにアプローチするのか、授業で得た知識や知見、コミュニケーションスキルなどを記述する事ができる。

評価方法：Final report

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で行うシュミレーションやロールプレイ、また自分の実体験などから得た知見や、経験、感情などを考察し、今後それをどのようにいかすのかを簡潔に述べる事ができる。

評価方法：学習ジャーナル(振り返り)

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

初回の授業でクラスとして設定する目標を(例えば『人の話は最後まで聞く』『まずは英語で発言してみる』など)、自分はどのくらい達成できたのか、各授業の終了10分前に振り返りシートを使って自己評価する。

評価割合：40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、クラブ活動や職場など 日々の人とのやり取りの中で実践的に深められた知見等がFinal Reportや学習ジャーナルに反映される場合は、上記の『知識・技能』または『思考力・判断力・表現力』の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、相手の背景を理解する事も目的の一つとする授業なので、グルー

プ活動中またはレポートなどに人権侵害・差別的発言や記述など著しく公正性をかく言動を認めた場合は、減点や嚴重注意の対象とする。学習ジャーナルが他の受講生と著しく類似している場合も減点や嚴重注意の対象となるので注意する事。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. Course introduction/Setting rules
 2. What is group management?
 3. Case Study 1: Planning a Party: Basic skills needed for group management
 4. Basic skills needed for group management
 5. What is feedback?
 6. Listening Skills: Case Study 2
 7. Withholding judgement
 8. Positive ways to inform others of your needs and feelings
 9. Paraphrasing and asking questions
 10. Case study 3: Mid-term Self Evaluation/Being Open
 11. Case study 4: World Cafe
 12. What is coaching
 13. Case Study 5: Coaching
 14. What is facilitation
 15. Review
- * subject to change

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。また、IC-UNIPA 及びTEAMS に掲載する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前は、心をオープンにしておこう。会話や作業を楽しみましょう。

鈴木有香（八代京子監修）『交渉とメディアエーション 協調的問題解決のためのコミュニケーション』三修社2009年。
鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』自由国民社 2011年。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： アポイントメントかメールにて対応します。連絡先などは初回にお知らせします。

留意事項： 授業でデバイスを使用する場合は、事前に連絡をします。15回目の授業は持参してください。

この授業は、英語と日本語の両方で行われる。また、履修上限を20名とする。

科目コード：12162 科目ナンバリング：EN20C12E 主な使用言語：English

授業名(英文)： ソーシャル・ネットワーキング演習(Practice in Social Net-working)

担当者： Yoshiba, David C.

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07 発表

10 資料調査

17 発問と回答

授業の概要: 特例期間中の授業形態:遠隔授業(オンデマンド型)

Media literacy is an increasingly vital aspect of democracy and global citizenship. Students need to acquire the skills of media literacy not only in traditional media, but also in new forms of media such as social networks in order to function as global citizens. This class will explore what media literacy is, why it is important and how to apply the principals of media literacy to social media.

キーワード: media literacy
social media
misinformation
"fake news"

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: An understanding of:
what traditional media is and how it works
what social media is and how it works
what media literacy is

評価方法: Final quiz

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn: ways to spot misinformation or "fake news", how to confirm accurate information, how to locate information valuable to themselves as digital citizens

評価方法: Weekly quizzes on each reading

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will be required to actively analyze texts presented to them during this course in order to ascertain their credibility. This will necessitate not just reading and understanding the meaning of the text, but to appraise, it as well.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

While not specifically required for this class, students will be encouraged to reflect on any information they contribute during their own interaction with social media.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Students must contribute their own original projects. Plagiarism will result in a failing grade.

評価割合: 0%

▼ その他

Students will be required to do advanced reading of websites assigned in the class. The purpose of the advanced reading is to ensure each student understands the materials presented in class and to be able to demonstrate an understanding of media literacy.

評価割合: Students will be required to do adv

授業計画: Week 1 Orientation and introduction to class theme
Week 2 Spotting fake news, satirical reading
Week 3 Conspiracy theories and SNS, What is media literacy and why is it important?
Week 4 Traditional media and the role of gatekeepers, Media literacy in broadcasting and newspapers
Week 5 The internet and social media
Week 6 How social media spreads information and misinformation

Week 7 How to read social media for information
Week 8 ?Project 1: Recognizing sources of information
Week 9 Sources of information
Week 10 Examples of the sociology of misinformation?
Week 11 Sources of misinformation
Week 12 Examples of misinformation
Week 13 Project 2, Part 1: spotting “fake news”
Week 14 Project 2, Part 2: spotting “fake news”
Week 15 Final quiz

Please note that all classes held during the special class period (特例期間) will be distance classes (遠隔授業). It will be particularly important for students to complete all assigned homework during this period.

使用テキスト: There is no textbook as extensive use will be made of the websites mentioned below and other sources, including those on media literacy and examples of misleading websites.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: <https://www.medialit.org>
<https://www.medialit.org/reading-room/what-media-literacy-definitionand-more>
<https://medialiteracynow.org/what-is-media-literacy/>
<https://www.ifla.org/publications/node/11174>
<https://oneresearch.library.utoronto.ca/faq/how-do-i-spot-fake-news>
<https://www.factcheck.org>
<https://www.snopes.com>
<https://www.summer.harvard.edu/inside-summer/4-tips-spotting-fake-news-story>

障がいのある履修者への対応: Specific allowances will be made according to the nature of the disadvantage in order to ensure fair treatment of all students.

授業時間外の連絡手段: Students are encouraged to use the teacher’s university email address, which will be announce to students in the first class.

留意事項: This class will require a considerable amount of reading. Students not wishing to improve their reading skills may wish to consider classes centered more on oral communication.

Students will use a class LMS and a social media system. Please sign into your class at <http://class.gendaieigo.info>

IMPORTANT: The contents and delivery of this class may be subject to change depending upon changing external circumstances.

科目コード: 12165 **科目ナンバリング:** EN10C04K **主な使用言語:** English

授業名(英文): ホスピタリティ論(Studies in Hospitality)

担当者: 担当者未定

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 日曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07. 発表(Presentation)

08. 協同学修(Group work)

11. 討論(Discussion)

授業の概要: The focus of this course centres on the development of the hospitality industry in the context of international markets and operations. You will be introduced to the traditional aspects of the industry, with examples from hotels and restaurants, but we will also look at

the ways in which the hospitality industry has been changing and evolving. Current trends and issues in the industry will be addressed to locate the knowledge and skills delivered within their context.

キーワード: hospitality, international hospitality industry

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: The goals of this course is to understand the importance of global hospitality industry in economic, socio-cultural and environmental contexts.

評価方法: Open-Book Exam

評価割合: 35%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: The final goal is to understand the complex nature and structure of the hospitality industry and their global trends and implications.

評価方法: Group presentation

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students are expected to attend every lecture.

評価割合: 5%

▼ 実践的ボランティア

Students are expected to actively participate in discussions and group works.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: Week1: Course introduction
Week2: Cultures and the challenges of international hospitality
Week3: The international hospitality industry (a)
Week4: Exploring the international environment
Week5: International marketing
Week6: International hospitality market entry
Week7: Strategic planning and international hospitality
Week8: International Human resources management
Week9: Managing social responsibility in international hospitality
Week10: Open-book exam
Week11: Presentation preparation
Week12: Presentation preparation
Week13: Group presentation
Week14: Group presentation
Week15: Group presentation

使用テキスト: Course materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1. This course will feature a combination of lectures, class discussions and group presentations. You will need to read the course & additional reading materials and pay attention in lecture, taking and revising your notes as the content of the lectures will be important for your assignments.

2. Since this lecture will be conducted in English, it is very important that you work with your colleagues to fully comprehend the course, as well as to complete any individual or group projects that are assigned.
3. Additional reading materials will be distributed by the lecturer in class and/or online.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: ワーキングアワーにメールでの連絡を行います。連絡先については初回にお知らせします。

- 留意事項:**
1. This course will be taught solely in English. Upper intermediate to advanced English skills are required.
 2. Please note that this syllabus is tentative. According to students' needs, ability and interests, the 15 lectures above and their contents may be changed.
 3. Please bring the dictionary when attending the lecture (an electronic dictionary is acceptable).

科目コード: 12169 **科目ナンバリング:** EN20C16E **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): ホテル業界研究(Studies in Hotel Business)

担当者: Stephens, M. Patrick

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07 Presentation、10 Resource Research、16 Reflection paper

授業の概要: 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)

The hotel business is much more than just providing a room and room service. In this class, you will research hotels in two English-speaking countries as well as a free assignment on any country in the world. Using two reputable international websites, www.hotels.com and www.booking.com, you will search for hotels that meet specific criteria. Then, backing up your opinion with information and reviews found online, you will present the best hotel in your view. You will also listen to your peers presentation and choose which of the hotels they present you would stay. Finally, with the understanding you gain throughout the semester, you will write about the factors you think are most important when deciding on a hotel.

キーワード: English, hotels, hotel facilities and services, online research, simulation,

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: Students will learn to search for information on English hotel reservation websites. With this skill, students will collect information, evaluate it based on specific customer needs and make an argument for their decision of a particular hotel in presentations. Student will make video presentation about their research for other students to watch and evaluate.

評価方法: Video presentations on research conducted

評価割合: 45%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: Students will watch video presentations made by peers and evaluate the facts given. Afterwards, they will write papers making arguments for the hotels they find most appropriate considering customer needs.

評価方法: Written homework using information gathered from video presentations to make

評価割合: 45%

decisions.

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students will consider content in presentations carefully and evaluate it based on their own knowledge.

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

Students will have their writing and presentations checked outside of class by interns and/or the teacher before the deadline to ensure comprehensibility. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合：0%

▼公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合：0%

▼その他

None

評価割合：None

授業計画： Class 1- Class Introduction, Self-introductions, Warm-ups
Class 2- Introduce Booking.com and Hotels.com. Search drills, American Hotel Assignment explanation
Class 3- American Hotel Assignment- Group research reports.
Class 4- American Hotel Assignment- Research Presentations
Class 5- American Hotel Assignment- Research Presentations
Class 6- United Kingdom Hotel Assignment explanation
Class 7- United Kingdom Assignment- Group research reports
Class 8- United Kingdom Assignment- Research Presentations
Class 9- United Kingdom Assignment- Research Presentations
Class 10- World Hotel Assignment explanation
Class 11- World Hotel Assignment- Group research reports
Class 12- World Hotel Assignment- Research Presentations
Class 13- World Hotel Assignment- Research Presentations
Class 14- Hotel Factors for Customer Satisfaction Research Paper explanation
Class 15- Research Hotel for Factors-Customer Satisfaction

使用テキスト： None

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： Students may be able to prepare for this class by going to www.hotels.com and www.booking.com and familiarizing themselves with the two sites. Students might also practice searching for hotels in places around the world using the sites.

障がいのある
履修者への対応： I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段： I will be happy to talk with students outside of class during my office hours. I will give out my email address and the times of office hours at the beginning of the class. Students should use email to contact me for appointments.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード : 12170

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : ホテル演習(Hotel Business Practicum)

担当者 : Stephens, M. Patrick

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜3限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 03 Problem-based learning 13
Roleplaying, 18 Communicative tasks

授業の概要 : 遠隔授業(同時双方向型)(オンデマンド型)

Working in a hotel, you need to know how to interact guests and be able to handle problems and complaints that occur. In this class, we will go through the various areas of the hotel business, and using roleplay and simulation, you will have a chance to interact with guests in these areas using English. The class will cover language forms that are appropriate for customer service and allow students to practice using these more-complex forms in context.

キーワード : English, hotels, guest services, customer service, roleplay, problem-solving

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : Students will learn and explore the vocabulary and language forms useful when working with guests in common situations and in problem situation.

評価方法 : Roleplays based on common problems in hotels **評価割合 :** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : Students will learn how to solve problems for guests and consult guest about issues with the goal of customer satisfaction.

評価方法 : Roleplays; written evaluations of peers' problem-solving in roleplays, quizzes on content of class **評価割合 :** 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students will prepare for the class by doing all assigned homework. Students will interact in communicative tasks with in English sincerity and intent.

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

Students will have their writing and presentations checked outside of class by interns and/or the teacher before the deadline to ensure comprehensibility. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合 : 0%

▼ 公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合 : 0%

▼ その他

None

評価割合 : None

授業計画 : Class 1- Course Introduction, Self-introductions, Sharing Hotel Experiences
Class 2- Showing Empathy in English
Class 3- Problem solving at the Hotel Front desk
Class 4- Problem-solving Unit 1 (Introduction)
Class 5- Problem-solving Unit 1 (Role Play)
Class 6- Problem-solving Unit 1 (Role Play)
Class 7- Quiz on Problem-solving Unit 1; Roleplays with the teacher as the guest
Class 8- Problem-solving Unit 2 (Introduction)
Class 9- Problem-solving Unit 2 (Role Play)
Class 10- Problem-solving Unit 2 (Role Play)
Class 11- Quiz on Problem-solving Unit 2; Roleplays with the teacher as the guest
Class 12- Problem-solving Unit 3 (Introduction)
Class 13- Problem-solving Unit 3 (Role Play)
Class 14- Problem-solving Unit 3 (Role Play)
Class 15- Quiz on Problem-solving Unit 3, Roleplays with the teacher as the guest

使用テキスト : None

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : By searching the keywords "hotel English" on YouTube or other sites online, students can gain an understanding of the types of polite English used in problem-solving situations in hotels.

障がいのある履修者への対応 : I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段 : I will be happy to talk with students outside of class during my office hours. I will give out my email address and the times of office hours at the beginning of the class. Students should use email to contact me for appointments.

留意事項 : This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード : 12171 科目ナンバリング : EN20C19E 主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : エアライン業界研究(Studies in Airline Business)

担当者 : 沼館 ジェニー

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 金曜2限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 :

AL要素 : 4:課題解消
7:プレゼンテーション
8:協同学習
11:討論
17:発問と回答

授業の概要 :

この授業では、航空業界全体とアジアの特定の航空会社に焦点を当てます。教科書の学習、グループワーク、小テストを行い、各自が希望する航空会社について調べます。また、調査した航空会社について英語でプレゼンテーションを行う。この授業を修了すると、航空業

界に関する知識を深め、航空会社に関連した職業に就くためにその知識を活用できるようになる。

This class will focus on the airline industry as a whole as well as specific Asian airlines. Students will study from a textbook, do group work, quizzes, and research airlines of their choice. Students will do presentations about the airlines they have researched. Upon completion of this course, the students will have greater knowledge about the airline industry and will be able to apply this knowledge for an airline-related career.

キーワード: Airline, Research, Hospitality, Presentation

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: この授業で学んだことを使って、エアラインに関する語彙力が高まる。Students will learn vocabulary related to the airline industry.

評価方法: クイズ

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 学生は、自分で選んだ航空会社について調べ、発表します(2回)。また、仲間の発表についてのリフレクションペーパーを作成します。これらの課題を通して、学生は世界中のさまざまな航空会社について学びます。

Students will do research and present on airlines of their choice (two times). Students will also write reflection papers about their peers presentations. Through these tasks, students will learn about different airlines around the world.

評価方法: プレゼンテーション(2回)

評価割合: 70%

レフレクションペーパー

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に直接含まないが上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the “Ability to think, judge and express” section.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Week 1 ? Course Introduction
Week 2 ? Unit 1 “Japan Airlines”
Week 3 ? Unit 2 “World’s Largest Airlines”
Week 4 ? Unit 3 “Singapore Airlines”

Week 5 ? Unit 4 “Wide-body Jets”
Week 6 ? Unit 5 “Emirates”
Week 7 ? Preparation for Presentation 1
Week 8 ? Presentation 1
Week 9 ? Unit 6 “Narrow-body Jets”
Week 10 ? Unit 7 “Southwest Airlines”
Week 11 ? Unit 8 “Regional Aircraft”
Week 12 ? Unit 9 “JetBlue Airways”
Week 13 ? Unit 10 “Airline Alliances”
Week 14 ? Preparation for Presentation 2
Week 15 ? Presentation 2

使用テキスト: タイトル: The International Airline Reader
著者: Simon Cookson
ISBN: 9798533664936

各自でAmazonで購入してください。第2週から使いますので早めに購入することを薦めます。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential.

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項: This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

Students should bring their own devices to do research on the internet.
インターネットでリサーチができるようタブレット、パソコン、スマートフォンを持参する。

This class will use moodle for quizzes and reflection papers.
この授業ではmoodleでクイズやリフレクションペーパーを出してもらいます。

科目コード: 12172 **科目ナンバリング:** EN20C23E **主な使用言語:**

授業名(英文): 観光業界研究(Studies in Tourism Business)

担当者: 担当者未定

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 日曜6限 **履修可能学科・専攻:** E

関連資格: **AL要素:**

授業の概要:

キーワード:

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合:

▼実践的ボランティア

評価割合:

▼公正性

評価割合:

▼その他

評価割合:

授業計画:

使用テキスト:

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段:

留意事項:

科目コード:12173

科目ナンバリング:EN20C25K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):言語発達心理学(Psychological Study in Language Development)

担当者:江尻 桂子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻:E

関連資格:日本語

AL要素:07.発表
08.共同学習
11.討論
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要: 人がどのようにしてことばを話すようになるのかということ、生物学、心理学、言語学、教育学、社会学的な観点から学びます。進化の過程でなぜヒトのみが言語を持ちえたのか、また、言語を獲得するためにはどのような発達の基盤や社会的な環境が必要なのかについて学びます。さらに言語発達心理学や、発達臨床心理学の立場から、ことばの障害について、その種類や状態について理解し、具体的にどのような支援ができるかを理解します。ことばをめぐる諸問題としては、言語発達心理学の立場から、第二言語(外国語)習得について考えます。これらの学びをもとに、保育や教育の現場、特別支援教育、外国語教育の現場において、子供たちの言語活動にどのように関われば良いか、ことばに課題をもつ子どもや大人に対してどのような支援が適切であるのかを理解します。なお、各単元終了ごとに小テストを行います。授業内での個人発表や、グループディスカッション、学期末試験等も実施予定です。課題の多い授業ですので、その旨ご了解の上、受講して下さい。

キーワード: 言語 発達 言語発達 言語獲得 障害 ことば 乳幼児 児童 障害 生物進化 第二言語習得

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた内容について、概ね80%の内容を暗記し、解答することができる。これらの到達度については小テスト(各单元ごと・全部で5回程度)および期末試験(筆記試験)で確認します。

評価方法: 学期末筆記試験
小テスト(各单元ごと) **評価割合: 70%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

評価方法: 授業への参加・討論への参加・コメントシート **評価割合: 30%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合: 授業中の私語、授業とは関係のない

授業計画: 第1回 授業の概略と到達目標
第2回 人類の進化と言語習得
第3回 言語習得の生物学的基盤と学習
第4回 初期言語発達(1) 新生児～乳児期
第5回 初期言語発達(2) 乳児～幼児期
第6回 初期言語発達(3) 幼児～児童期
第7回 言語発達の基盤となる認知・情動・社会的発達
第8回 ことばの障害の種類と定義(1) 理論的枠組み
第9回 ことばの障害の種類と定義(2) 事例: 構音障害・吃音・語用障害など
第10回 ことばの障害の種類と定義(3) 読字障害・聴覚障害など
第11回 ことばに障害を持つ子どもへの支援(構音障害・吃音など)
第12回 ことばに障害を持つ子どもへの支援(語用障害・発達障害など)
第13回 ことばの問題に関する相談とその支援の事例(1) (CODAの発達)
第14回 ことばの問題に関する相談とその支援の事例(2) (CODAの支援)
第15回 総まとめ
学期末試験(筆記試験)

使用テキスト: 授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1) 参考文献や参考図書は、授業の中で紹介します。
2) 予習については、日頃から新聞や書籍を通して、言語の発達や障害に関する話題に触れるようにしておいてください。
3) 復習については、授業で配布した資料を基に復習を行い、各単元終了ごとに実施される小テストに備えてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: この授業では座席を指定します。
担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード: 12174 **科目ナンバリング:** EN20C27E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 外国語指導技術(Methods for Teaching Foreign Languages)

担当者: 小林 久美子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 日本語

AL要素: 02 模擬実践

授業の概要: 今までの実務経験(日本語学校、大学)を踏まえ、『みんなの日本語I』を使った初級文法の教え方を解説する。学生は勉強したことに基づいて模擬授業を行う。

キーワード: 日本語教育、留学生、初級文法、教え方

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分が担当する課の文法項目について留学生に説明ができ、教えることができる。

評価方法: ・模擬授業

評価割合: 50%

・教科書分析シート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 留学生に分かりやすい授業を組み立てることができる。

自分が行った模擬授業を客観的に振り返ることができる。

日本語教師とはどういう存在であるべきか、考えることができる。

評価方法: 教案

評価割合: 40%

模擬授業 振り返りシート

レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

・教師から質問された時に、何らかの回答をしたか

- ・クラスメートと協力しあって模擬授業を作り上げたか
- ・私語、居眠り、遅刻などせずに、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象とはしない。ただし自分で考えず、市販されている参考書、インターネット内の記事などをまねた模擬授業をした場合は、何らかの減点対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
1. この授業の到達目標と概略
 2. 日本語の基礎知識
 3. 模擬授業分担決め、教師による授業デモンストレーション
 4. 教科書分析
 5. コースデザイン、シラバスデザイン
 6. 教案の作り方
 7. パターンプラクティスの練習
 8. 教授法の種類、教具の使い方
 9. 模擬授業
 10. 模擬授業
 11. 模擬授業
 12. 模擬授業
 13. 模擬授業
 14. 模擬授業
 15. まとめ

使用テキスト：『みんなの日本語 初級1 第2版 本冊』スリーエーネットワーク

予習・復習のポイントと <予習>(毎日30分)

参考文献・資料等：教科書を最初からじっくり読む。各課だけでなく、まえがき、使い方、目次なども読み、どのような構成になっているかを知る。

<復習>(毎回40分)

授業で得た文法知識およびクラス運営に関する知識を整理する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。学務部と要相談。

授業時間外の連絡手段： 学務部学務課に問い合わせる。

留意事項： 日本語教育概論、日本語の構造Aなどの基礎的な日本語科目を、複数履修済みが望ましい。

科目コード：12175 **科目ナンバリング：**EN20C32E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：日本語教育演習A(Seminar in Teaching Japanese I)

担当者：山田 野絵

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：日本語

AL要素：02模擬実践
07発表
08協同学修
11討論
17発問と回答

授業の概要：日本語教育の評価とその意義について、指導者の立場を経験し、討論しながら学ぶ。また、実際にテスト問題の作成をする。

キーワード：日本語教育 評価 テスト作成 自律学習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：日本語教育における様々な評価方法とその意義についてを学び、適切な評価を行えるようになる。

評価方法：発表、テスト作成やその他の課題

評価割合：発表、課題、テスト作成80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法：「知識・技能」と合わせて評価する。

評価割合：「知識・技能」と合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加態度として、授業に取り組む態度を評価に含める。主体性、協調性、責任感を持って課題に取り組むことが期待される。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別的発言、行為等、著しく公正性を欠く場合や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1) 授業の到達目標と概略
 - 2) 「学習を評価する」とは その1/テストによらない評価
 - 3) 「学習を評価する」とは その2
 - 4) テストによる評価 テストが測るもの その1
 - 5) テストによる評価 テストが測るもの その2
 - 6) テストによる評価 テスト作成の留意点 その1
 - 7) テストによる評価 テスト作成の留意点 その2
 - 8) テストによる評価 テストの問題例一言語知識を測るテストーその1
 - 9) テストによる評価 テストの問題例一言語知識を測るテストーその2
 - 10) テストによる評価 テストの問題例一総合的な運用を測るテストーその1
 - 11) テストによる評価 テストの問題例一総合的な運用を測るテストーその2
 - 12) テストによる評価 テストの設計 その1
 - 13) テストによる評価 テストの設計 その2
 - 14) テストによる評価 テスト得点の分析
 - 15) ふりかえり

使用テキスト： 授業が始まるまでに各自購入：『国際交流基金日本語教授法シリーズ12 学習を評価する』ひつじ書

房
購入する必要はないが、授業で使用する際には、大学図書館などで事前に当該箇所をよく読んでおくこと：『みんなの日本語初級 I 本冊』スリーエーネットワーク
他、プリント配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習：教科書や指示された参考資料を予習すること。
履修者数によっては、グループ作業での授業外学習があるので、複数人で調整して進める必要がある。
参考資料：『みんなの日本語初級 I 本冊』スリーエーネットワーク
国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」<https://ifstandard.jp/top/ja/render.do>

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業後の休み時間に対応します。また、授業初日に連絡先メールアドレスをお知らせします。

留意事項： 本科目を履修するにあたり、日本語教育の基礎的な知識が必要になります。
授業内容は遠隔授業になる場合等、状況によって変更する場合があります。

科目コード：12176 科目ナンバリング：EN20C33E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語教育演習B(Seminar in Teaching Japanese II)

担当者：小林 久美子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：日本語

AL要素：07 発表
08 協同学修

授業の概要： 第二言語習得の理論と最近の研究について学ぶ。教科書を指定し、教師からの講義と学生の発表の2本立てで授業を行う。

キーワード： 第二言語習得、発表、テスト作成

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 第二言語習得の歴史、理論、研究などが理解できる。

評価方法： 中間テスト、期末テスト

評価割合： 中間テスト25% 期末テスト25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分が担当する箇所をわかりやすくまとめて発表することができる。

自分が発表したところをよく理解し、テストを作成することができる。

評価方法： 発表

評価割合： 40%

作成した期末テスト

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に、何らかの解答をしたか
- ・協同作業の時、協力しあっていたか
- ・私語、居眠り、遅刻などをせず、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象とはしない。ただしカンニングなど不正行為があった場合は、何らかの罰則がある。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
1. 授業の到達目標と概略
 2. 第二言語習得研究の重要性
 3. 第二言語習得研究の歴史
 4. 第二言語習得研究の理論1
 5. 第二言語習得研究の理論2
 6. 第二言語習得研究の理論3
 7. 中間テスト、今までのまとめ
 8. ～11. 発表
 - 12.～14. 期末テスト作成
 15. 今までのまとめ
 16. 期末テスト

使用テキスト： 奥野由紀子ほか『超基礎 第二言語習得研究SLA』くろしお出版

予習・復習のポイントと <予習> (毎回30分)

参考文献・資料等： 教科書を読み、そこに書かれているテーマについて自分の意見をまとめる。

<復習> (毎回30分)

授業で学んだことをノートにまとめる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。学務部と要相談。

授業時間外の連絡手段： 学務部学務課へ問い合わせる。

留意事項： 日本語教育概論、日本語の構造Aなど、日本語の基礎的な科目を複数履修済みが望ましい。

科目コード：12180

科目ナンバリング：EN20C08E

主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：グローバルイングリッシュ(Global English)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：

AL要素：07. 発表

08. 協同学習

10. 資料調査課題

授業の概要： 世界的に見た場合、英語という言葉は、第1言語として話される地域・国々、第2言語として使われる地域・国々、外国語として学校教育に取り入れられている国々で、それぞれ異なった様相を呈している。本授業においては、世界各国・地域における英語の置かれている現状を

学び、それぞれの地域・国々による発音・語彙・語法・文法などの違いについて、映像や音声教材も使いながら学んでいく。

キーワード： 世界の英語
第1言語
第2言語
外国語

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱う世界の国々において、英語はどのような位置を占めているか、また、発音・語彙・語法・文法等にどのような特徴があるかを理解している。

評価方法： 授業内での発表と定期(期末)試験 **評価割合：** 75%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業を通じて、英語が第1言語として使われる場合、第2言語として使われる場合、外国語として使われる場合の違いを、的確に区別し、表現することができる。

評価方法： 授業内での発表と定期(期末)試験 **評価割合：** 25%

▼学修に主体的に取り組む態度

教科書の予習に積極的に取り組むにあたって、教科書以外の資料も積極的に利用することができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、定期試験の際の不正行為には厳重に対処する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第01回: Introduction
第02回: Culture& Languages in India
第03回: Culture& Languages in the Phillippines
第04回: Culture& Languages in Thailand
第05回: Culture& Languages in Vietnam
第06回: Culture& Languages in Korea
第07回: Culture& Languages in France
第08回: Review 1
第09回: Culture& Languages in Italy
第10回: Culture& Languages in Denmark
第11回: Culture& Languages in Portugal
第12回: Culture& Languages in Turkey
第13回: Culture& Languages in Egypt
第14回: Culture& Languages in South Africa
第15回: Review 2

使用テキスト： Berlin, Scott & Kobayashi, Megumi (2021) World Adventures, KINSEIDO

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： わからない語彙を辞書で調べるなどして予習をしないと、授業の理解は難しい。また、教科書はオンラインビデオと連動しているので、授業前や授業後にも目を通すことが必要。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項: 授業時には辞書(電子辞書)を必ず持参すること。

科目コード:12188 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 日本語教員試験対策講座(Japanese Teacher Test Preparation)

担当者: 堀口 悟

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜6限

履修可能学科・専攻: E

関連資格:日本語

AL要素: 05即時応答

13役割演技

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

授業の概要: 日本語教育能力検定試験合格のための、基礎的授業です。

キーワード: 日本語教育能力検定試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本語教育能力検定試験合格のための、基礎的知識を持つ。

評価方法: 授業中の小テストと期末試験による。 **評価割合:** 45%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 日本語教育能力検定試験合格のための、基礎的な思考力・判断力・表現力を持つ。

評価方法: 授業中の小テストと期末試験による。 **評価割合:** 45%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加、授業中の応答などで評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合: 0%

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為があった場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合: 遅刻は「学修に取り組む態度」の項

授業計画: 01 授業紹介、参考文献紹介
02 語の構成・語の意味関係・文字と表記
03 言語と言語学
04 文法1
05 文法2
06 文法3

- 07 地域方言と社会方言
- 08 中間まとめ
- 09 記憶のメカニズム・第二言語習得の流れ
- 10 異文化理解と異文化適応、異文化間教育
- 11 ニーズ分析とコースデザイン、文法訳読法からコミュニカティブ・アプローチへ
- 12 日本語の発音について
- 13 冬休みと春休みとの勉強法
- 14 学習活動と学習者タイプ、評価法1、評価法2
- 15 昭和前期までの日本語教育、戦後復興から現代まで
- 16 筆記試験

使用テキスト： 岡田英夫『改訂版 日本語教育能力検定試験に合格するための 基礎知識』(2019年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献で、各自自習をしなければ、日本語教育能力検定試験合格は望めません。授業初回で指示する参考文献を各自できるだけ多く自習してください。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応します。

授業時間外の連絡手段： ICメールによって24時間受付、近日中に回答します。堀口のメールアドレスは、初回の授業の時公開します。

留意事項： 授業外の自主学習が必須です。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須です。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めません(マスク着用や背景のぼかしは認めます)。

科目コード：12189

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語、英語

授業名(英文)：プロジェクト実習I(Project Practicum I)

担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：実習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：

AL要素：04 課題解決
08 協同学修

授業の概要： プロジェクト実習の主なテーマは「国際理解」や「異文化コミュニケーション」としてはいますが、活動内容は決められていません。また、この授業では、教員の講義を中心とした受動的な学習ではなく、学生を主体とした能動的な学習を行います。そのため、学生はこのテーマに関して実施してみたいイベントや活動を考え、それに向けた計画を立て、自由に運営を行っていきます。イベントはオープンキャンパスの日に行われる予定です。

キーワード： 国際理解、異文化コミュニケーション、社会人基礎力、プロジェクトの立案・実施

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： イベントを計画・実施する際に社会人として要求される計画力・実行力・自己管理能力・チームで働く力・コミュニケーション力といったジェネリックスキル(汎用的技能)を身につける。

評価方法： 所属したグループへの貢献度、当該グループが目標とした活動の成果などを総合的に判断して評価します。

評価割合：25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: イベントを計画・実施する際に、自分の考えをまとめた上で、適切な判断をし、その内容を表現する能力を身につける。

評価方法: イベントの独創性、広報のし方、動員力などを評価します。 **評価割合:** 25%

▼学修に主体的に取り組む態度

教員の指導を待たなくとも、テーマに沿ったイベントを主体的に計画することができる。

評価割合: 25%

▼実践的ボランティア

社会貢献の要素も備えたイベントを企画することができる。

評価割合: 25%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中・イベント実施中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回:オリエンテーション
第02回:活動内容および役割分担の決定(1)
第03回:活動内容および役割分担の決定(2)
第04回～第14回:グループ毎に、分担された役割を遂行し、オープンキャンパスのイベントに向けて準備をする。
第15回:イベントの実施

使用テキスト: 特にありません。必要な資料を授業中に配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 過去の「プロジェクト実習 活動報告書」

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項: 国際理解を深め、異文化交流の活動を行い、学生の中に社会人の立場を経験がしたいと希望する学生に最適な授業です。
本授業科目は、茨城大学と連携しながら実施していますので、授業時間以外の学外での活動もあります。
特別な事情(留学等)がない限り、「プロジェクト実習 I」と「プロジェクト実習II」は両方履修すること。「プロジェクト実習II」単独の履修は不可。

科目コード: 12190

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語、英語

授業名(英文): プロジェクト実習II(Project Practicum II)

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 火曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C

関連資格:

AL要素: 04 課題解決
08 協同学修

授業の概要: プロジェクト実習の主なテーマは「国際理解」や「異文化コミュニケーション」としてはいますが、活動内容は決められていません。また、この授業では、教員の講義を中心とした受動的な学

習ではなく、学生を主体とした能動的な学習を行います。そのため、学生はこのテーマに関して実施してみたいイベントや活動を考え、それに向けた計画を立て、自由に運営を行っていきます。イベントは12月から2月の間に行われる予定です。

キーワード： 国際理解、異文化コミュニケーション、社会人基礎力、プロジェクトの立案・実施

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： イベントを計画・実施する際に社会人として要求される計画力・実行力・自己管理能力・チームで働く力・コミュニケーション力といったジェネリックスキル(汎用的技能)を身につける。

評価方法： 所属したグループへの貢献度、当該グループが目標とした活動の成果などを総合的に判断して評価します。 **評価割合：25%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： イベントを計画・実施する際に、自分の考えをまとめた上で、適切な判断をし、その内容を表現する能力を身につける。

評価方法： イベントの独創性、広報のし方、動員力などを評価します。 **評価割合：25%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

教員の指導を待たなくとも、テーマに沿ったイベントを主体的に計画することができる。

評価割合：25%

▼ 実践的ボランティア

社会貢献の要素も備えたイベントを企画することができる。

評価割合：25%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中・イベント実施中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回：オリエンテーション
第02回：活動内容および役割分担の決定(1)
第03回：活動内容および役割分担の決定(2)
第04回～第14回：グループ毎に、分担された役割を遂行し、学園祭のイベントに向けて準備をする。
第15回：イベントの実施

使用テキスト： 特にありません。必要な資料を授業中に配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 過去の「プロジェクト実習 活動報告書」

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 国際理解を深め、異文化交流の活動を行い、学生の間に社会人の立場を経験がしたいと希望する学生に最適な授業です。
本授業科目は、茨城大学と連携しながら実施していますので、授業時間以外の学外での活動もあります。
特別な事情(留学等)がない限り、「プロジェクト実習 I」と「プロジェクト実習II」は両方履修すること。「プロジェクト実習II」単独の履修は不可。

科目コード : 12191

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 英語

授業名(英文) : Advanced English Communication I a (Advanced English Communication I a)

担当者 : 沼館 ジェニー

基本情報

年次 : 3

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜1限

履修可能学科・専攻 : E

関連資格 : 教職

AL要素 : 04:課題解決

07:発表

08:協同学修

11:討論

16:振り返り用紙と応答

17:発問と回答

授業の概要 : 教科書を使用して4技能の力を満遍なく伸ばす。学生による課題への取り組みに逐次教員がフィードバックを返して自然な英語表現を身につけるほか、学生同士での英語でのディスカッションによって主体的に発信する力も養う

キーワード : Task-based Learning, Group work, Vocabulary, Communication Skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 英語による高度なコミュニケーション力の習得に焦点をあて、「読む、書く、話す、聞く」の4技能を実践的に学び、ネイティブにより近い自然な表現力の獲得をめざす。

評価方法 : プレゼンテーション

評価割合 : 35%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : いろいろな問題について考え、意見を英語で述べるようになる。スピーキング能力と語彙力を上達する。

評価方法 : 小テスト

評価割合 : 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

評価割合 : 45%

▼ 実践的ボランティア

先生やインターン・留学生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 第1回:授業の紹介と概要説明

第2回:Unit 1 Communication コミュニケーションの歴史(テキストを読み、意見をまとめる)
 第3回:Unit 1 Communication さまざまなSNSを紹介(文章で書き、議論する)
 第4回:Unit 1 Presentations / Unit 2 Rules さまざまな法律とルール(意見をまとめる)
 第5回:Unit 2 Rules さまざまな法律とルール(教室のルールについてディスカッション)
 第6回:Unit 2 Presentations / Unit 3 First Meetings 出会い(初対面での質問を考える)
 第7回:Unit 3 First Meetings 出会い(理想のパートナーを探すための質問を議論)
 第8回:Unit 3 Presentations / Unit 4 Describing Rooms 出会い(議論をもとにプレゼン)
 第9回:Unit 4 Describing Rooms 部屋の説明(自分の部屋を絵に書いて説明する)
 第10回:Unit 4 Presentations / Unit 5 Past Events 理想の家(プレゼンテーション)
 第11回:Unit 5 Past Events 過去の出来事(自分の経験を文章でまとめ、発表する)
 第12回:Unit 5 Presentations / Unit 6 Education 海外の学校教育(テキストを読む)
 第13回:Unit 6 Education 海外の学校教育(理想の学校についてディスカッション)
 第14回:Unit 6 Presentations / 復習
 第15回:語彙力小テスト / まとめ

使用テキスト: テキスト

On Task 2 (Justin Harris& Paul Leeming, Abax ELT Publishing) ISBN 978-1-78547-072-1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 最初の授業でお知らせします。クイズのため単語の復習。

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。

留意事項: This class will be taught in English.
 この授業は英語のみで行われる。
 インタネットで情報を調べることがあるので、デバイスを持ってくるように。

科目コード: 12191

科目ナンバリング:

主な使用言語: 英語

授業名(英文): Advanced English Communication I b (Advanced English Communication I b)

担当者: 沼館 ジェニー

基本情報

年次: 3

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜1限

履修可能学科・専攻: E

関連資格: 教職

AL要素: 04:課題解決

07:発表

08:協同学修

11:討論

16:振り返り用紙と応答

17:発問と回答

授業の概要: 教科書を使用して4技能の力を満遍なく伸ばす。学生による課題への取り組みに逐次教員がフィードバックを返して自然な英語表現を身につけるほか、学生同士での英語でのディスカッションによって主体的に発信する力も養う

キーワード: Task-based Learning, Group work, Vocabulary, Communication Skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語による高度なコミュニケーション力の習得に焦点をあて、「読む、書く、話す、聞く」の4技能

を実践的に学び、ネイティブにより近い自然な表現力の獲得をめざす。

評価方法: プレゼンテーション

評価割合: 35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: いろんな問題について考え、意見を英語で述べるようになる。スピーキング能力と語彙力を上達する。

評価方法: 小テスト

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

評価割合: 45%

▼実践的ボランティア

先生やインターン・留学生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:授業の紹介と概要説明
第2回:Unit 1 Communication コミュニケーションの歴史(テキストを読み、意見をまとめる)
第3回:Unit 1 Communication さまざまなSNSを紹介(文章で書き、議論する)
第4回:Unit 1 Presentations / Unit 2 Rules さまざまな法律とルール(意見をまとめる)
第5回:Unit 2 Rules さまざまな法律とルール(教室のルールについてディスカッション)
第6回:Unit 2 Presentations / Unit 3 First Meetings 出会い(初対面での質問を考える)
第7回:Unit 3 First Meetings 出会い(理想のパートナーを探すための質問を議論)
第8回:Unit 3 Presentations / Unit 4 Describing Rooms 出会い(議論をもとにプレゼン)
第9回:Unit 4 Describing Rooms 部屋の説明(自分の部屋を絵に書いて説明する)
第10回:Unit 4 Presentations / Unit 5 Past Events 理想の家(プレゼンテーション)
第11回:Unit 5 Past Events 過去の出来事(自分の経験を文章でまとめ、発表する)
第12回:Unit 5 Presentations / Unit 6 Education 海外の学校教育(テキストを読む)
第13回:Unit 6 Education 海外の学校教育(理想の学校についてディスカッション)
第14回:Unit 6 Presentations / 復習
第15回:語彙力小テスト / まとめ

使用テキスト: テキスト

On Task 2 (Justin Harris& Paul Leeming, Abax ELT Publishing) ISBN 978-1-78547-072-1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 最初の授業でお知らせします。クイズのため単語の復習。

障がいのある履修者への対応: 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
インターネットで情報を調べることがあるので、デバイスを持ってくるように。

科目コード：12192 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：英語**

授業名(英文)：Advanced English Communication II a(a)

担当者：沼館 ジェニー

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職

AL要素：04:課題解決

07:発表

08:協同学修

11:討論

16:振り返り用紙と応答

17:発問と回答

授業の概要： 教科書を使用して4技能の力を満遍なく伸ばす。学生による課題への取り組みに逐次教員がフィードバックを返して自然な英語表現を身につけるほか、学生同士での英語でのディスカッションによって主体的に発信する力も養う

キーワード： Task-based Learning, Group work, Vocabulary, Communication Skills

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 英語による高度なコミュニケーション力の習得に焦点をあて、「読む、書く、話す、聞く」の4技能を実践的に学び、ネイティブにより近い自然な表現力の獲得をめざす。

評価方法： プレゼンテーション

評価割合：35%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： いろんな問題について考え、意見を英語で述べるようになる。スピーキング能力と語彙力を上達する。

評価方法： 小テスト

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

評価割合：45%

▼実践的ボランティア

先生やインターン・留学生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：授業の紹介と概要説明
第2回：Unit 7 Journeys 旅の経験(自分の経験について文章でまとめる)
第3回：Unit 7 Journeys 旅の経験(旅の計画を立てる。意見交換する)
第4回：Unit 7 Presentations / Unit 8 Giving Advice さまざまな悩み(悩みを文章でまとめる)
第5回：Unit 8 Giving Advice 海外生活での諸問題(ディスカッション)
第6回：Unit 8 Presentations / Unit 9 Healthy Eating 食の歴史(テキストを読み、意見交換)
第7回：Unit 9 Healthy Eating 健康的な食べ物は何？(さまざまな食べ物が健康的か議論)
第8回：Unit 9 Presentations / Unit 10 Numbers 数字で見る世界(調べて、意見交換する)
第9回：Unit 10 Numbers 数字で見る世界(国のさまざま数字的データに関するクイズの作成)
第10回：Unit 10 Presentations / Unit 11 Shopping 買い物にかかる時間(調べて記述する)
第11回：Unit 11 Shopping 買い物の頻度(買い物習慣のアンケートの作成と実施)
第12回：Unit 11 Presentations / Unit 12 Future Goals 未来の目標(目標について意見交換)
第13回：Unit 12 Future Goals 未来の目標(目標とその達成についての経験をプレゼン)
第14回：Unit 12 Presentations / 復習
第15回：語彙力小テスト / まとめ

使用テキスト： テキスト
On Task 2 (Justin Harris& Paul Leeming, Abax ELT Publishing) ISBN 978-1-78547-072-1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 最初の授業でお知らせします。クイズのため単語の復習。

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。
インターネットで情報を調べることがあるので、デバイスを持ってくるように。

科目コード：12192 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：英語**

授業名(英文)：Advanced English Communication II b(b)

担当者：沼館 ジェニー

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E

関連資格：教職

AL要素：04:課題解決

07:発表

08:協同学修

11:討論

16:振り返り用紙と応答

17:発問と回答

授業の概要： 教科書を使用して4技能の力を満遍なく伸ばす。学生による課題への取り組みに逐次教員

がフィードバックを返して自然な英語表現を身につけるほか、学生同士での英語でのディスカッションによって主体的に発信する力も養う

キーワード: Task-based Learning, Group work, Vocabulary, Communication Skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語による高度なコミュニケーション力の習得に焦点をあて、「読む、書く、話す、聞く」の4技能を実践的に学び、ネイティブにより近い自然な表現力の獲得をめざす。

評価方法: プレゼンテーション

評価割合: 35%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: いろんな問題について考え、意見を英語で述べるようになる。スピーキング能力と語彙力を上達する。

評価方法: 小テスト

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題に取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に含む。

評価割合: 45%

▼ 実践的ボランティア

先生やインターン・留学生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象となることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回: 授業の紹介と概要説明
- 第2回: Unit 7 Journeys 旅の経験(自分の経験について文章でまとめる)
- 第3回: Unit 7 Journeys 旅の経験(旅の計画を立てる。意見交換する)
- 第4回: Unit 7 Presentations / Unit 8 Giving Advice さまざまな悩み(悩みを文章でまとめる)
- 第5回: Unit 8 Giving Advice 海外生活での諸問題(ディスカッション)
- 第6回: Unit 8 Presentations / Unit 9 Healthy Eating 食の歴史(テキストを読み、意見交換)
- 第7回: Unit 9 Healthy Eating 健康的な食べ物は?(さまざまな食べ物が健康的か議論)
- 第8回: Unit 9 Presentations / Unit 10 Numbers 数字で見る世界(調べて、意見交換する)
- 第9回: Unit 10 Numbers 数字で見る世界(国のさまざま数値的データに関するクイズの作成)
- 第10回: Unit 10 Presentations / Unit 11 Shopping 買い物にかかる時間(調べて記述する)
- 第11回: Unit 11 Shopping 買い物の頻度(買い物習慣のアンケートの作成と実施)
- 第12回: Unit 11 Presentations / Unit 12 Future Goals 未来の目標(目標について意見交換)
- 第13回: Unit 12 Future Goals 未来の目標(目標とその達成についての経験をプレゼン)

評価方法: Students will write two short essays and a final essay. They will then peer-edit and assess their classmates work. The two short essays will be 10% of the final grade. There will be a longer final report at the end of the class for 30% of the grade. Each of these percentages also includes the students' peer critiques.

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

In addition to the regular aspects of joining a class on study skills, students will need to be prepared to work collaboratively with other students. This will include peer-editing and giving constructive feedback to classmates. Active participation in these activities will result in a lower overall grade.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteerism is one of the topics covered in this class. There is no separate grade included for volunteerism. However, they will be included in the overall grade as described above. In addition, the quality of the peer feedback, which may be considered a type of volunteerism will included in the final grade.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness and honesty are two of the topics covered in this class. There is no separate grade included for these topics. However, they will be included in the overall grade as described above.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. Getting the most out of classroom time
 2. How to interact with your teachers
 3. Effective time management
 4. Taking notes inside and outside class plus reviewing and useful tools
 5. How to read effectively
 6. Exam and test preparations
 7. The need to be very careful when writing reports and essays
 8. How to write essays in English
 9. How to do your research
 10. Writing final essays
 11. How to revise
 12. Online learning
 13. How to interact with the university and its environment
 14. Finding your passion and how to pursue it
 15. Review and submission of final report

使用テキスト: The Everything Guide to Study Skills: Strategies, tips, and tools you need to succeed in school!
ISBN 978-1440507441

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: The topics of review and preparation are included as study subjects in this course. Students are encouraged to make use of these skill as quickly and effectively as possible.

障がいのある履修者への対応: Consideration of the needs of those with disadvantages will be made according to the nature of their disadvantages. Additional information may be provided to the student concerning how their personal difficulty is addressed in the country where they are

planning to study.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項: This class will be taught mostly in English, with Japanese limited to the language being discussed as the subject.

科目コード:12196 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語|英語

授業名(英文): 通訳演習

担当者: 館野 真

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07.発表

08.共同学修

10.資料調査課題

13.役割演技と模擬体験

17.発問と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本講義の目的は、受講生が簡単な逐次通訳を英日、日英の両方向で出来るようにすることである。通訳の成功の為には、英語が流暢に話せるだけではなく、当該のテーマについての知識、関連する語彙やフレーズの習得、訓練等が必要である。受講生は通訳に関わる一連のプロセスを学ぶことを通して、総合的な英語力を向上させるとともに、「正確に理解し、分かり易く表現する」というコミュニケーションの重要性について考えることができるようになることも本講義の目的である。

本講義は、授業が英語の聞き取りと表現の訓練となるように大部分で英語による発問と応答が行われるので、受講生は最低でも日常会話レベルの英語力を有していることが望ましい。

キーワード: 逐次通訳、クイックレスポンス、シャドーイング、リテンション、イメージ、サイトラ、ラギング、ノートテーキング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 通訳の準備と訓練に必要な作業を自分で行うことができる。

簡単な逐次通訳を日英、英日の両方向で行うことができる。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

小テスト

定期試験

発問と応答

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「正確に理解し、分かり易く表現する」コミュニケーションを工夫することができる。

自分の理解と表現を客観的に評価、批判、フィードバックできる。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。但し、自主的な学修によって得た知見や訳出などが通訳復習発表時のパフォーマンスで見られた場合、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあります。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。但し授業中の発言やテストなどにおいて著しく公正性を欠く言動やカンニングなどの不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合：0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画： 第01回 オリエンテーション(授業内容、課題、小テスト、評価基準等の説明)
第02回 通訳とはいかなる出来事か
第03回 通訳訓練法の紹介と練習
第04回 「語感」のシャドーイング
第05回 「イメージ」のリプロダクション
第06回 英日通訳演習(概要)
第07回 英日通訳演習(けた数の大きい数字)
第08回 英日通訳演習(ストーリー、物語)
第09回 英日通訳演習(スピーチ)
第10回 英日通訳演習(データ・グラフ)
第11回 英日通訳演習(カウンセリング)
第12回 日英通訳演習(日本の文化・宗教)
第13回 日英通訳演習(事務・メール等)
第14回 日英同時通訳(人生相談)
第15回 総括

定期試験

※上記授業計画は、授業の進行状況に応じて変更されることがあります。

使用テキスト： 水野真木子ほか『グローバル時代の通訳』(2010) 三修社
ISBN 978-4-384-01971-1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】毎週出題される課題にしっかりと取り組み、期限までに提出すること。毎週の授業は、前週に出題された課題の内容について受講生が十分に理解していることを前提として進める。したがって、課題は成績に直結することになるので、真摯に、かつ継続的に取り組むこと。

【復習】授業で使ったスライドや配布資料の内容を読んで理解すること。又、音声や動画についてはシャドーイングやサイトラを行いマスターすると良い。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後等に対応。LINE、および、メール。

留意事項： (1)人数制限により、履修者が抽選となる場合があります。
(2)受講に際しては、最低でも日常会話レベルの英語力を有していることが望ましい。
(3)受講に際しては、「通訳入門」が受講済みであることが望ましい。

科目コード:12197

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 翻訳演習

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 討論 レポート指導

授業の概要: 翻訳とはどのような行為であり、またどのような知識と技術が必要となるかを、さまざまなテキストの翻訳課題を通して学びます。

キーワード: 翻訳, 直訳, 意識, 文体, 語用論

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 翻訳という視点から英語と日本語の特性を理解し、英語から日本語へ翻訳する際(またその逆)の基礎的な知識・技術を身につけることができる。

評価方法: 授業内課題・レポート課題

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 日本語と英語の特性を理解した上で自然で等価的な翻訳ができる。

評価方法: 授業内課題・レポート課題

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での積極的発言のほかに、発展的学修によって得られた知見がレポート課題の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や課題の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。また剽窃(コピー)が明らかな提出課題についても同じ。

評価割合: 0%

▼ その他

とくになし。

評価割合: とくになし。

授業計画: 第1回:文法訳読と翻訳
第2回:翻訳と文体
第3回:翻訳実践(1)(ことわざ・格言)
第4回:翻訳実践(2)(童謡①)
第5回:翻訳実践(3)(童謡②)
第6回:翻訳実践(4)(童話①)
第7回:翻訳実践(5)(童話②)
第8回:翻訳実践(6)(童話③)
第9回:翻訳実践(7)(小説①)
第10回:翻訳実践(8)(小説②)

- 第11回: 翻訳実践(9)(文化論①)
- 第12回: 翻訳実践(10)(文化論②)
- 第13回: 翻訳実践(11)(実務文書①)
- 第14回: 翻訳実践(12)(実務文書②)
- 第15回: まとめ(翻訳の役割)

使用テキスト: とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習では、シラバスを参照して、授業で取り上げる概要をつかむ。復習では、授業内容を整理・理解し、次回の課題提出を準備する(指定期日までに提出)。参考書として、柴田元幸『翻訳教室』(朝日新聞出版, 2013年), 山本史郎『翻訳の授業』(朝日新聞出版, 2020年), 鴻巣友季子『翻訳教室-はじめの一步』(筑摩書房, 2021年)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード: 12198 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): サブカルチャー翻訳

担当者: 東海林 宏司

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: まずは「サブカルチャーとは何か」ということに関して、「カルチャー」・「カウンターカルチャー」との比較により理解を深める(実際には明確に境界線を引けるわけではない)。次に、サブカルチャーの具体例として、テレビドラマや映画などを主に取り上げ、英語から日本語へ、日本語から英語へという双方の翻訳について、実践的に訓練していく(特に英→日翻訳に重点を置く)。映像翻訳においては、字幕翻訳と音声翻訳の双方が異なることも多く、特に字幕翻訳にはどんな制約があるかを学ぶ。授業内でリアルタイムに翻訳案の提出を求めたり、授業後に課題として「字幕翻訳コンテスト」等を実施することがある。

キーワード: 字幕翻訳
音声翻訳

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: サブカルチャー特有の口語表現の内容を理解し、英語から日本語へ、日本語から英語への翻訳案を作成できる。また、字幕翻訳と音声翻訳の違いを理解し、それぞれに翻訳案を作ることができる。

評価方法: 授業内、授業後課題

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 登場人物の人間関係を反映した文体で、翻訳案を表現することができる。

評価方法: 授業内、授業後課題

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内課題、授業後の課題双方に積極的に取り組む姿勢がある。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、個人課題における不正行為には厳重に対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：Introcuotion(「カルチャー」・「カウンターカルチャー」・「サブカルチャー」)
第02回：映像翻訳01 (Friends)
第03回：映像翻訳02 (Friends)
第04回：映像翻訳03 (OC)
第05回：映像翻訳04 (OC)
第06回：映像翻訳05 (Veronica Mars)
第07回：映像翻訳06 (Veronica Mars)
第08回：映像翻訳07 (Pretty Little Liars)
第09回：映像翻訳08 (Pretty Little Liars)
第10回：映像翻訳09 (Gossip Girl)
第11回：映像翻訳10 (Gossip Girl)
第12回：映像翻訳11 (ER)
第13回：映像翻訳12 (ER)
第14回：映像以外のサブカルチャー翻訳
第15回：授業全体の振り返り

使用テキスト： 映像教材は授業内でスクリーンに投影する。
プリント教材を授業内で配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業では、「復習」に重点を置くことが必要である。翻訳技能を高めるためには、授業内で学ぶ内容をよく理解し、課題に対してのクラスメイトの解答例などを参考にしながら、授業後の課題に取り組み、実践を重ねていくことが重要である。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項： 授業内課題にはできる限りスマートフォンで解答できるよう配慮するが、効率的な解答のためには、タブレットまたはノートPCを持参することが望ましい。